

男女共同参画社会に関する府民意識調査

報 告 書

令和元年 1 2 月

大 阪 府

令和元年（2019年）12月

発行 大阪府府民文化部男女参画・府民協働課 府民意識調査担当

〒540-0008 大阪市中央区大手前 1 - 3 - 4 9

TEL : 06-6210-9321

— 目 次 —

I	調査の概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査設計	1
4.	調査標本数及び回収数	1
5.	調査地域区分	2
6.	サンプルデザイン	3
7.	報告書の見方	5
8.	標本誤差	5
II	回答者の属性	6
III	調査結果の概要	10
IV	調査結果の分析	17
1	男女の地位の平等について	17
(1)	男女平等の現状認識	17
(2)	女性の増加が望まれる職業・役職	23
2	男女の役割分担について	24
(1)	性別役割分担意識	24
(2)	「男は仕事、女は家庭」と思う理由	28
(3)	「男は仕事、女は家庭」と思わない理由	29
3	家庭生活について	30
(1)	結婚、離婚に関する考え方	30
(2)	家庭の仕事の役割分担	32
(3)	仕事、家事、育児、介護に要する時間【平日】	36
(4)	仕事、家事、育児、介護に要する時間【休日】	41
4	介護について	46
(1)	家族・親族等を介護する場合の希望	46
(2)	介護をする人	47
(3)	介護される場合の希望	49
(4)	介護してもらいたい相手	50
5	職業生活について	52
(1)	女性の働き方についての考え	52
(2)	実際の女性の働き方	55
(3)	男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因	57
(4)	職場において男女格差を感じる事	58
(5)	今後の就労意向	66
(6)	働けない理由	67

(7) 働きたくない理由	68
(8) 女性が働き続けるために必要なこと	69
(9) 女性が再就職しやすくなるために必要なこと	72
(10) 社会・職場における男女共同参画の進展	75
(11) 女性が理系進学を目指すことに対する考え	75
6 「仕事」「家庭や地域活動」「個人生活」のかかわり方について	76
(1) 生活の中で優先すること	76
(2) 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと	82
(3) 地域活動参加状況	85
(4) 参加している・参加したい地域活動	87
(5) 参加できない・参加したくない理由	88
(6) 地域・家庭における男女共同参画の進展	89
7 ドメスティック・バイオレンスについて	90
(1) 暴力だと思うこと	90
(2) 配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口の認知度	91
(3) 配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口の認知手段	93
(4) 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験	94
(5) 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験	101
(6) 配偶者等から子供を巻き込む・利用した暴力（DV）を受けた経験	108
(7) ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害の相談先	109
(8) ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害を相談しなかった理由	116
8 性暴力・性犯罪について	120
(1) 性暴力・性犯罪被害経験	120
(2) 性暴力・性犯罪被害の相談先	121
(3) 性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由	123
(4) メディアにおける性・暴力表現	125
(5) 配偶者等からの暴力をなくすためにもっと取組が必要なこと	128
9 男女共同参画に関する用語の認知度	129
(1) 見聞きしたことがある言葉	129
(2) 男女平等の実現にとって最も重要なこと	131
10 男女共同参画社会の推進に向けて	134
(1) 男女共同参画社会を推進するために府や市町村がすべきこと	134
V 自由意見のまとめ	137

資料編

調査票

I. 調査の概要

1. 調査目的

大阪府では、男女共同参画社会の実現に向けて、平成14年4月に「大阪府男女共同参画推進条例」を制定するとともに、平成13年以降、5年ごとに「おおさか男女共同参画プラン」を策定し、施策を推進してきた。

その後、社会情勢の変化の中で、男女の意識や行動がどのように変化してきているのかを明らかにし、今後の施策推進の参考とするために、本調査を行うものである。

2. 調査項目

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| (1) 男女の地位の平等について | (6) 「仕事」「家庭や地域活動」「個人生活」の
関わり方について |
| (2) 男女の役割分担について | |
| (3) 家庭生活について | (7) ドメスティック・バイオレンスについて |
| (4) 介護について | (8) 性暴力・性犯罪について |
| (5) 職業生活について | (9) 男女共同参画に関する用語の認知度 |
| | (10) 男女共同参画社会の推進に向けて |

3. 調査設計

- | | |
|----------|----------------------------------|
| (1) 調査地域 | 大阪府内全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女府民 |
| (3) 標本数 | 2,800 |
| (4) 抽出台帳 | 住民基本台帳 |
| (5) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法及び等間隔抽出法 |
| (6) 調査方法 | 配布は郵送方式、回収は郵送方式及びWEB方式（回答者による選択） |
| (7) 調査時期 | 令和元年8月8日～8月23日 |
| (8) 調査機関 | 株式会社 フューチャー・コミュニケーションズ |

4. 調査標本数及び回収数

- | | |
|-----------|----------------|
| (1) 標本数 | 2,800 (100.0%) |
| (2) 有効回収数 | 897 (32.0%) |

【調査標本数及び回収数】

地域区分	標本数	有効回収数	有効回収率
大阪市	874	267	30.5
三島	350	118	33.7
豊能	211	80	37.9
北河内	366	105	28.7
中河内	262	88	33.6
南河内	193	62	32.1
泉北	366	114	31.1
泉南	178	58	32.6
不明	0	5	-
計	2800	897	32.0

(注) 標本数2,800票に対する回収数(率)は、900票(32.1%)であったが、記入不備等を除き、調査結果には897票(32.0%)を有効回収標本として集計した。

5. 調査地域区分



【当該市町村】

大阪市－大阪市
 三島－吹田市・高槻市・茨木市・
 摂津市・島本町
 豊能－豊中市・池田市・箕面市・
 豊能町・能勢町
 北河内－守口市・枚方市・寝屋川市・
 大東市・門真市・四條畷市・
 交野市
 中河内－八尾市・柏原市・東大阪市
 南河内－富田林市・河内長野市・松原市・
 羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・
 太子町・河南町・千早赤阪村
 泉北－堺市・泉大津市・和泉市・
 高石市・忠岡町
 泉南－岸和田市・貝塚市・泉佐野市・
 泉南市・阪南市・熊取町・
 田尻町・岬町

6. サンプルデザイン

- (1) 母集団 大阪府に居住する満18歳以上の男女府民
- (2) 標本数 2,800
- (3) 標本配分 住民基本台帳登録者数の人口比により按分した。
- (4) 抽出方法
 - ア 層化二段無作為抽出方法（住民基本台帳からの抽出者）
 - (ア) 標本数 2,800
 - (イ) 地点数 226
 - (ウ) 層化（調査地点を抽出する際、類似の性格をもった地点をあらかじめグループに分け、その中から抽出を行う。このグループ分けを「層化」という。）
 - a 大阪府の市町村を、次の8地域に分類した。（5. 調査地域区分を参照のこと）
（大阪市・三島・豊能・北河内・中河内・南河内・泉北・泉南）
 - b 各地域については、「人口100万以上の市」「人口30万以上100万未満の市」「人口20万以上30万未満の市」「人口10万以上20万未満の市」「人口10万未満の市」「郡部」と、人口規模別に分類し、それぞれを層とした。
 - (エ) 標本数の配分
各層における推定母集団の規模により、2,800の標本を男女等分に配分した。
 - (オ) 抽出方法（まず、国勢調査の調査区「調査地点」を無作為に抽出し、次に住民基本台帳から個人を抽出する。抽出手続きが二段になるので「二段抽出」という。）
 - a 1次抽出単位となる調査地点として、町字を使用した。
 - b 調査地点（町字）の抽出数については、1調査地点あたりの標本数が8~13程度になるように、各層に割当てられた標本数から算出して決めた。
 - c 調査地点（町字）の抽出は、
$$\frac{\text{層における満18歳以上人口の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間}$$
を算出し、等間隔抽出法によって当該人数番目のものが含まれる基本単位区を抽出し、抽出の起点とした。
 - d 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成31年4月1日時点における総務省指定の市町村コードの順序に従った。
 - e 第2次抽出単位となる対象者の抽出は、調査地点（町・丁目）内から、住民基本台帳によって等間隔抽出法で抽出した。
 - f 層化に割当てられた標本数が男女ほぼ等分になるように抽出した。
 - g 以上の作業の結果得られた地域別の標本数・地点数は次のとおりである。

【標本割当計画】

地域区分	人口規模別	標本数	女	男	地点数	推定母集団
大阪市	100万以上の市	874	437	437	67	2,286,477
三島	30万～100万未満	226	113	113	18	590,714
	20万～30万未満	86	43	43	7	226,237
	10万未満	28	14	14	3	70,015
	郡部	10	5	5	1	24,765
豊能	30万～100万未満	126	63	63	10	330,901
	10万～20万未満	75	38	37	6	195,224
	郡部	10	5	5	1	27,005
北河内	30万～100万未満	126	63	63	10	330,611
	20万～30万未満	75	37	38	6	195,757
	10万～20万未満	124	62	62	10	325,367
	10万未満	41	21	20	4	108,068
中河内	30万～100万未満	156	78	78	12	409,604
	20万～30万未満	84	42	42	7	220,345
	10万未満	22	11	11	2	58,148
南河内	10万～20万未満	144	72	72	12	377,557
	10万未満	38	19	19	3	100,634
	郡部	11	5	6	1	28,747
泉北	30万～100万未満	263	132	131	21	688,433
	10万～20万未満	57	28	29	5	148,380
	10万未満	41	21	20	4	108,043
	郡部	5	2	3	1	14,095
泉南	10万～20万未満	93	47	46	8	242,727
	10万未満	64	32	32	5	166,895
	郡部	21	10	11	2	56,102
合 計		2,800	1,400	1,400	226	7,330,851

7. 報告書の見方

- (1) 回答は各設問の回答者数 (N) を基数とした百分率 (%) で示してある。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、比率の合計が 100.0% を上下することがある。
- (2) 複数回答を依頼した質問では、回答比率の合計が 100.0% を超える。

8. 標本誤差

本調査の主な標本誤差の幅は次のとおりである。

層化二段抽出、信頼度 95% の場合

$$\text{標本誤差} \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{p(100-p)}{n}}$$

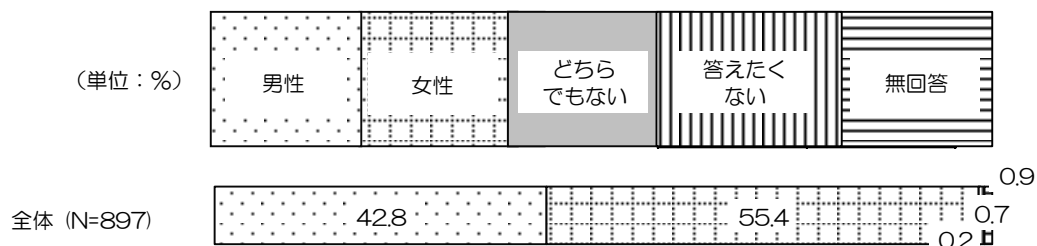
N = 母集団
n = 基数 (有効回答数)
p = 回答率 (%)

ただし、
$$\frac{N-n}{N-1} \cong 1$$

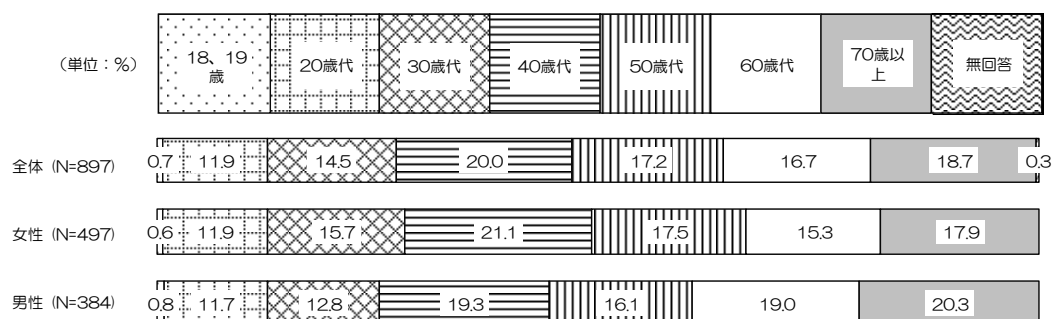
II. 回答者の属性

1 回答者の属性

(a) 性別



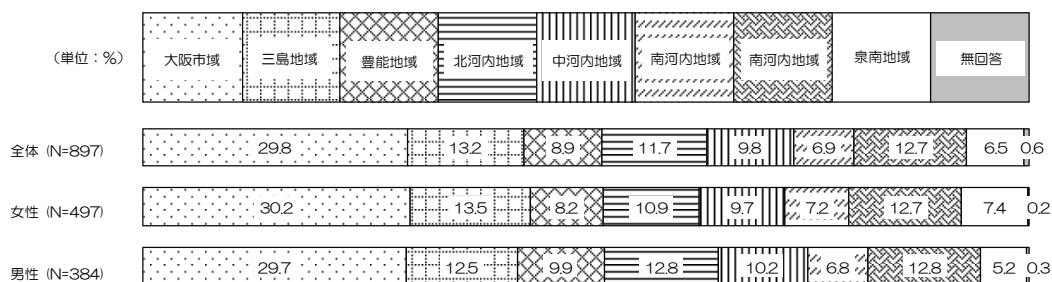
(b) 年齢



※性別で「女性」又は「男性」と回答した方のみを集計しているため「全体」と「女性」「男性」の合計は一致しない。

(以下同じ)

(c) 居住地

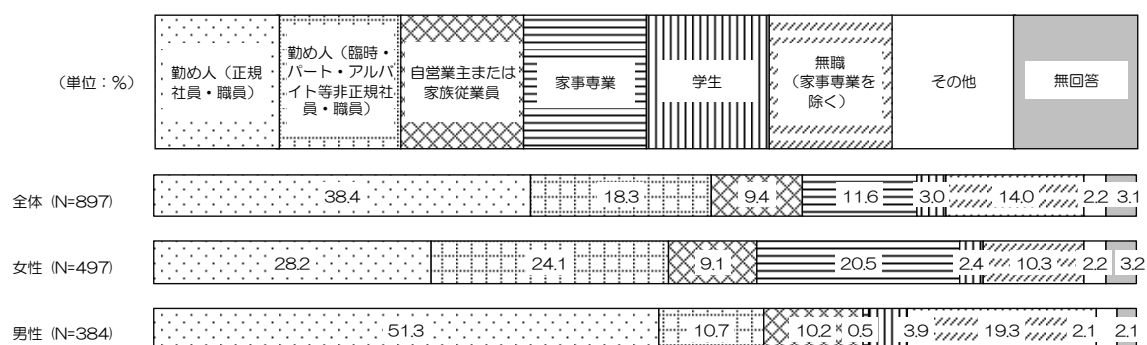


(d) 配偶関係

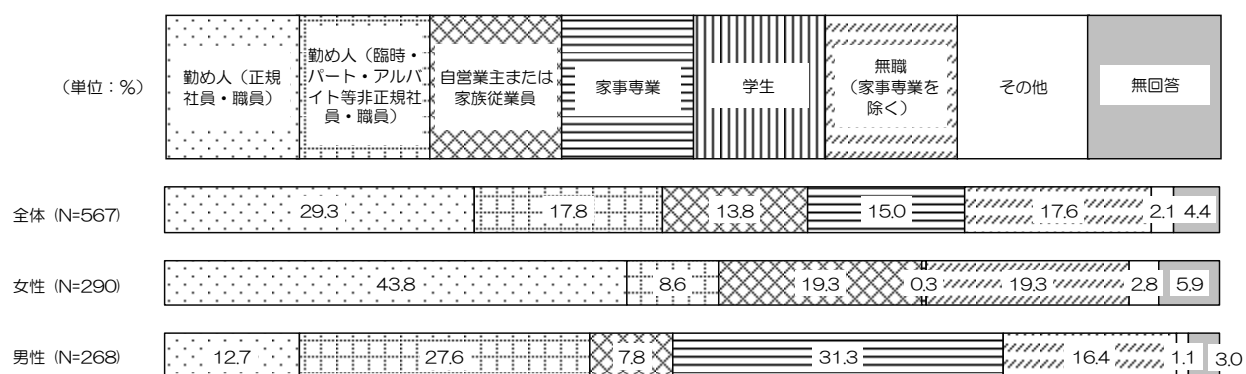


(e) 就労形態

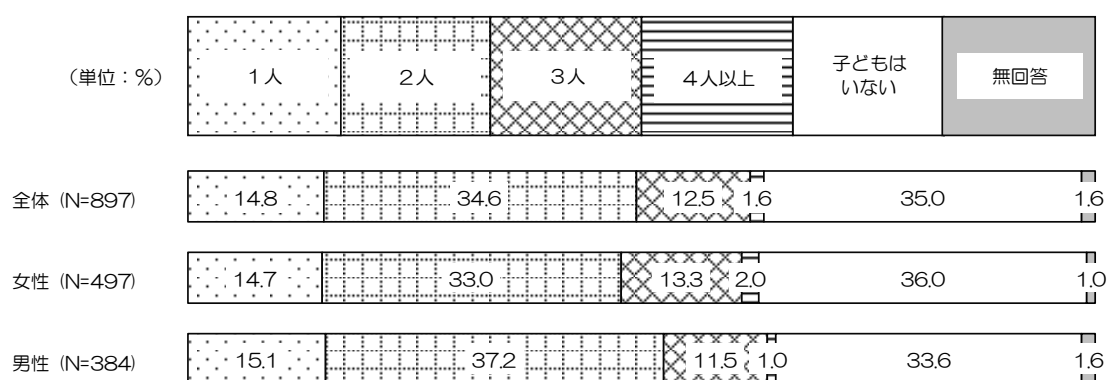
<ご自身>



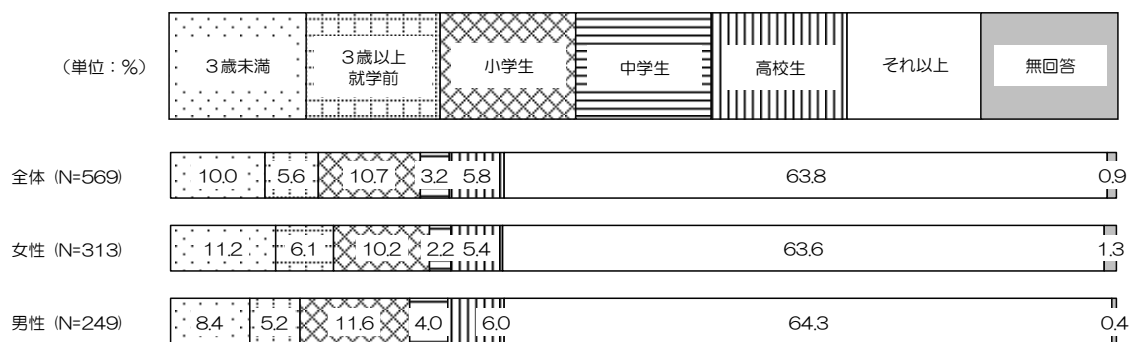
<配偶者・パートナー>



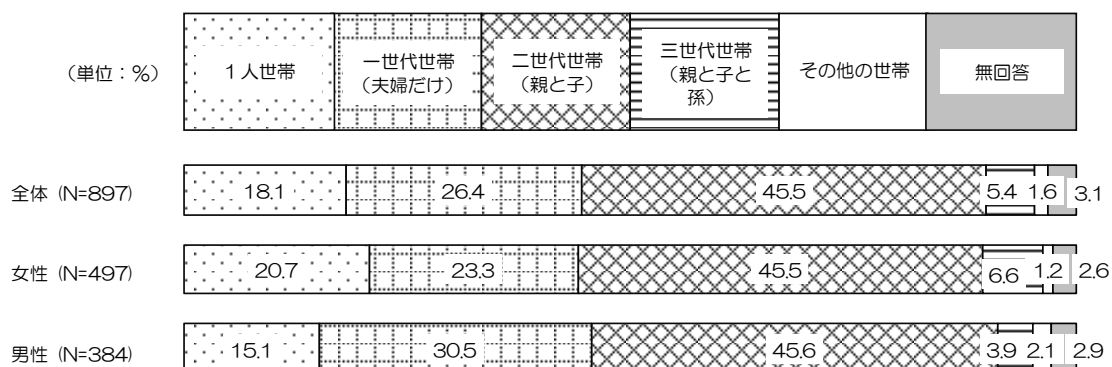
(f) 子どもの有無



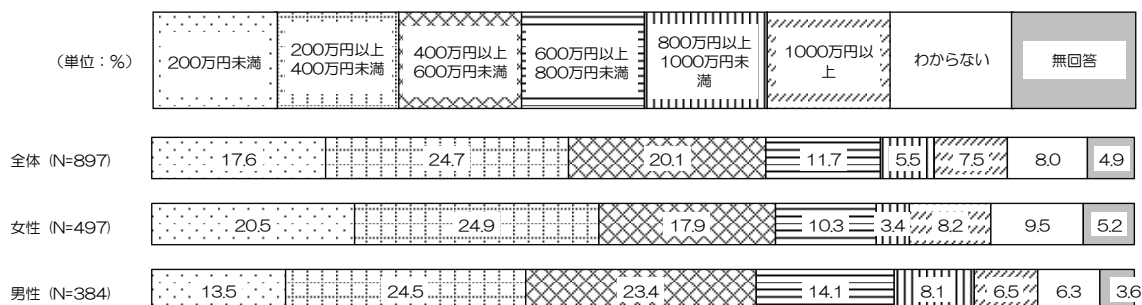
(g) 末子の成長段階



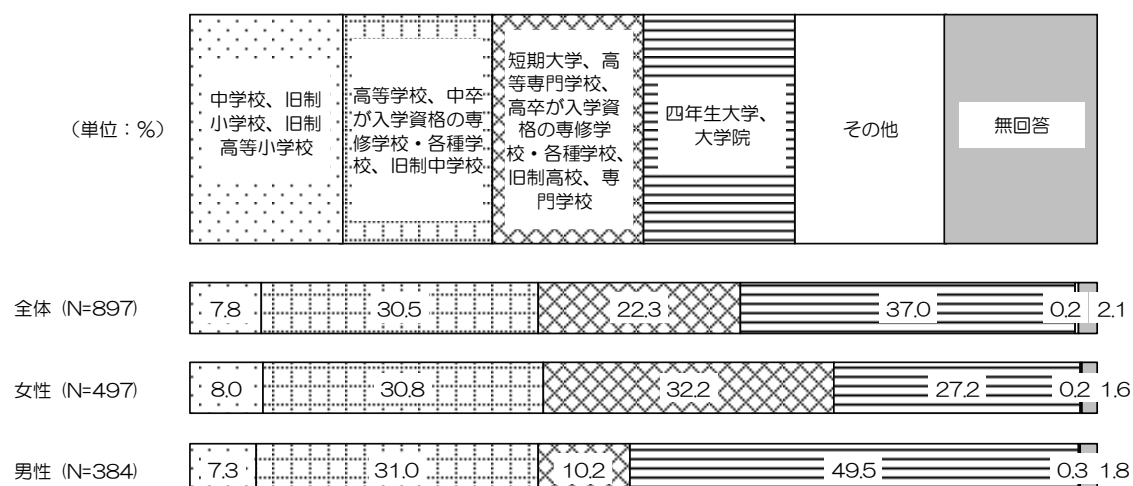
(h) 家族構成



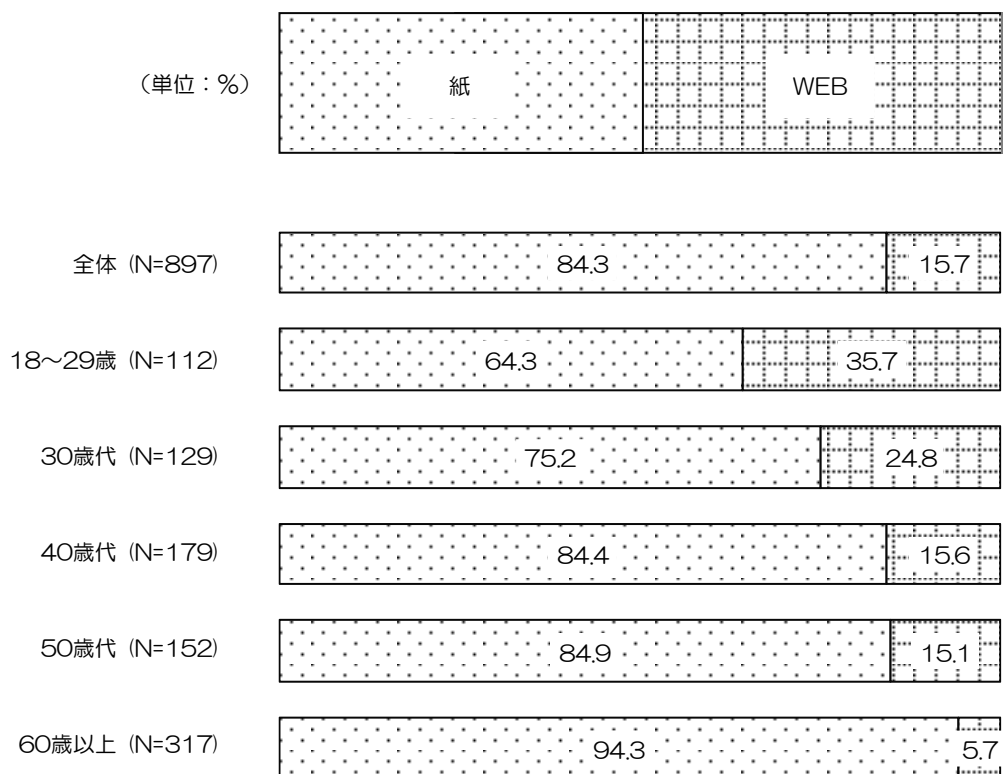
(i) 世帯の年収



(j) 最終学歴



(k) 回収方法



Ⅲ. 調査結果の概要

回答者の属性について

本調査の回答者の属性については、性別は男性が42.8%、女性が55.4%、年齢構成については、「40歳代」が20.0%、「70歳以上」が18.7%、「50歳代」が17.2%、「60歳代」が16.7%となっている。

配偶関係では、「結婚している(配偶者・パートナーがいる)」が63.2%と最も高い。また就労形態は、自身は「勤め人(正規社員・職員)」38.4%、「勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員)」18.3%、「無職(家事専業を除く)」14.0%と続いている。子どもの有無については、「2人」が34.6%と最も高い。

また、家族構成は「二世帯世帯(親と子)」が45.5%と最も高い。

1 男女の地位の平等について

(1) 男女平等の現状認識 【問1】

男女平等の現状認識についてみると、男女とも「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」で、『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合)が特に高く、女性で約8割、男性で約6割となっている。「全体として」は、女性の74.8%、男性の50.3%が『男性優遇』と感じている。「平等である」と感じている割合が高かったのは「学校教育の場」で、女性43.7%、男性50.0%となっている。(P.18)

(2) 女性の増加が望まれる職業・役職 【問2】

女性が増える方が良いと思う職業や役職は、「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」が51.8%、「企業の管理職」が45.5%、「都道府県の知事・市(区)町村長」が42.5%となっている。(P.23)

2 男女の役割分担について

(1) 性別役割分担意識 【問3】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『同感する』(「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は34.0%、『同感しない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合)は64.8%となっている。性別でみると、『同感する』は、女性29.4%、男性40.9%で、女性の方が11.5ポイント低くなっている。(P.24)

(2) 「男は仕事、女は家庭」と思う理由 【問3-1】

「男は仕事、女は家庭」と思う理由は、「子どもの成長にとって良いと思うから」が55.1%で最も高くなっている。次いで、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が40.0%、「個人的にそうありたいと思うから」が26.2%となっている。性別でみると、「個人的にそうありたいと思うから」は女性の方が9.8ポイント高くなっている。(P.28)

(3) 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由 【問3-2】

「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が61.3%で最も高い。次いで、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が44.6%、「女性が家庭でしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が42.7%となっている。(P.29)

3 家庭生活について

(1) 結婚、離婚に関する考え方 【問4】

結婚、離婚に関する考え方をみると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」の『そう思う』（「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた割合）は 80.0%、「結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい」の『そう思う』は 76.7%となっている。「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」について、『そう思う』は、それぞれ 67.9%、64.9%となっている。（P. 30）

（2）家庭の仕事の役割分担 【問5】

家庭の仕事の役割分担をみると、「生活費をかせぐ」は『男性の役割』（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせた割合）と考えている人が 62.5%で最も高くなっている。一方、「乳幼児の世話」は、『女性の役割』（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせた割合）と考えている人が 54.4%と半数を超えている。

また、「老親や病身者の介護・看護」「子どもの教育としつけ、学校行事への参加」「自治会、町内会など地域活動への参加」については、「両方同じ程度の役割」が高くなっている。（P. 33）

（3）仕事、家事、育児、介護に要する時間（平日） 【問6】

平日に仕事に要する時間について、8時間以上である女性は 37.6%、男性で 53.3%となっている。また、家事に要する時間について、2時間以上である女性は 52.5%となっている。一方、男性では 30分未満が 53.4%となっている。育児に要する時間については、5時間以上である女性は 7%、男性は、ほとんどないが 9.1%となっている。介護に要する時間については、男女とも「なし」が最も高く 77.9%となっている。（P. 36、37）

（4）仕事、家事、育児、介護に要する時間（休日） 【問6】

休日に仕事に要する時間は、男女とも「なし」が最も高く 52.1%、次に「4時間未満」が 23.6%となっている。また、家事に要する時間は、女性は平日とほとんど変わらず「2時間～3時間未満」が 20.5%で最も高くなっている。男性は、「1時間～2時間未満」が 21.1%で最も高くなっている。育児に要する時間については、3時間以上である女性は 15.3%、男性は 8.4%と平日より高くなっている。介護に要する時間については、男女とも「なし」が最も高く 75.8%となっている。（P. 41、42）

4 介護について

（1）家族・親族等を介護する場合の希望 【問7】

家族・親族等を介護する場合の希望は、「ホームヘルパーやデイサービスを利用しながら在宅で介護したい（している）」が 44.8%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい（させている）」が 33.6%となっており、男女別でも同じ傾向となっている。（P. 46）

（2）介護をする人 【問7-1】

介護をする人は、「主に、自分が介護すると思う（している）」が女性で 70.0%、男性では 28.8%となっている。「主に、配偶者が介護すると思う（している）」は女性で 6.7%だが、男性では 34.2%と最も高くなっている。（P. 47）

（3）介護される場合の希望 【問8】

介護される場合の希望は、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が 48.7%、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら在宅で介護してもらいたい」が 29.9%となっている。

性別でみると、「行政やサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい」と望む割合は、男性では 5.7%となっており、女性(2.8%)の約 2 倍となっている。（P. 49）

(4) 介護してもらいたい相手 【問8-1】

介護してもらいたい相手は、男女とも「配偶者」が最も高く（54.3%）、女性44.4%、男性65.9%となっている。次いで女性の割合が高いのは、「娘」（21.6%）となっている。（P.50）

5 職業生活について

(1) 女性の働き方についての考え 【問9】

女性の働き方についての考えは、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が35.2%で最も高く、次いで、「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい」が20.7%となっている。性別で見ると、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」について、男性が女性より6.9ポイント低くなっている（女性24.1%、男性17.2%）。（P.52）

(2) 実際の女性の働き方 【問9-1】

実際の女性の働き方をみると、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が27.6%で最も多い。次いで、「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続けている」が17.8%となっている。

性別で見ると、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が女性34.4%、男性18.8%となっており、15.6ポイントの差がある。（P.55）

(3) 男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因 【問10】

男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因をみると、「休暇が取りにくいこと」「職場の人員配置に余裕がないこと」が共に28.1%で最も多い。次いで、「超過勤務が多いこと」が23.4%となっている。（P.57）

(4) 職場において男女格差を感じる事 【問11】

「男性の方が優遇されている」では「管理職への登用」（女性34.8%、男性38.6%）が最も高く、次いで「昇進・昇格」（女性30.8%、男性28.9%）となっている。

「女性の方が優遇されている」では「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」（女性22.6%、男性32.1%）が高くなっている。また「平等である」は、「研修の機会や内容」（女性54.4%、男性63.9%）が高くなっている。（P.58）

(5) 今後の就労意向 【問12】

64歳以下で現在、家事専業または、無職（学生を除く）の方を対象とし、今後働きたいかどうかについては、「はい」が最も高く40.9%、「いいえ」が16.1%、「どちらとも言えない」が28.0%となっている。（P.66）

(6) 働けない理由 【問12-1】

64歳以下で現在、家事専業または、無職（学生を除く）の方を対象とし、現在働けない理由を実数で見ると、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」が最も多い。次いで、「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから」となっている。（P.67）

(7) 働きたくない理由 【問12-2】

64歳以下で現在、家事専業または、無職（学生を除く）の方を対象とし、現在働きたくない理由を実

数でみると、「急いで仕事に就く必要がないから」が最も多い。次いで、「知識、能力など仕事に就く自信がないから」となっている。(P. 68)

(8) 女性が働き続けるために必要なこと 【問13】

女性が働き続けるために必要なことは、「企業経営者や職場の理解」が 55.1%、次いで「育児・介護休暇制度の充実」が 54.5%となっている。

性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」については、女性 49.7%、男性 41.7%となっており、8ポイントの差がある。(P. 69)

(9) 女性が再就職しやすくなるために必要なこと 【問14】

女性が再就職しやすくなるために必要なことは、「企業経営者や職場の理解」(44.9%)、「育児や看護・介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(44.3%)、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(43.5%)が高くなっている。(P. 72)

(10) 社会・職場における男女共同参画の進展 【問15】

「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」について『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は 77.2%、「以前に比べて、男女とも働き続けやすいまちなっている」は『そう思う』が 55.0%となっている。(P. 75)

(11) 女性が理系進学をめざすことに対する考え 【問16】

女性が理系進学をめざすことに抵抗があるかに対して「あまりそう思わない」で 14.0%、「そう思わない」が 72.7%と理系進学をめざすことに抵抗はない割合が高い。(P. 75)

6 「仕事」「家庭や地域活動」「個人生活」のかかわり方について

(1) 生活の中で優先すること(希望と現実) 【問17】

希望として生活の中で優先したいことは、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいが 26.4%、次いで、「個人の生活」を優先したいが 22.0%、「仕事」「家庭や地域活動」「個人の生活」の3つとも大切にしたいが 20.9%となっている。性別でみると、「仕事」を優先したいは男性の方が女性より 10.8ポイント高く、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいは、女性の方が男性より 8.8ポイント高くなっている。

一方、現実的に生活の中で優先していることについては、「仕事」を優先しているが男女とも最も高く 42.6%、特に男性は 53.4%と高くなっている。女性では、「仕事」を優先しているが 32.5%、次いで「仕事」と「個人の生活」をともに優先しているが 27.5%となっている。(P. 76、79)

(2) 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと 【問18】

男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要だと思うことは、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が 41.0%で最も高くなっている。次いで、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が 38.2%、「男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が 36.7%となっている。(P. 82)

(3) 地域活動参加状況 【問19】

地域活動の参加状況は、「今後とも参加したくない」が 31.7%、「何らかの社会活動に参加している」が 26.8%、「参加したいと思うが参加できない」が 24.7%、「特に参加していないが、今後参加してみたいものがある」が 10.3%となっている。(P. 85)

(4) 参加している・参加したい地域活動 【問19-1】

参加している・参加したい地域活動は、「自治会・町内会などの行事や活動」が 55.4%で最も高く、次いで、「趣味やスポーツのサークル活動」が 33.4%となっている。また、性別でみると「防犯活動や防災活動」は男性の方が 15 ポイント高く、「育児支援や子どもの育成活動」は女性が 14.5 ポイント高い。(P. 87)

(5) 参加できない・参加したくない理由 【問19-2】

参加できない・したくない理由は、「仕事との両立が難しい」が 38.3%、「参加したい活動がない」が 23.9%、「活動時間が合わない」が 20.6%である。性別でみると、「家事や育児との両立が難しい」は、女性が 9.3 ポイント高い。(P. 88)

(6) 地域・家庭における男女共同参画の進展 【問20】

地域・家庭における男女共同参画の進展について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）の割合を見てみると、「男性の育児への参画が以前より進んでいる」が 70.1%、「男性の介護への参画が以前より進んでいる」が 46.6%、「地域活動が以前より活性化している」が 22.0%となっている。(P. 89)

7 ドメスティック・バイオレンスについて

(1) 暴力だと思うこと 【問21】

暴力だと思うことについて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「なぐる、ける」「子どもに危害を加えたり、子供を取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう」は男女とも 9 割を超えている。

性別でみると、全ての項目で女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は高くなっており、特に「友達や身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする」、「暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする」は男性と比べて 10 ポイント以上高くなっている。(P. 90)

(2) 配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口の認知度 【問22、問22-1】

配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口を「知っている」割合は約半数の 50.7%で、性別での差はほとんど見られない。相談窓口では「警察」が 83.7%で最もよく認知されている。次いで、「市町村など役所の相談窓口」が 53.8%、「配偶者暴力相談支援センター」「民間の専門家や専門機関」が 39.3%となっている。(P. 91)

(3) 配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口の認知手段 【問22-2】

相談窓口の認知手段は、「テレビ(ニュース、テレビ番組等)」が 58.7%で特に高い。次いで、「インターネット(ホームページ、SNSなど)」が 29.5%、「パンフレット、リーフレット、相談カード」が 24.4%である。(P. 93)

(4) 交際相手からの暴力(デートDV)を受けた経験 【問23】

交際相手からの暴力(デートDV)を受けた経験について「何度もあった」でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 1.7%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が 1.4%となっている。『あった』（「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた割合）でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 9.5%で最も高い。(P. 94)

(5) 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験 【問24】

配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験を「何度もあった」でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が6.5%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が3.1%となっている。『あった』（「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた割合）でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が19.2%で最も高い。（P.101）

(6) 配偶者等から子供を巻き込む・利用した暴力（DV）を受けた経験 【問24-1】

配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験は、「何度もあった」が3.0%、「1・2度あった」が10.0%となっており、性別でみると女性のほうが「何度もあった」が4.8%と男性より4ポイント高い。（P.108）

(7) ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害の相談先 【問25】

被害の相談先をみると、デートDV、DVともほぼ半数が「どこ（だれ）にも相談しなかった」としており、DVの場合、特に男性の割合が高くなっている。相談先は、デートDVの場合は主に「友人、知人」（25.2%）となっており、次いで、「家族や親戚」（11.5%）で、相談機関への相談割合は低い。

DVの場合も、主な相談先は「友人、知人」（21.1%）、「家族や親戚」（16.3%）が高い。相談機関では「警察」が3.5%となっている。（P.109）

(8) ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害を相談しなかった理由 【問26】

被害を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも最も高く、特に男性のDV被害者で56.8%となっている。次いで、デートDV、DVともに「自分にも悪いところがあると思ったから」が高くなっている。（P.116）

8 性暴力・性犯罪について

(1) 性暴力・性犯罪被害経験 【問27】

性暴力・性犯罪被害経験が「ある」女性は12.9%、男性は3.4%である。（P.120）

(2) 性暴力・性犯罪被害の相談先 【問27-1】

性暴力・性犯罪被害については「どこ（だれ）にも相談しなかった」が75.9%で最も高い。次いで「知人・友人に相談した」が13.9%、「家族や親戚に相談した」が6.3%となっている。（P.121）

(3) 性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由 【問27-2】

性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由は、「相談してもむだだと思ったから」が36.7%で最も高く、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が26.7%となっている。（P.123）

(4) メディアにおける性・暴力表現 【問28】

メディアにおける性・暴力表現について、『そう思う』（「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）が最も高いのは「性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」で53.4%となっている。（P.125）

(5) 配偶者等からの暴力をなくすためにもっと取組が必要なこと 【問29】

配偶者等からの暴力をなくすために必要な取組は、「法律・制度の制定や見直しを行う」が51.7%で最も高く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」が49.7%、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が44.6%となっている。性別でみると、女性は「過激な内容のDVDやゲームソフト等の

販売や貸出を制限する」が男性より12.2ポイント高くなっている。(P. 128)

9 男女共同参画に関する用語の認知度

(1) 見聞きしたことがある言葉 【問30】

男女共同参画に関する言葉で見聞きしたことがあるものを『聞いたことがある』(「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合)でみると、「男女雇用機会均等法」が女性で84.1%、男性で88.0%と最も高く、次いで「DV防止法」で男女ともに74.0%となっている。(P. 129)

(2) 男女平等の実現にとって最も重要なこと 【問31】

男女平等の実現にとって最も重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が30.0%、次いで「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が27.5%となっている。また、「女性自身が経済力をつけたり積極的に知識・技術の向上を図ること」は女性22.1%、男性11.7%で女性の方が10.4ポイント高くなっている。(P. 131)

10 男女共同参画社会の推進に向けて

(1) 男女共同参画社会を推進するために府や市町村がすべきこと 【問32】

男女共同参画社会の推進に向けて、府や市町村が力を入れていくべきことは、「育児や介護・看護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が48.5%、次いで「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が46.7%となっている。性別でみると、「男女共同参画を進めるための啓発活動を充実する」が女性9.7%、男性18.2%で男性の方が8.5ポイント高くなっている。(P. 134)

IV. 調査結果の分析

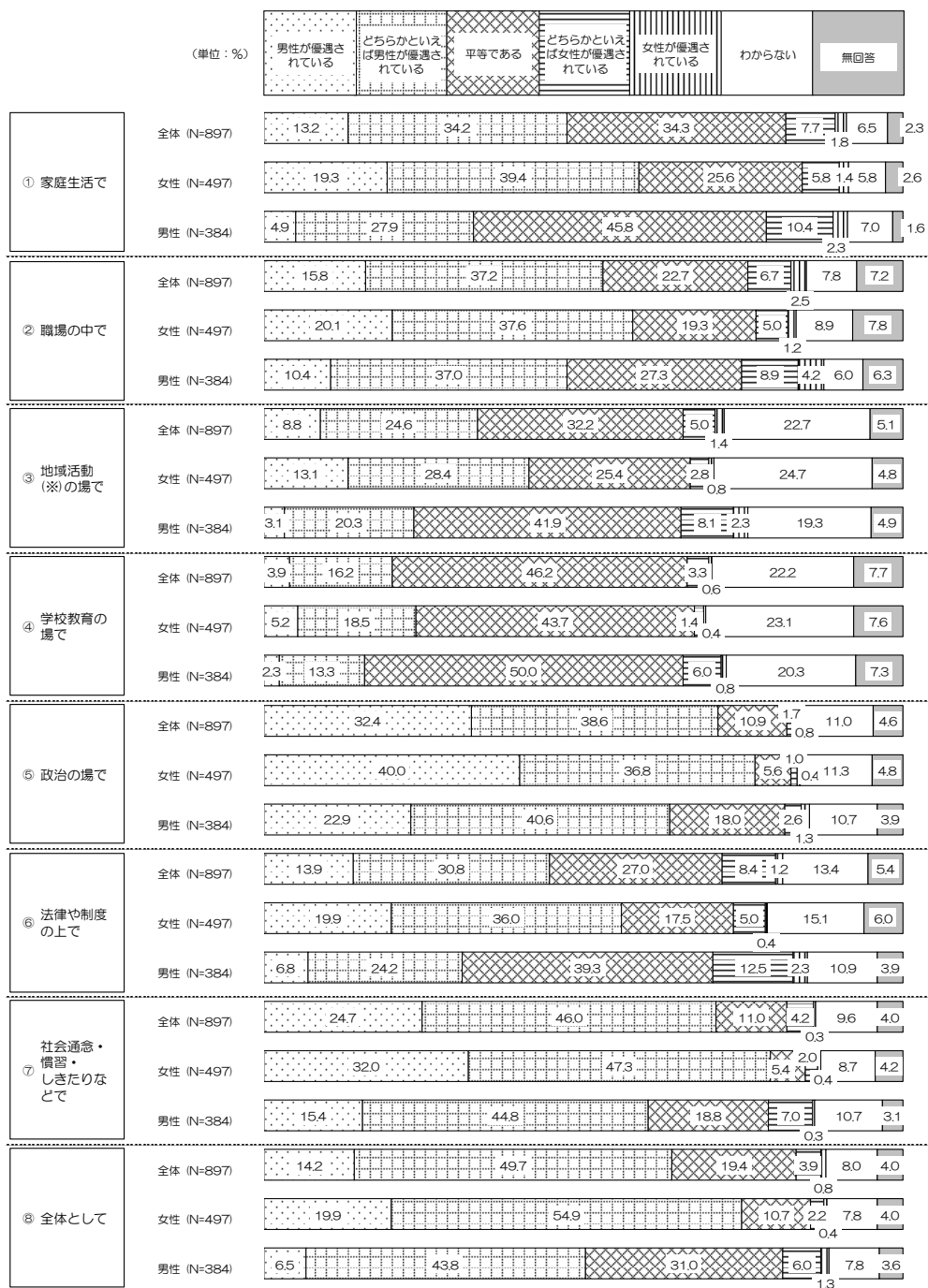
※回答者の年齢構成が調査ごとに異なるため、時系列での比較には留意する必要があります。

1 男女の地位の平等について

(1) 男女平等の現状認識

問1. 次にあげる分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。(〇はひとつずつ)

〔図表 1-1 男女平等の現状認識 (性別)〕



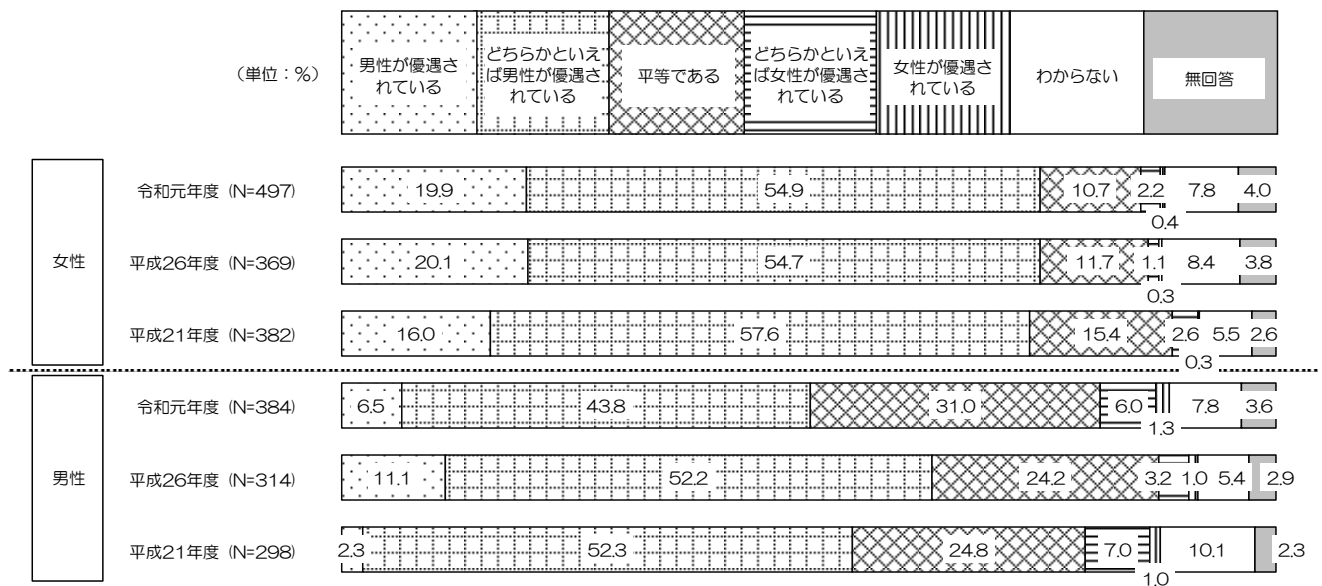
※「地域活動」とは自治会、PTA、民生委員、NPO やボランティアでの活動などを指します。

【男女とも「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」で『男性優遇』の割合が高い】

男女平等の現状認識についてみると、男女とも「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」で、『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合）が特に高く、女性で約8割、男性で約6割となっている。「全体として」は、女性の74.8%、男性の50.3%が『男性優遇』と感じている。「平等である」と感じている割合が高かったのは「学校教育の場」で、女性43.7%、男性50.0%となっている。（図表1-1）

⑧全体として

〔図表1-1-1 男女平等の現状認識（過去の調査との比較）〕

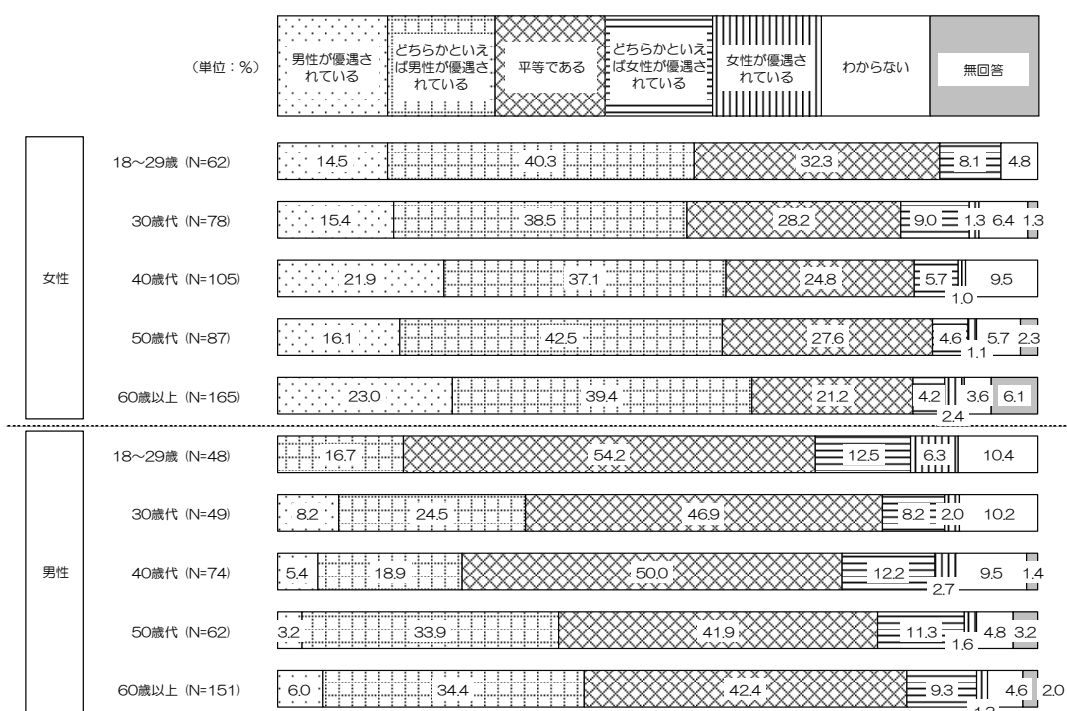


【過去の調査との比較】

平成26年度と比較をすると、女性では『男性優遇』と感じている割合が前回と同じであった。男性では、『男性優遇』と感じている割合が前回より13.0ポイント減少している。（図表1-1-1）

①家庭生活で

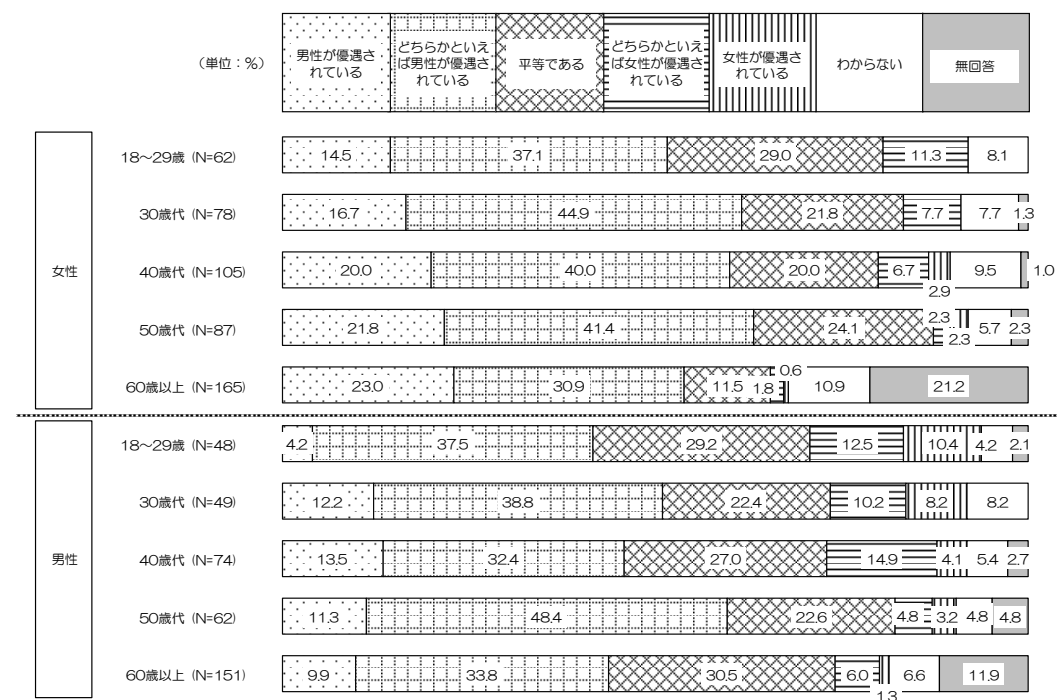
〔図表 1-1-2 男女平等の現状認識（性・年代別）〕



女性では、全ての年代で『男性優遇』と感じている人が半数を超えている。男性では 18~29 歳、40 歳代で「平等である」と感じている割合が半数を超えている。(図表 1-1-2)

②職場の中で

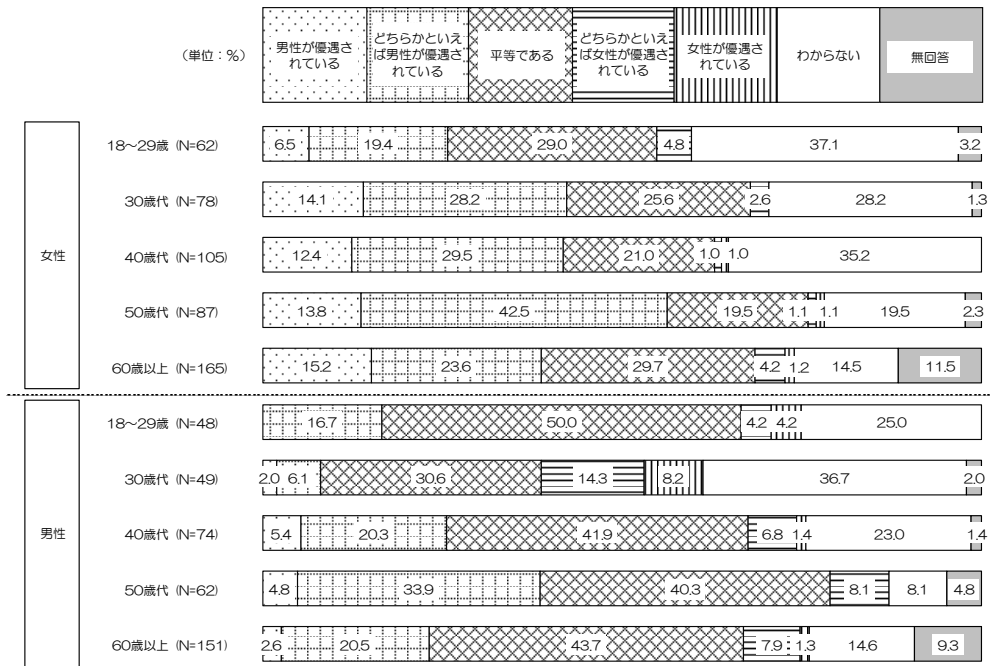
〔図表 1-1-3 男女平等の現状認識（性・年代別）〕



女性では『男性優遇』と感じている人が、いずれの年代でも半数を超えている。60 歳以上では「平等である」と感じている割合は、男性の方が女性より 19.0 ポイント高い。(図表 1-1-3)

③地域活動の場で

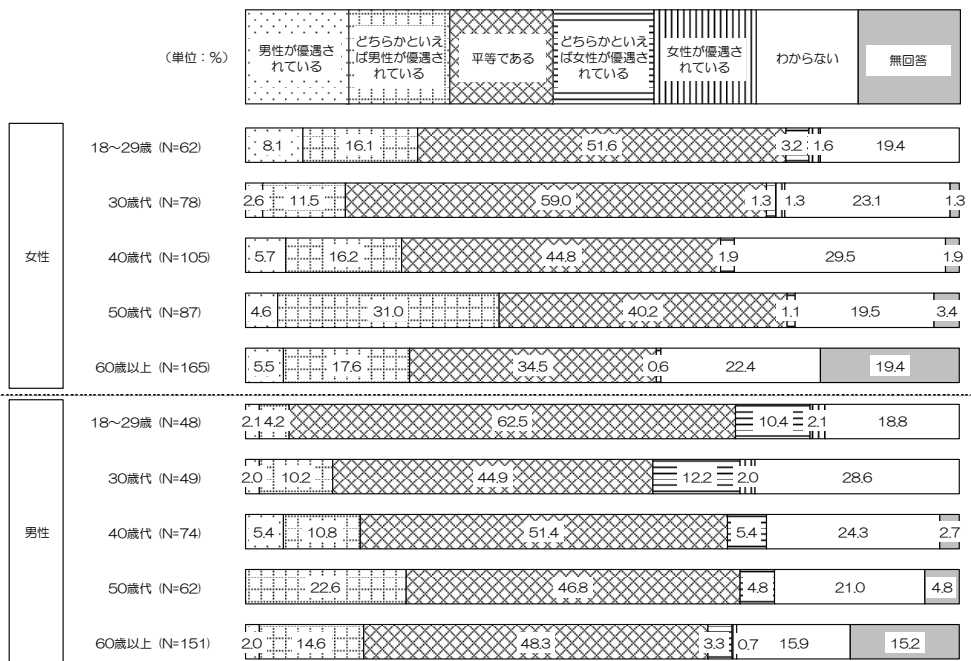
〔図表 1-1-4 男女平等の現状認識（性・年代別）〕



全ての年代で女性の方が男性より『男性優遇』と感じている割合が高い。(図表 1-1-4)

④学校教育の場で

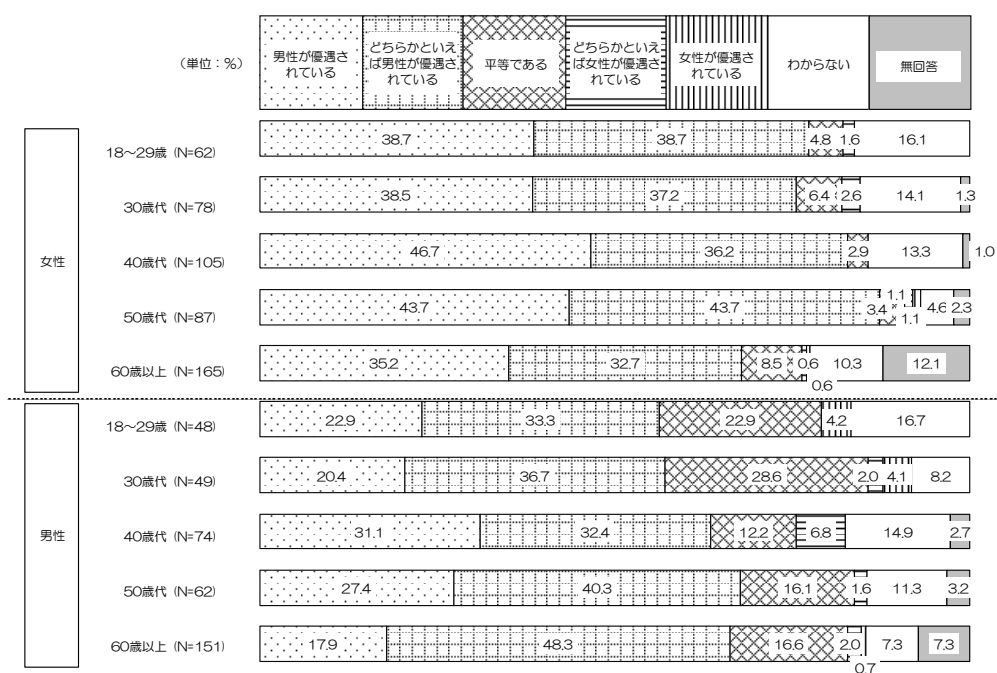
〔図表 1-1-5 男女平等の現状認識（性・年代別）〕



男女とも、全ての年代で「平等である」と感じている割合が最も高い。(図表 1-1-5)

⑤政治の場で

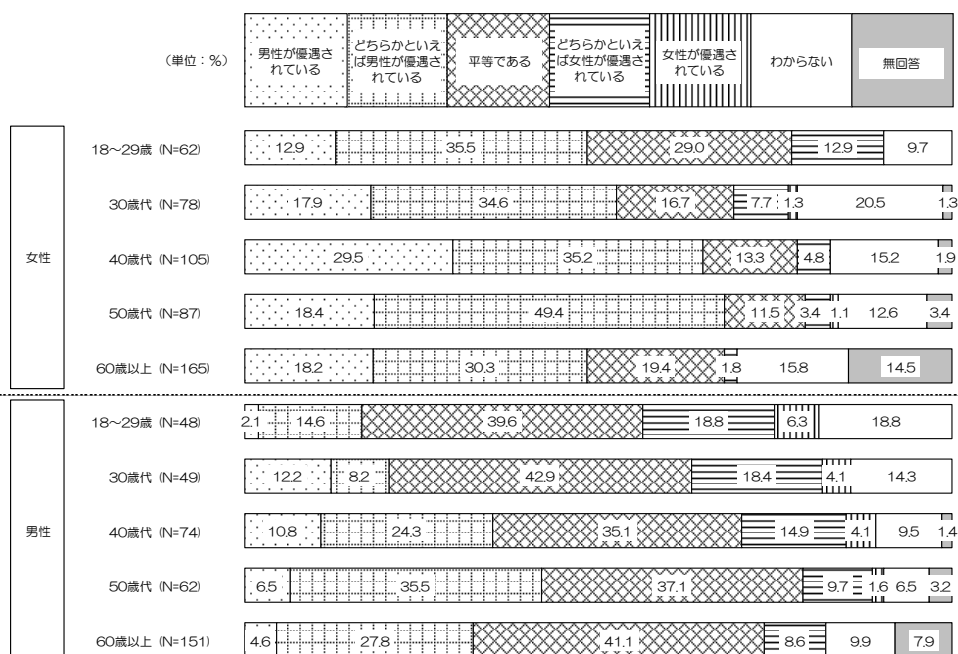
〔図表 1-1-6 男女平等の現状認識（性・年代別）〕



全ての年代で男女とも『男性優遇』と感じている割合が過半数を超えている。(図表 1-1-6)

⑥法律や制度の上で

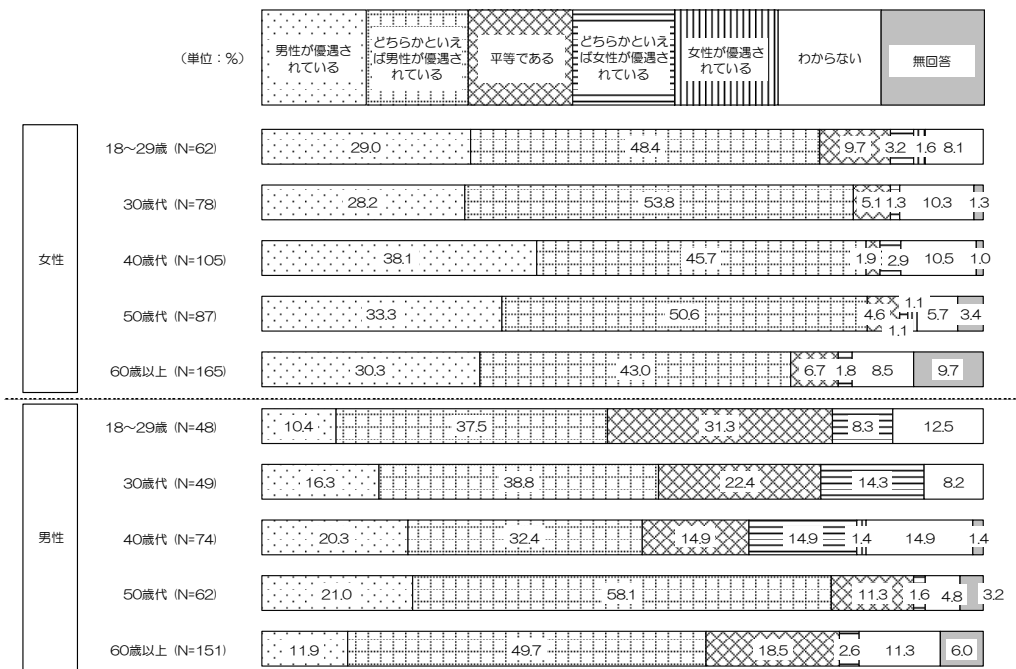
〔図表 1-1-7 男女平等の現状認識（性・年代別）〕



概ね全ての年代で女性は『男性優遇』と考えているが、男性は「平等である」と感じている割合が高い。(図表 1-1-7)

⑦社会通念・慣習・しきたりなどで

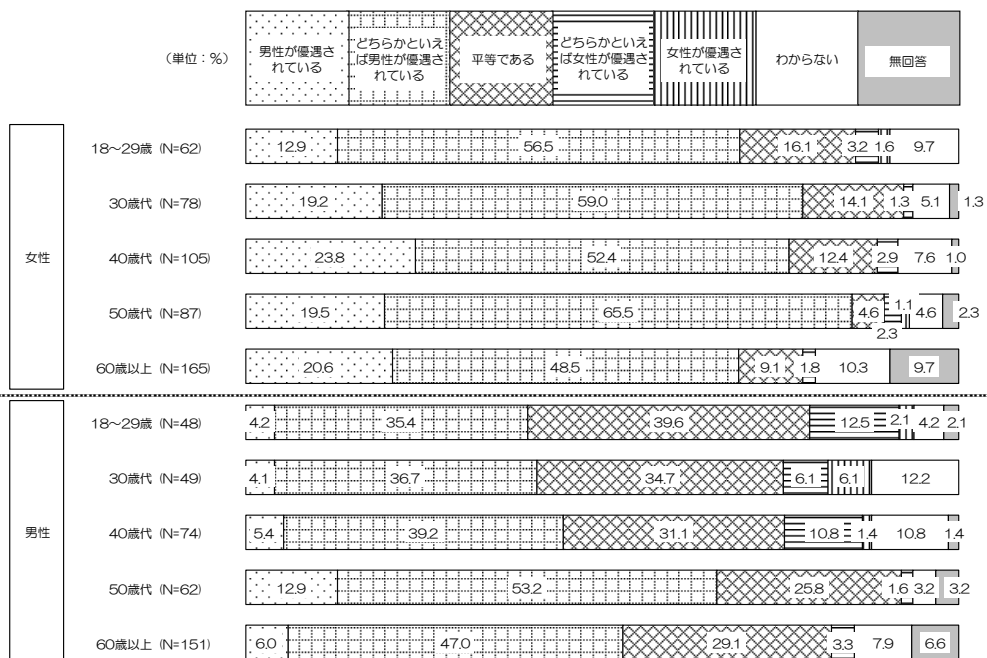
〔図表 1-1-8 男女平等の現状認識（性・年代別）〕



女性の30～50歳代では、『男性優遇』と感じている割合が8割を超えている。(図表 1-1-8)

⑧全体として

〔図表 1-1-9 男女平等の現状認識（性・年代別）〕

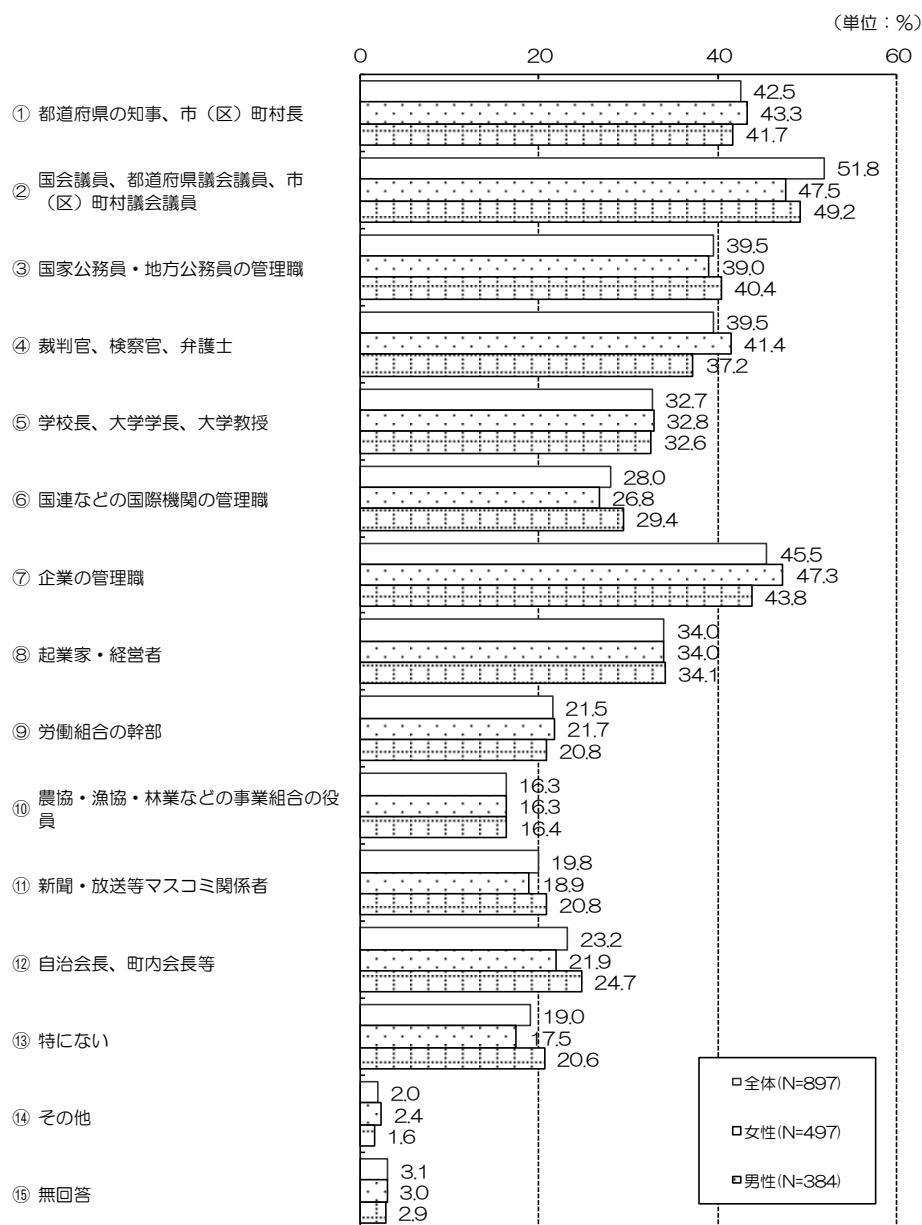


女性では、全ての年代において『男性優遇』と感じている割合が6割を超えている。(図表 1-1-9)

(2) 女性の増加が望まれる職業・役職

問2. 次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方が良いと思うのはどれですか。この中からいくつでもあげてください。(〇はいくつでも)

〔図表 1-2 女性の増加が望まれる職業・役職 (性別)〕



【女性が増える方が良い職業・役職は国会議員、地方議会議員】

女性が増える方が良いと思う職業や役職は、「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」が51.8%、「企業の管理職」が45.5%、「都道府県の知事、市(区)町村長」が42.5%となっている。(図表 1-2)

2 男女の役割分担について

(1) 性別役割分担意識

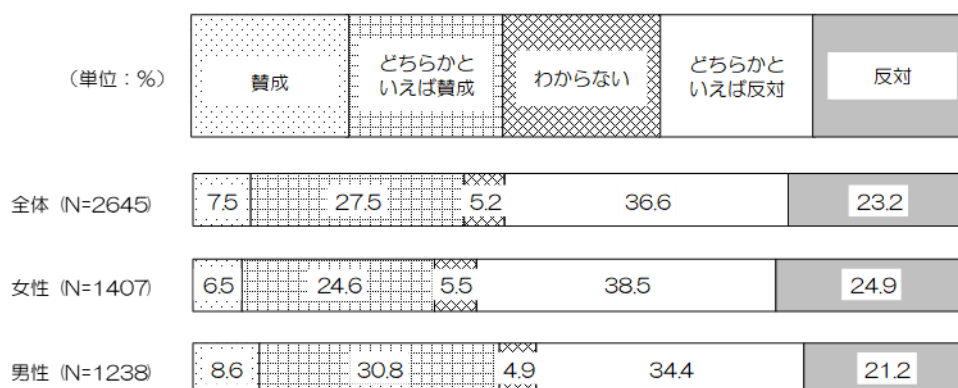
問3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(〇はひとつ)

〔図表 2-1 性別役割分担意識 (性別)〕



<内閣府 (令和元年度) 調査結果>

〔図表 2-1-1 性別役割分担意識 (内閣府調査比較)〕



【「男は仕事、女は家庭」という考え方に、女性の29.4%、男性の40.9%が『同感する』】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『同感する』(「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は34.0%、『同感しない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合)は64.8%となっている。性別で見ると、『同感する』は、女性29.4%、男性40.9%で、女性の方が11.5ポイント低くなっている。(図表 2-1)

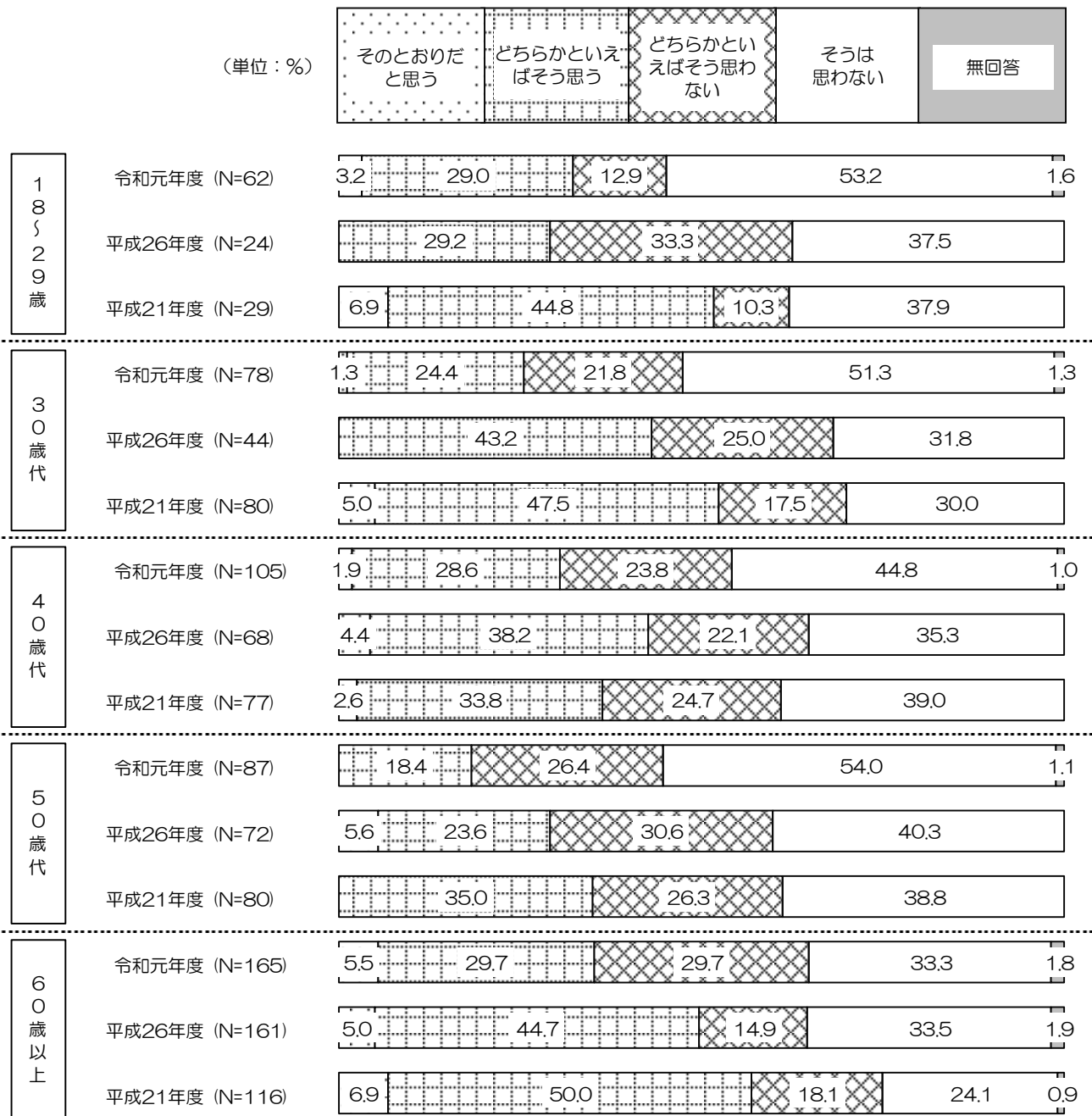
【内閣府調査との比較】

平成28年度の内閣府調査では、『賛成』が40.5%、『反対』が54.3%となっていたが、令和元年度調査では、『賛成』が35.0%、『反対』が59.8%であった。前回調査と比べ、賛成は5.5ポイント減、反対は5.5ポイント増となっている。

今回の大阪府調査の『同感する』と内閣府の令和元年度調査の『賛成』を比べると、内閣府の方が1.0ポイント高く、『同感しない』と内閣府調査の『反対』を比べると、内閣府の方が5.0ポイント低くなっている。

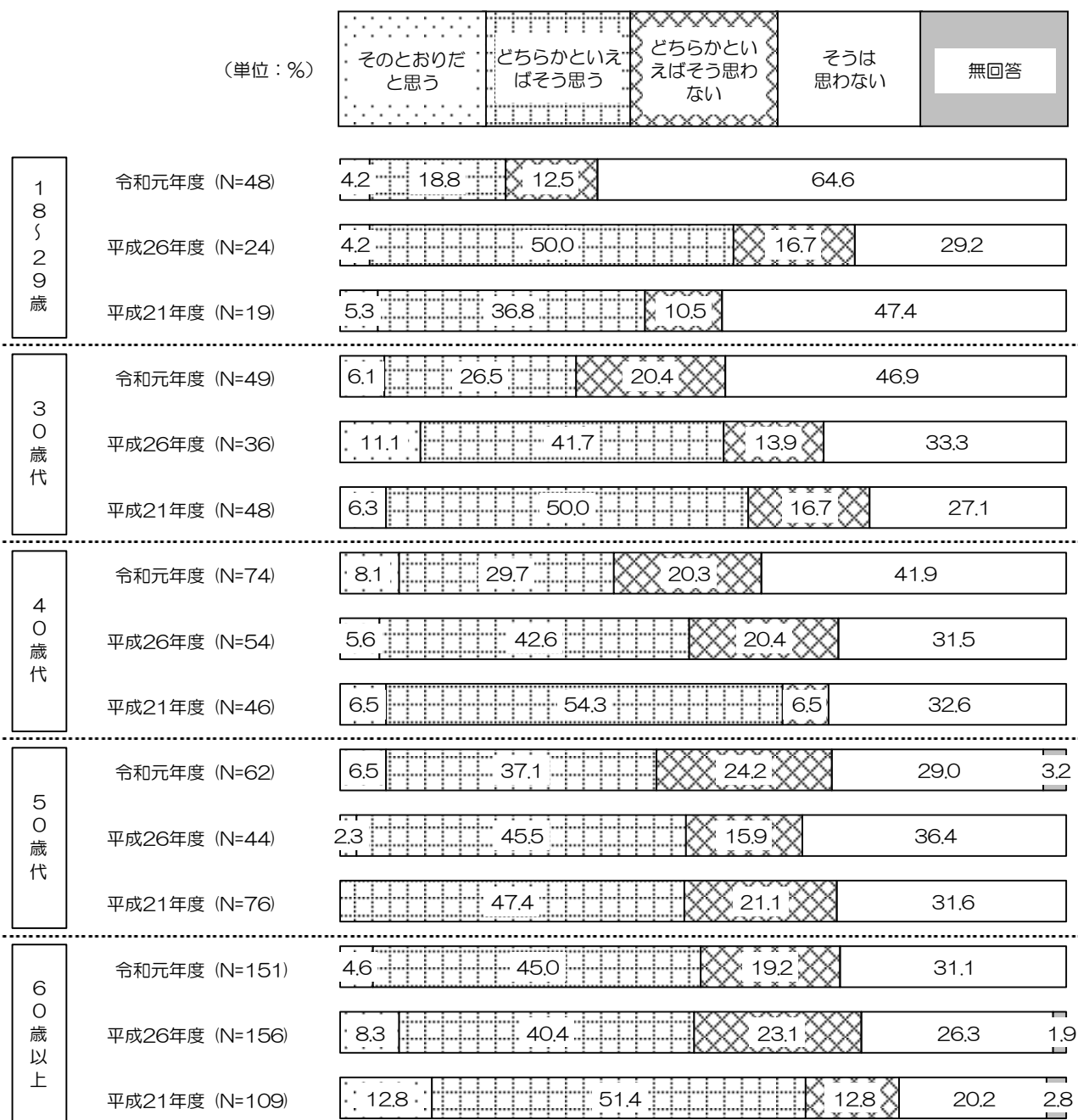
〔図表 2-1-2 性別役割分担意識（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



※平成 26、21 年度は満 20 歳以上を調査対象に設定
令和元年度より調査対象に 18、19 歳を追加

< 男性 >

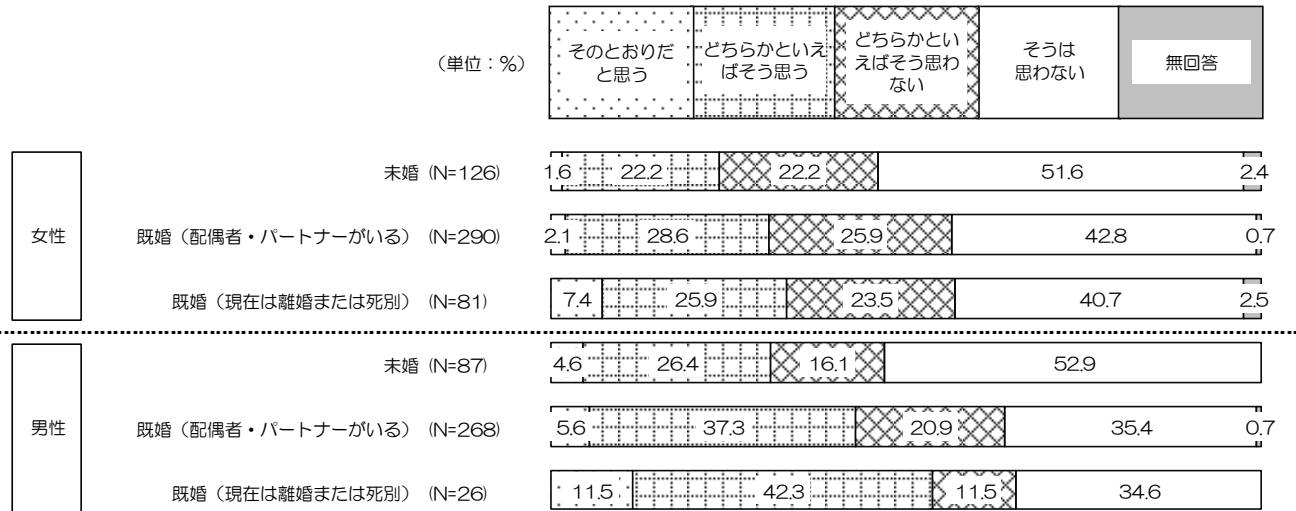


※平成 26、21 年度は満 20 歳以上を調査対象に設定
令和元年度より調査対象に 18、19 歳を追加

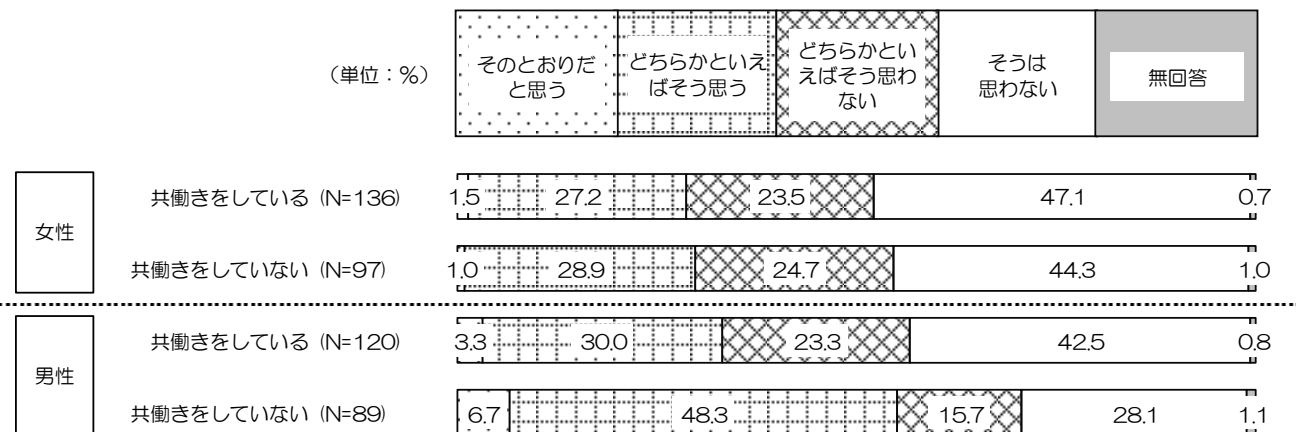
【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比較をすると、概ね全ての年代で男女共に『同感する』割合が減少傾向にある。また、18~29 歳男性では『同感する』割合が平成 26 年度にかけて増加したが、今回大きく減少している。(図表 2-1-2)

〔図表 2-1-3 性別役割分担意識（性・配偶関係別）〕



〔図表 2-1-4 性別役割分担意識（性・共働状況別）〕

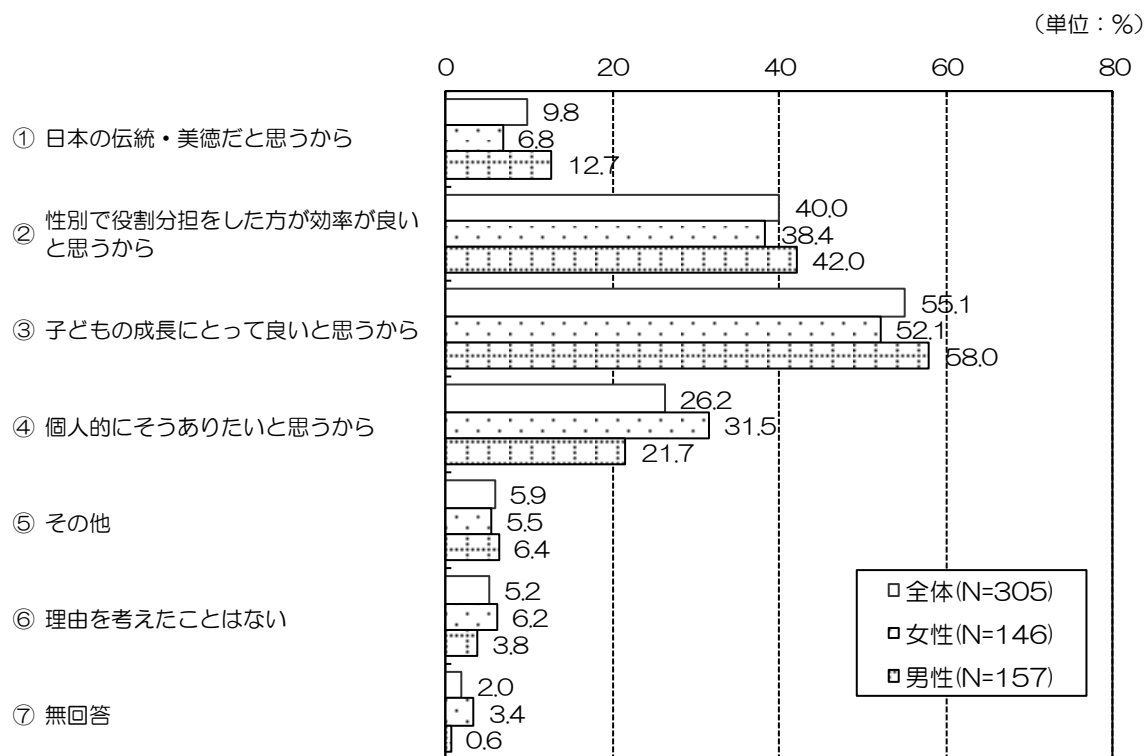


(2) 「男は仕事、女は家庭」と思う理由

問3-1. 【「男は仕事、女は家庭」と思う方】 そう思う理由を教えてください。

(○はいくつでも)

〔図表 2-2 「男は仕事、女は家庭」と思う理由 (性別)〕



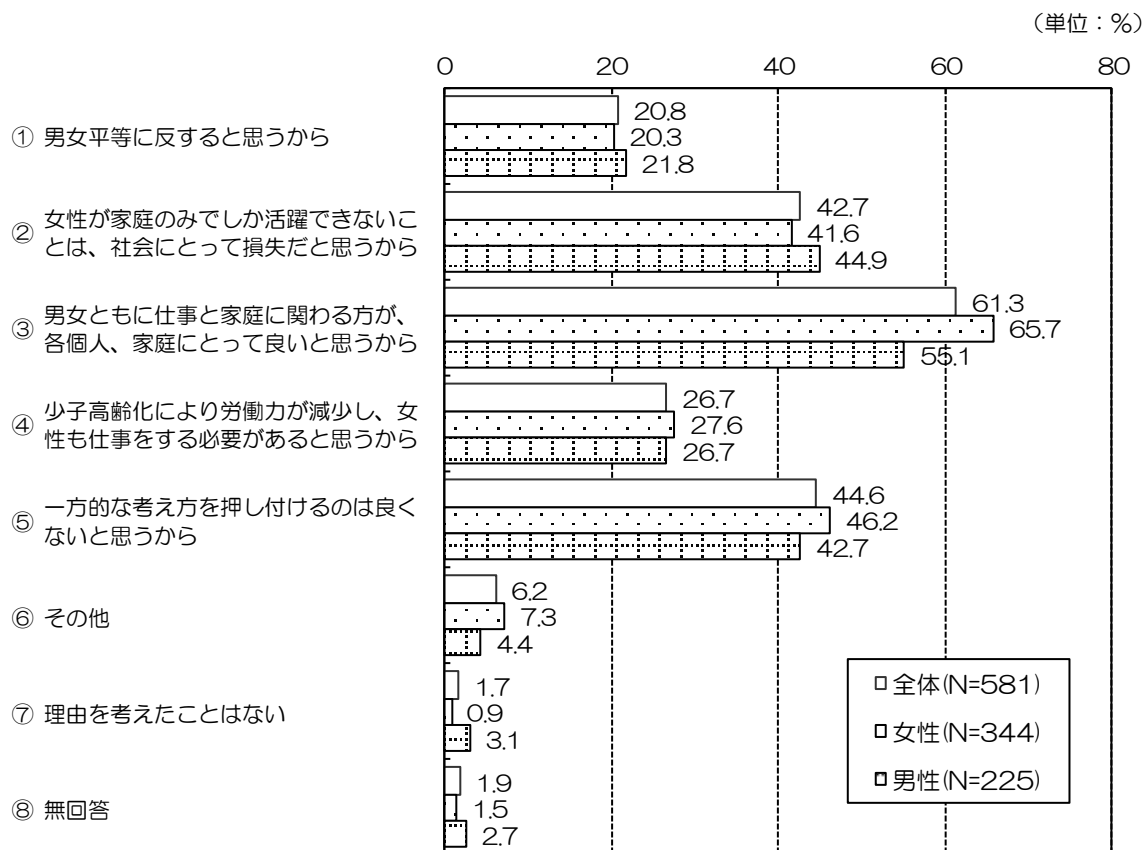
【「男は仕事、女は家庭」と思う理由は「子どもの成長にとって良いと思うから」が55.1%】

「男は仕事、女は家庭」と思う理由は、「子どもの成長にとって良いと思うから」が55.1%で最も高くなっている。次いで、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が40.0%、「個人的にそうありたいと思うから」が26.2%となっている。性別で見ると、「個人的にそうありたいと思うから」は女性の方が9.8ポイント高くなっている。(図表 2-2)

(3) 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由

問3-2. 【「男は仕事、女は家庭」と思わない方】 そう思わない理由を教えてください。
(○はいくつでも)

〔図表 2-3 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由 (性別)〕



【「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は

「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が61.3%】

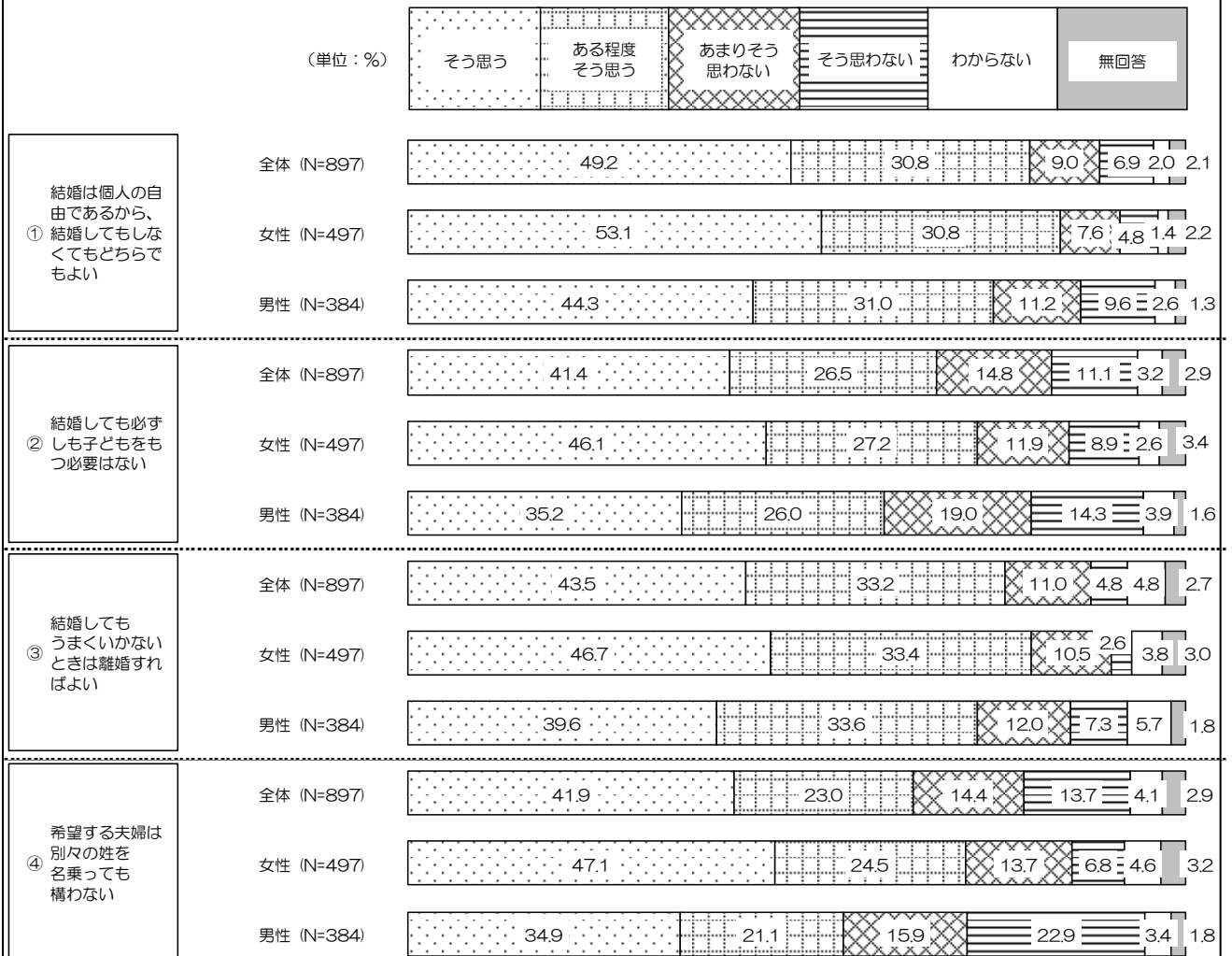
「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が61.3%で最も高い。次いで、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が44.6%、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が42.7%となっている。(図表 2-3)

3 家庭生活について

(1) 結婚、離婚に関する考え方

問4. 次にあげることがらについて、どのように思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。(○はひとつずつ)

〔図表 3-1 結婚、離婚に関する考え方 (性別)〕



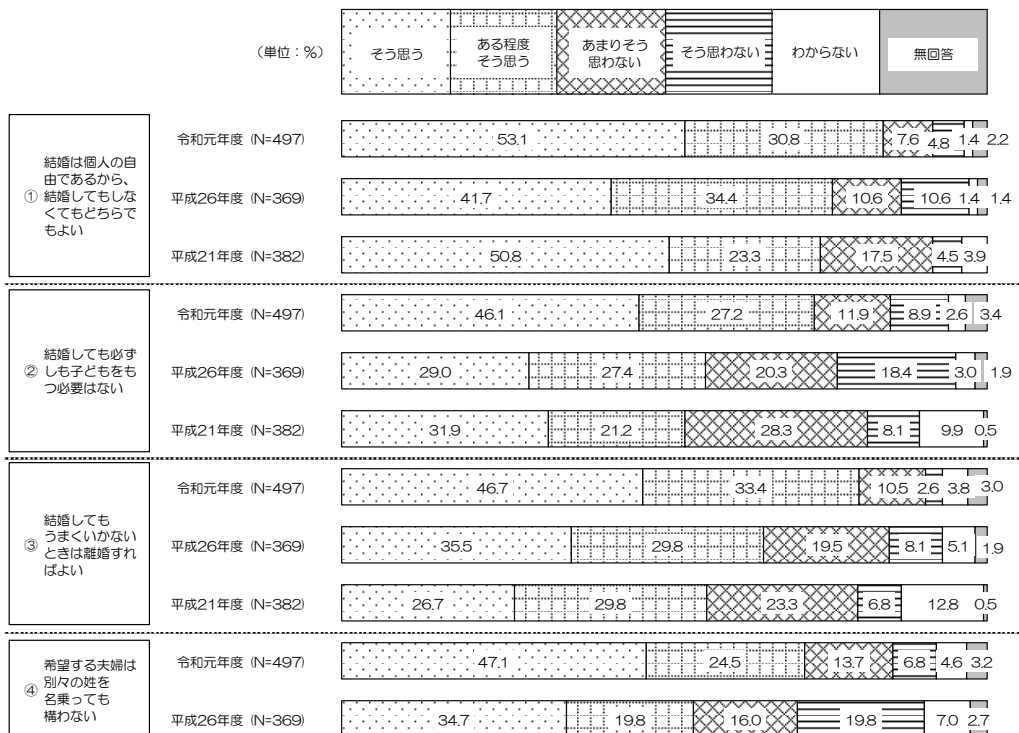
【「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方に、
男女とも約8割が『そう思う』】

結婚、離婚に関する考え方をみると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」の『そう思う』(「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた割合)は80.0%、「結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい」の『そう思う』は76.7%となっている。

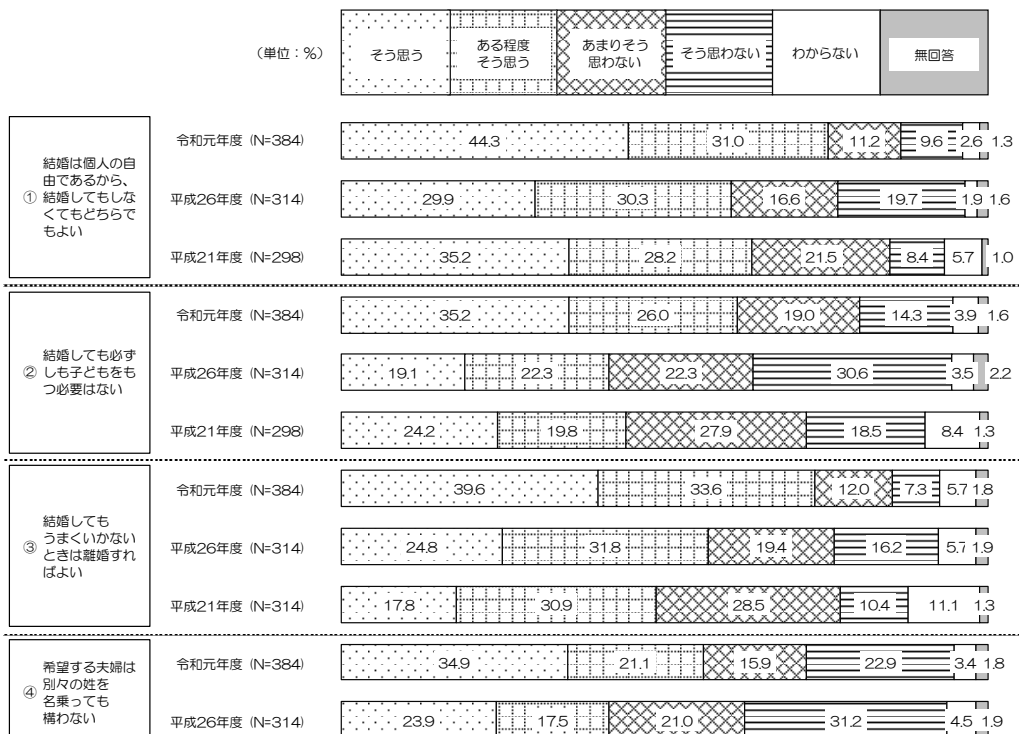
「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」について、『そう思う』は、それぞれ67.9%、64.9%となっている。(図表 3-1)

〔図表 3-1-1 結婚、離婚に関する考え方（過去の調査との比較）〕

<女性>



<男性>



※平成 21 年度調査では「④希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」は項目なし。

【過去の調査との比較】

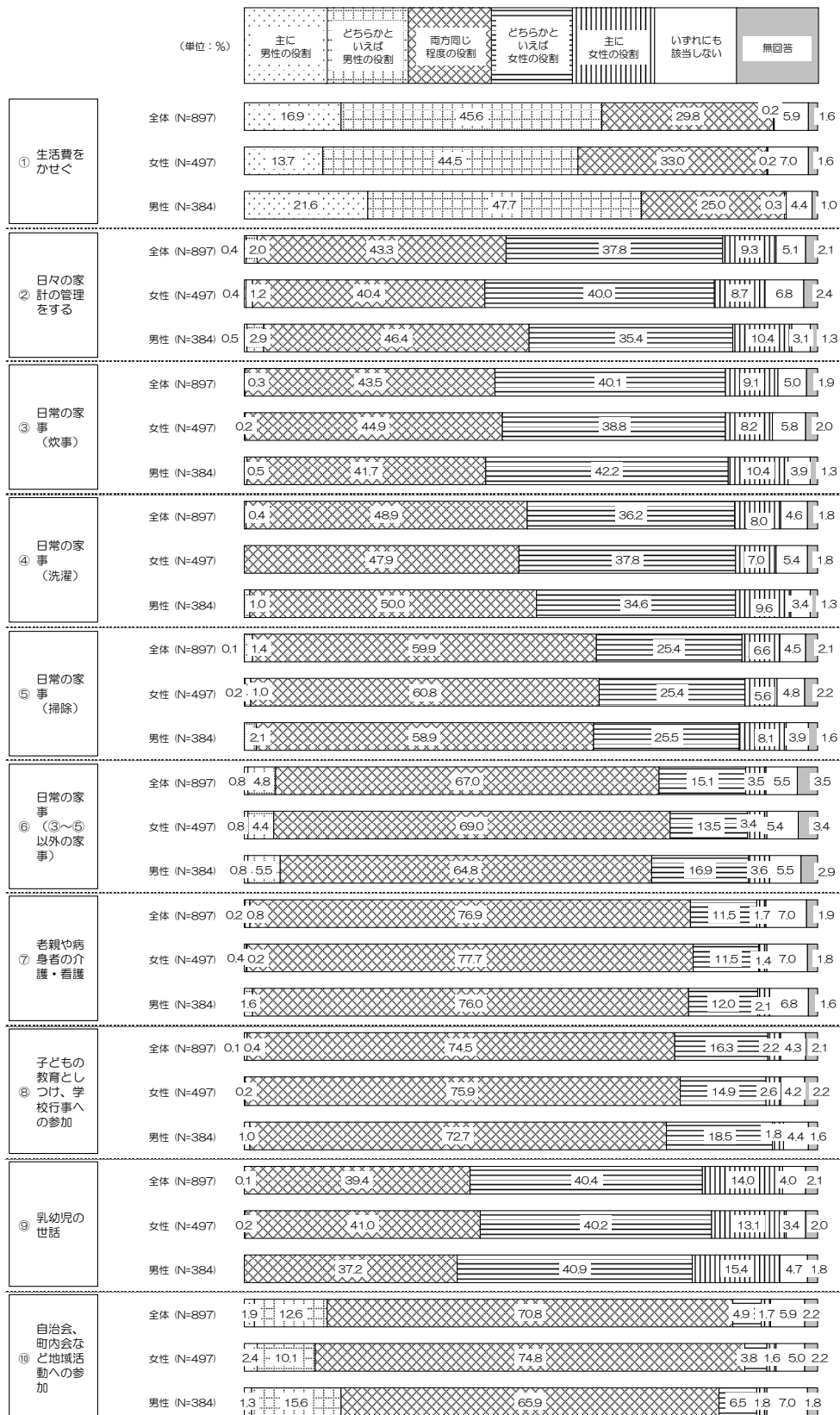
平成 26 年度と比較すると、男女ともに各項目で『そう思う』が増加している。

男性では、「結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい」が平成 26 年度より 14.8 ポイント増加しており、女性では「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」が 17.1 ポイント増加している。(図表 3-1-1)

(2) 家庭の仕事の役割分担

問5. 次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。あなたの
お考えに近いものを選んでください。(○はひとつずつ)

〔図表 3-2 家庭の仕事の役割分担 (性別)〕



【「生活費をかせぐ」は『男性の役割』が62.5%】

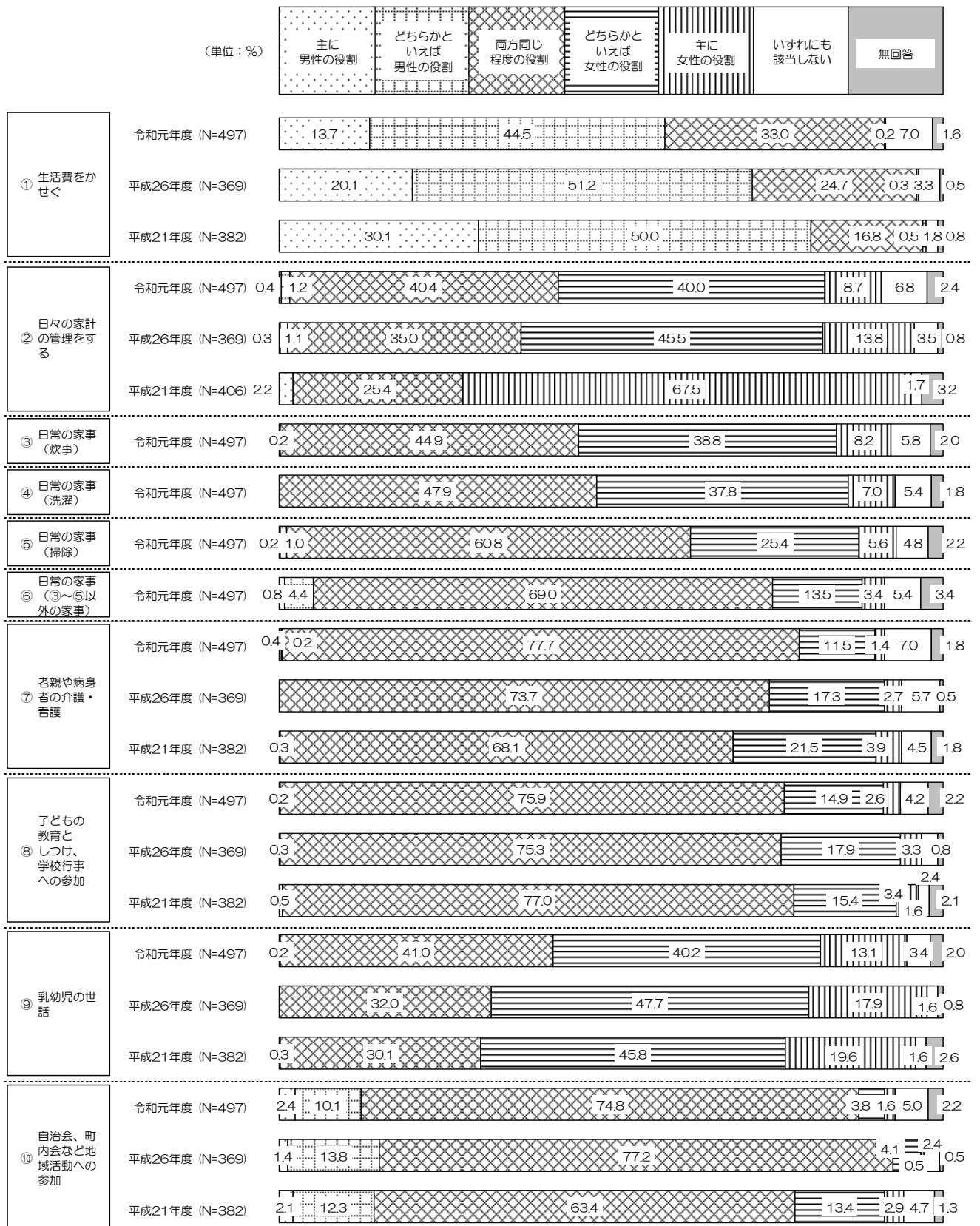
家庭の仕事の役割分担をみると、「生活費をかせぐ」は『男性の役割』（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせた割合）と考えている人が62.5%で最も高くなっている。

一方、「乳幼児の世話」は、『女性の役割』（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせた割合）と考えている人が54.4%と半数を超えている。

また、「老親や病身者の介護・看護」「子どもの教育としつけ、学校行事への参加」「自治会、町内会など地域活動への参加」については、「両方同じ程度の役割」が高くなっている。（図表3-2）

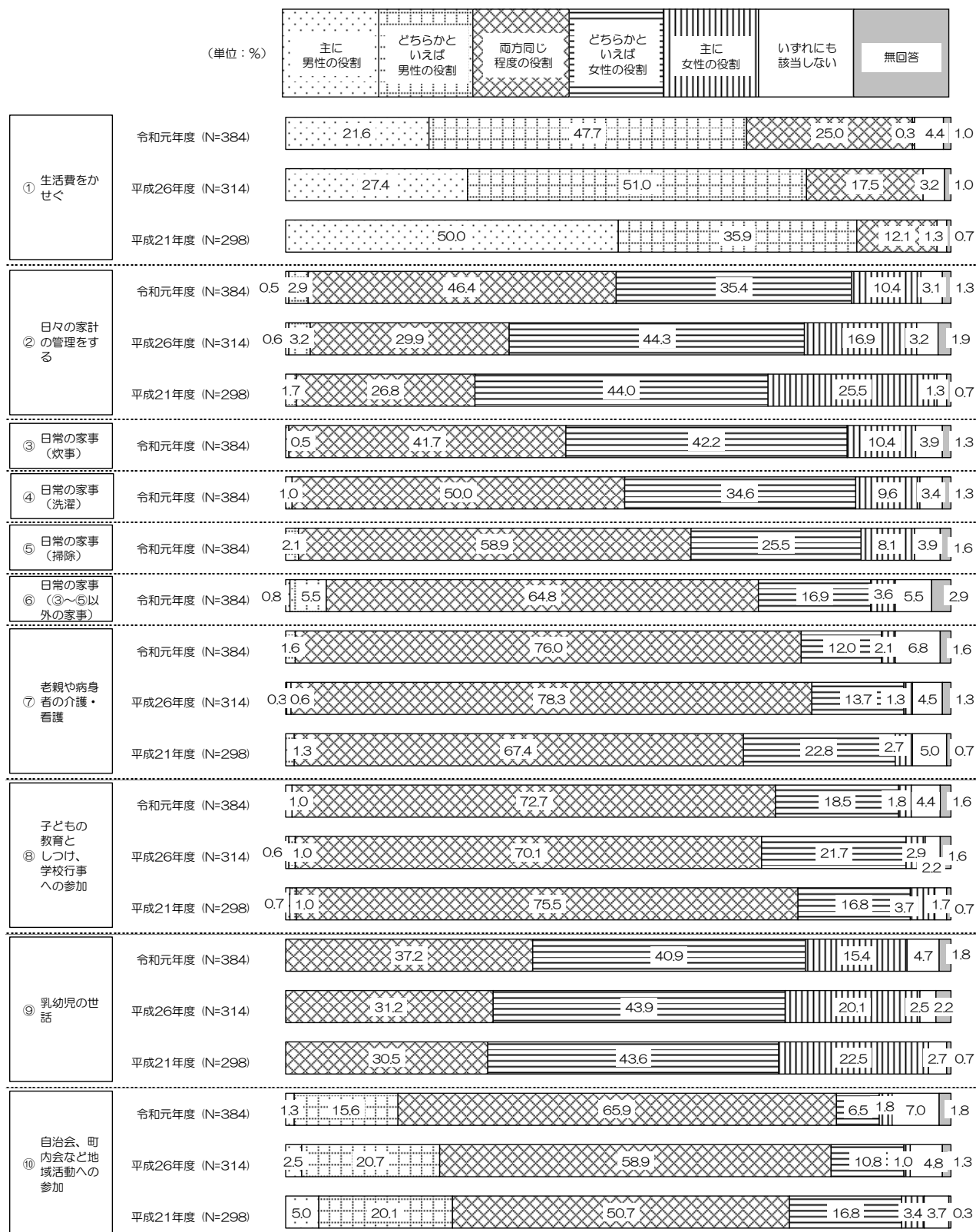
〔図表 3-2-1 家庭の仕事の役割分担（過去の調査との比較）〕

<女性>



※令和元年度より「日常の家事」をそれぞれ「日常の家事(炊事)」、「日常の家事(洗濯)」、「日常の家事(掃除)」、「日常の家事(③~⑤以外の家事)」に分割

<男性>



※令和元年度より「日常の家事」をそれぞれ「日常の家事(炊事)」、「日常の家事(洗濯)」、「日常の家事(掃除)」、「日常の家事(③～⑤以外の家事)」に分割

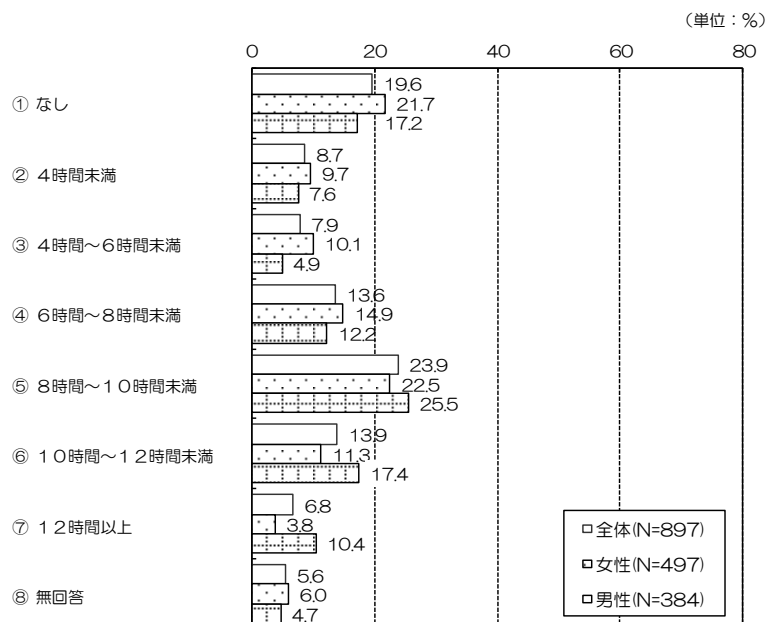
【過去の調査との比較】

平成26年度と比較すると、男女ともに「生活費をかせぐ」が『男性の役割』と考える人が減少している。性別で見ると、女性では「乳幼児の世話」が『両方同じ程度の役割』と考える人が前回調査より9.0ポイント増加している。男性では、「日々の家計の管理をする」が「両方同じ程度の役割」と考える人が16.5ポイント増加している。

(3) 仕事、家事、育児、介護に要する時間【平日】

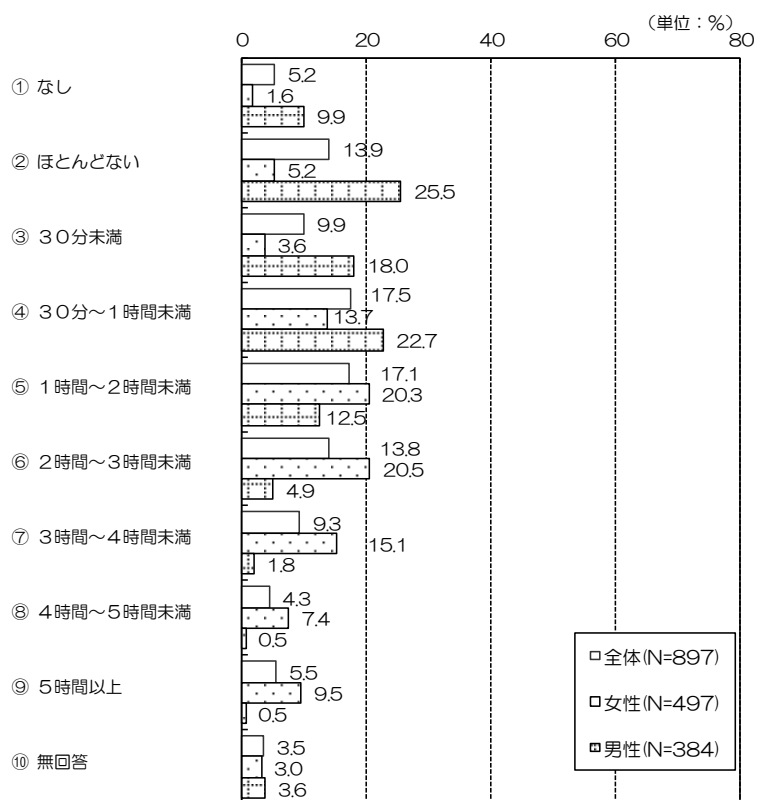
問6. 1日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や家事、育児、介護に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。（〇はひとつずつ）

〔図表 3-3① 仕事に要する時間【平日】（性別）〕



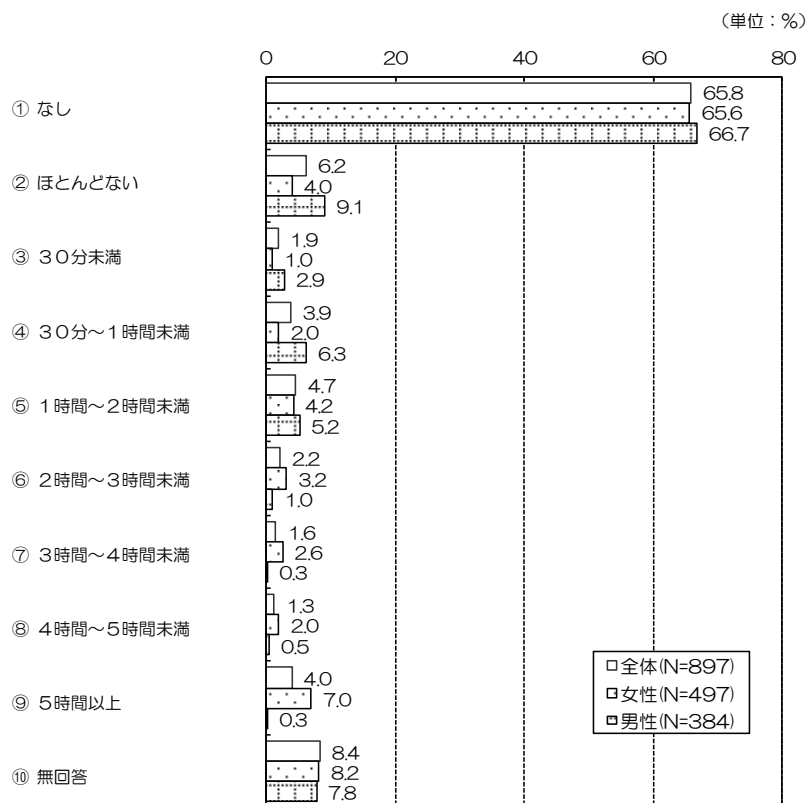
仕事に要する時間について、平日で8時間以上である女性は37.6%、男性で53.3%となっている。

〔図表 3-3② 家事に要する時間【平日】（性別）〕



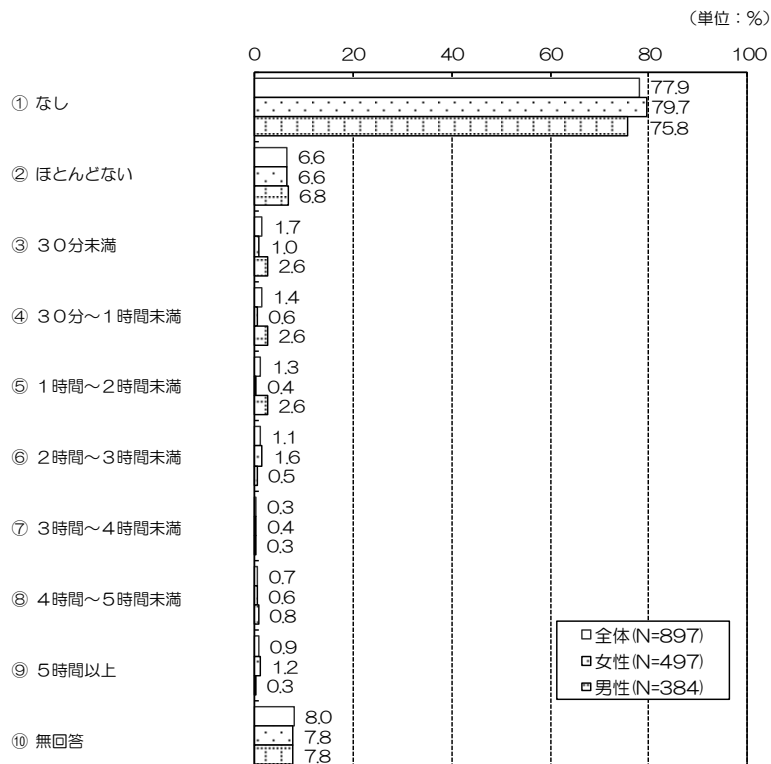
家事に要する時間について、2時間以上である女性は52.5%となっている。一方、男性では30分未満が53.4%となっている。

〔図表 3-3③ 育児に要する時間【平日】（性別）〕



育児に要する時間については、5時間以上である女性は7%、男性は、「ほとんどない」が9.1%となっている。

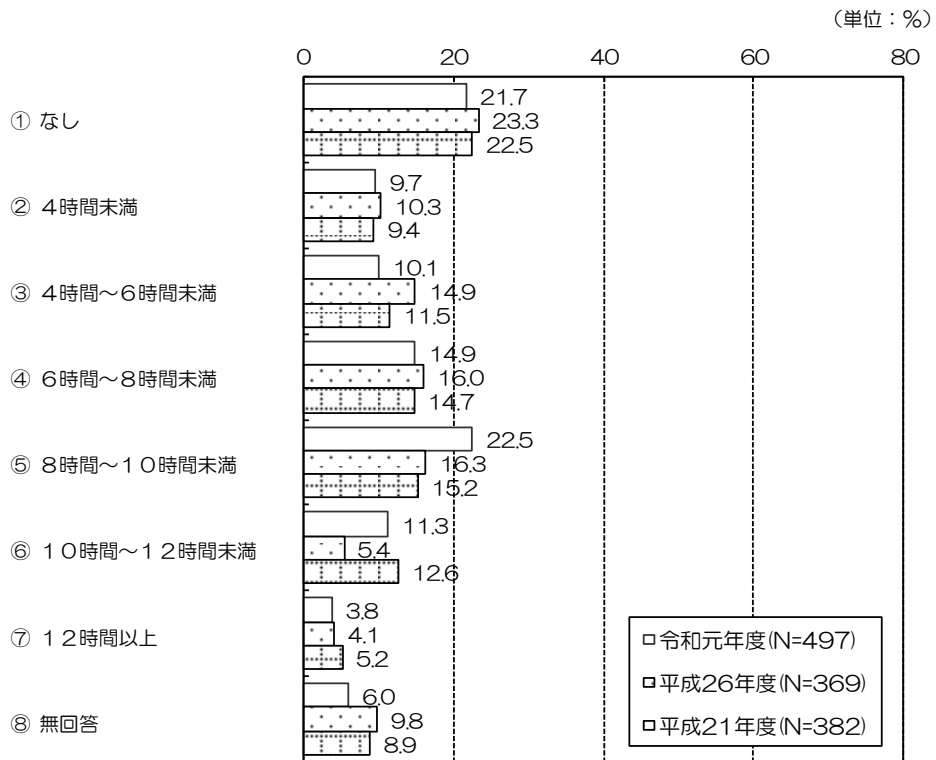
図表 3-3④ 介護に要する時間【平日】（性別）



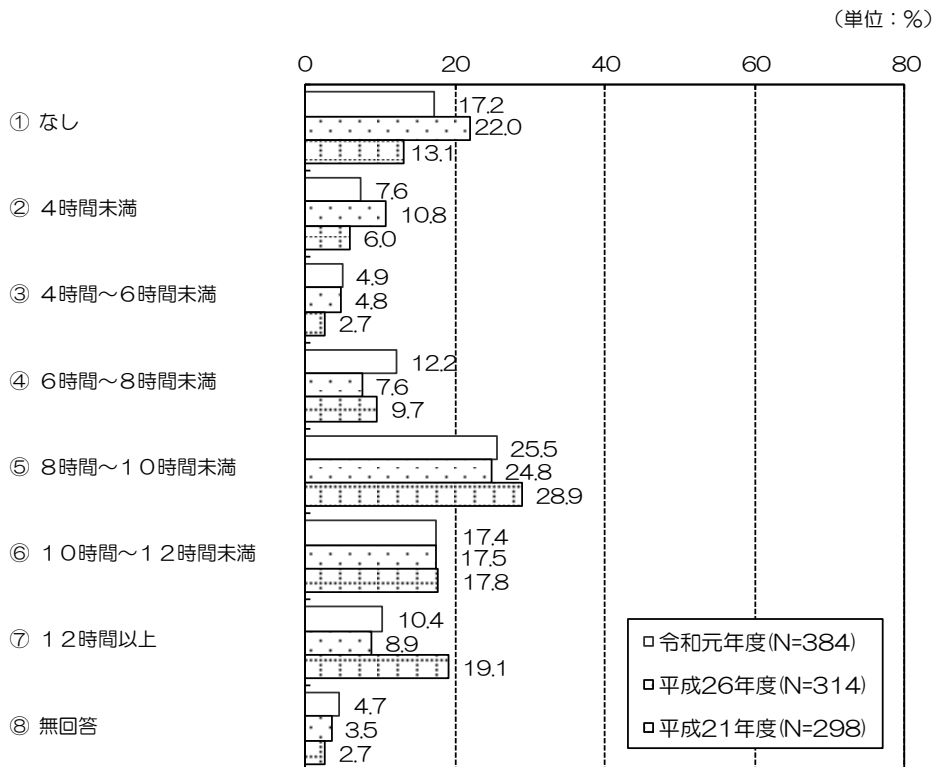
介護に要する時間については、男女とも「なし」が最も高く77.9%となっている。

〔図表 3-3-1① 仕事に要する時間【平日】（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

平成 26 年度と比較すると、女性では「8 時間～10 時間未満」が前回調査と比べて 6.2 ポイント増加している。男性では、「なし」が 4.8 ポイント減少しているが、「6 時間～8 時間未満」は 4.6 ポイント増加している。(図表 3-3-1①)

〔図表 3-3-2① 仕事に要する時間【平日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① なし	② 4時間未満	③ 4時間～6時間未満	④ 6時間～8時間未満	⑤ 8時間～10時間未満	⑥ 10時間～12時間未満	⑦ 12時間以上	⑧ 無回答	
全 体		897	19.6	8.7	7.9	13.6	23.9	13.9	6.8	5.6	
性×年代別	女性	18～29歳	62	9.7	8.1	4.8	16.1	37.1	12.9	8.1	3.2
		30歳代	78	19.2	2.6	5.1	19.2	32.1	15.4	3.8	2.6
		40歳代	105	12.4	4.8	12.4	19.0	27.6	17.1	4.8	1.9
		50歳代	87	14.9	11.5	11.5	14.9	27.6	12.6	3.4	3.4
		60歳以上	165	37.0	15.8	12.1	9.7	6.7	4.2	1.8	12.7
	男性	18～29歳	48	6.3	4.2	6.3	20.8	31.3	12.5	10.4	8.3
		30歳代	49	6.1	4.1	-	16.3	32.7	24.5	16.3	-
		40歳代	74	4.1	2.7	5.4	9.5	31.1	28.4	17.6	1.4
		50歳代	62	9.7	6.5	3.2	9.7	29.0	25.8	16.1	-
		60歳以上	151	33.8	12.6	6.6	10.6	17.2	7.9	2.6	8.6
共働状況別	女性	共働きをしている	136	2.2	9.6	16.9	25.7	23.5	18.4	3.7	-
		共働きをしていない	97	45.4	12.4	7.2	7.2	14.4	4.1	2.1	7.2
	男性	共働きをしている	120	5.0	6.7	3.3	9.2	33.3	27.5	14.2	0.8
		共働きをしていない	89	9.0	9.0	5.6	15.7	27.0	15.7	16.9	1.1

※ は、属性中トップの項目

〔図表 3-3-2② 家事に要する時間【平日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① なし	② ほとんどない	③ 30分未満	④ 30分～1時間未満	⑤ 1時間～2時間未満	⑥ 2時間～3時間未満	⑦ 3時間～4時間未満	⑧ 4時間～5時間未満	⑨ 5時間以上	⑩ 無回答	
全 体		897	5.2	13.9	9.9	17.5	17.1	13.8	9.3	4.3	5.5	3.5	
性×年代別	女性	18～29歳	62	4.8	21.0	11.3	21.0	22.6	8.1	6.5	3.2	-	1.6
		30歳代	78	1.3	6.4	3.8	19.2	15.4	16.7	15.4	6.4	12.8	2.6
		40歳代	105	1.0	4.8	4.8	15.2	21.9	21.9	13.3	6.7	10.5	-
		50歳代	87	1.1	2.3	2.3	12.6	19.5	25.3	14.9	10.3	9.2	2.3
		60歳以上	165	1.2	0.6	0.6	7.9	21.2	23.6	19.4	8.5	10.9	6.1
	男性	18～29歳	48	22.9	16.7	18.8	20.8	10.4	6.3	-	-	-	4.2
		30歳代	49	4.1	24.5	22.4	28.6	14.3	2.0	2.0	-	2.0	-
		40歳代	74	4.1	39.2	18.9	23.0	6.8	1.4	4.1	-	-	2.7
		50歳代	62	6.5	27.4	14.5	22.6	19.4	9.7	-	-	-	-
		60歳以上	151	11.9	21.2	17.2	21.2	12.6	5.3	2.0	1.3	0.7	6.6
共働状況別	女性	共働きをしている	136	-	0.7	-	5.9	25.0	30.1	19.9	9.6	8.8	-
		共働きをしていない	97	-	-	-	6.2	14.4	20.6	19.6	12.4	23.7	3.1
	男性	共働きをしている	120	5.0	27.5	16.7	28.3	15.0	3.3	2.5	-	-	1.7
		共働きをしていない	89	11.2	33.7	22.5	20.2	5.6	3.4	1.1	1.1	-	1.1

※ は、属性中トップの項目

〔図表 3-3-2③ 育児に要する時間【平日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① なし	② ほとんどない	③ 30分未満	④ 30分～1時間未満	⑤ 1時間～2時間未満	⑥ 2時間～3時間未満	⑦ 3時間～4時間未満	⑧ 4時間～5時間未満	⑨ 5時間以上	⑩ 無回答
全 体			897	658	6.2	1.9	3.9	4.7	2.2	1.6	1.3	4.0	8.4
性×年代別	女性	18～29歳	62	80.6	-	-	-	3.2	1.6	-	-	6.5	8.1
		30歳代	78	39.7	-	1.3	3.8	6.4	9.0	5.1	5.1	25.6	3.8
		40歳代	105	54.3	3.8	1.0	4.8	10.5	6.7	5.7	3.8	7.6	1.9
		50歳代	87	77.0	8.0	2.3	2.3	2.3	1.1	1.1	-	1.1	4.6
		60歳以上	165	73.3	5.5	0.6	-	0.6	-	1.2	1.2	1.2	16.4
	男性	18～29歳	48	72.9	4.2	2.1	-	4.2	2.1	-	-	-	14.6
		30歳代	49	55.1	10.2	2.0	14.3	12.2	2.0	-	2.0	2.0	-
		40歳代	74	47.3	13.5	8.1	13.5	6.8	1.4	1.4	-	-	8.1
		50歳代	62	61.3	19.4	3.2	6.5	8.1	-	-	-	-	1.6
		60歳以上	151	80.1	4.0	0.7	2.0	1.3	0.7	-	0.7	-	10.6
共働状況別	女性	共働きをしている	136	47.1	7.4	1.5	5.1	12.5	7.4	4.4	3.7	7.4	3.7
		共働きをしていない	97	51.5	7.2	-	1.0	2.1	5.2	5.2	2.1	20.6	5.2
	男性	共働きをしている	120	50.8	13.3	5.8	10.8	10.8	0.8	0.8	0.8	-	5.8
		共働きをしていない	89	59.6	18.0	4.5	7.9	3.4	3.4	-	1.1	-	2.2

※ 〇は、属性中トップの項目

〔図表 3-3-2④ 介護に要する時間【平日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

(単位：%)

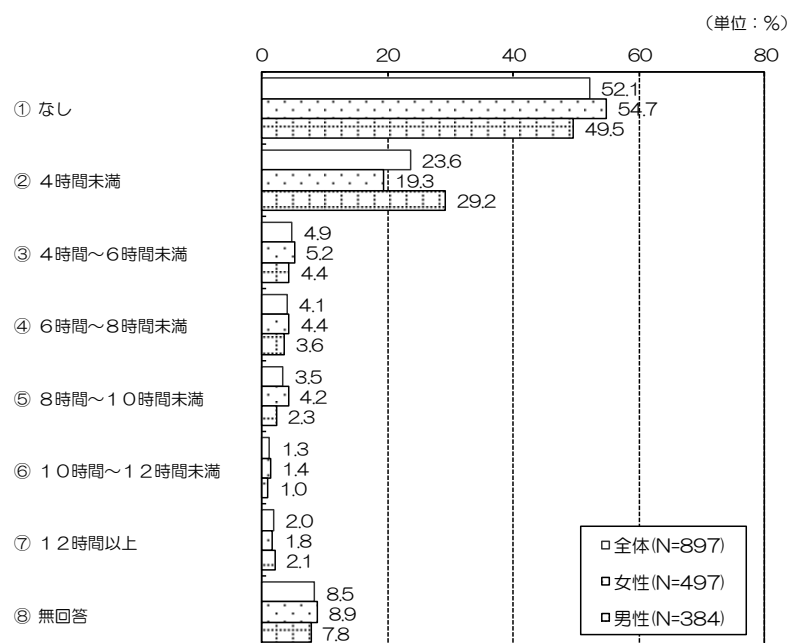
			サンプル数	① なし	② ほとんどない	③ 30分未満	④ 30分～1時間未満	⑤ 1時間～2時間未満	⑥ 2時間～3時間未満	⑦ 3時間～4時間未満	⑧ 4時間～5時間未満	⑨ 5時間以上	⑩ 無回答
全 体			897	77.9	6.6	1.7	1.4	1.3	1.1	0.3	0.7	0.9	8.0
性×年代別	女性	18～29歳	62	88.7	3.2	-	-	-	-	-	-	-	8.1
		30歳代	78	89.7	3.8	-	-	-	2.6	-	-	-	3.8
		40歳代	105	89.5	2.9	1.0	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	2.9
		50歳代	87	70.1	16.1	1.1	-	1.1	2.3	1.1	2.3	1.1	4.6
		60歳以上	165	70.3	6.7	1.8	1.2	0.6	1.8	0.6	-	2.4	14.5
	男性	18～29歳	48	79.2	2.1	4.2	-	-	-	-	-	-	14.6
		30歳代	49	91.8	6.1	-	-	-	-	-	-	-	2.0
		40歳代	74	79.7	8.1	1.4	1.4	1.4	1.4	-	-	-	6.8
		50歳代	62	66.1	11.3	6.5	4.8	4.8	-	1.6	1.6	-	3.2
		60歳以上	151	71.5	6.0	2.0	4.0	4.0	0.7	-	1.3	0.7	9.9
共働状況別	女性	共働きをしている	136	80.9	11.0	1.5	-	0.7	0.7	-	0.7	0.7	3.7
		共働きをしていない	97	76.3	8.2	2.1	2.1	1.0	2.1	-	2.1	1.0	5.2
	男性	共働きをしている	120	75.8	11.7	2.5	1.7	2.5	-	-	-	-	5.8
		共働きをしていない	89	82.0	2.2	3.4	2.2	2.2	-	-	1.1	1.1	5.6

※ 〇は、属性中トップの項目

(4) 仕事、家事、育児、介護に要する時間【休日】

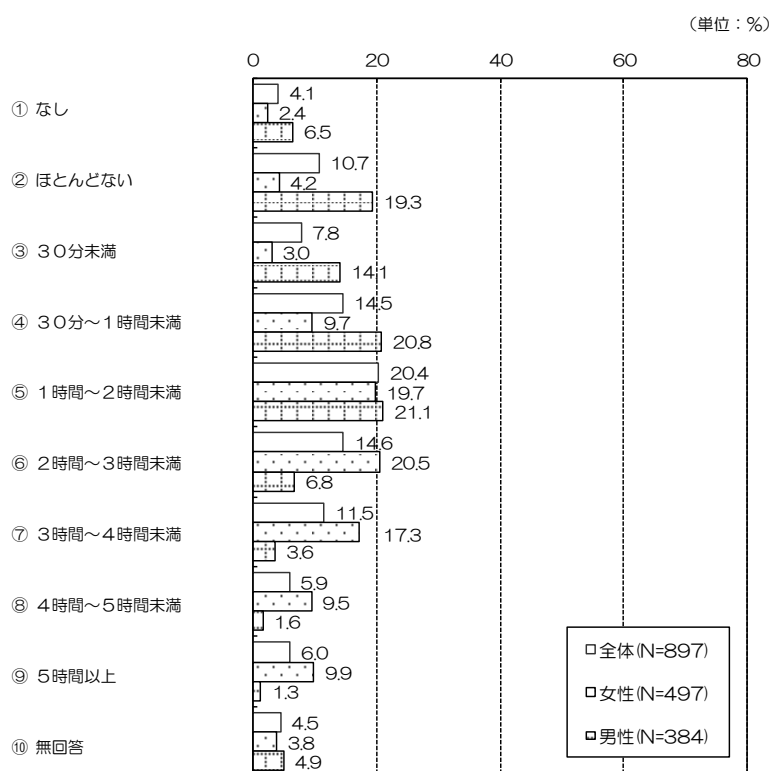
問6. 1日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や家事、育児、介護に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。（○はひとつずつ）

〔図表 3-4① 仕事に要する時間【休日】（性別）〕



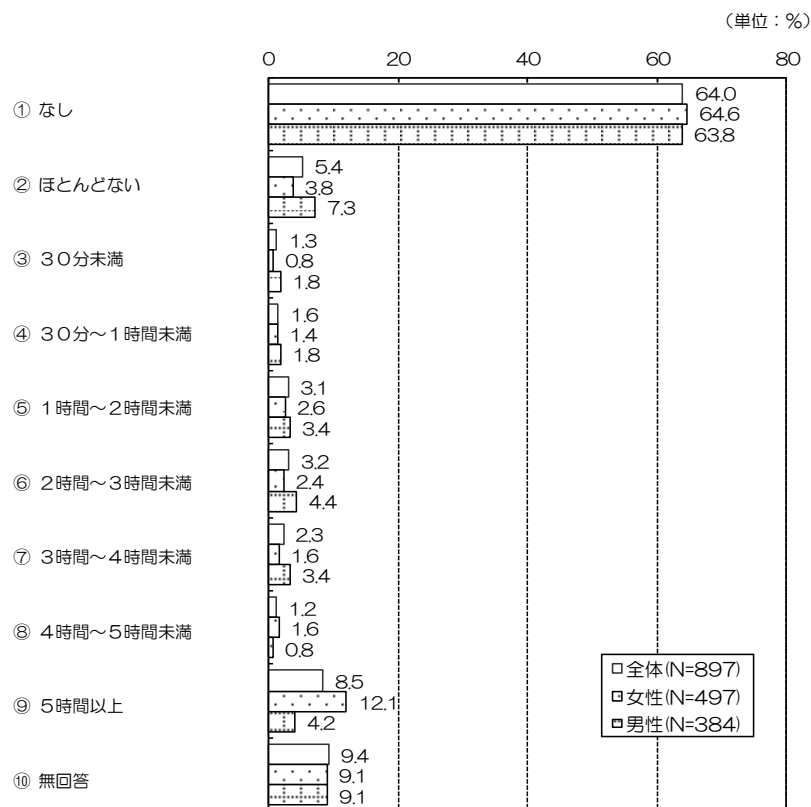
休日に仕事に要する時間は、男女とも「なし」が最も高く 52.1%、次に「4時間未満」が 23.6%となっている。

〔図表 3-4② 家事に要する時間【休日】（性別）〕



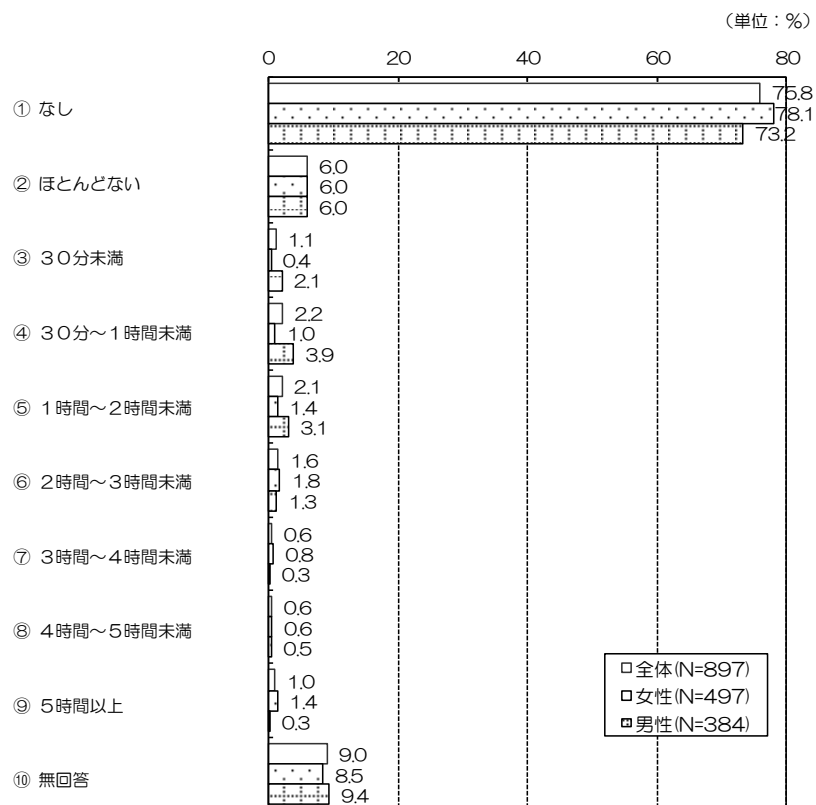
家事に要する時間は、女性は平日とほとんど変わらず「2時間～3時間未満」が 20.5%と最も高くなっている。男性は「1時間～2時間未満」が 21.1%で最も高くなっている。

〔図表 3-4③ 育児に要する時間【休日】（性別）〕



育児に要する時間については、3時間以上である女性は15.3%、男性は8.4%と平日より高くなっている。

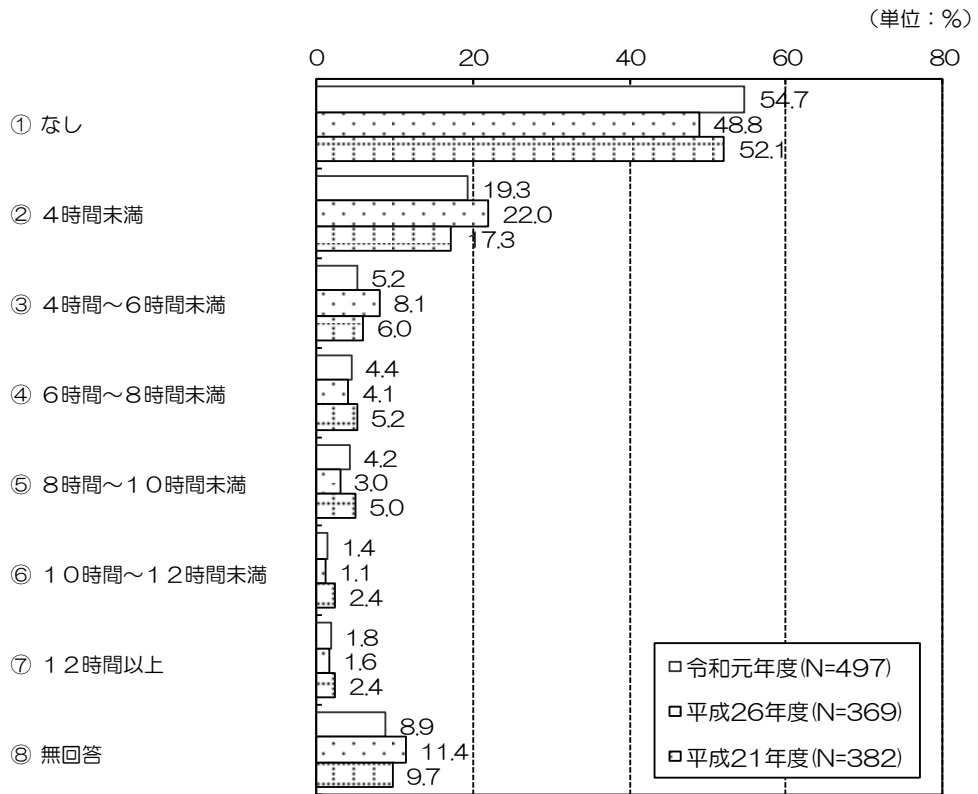
〔図表 3-4④ 介護に要する時間【休日】（性別）〕



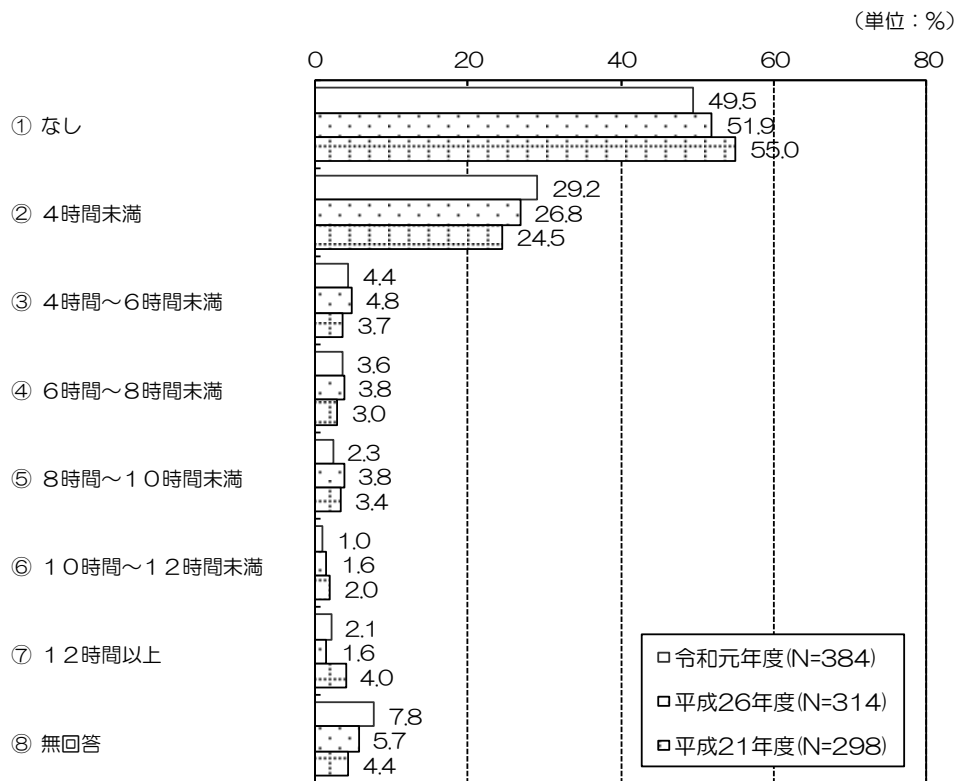
介護に要する時間については、男女とも「なし」が最も高く75.8%となっている。

〔図表 3-4-1① 仕事に要する時間【休日】（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比べると男性の「休日に仕事に要する時間」は「なし」が減少しており、「4 時間未満」が増加している。(図表 3-4-1①)

〔図表 3-4-2① 仕事に要する時間【休日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① なし	② 4時間未満	③ 4時間～6時間未満	④ 6時間～8時間未満	⑤ 8時間～10時間未満	⑥ 10時間～12時間未満	⑦ 12時間以上	⑧ 無回答
全 体			897	52.1	23.6	4.9	4.1	3.5	1.3	2.0	8.5
性×年代別	女性	18～29歳	62	54.8	11.3	11.3	6.5	4.8	1.6	6.5	3.2
		30歳代	78	59.0	21.8	2.6	5.1	5.1	2.6	1.3	2.6
		40歳代	105	58.1	16.2	5.7	5.7	3.8	2.9	1.0	6.7
		50歳代	87	52.9	27.6	4.6	4.6	3.4	-	-	6.9
		60歳以上	165	51.5	18.8	4.2	2.4	4.2	0.6	1.8	16.4
	男性	18～29歳	48	52.1	22.9	6.3	2.1	4.2	-	-	12.5
		30歳代	49	44.9	30.6	4.1	2.0	6.1	2.0	6.1	4.1
		40歳代	74	54.1	32.4	5.4	1.4	1.4	1.4	2.7	1.4
		50歳代	62	37.1	45.2	6.5	6.5	1.6	-	1.6	1.6
		60歳以上	151	53.0	22.5	2.6	4.6	1.3	1.3	1.3	13.2
共働状況別	女性	共働きをしている	136	61.0	17.6	3.7	5.9	6.6	1.5	0.7	2.9
		共働きをしていない	97	53.6	21.6	2.1	4.1	2.1	2.1	2.1	12.4
	男性	共働きをしている	120	42.5	35.8	6.7	4.2	3.3	1.7	2.5	3.3
		共働きをしていない	89	57.3	28.1	2.2	2.2	1.1	2.2	3.4	3.4

※ は、属性中トップの項目

〔図表 3-4-2② 家事に要する時間【休日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① なし	② ほとんどない	③ 30分未満	④ 30分～1時間未満	⑤ 1時間～2時間未満	⑥ 2時間～3時間未満	⑦ 3時間～4時間未満	⑧ 4時間～5時間未満	⑨ 5時間以上	⑩ 無回答
全 体			897	4.1	10.7	7.8	14.5	20.4	14.6	11.5	5.9	6.0	4.5
性×年代別	女性	18～29歳	62	4.8	17.7	12.9	11.3	24.2	9.7	8.1	4.8	4.8	1.6
		30歳代	78	1.3	2.6	2.6	12.8	20.5	20.5	15.4	6.4	15.4	2.6
		40歳代	105	1.0	2.9	1.9	8.6	17.1	28.6	19.0	8.6	12.4	-
		50歳代	87	1.1	1.1	2.3	6.9	20.7	17.2	24.1	16.1	6.9	3.4
		60歳以上	165	3.6	2.4	0.6	9.7	18.8	21.2	17.0	9.7	9.1	7.9
	男性	18～29歳	48	10.4	22.9	12.5	14.6	20.8	4.2	4.2	-	2.1	8.3
		30歳代	49	-	10.2	16.3	34.7	20.4	6.1	4.1	2.0	4.1	2.0
		40歳代	74	2.7	23.0	18.9	20.3	21.6	5.4	4.1	1.4	-	2.7
		50歳代	62	4.8	21.0	9.7	17.7	24.2	12.9	6.5	3.2	-	-
		60歳以上	151	9.9	18.5	13.2	19.9	19.9	6.0	2.0	1.3	1.3	7.9
共働状況別	女性	共働きをしている	136	0.7	0.7	1.5	3.7	16.2	25.0	25.0	12.5	14.7	-
		共働きをしていない	97	1.0	-	-	6.2	14.4	25.8	16.5	13.4	18.6	4.1
	男性	共働きをしている	120	2.5	15.0	13.3	22.5	28.3	11.7	3.3	0.8	0.8	1.7
		共働きをしていない	89	5.6	28.1	14.6	21.3	16.9	3.4	1.1	4.5	1.1	3.4

※ は、属性中トップの項目

〔図表 3-4-2③ 育児に要する時間【休日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① なし	② ほとん どない	③ 30分 未満	④ 30分 〜1時 間未 満	⑤ 1時 間〜 2時 間未 満	⑥ 2時 間〜 3時 間未 満	⑦ 3時 間〜 4時 間未 満	⑧ 4時 間〜 5時 間未 満	⑨ 5時 間以 上	⑩ 無回 答	
全 体		897	64.0	5.4	1.3	1.6	3.1	3.2	2.3	1.2	8.5	9.4	
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	62	80.6	-	-	-	1.6	-	-	-	9.7	8.1
		30歳代	78	39.7	-	-	2.6	5.1	2.6	-	1.3	44.9	3.8
		40歳代	105	54.3	3.8	1.9	1.9	7.6	7.6	4.8	2.9	13.3	1.9
		50歳代	87	74.7	9.2	1.1	3.4	-	-	2.3	-	2.3	6.9
		60歳以上	165	71.5	4.2	0.6	-	-	1.2	0.6	2.4	1.8	17.6
	男性	18~29歳	48	64.6	6.3	-	-	4.2	2.1	2.1	-	2.1	18.8
		30歳代	49	49.0	4.1	2.0	4.1	6.1	8.2	4.1	2.0	18.4	2.0
		40歳代	74	45.9	8.1	5.4	1.4	2.7	8.1	12.2	1.4	6.8	8.1
		50歳代	62	59.7	19.4	1.6	3.2	6.5	4.8	1.6	1.6	-	1.6
		60歳以上	151	78.8	3.3	0.7	1.3	1.3	2.0	-	-	0.7	11.9
共 働 状 況 別	女性	共働きをしている	136	47.1	8.1	1.5	2.2	6.6	3.7	2.2	2.2	22.8	3.7
		共働きをしていない	97	49.5	6.2	-	1.0	3.1	6.2	4.1	2.1	20.6	7.2
	男性	共働きをしている	120	50.0	13.3	2.5	2.5	3.3	7.5	5.8	0.8	8.3	5.8
		共働きをしていない	89	52.8	11.2	3.4	2.2	6.7	5.6	6.7	1.1	5.6	4.5

※ は、属性中トップの項目

〔図表 3-4-2④ 介護に要する時間【休日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① なし	② ほとん どない	③ 30分 未満	④ 30分 〜1時 間未 満	⑤ 1時 間〜 2時 間未 満	⑥ 2時 間〜 3時 間未 満	⑦ 3時 間〜 4時 間未 満	⑧ 4時 間〜 5時 間未 満	⑨ 5時 間以 上	⑩ 無回 答	
全 体		897	75.8	6.0	1.1	2.2	2.1	1.6	0.6	0.6	1.0	9.0	
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	62	88.7	3.2	-	-	-	-	-	-	-	8.1
		30歳代	78	89.7	3.8	-	-	-	1.3	1.3	-	-	3.8
		40歳代	105	85.7	4.8	1.0	1.9	1.0	1.0	-	1.0	1.0	2.9
		50歳代	87	67.8	11.5	-	1.1	5.7	3.4	2.3	1.1	1.1	5.7
		60歳以上	165	69.1	6.1	0.6	1.2	0.6	2.4	0.6	0.6	3.0	15.8
	男性	18~29歳	48	75.0	2.1	-	4.2	-	-	-	-	-	18.8
		30歳代	49	89.8	6.1	-	-	-	-	-	-	-	4.1
		40歳代	74	79.7	6.8	-	1.4	1.4	4.1	-	-	-	6.8
		50歳代	62	62.9	9.7	4.8	8.1	8.1	-	1.6	1.6	-	3.2
		60歳以上	151	68.2	5.3	3.3	4.6	4.0	1.3	-	0.7	0.7	11.9
共 働 状 況 別	女性	共働きをしている	136	79.4	9.6	-	0.7	3.7	-	0.7	0.7	0.7	4.4
		共働きをしていない	97	73.2	8.2	-	3.1	1.0	4.1	-	2.1	2.1	6.2
	男性	共働きをしている	120	74.2	9.2	5.0	3.3	1.7	0.8	-	-	-	5.8
		共働きをしていない	89	77.5	3.4	1.1	4.5	3.4	-	-	1.1	1.1	7.9

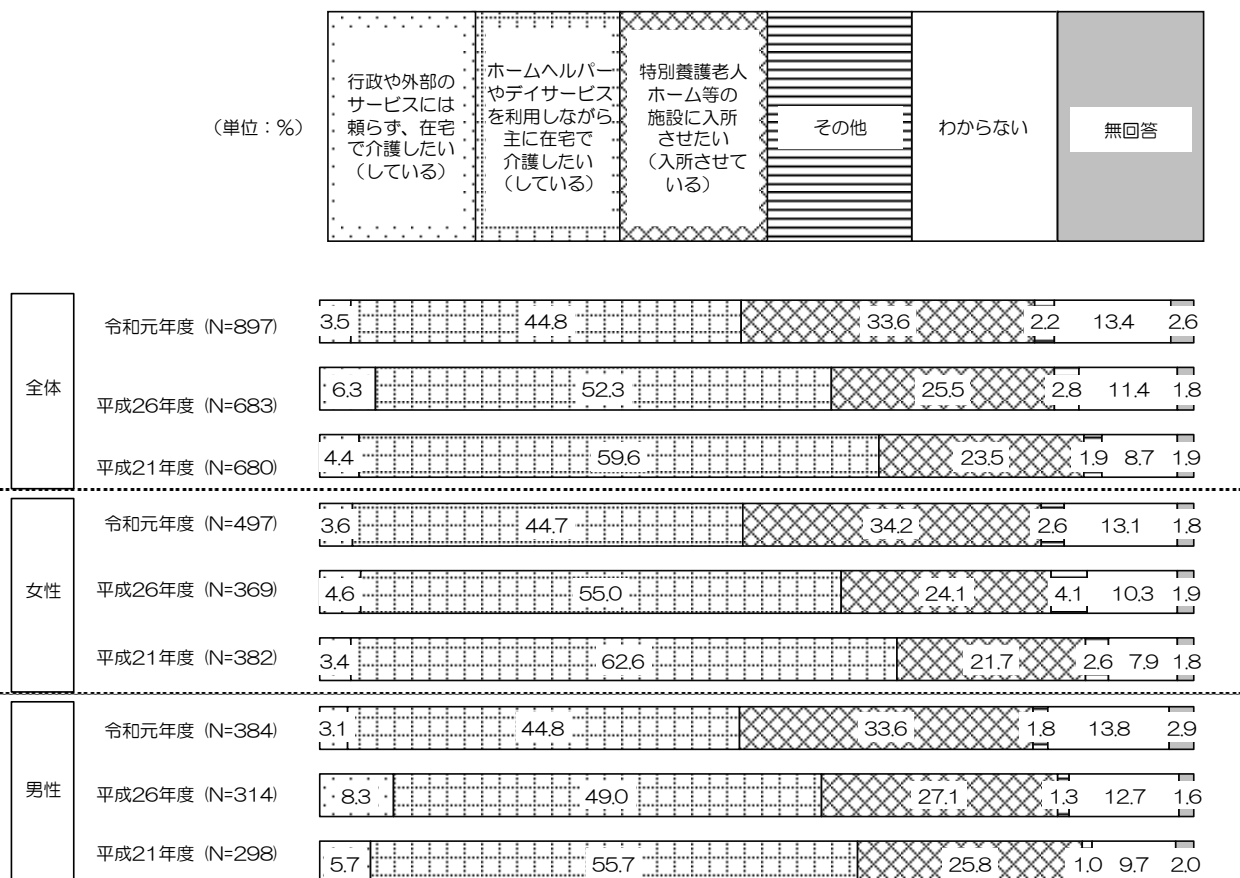
※ は、属性中トップの項目

4 介護について

(1) 家族・親族等を介護する場合の希望

問7. あなたは、自分の家族・親族等の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族・親族等が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(○はひとつ)

〔図表 4-1 家族・親族等を介護する場合の希望（性別、過去の調査との比較）〕



【男女とも家族・親族等を介護する場合は

「ホームヘルパーやデイサービスを利用しながら主に在宅で介護したい」が約4割

家族・親族等を介護する場合の希望は、「ホームヘルパーやデイサービスを利用しながら主に在宅で介護したい(している)」が44.8%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい(させている)」が33.6%となっており、男女別でも同じ傾向となっている。

(図表 4-1)

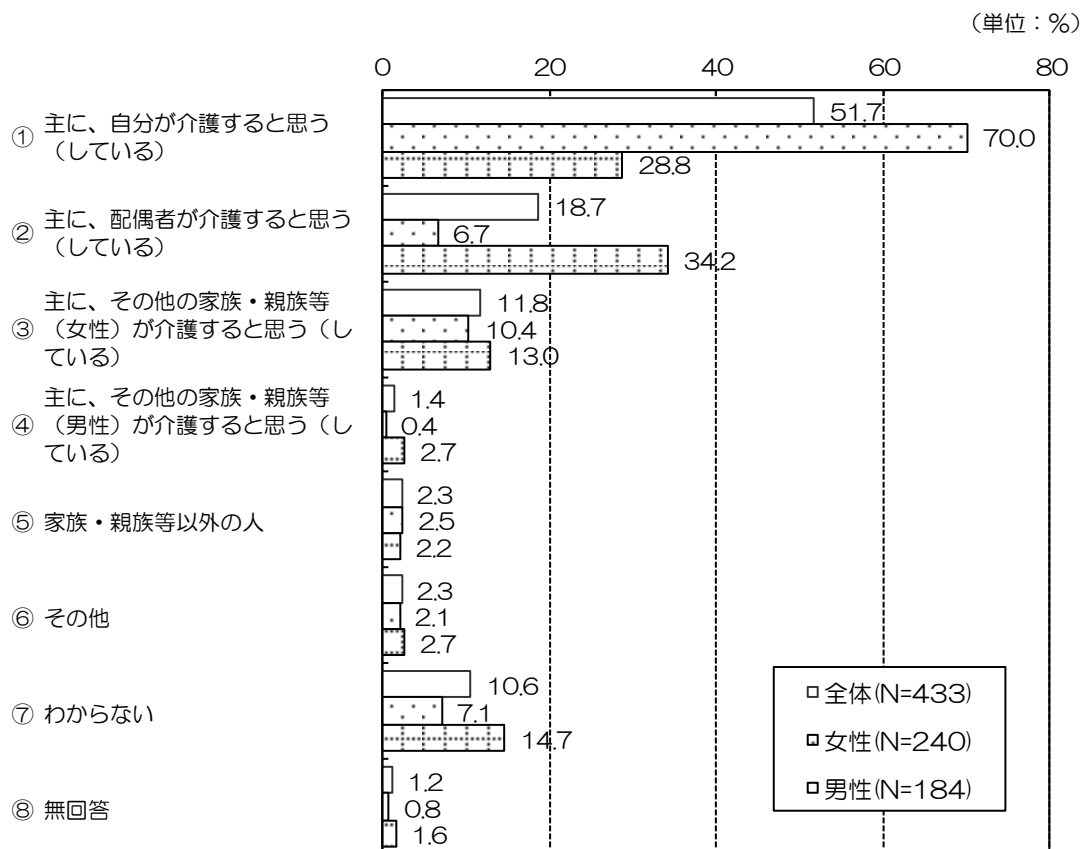
【過去の調査との比較】

平成26年度と比較すると、男女とも「ホームヘルパーやデイサービスを利用しながら主に在宅で介護したい(している)」は女性で10.3ポイント、男性で4.2ポイント減少している。「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい(させている)」は、女性で10.1ポイント、男性で6.5ポイント増加している。(図表 4-1)

(2) 介護をする人

問7-1. 在宅で介護する場合、主に誰が介護することになると思いますか。(○はひとつ)

〔図表 4-2 介護をする人 (性別)〕



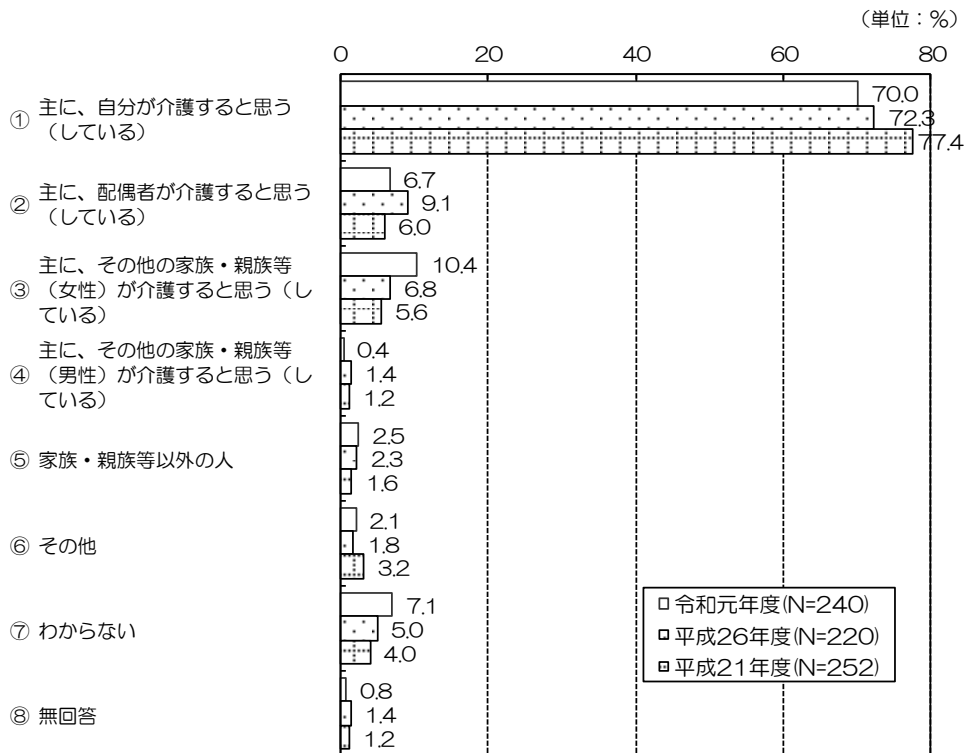
【介護する場合、女性は「自分がすると思う」が70.0%、

男性は「配偶者がすると思う」が34.2%】

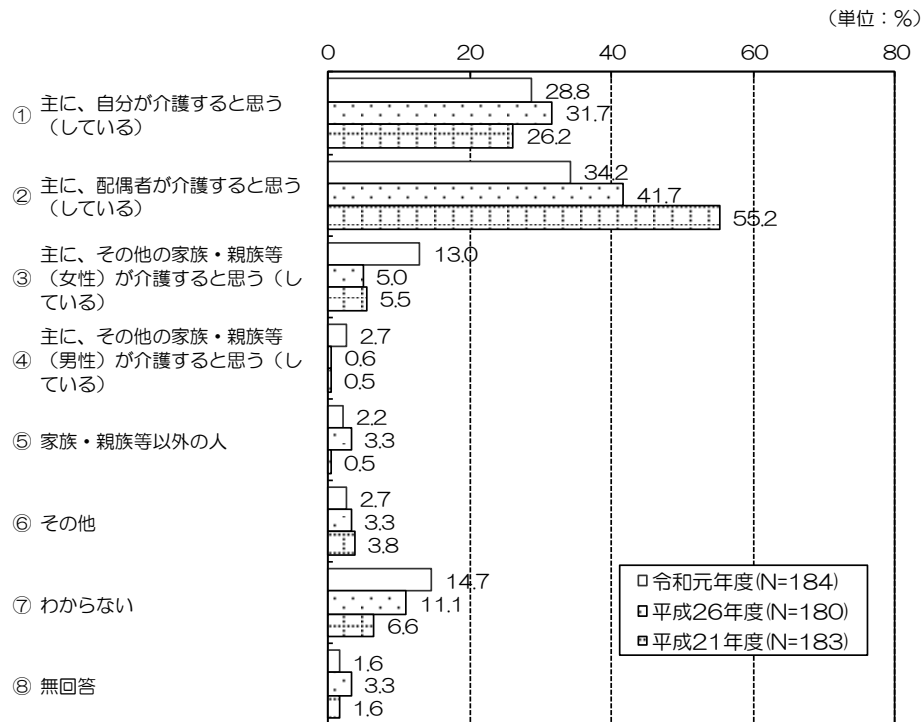
介護をする人は、「主に、自分が介護すると思う (している)」が女性で70.0%、男性では28.8%となっている。「主に、配偶者が介護すると思う (している)」は女性で6.7%だが、男性では34.2%と最も高くなっている。(図表4-2)

〔図表 4-2-1 介護をする人（過去の調査との比較）〕

<女性>



<男性>



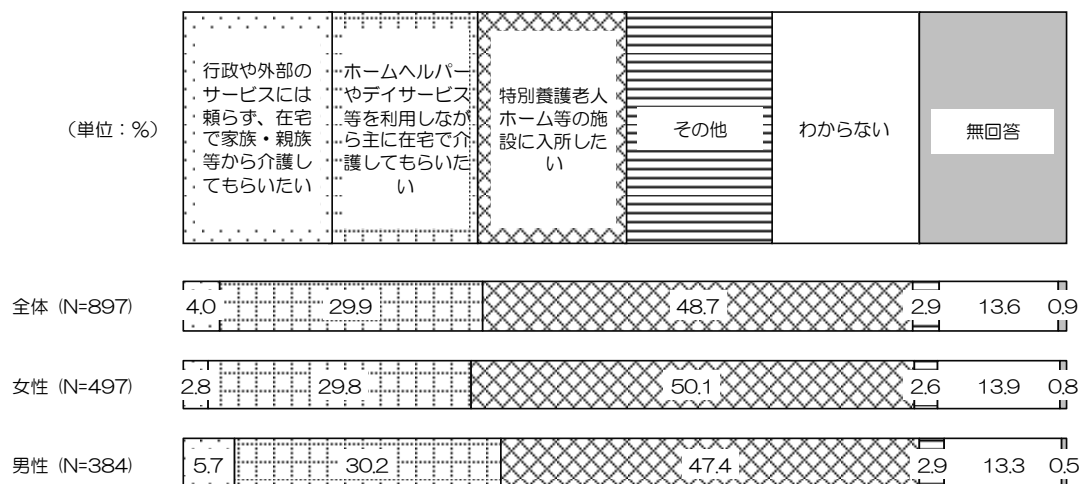
【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比較をすると、女性では「主に、自分が介護すると思う (している)」が減少している。一方、男性では「主に、配偶者が介護すると思う (している)」が減少している。(図表 4-2-1)

(3) 介護される場合の希望

問8. もしあなた自身が介護を要する状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。
(○はひとつ)

〔図表 4-3 介護される場合の希望 (性別)〕

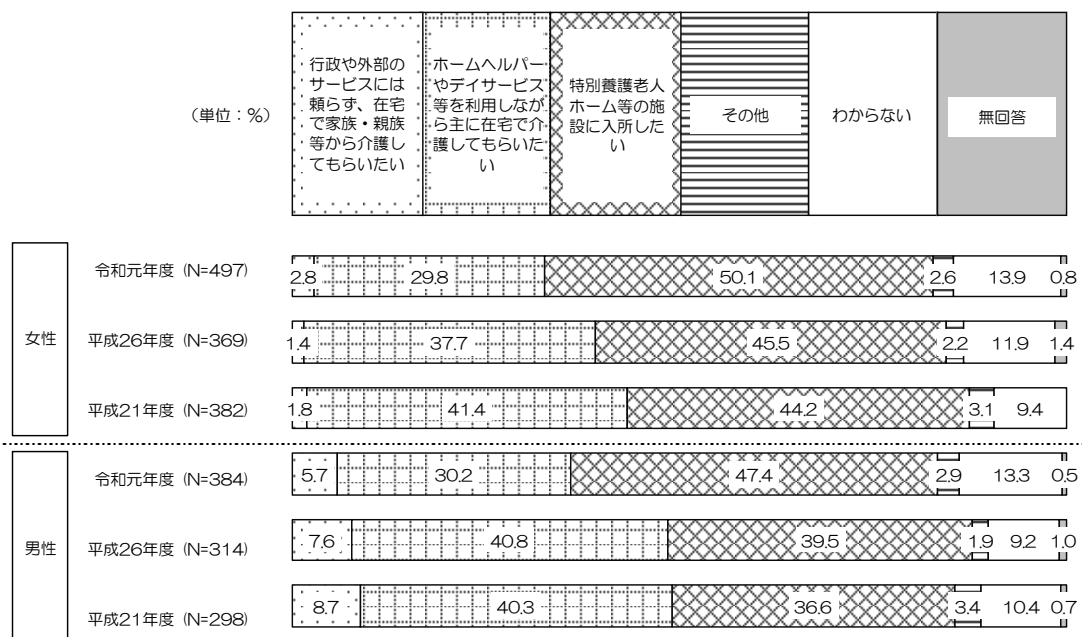


【女性の方が「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」割合が高い】

介護される場合の希望は、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が48.7%、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい」が29.9%となっている。

性別でみると、「行政やサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい」と望む割合は、男性では5.7%となっており、女性(2.8%)の約2倍となっている。(図表4-3)

〔図表 4-3-1 介護される場合の希望 (過去の調査との比較)〕



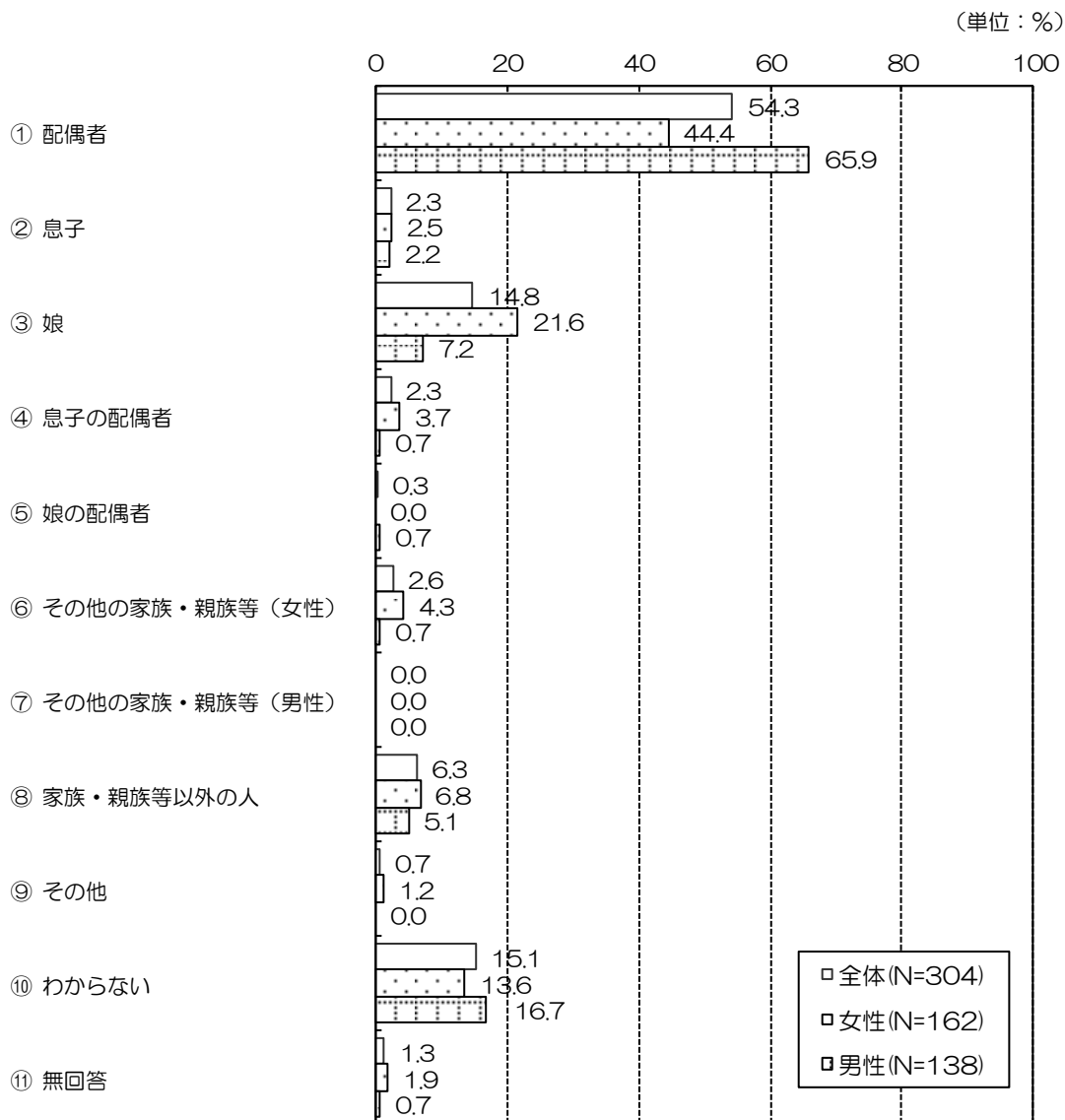
【過去の調査との比較】

平成26年度及び平成21年度調査と比較をすると、男女とも「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい」が減少傾向にあり、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が増加している。(図表4-3-1)

(4) 介護してもらいたい相手

問8-1. 在宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。(〇はひとつ)

〔図表 4-4 介護してもらいたい相手 (性別)〕

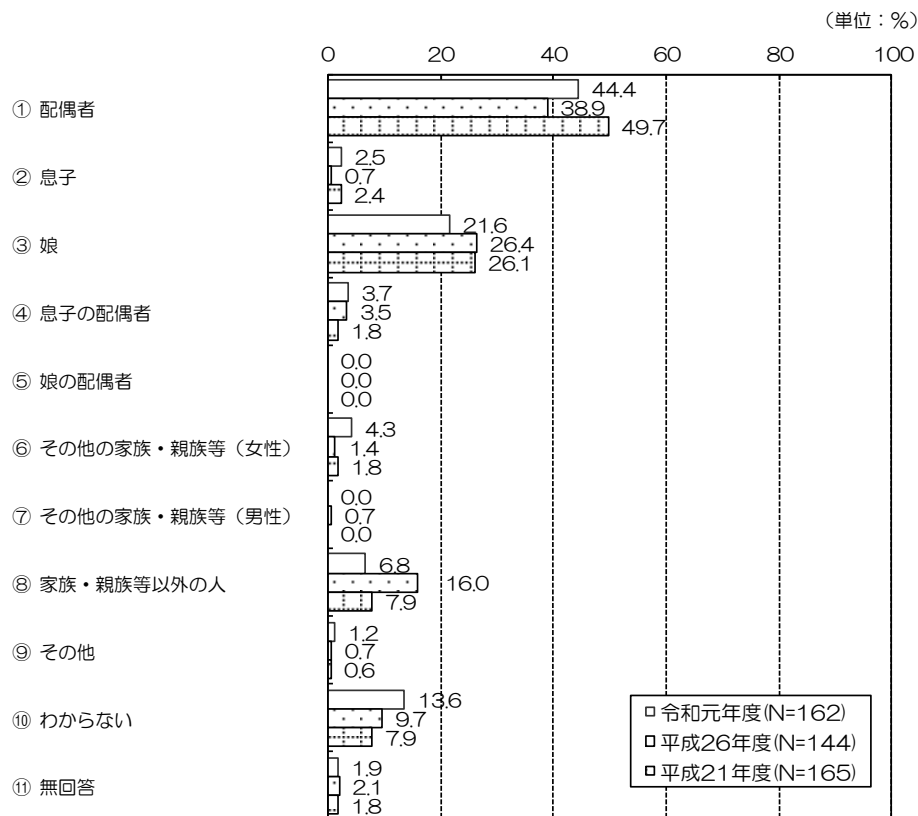


【男女ともに「配偶者」が最も高い】

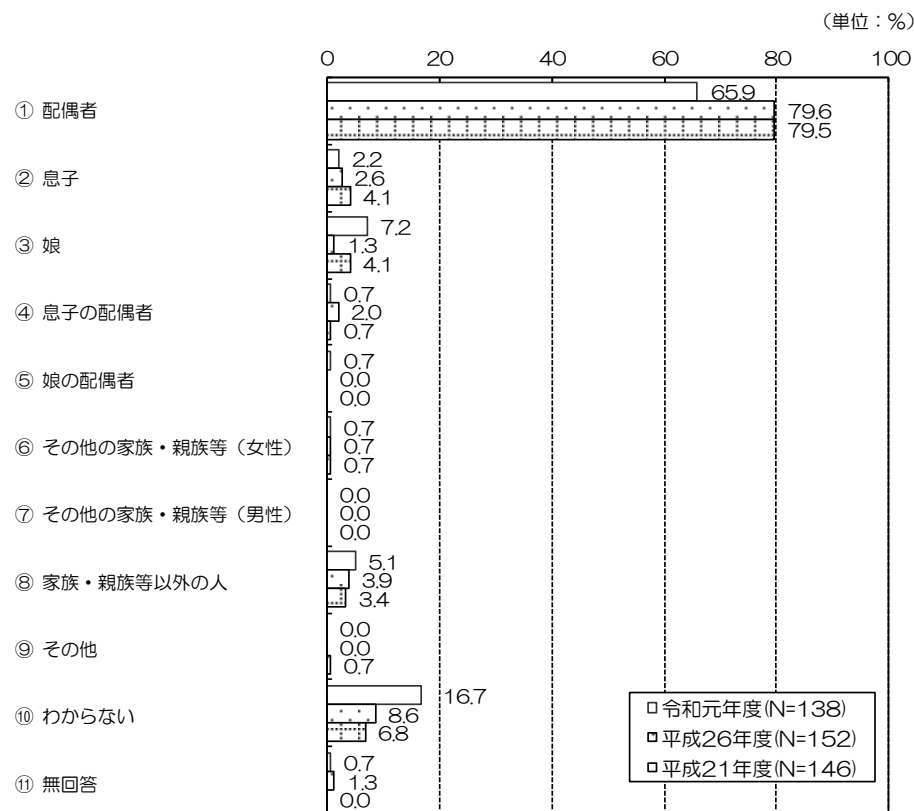
介護してもらいたい相手は、男女とも「配偶者」が最も高く (54.3%)、女性44.4%、男性65.9%となっている。次いで女性の割合で高いのは、「娘」(21.6%)となっている。(図表4-4)

〔図表 4-4-1 介護してもらいたい相手（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

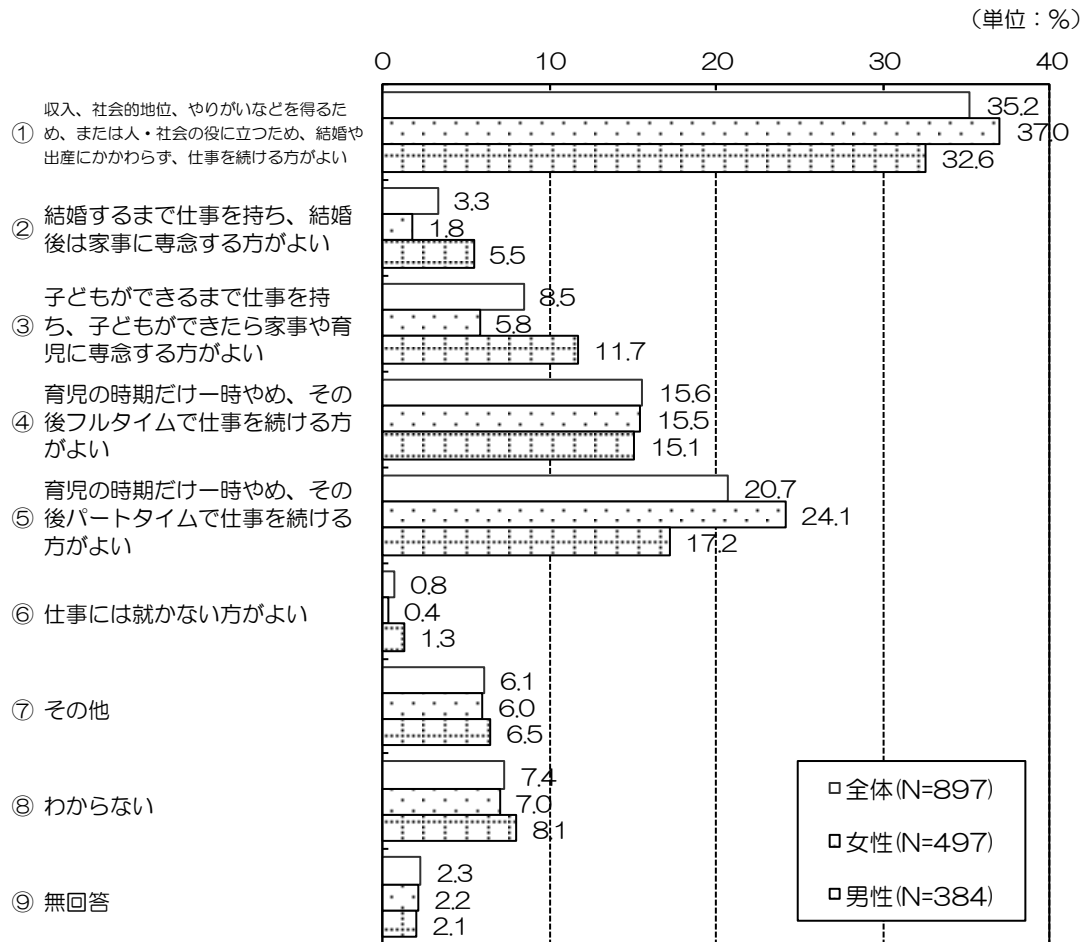
平成 26 年度と比較すると、女性では「配偶者」が 5.5 ポイント増加し、「家族・親族等以外の人」が 9.2 ポイント減少している。男性は、「配偶者」が 13.7 ポイント低くなっている。(図表 4-4-1)

5 職業生活について

(1) 女性の働き方についての考え

問9. 女性の働き方について、あなたはどのようにお考えですか。(〇はひとつ)

〔図表 5-1 女性の働き方についての考え (性別)〕

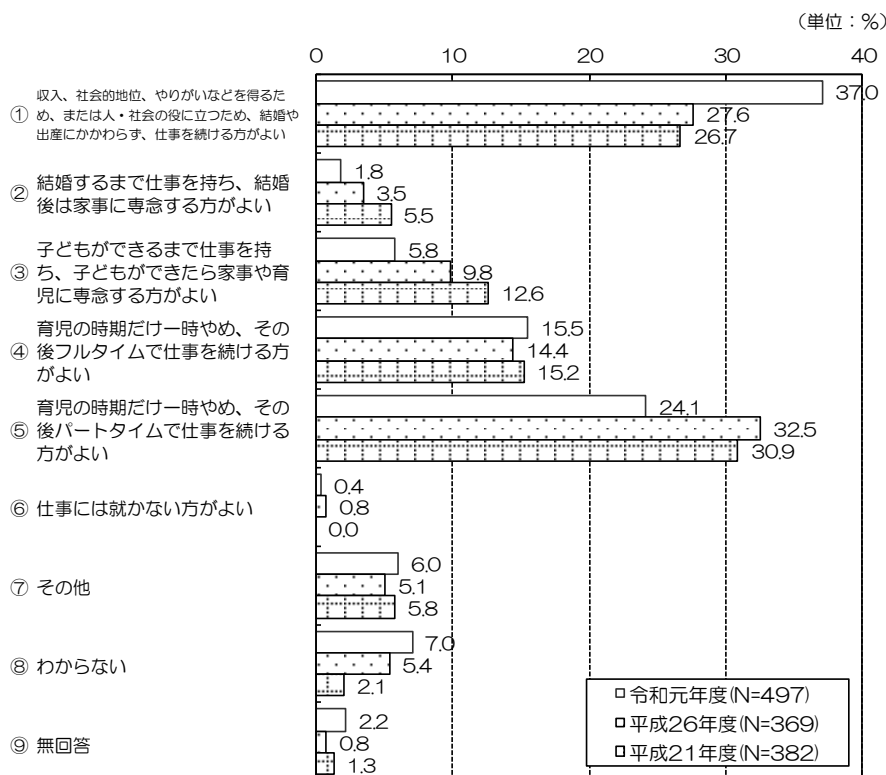


【男女とも「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が高い】

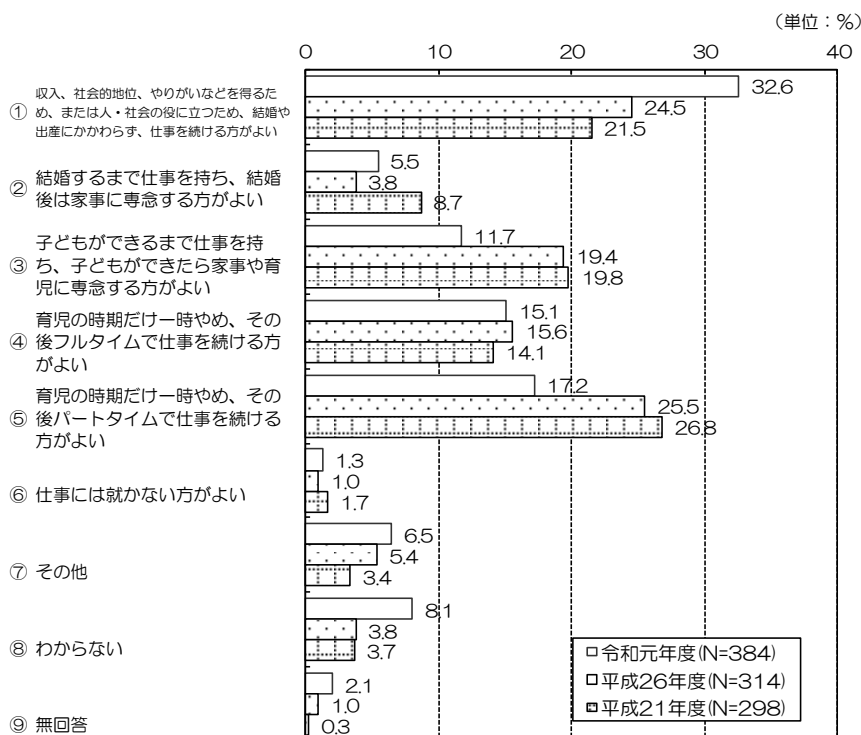
女性の働き方についての考えは、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が35.2%で最も高く、次いで「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい」が20.7%となっている。性別で見ると、「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい」について、男性の方が女性より6.9ポイント低くなっている。(図表5-1)

〔図表 5-1-1 女性の働き方についての考え（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比較すると、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が男女ともに増加している。「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や育児に専念する方がよい」は減少している。(図表 5-1-1)

〔図表 5-1-2 女性の働き方についての考え（性・年代別）〕

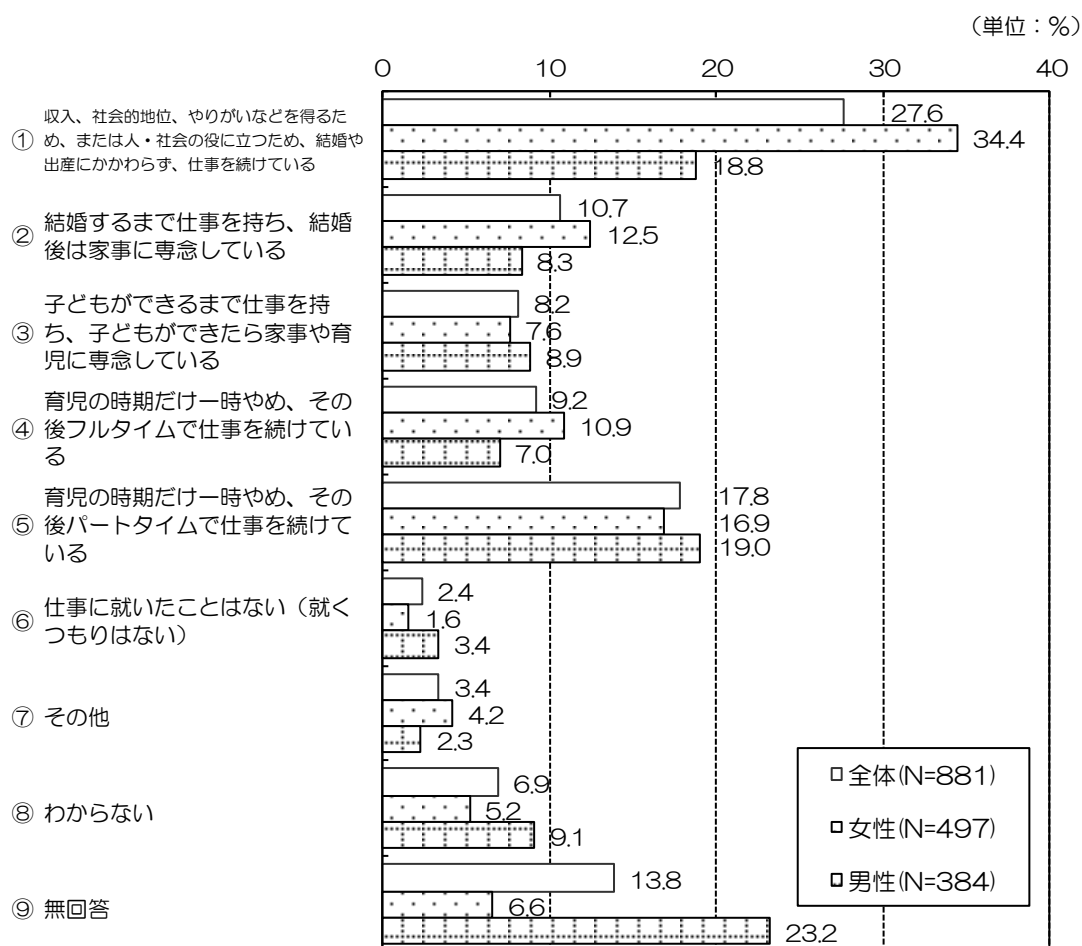
(単位：%)

		サンプル数	① 収入を得るため、社会的地位、やりがいなどに立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい	② 結婚後は家事に専念する方がよい	③ 子育て、子どもができるまで家事をや	④ 子どもが育つ時期だけ一時やめ、その後フルタイムで仕事を続け	⑤ 育児の時間がよいタイムで仕事を続け	⑥ 仕事には就かない方がよい	⑦ その他	⑧ わからない	⑨ 無回答	
全 体		897	35.2	3.3	8.5	15.6	20.7	0.8	6.1	7.4	2.3	
性×年代別	女性	18～29歳	62	37.1	1.6	4.8	14.5	30.6	-	8.1	3.2	-
		30歳代	78	46.2	1.3	3.8	3.8	29.5	-	9.0	5.1	1.3
		40歳代	105	40.0	1.0	-	13.3	22.9	-	10.5	9.5	2.9
		50歳代	87	42.5	1.1	4.6	19.5	18.4	-	3.4	9.2	1.1
		60歳以上	165	27.9	3.0	11.5	20.6	23.0	1.2	2.4	6.7	3.6
	男性	18～29歳	48	25.0	-	10.4	22.9	18.8	-	10.4	8.3	4.2
		30歳代	49	32.7	4.1	12.2	16.3	14.3	-	10.2	10.2	-
		40歳代	74	33.8	4.1	10.8	18.9	14.9	1.4	8.1	6.8	1.4
		50歳代	62	29.0	4.8	12.9	9.7	25.8	-	9.7	6.5	1.6
		60歳以上	151	35.8	8.6	11.9	12.6	15.2	2.6	2.0	8.6	2.6

(2) 実際の女性の働き方

問9-1. 【女性】あなたの場合、実際には、次のどれにあてはまりますか。又は、どのようにされるつもりですか。【男性】あなたの配偶者・パートナーの場合、実際には、次のどれにあてはまりますか。又は、配偶者・パートナーがいるとした場合、どのようにされると思いますか。(〇はひとつ)

〔図表5-2 実際の女性の働き方(性別)〕



【実際の働き方も「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が高い】

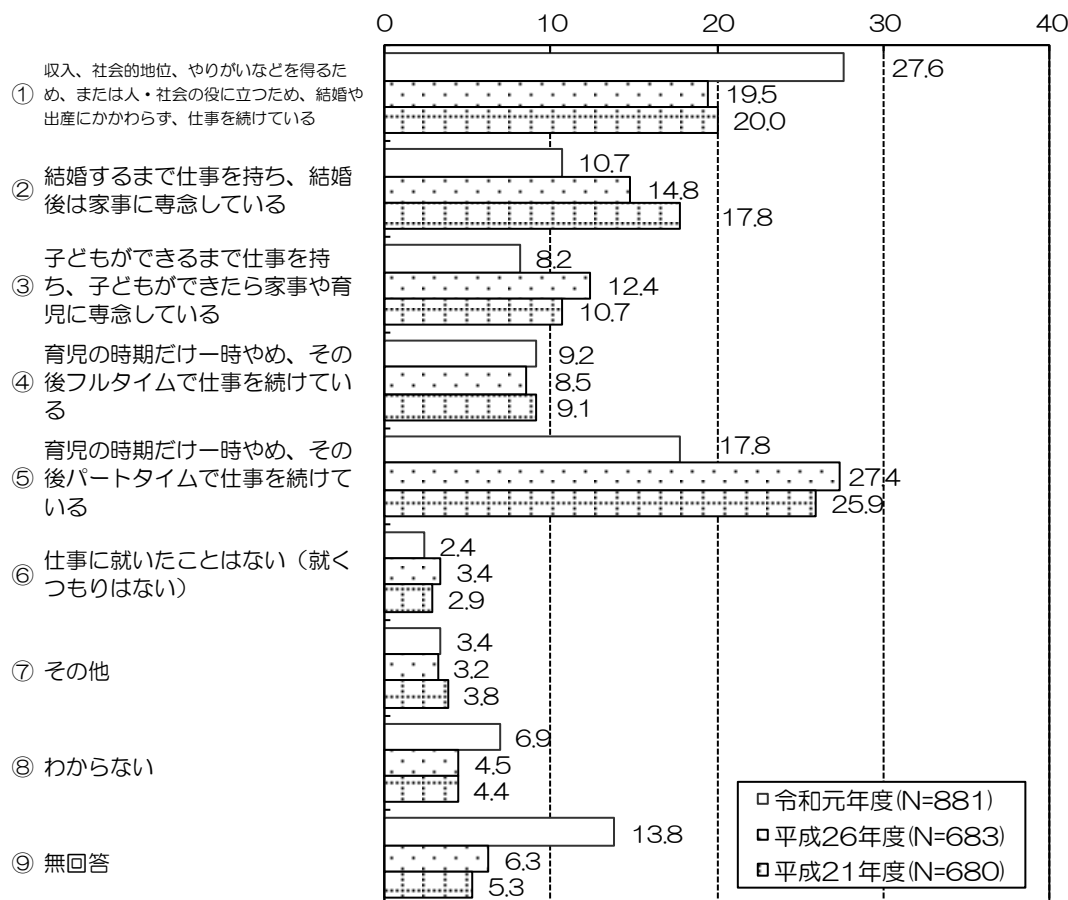
実際の女性の働き方をみると、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が27.6%で最も多い。次いで、「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続けている」が17.8%となっている。

性別でみると、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が女性34.4%、男性18.8%となっており、15.6ポイントの差がある。(図表5-2)

〔図表 5-2-1 実際の女性の働き方（過去の調査との比較）〕

<全体>

(単位：%)



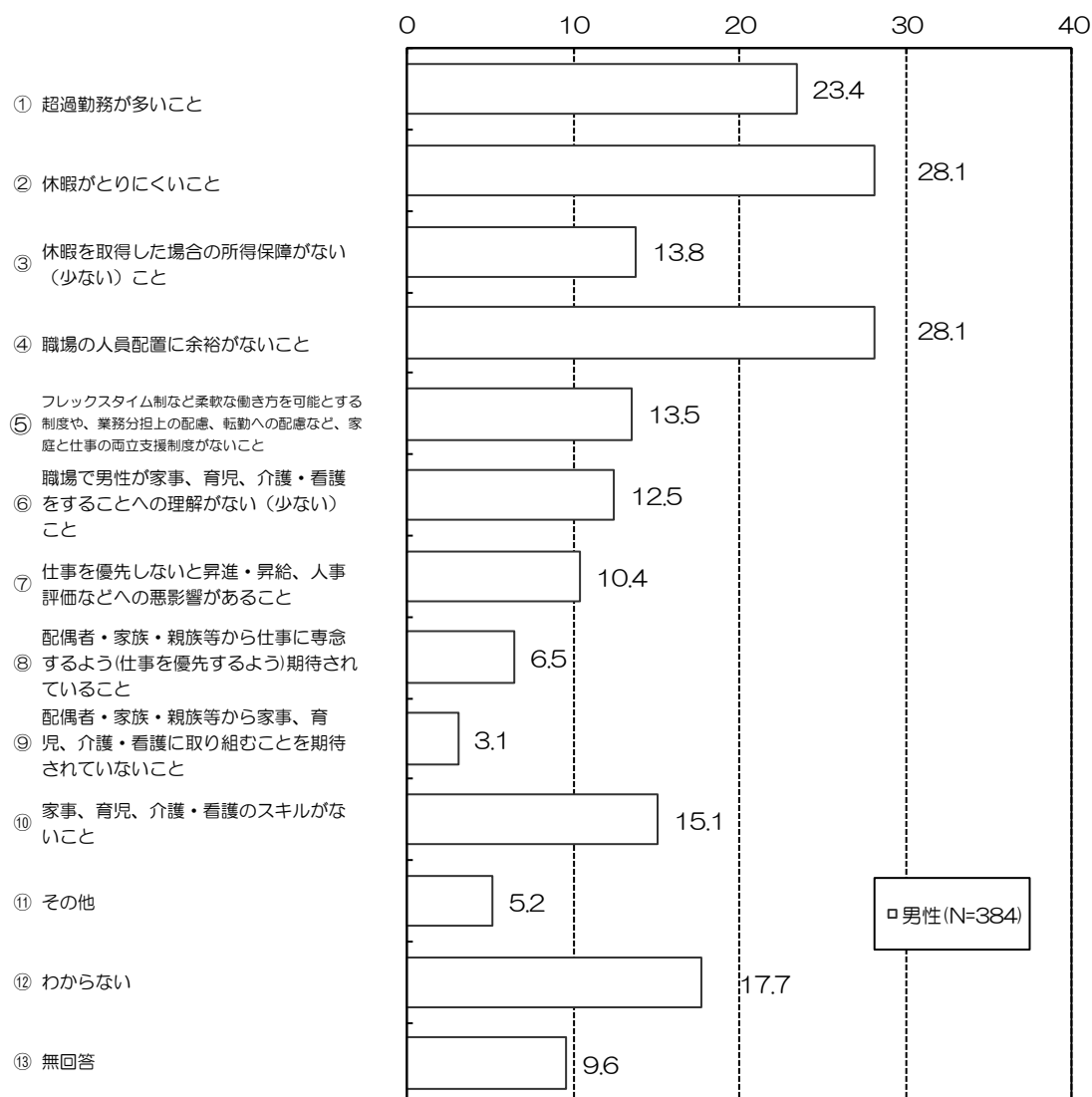
【過去の調査との比較】

平成 26 年度と比較すると、「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が 8.1 ポイント増加、「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続けている」が 9.6 ポイント減少している。(図表 5-2-1)

(3) 男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因

問10. あなたが今以上に家事、育児、介護・看護をすることを難しくしている理由は何ですか。
(〇はいくつでも)

〔図表 5-2-2 男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因 (性別)〕



【男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因は

「休暇がとりにくいこと」、「職場の人員配置に余裕がないこと」】

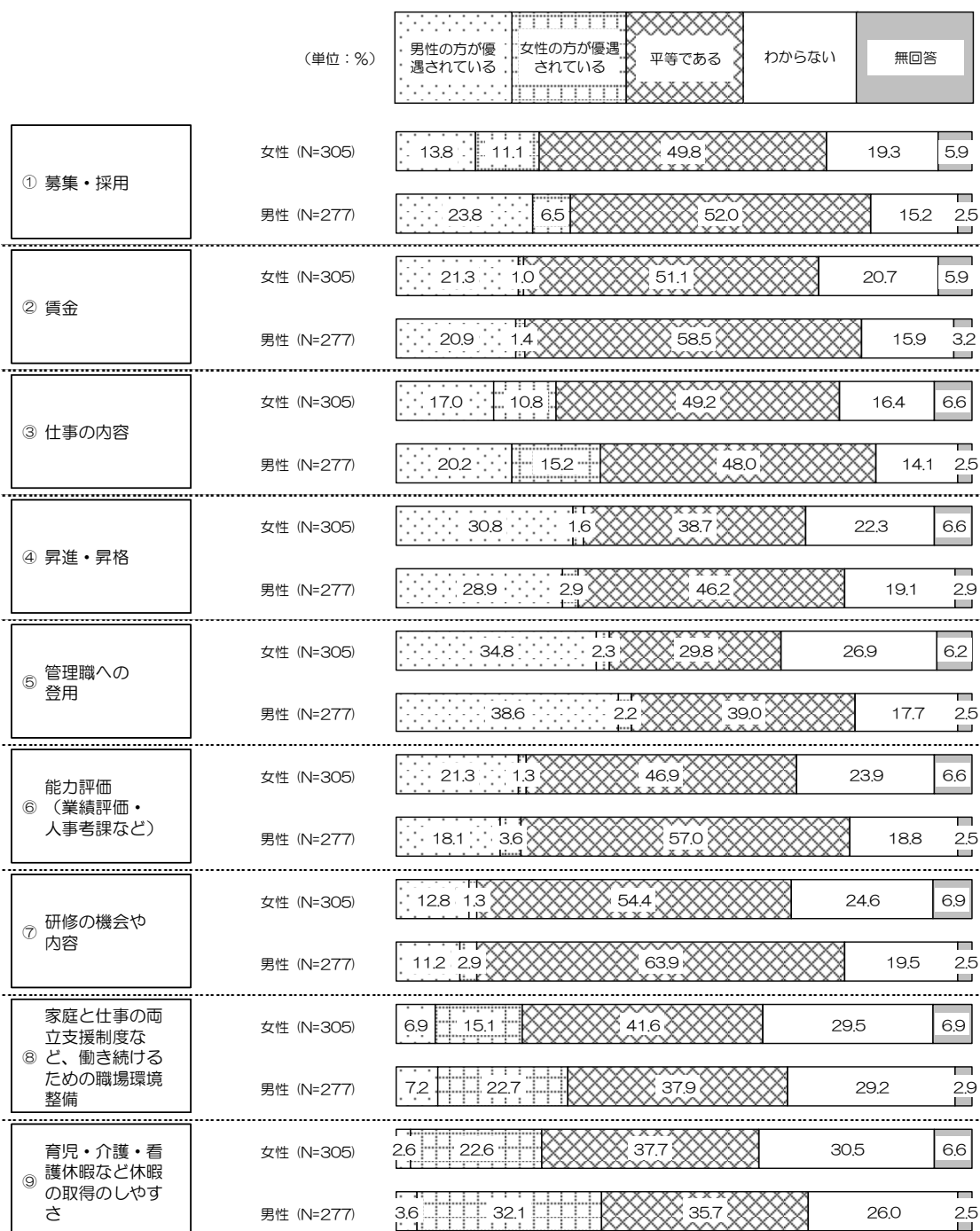
男性が家事、育児、介護・看護をする阻害要因は、「休暇がとりにくいこと」「職場の人員配置に余裕がないこと」が 28.1%で最も多い。次いで、「超過勤務が多いこと」が 23.4%となっている。

(図表 5-2-2)

(4) 職場において男女格差を感じること

問 1 1. あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。(〇はひとつずつ)

〔図表 5-3 職場において男女格差を感じること (性別)〕



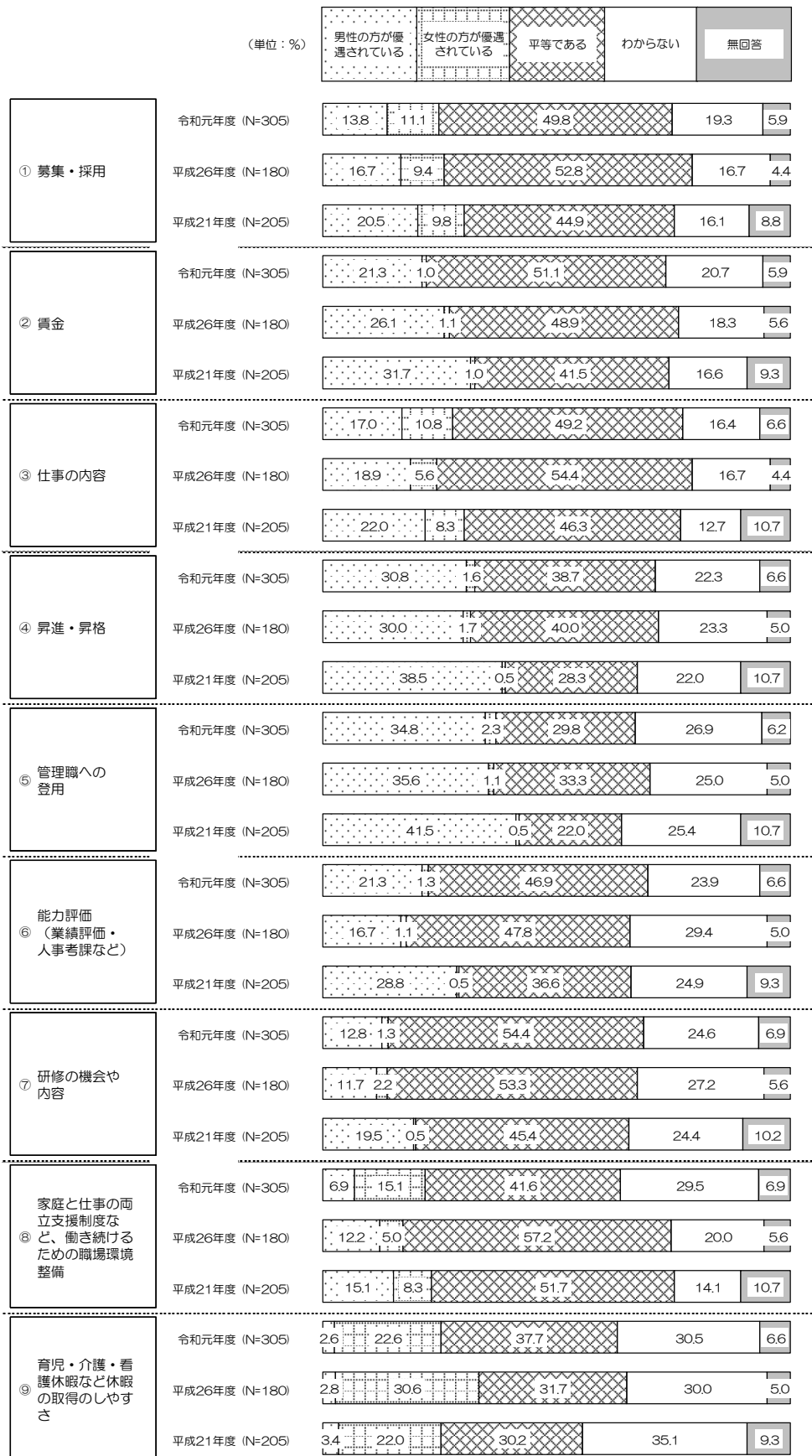
【「男性の方が優遇されている」では「管理職への登用」が最も高い】

「男性の方が優遇されている」では「管理職への登用」(女性 34.8%、男性 38.6%) が最も高く、次いで「昇進・昇格」(女性 30.8%、男性 28.9%) となっている。

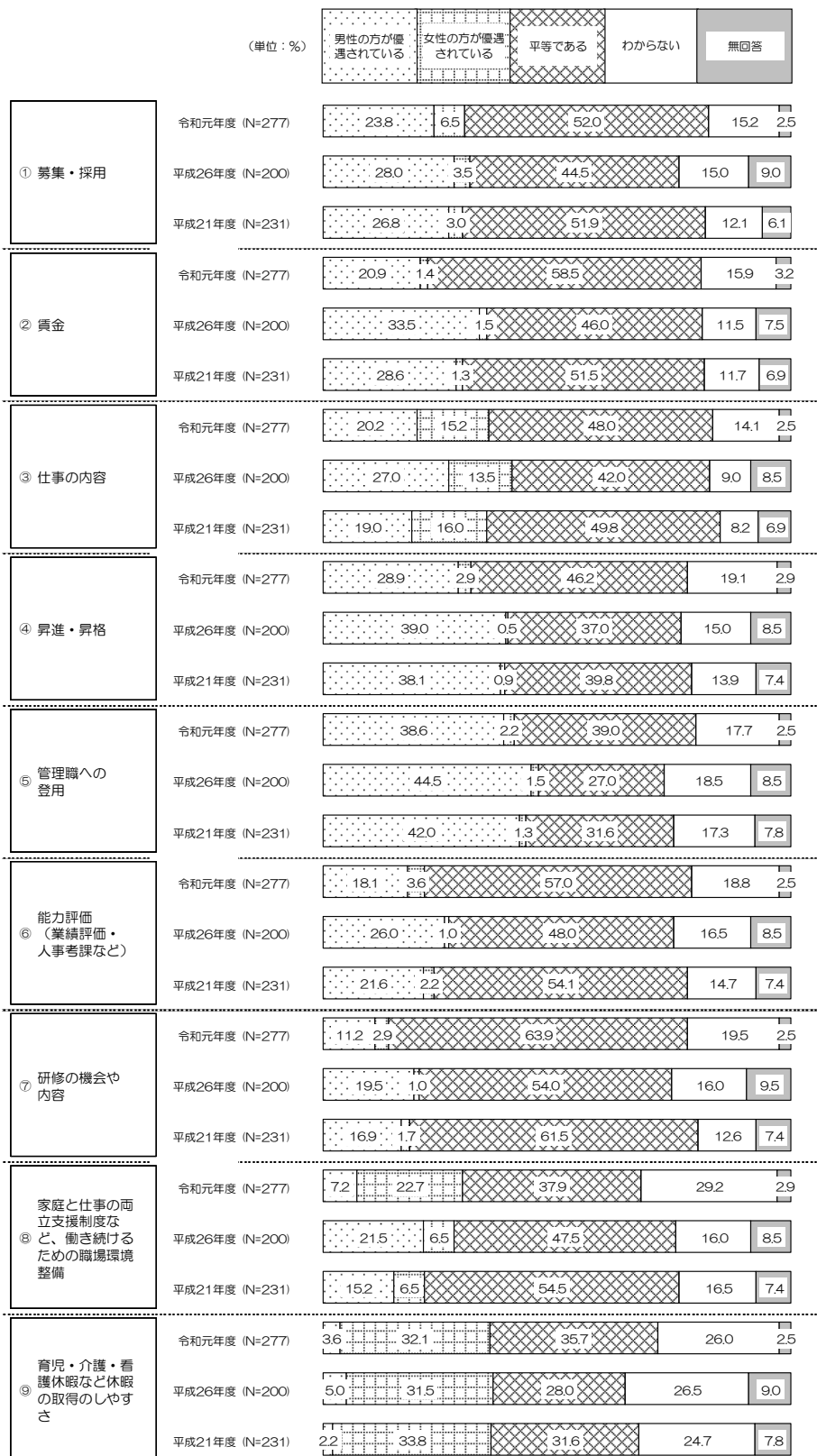
「女性の方が優遇されている」では「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」(女性 22.6%、男性 32.1%) が高くなっている。また「平等である」は、「研修の機会や内容」(女性 54.4%、男性 63.9%) が高くなっている。(図表 5-3)

〔図表 5-3-1 職場において男女格差を感じる事（過去の調査との比較）〕

<女性>



<男性>



【過去の調査との比較】

平成26年度と比較すると、「平等である」と思う割合は、男性はほとんどの項目で増加しており、特に「賃金」や「管理職への登用」は10ポイント以上増加している。一方、女性は、半分以上の項目で「平等である」が減少している。

①募集・採用

〔図表 5-3-2 職場において男女格差を感じる事（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① さ男 れ性 ての い方 るが 優 遇	② さ女 れ性 ての い方 るが 優 遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	18.4	9.0	50.8	17.6	4.2
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	45	6.7	15.6	62.2	15.6	-
		30歳代	58	10.3	10.3	62.1	17.2	-
		40歳代	83	15.7	14.5	45.8	24.1	-
		50歳代	65	18.5	10.8	44.6	20.0	6.2
		60歳以上	54	14.8	3.7	38.9	16.7	25.9
	男性	18~29歳	34	14.7	14.7	58.8	11.8	-
		30歳代	45	40.0	8.9	46.7	4.4	-
		40歳代	67	28.4	9.0	43.3	16.4	3.0
		50歳代	57	24.6	3.5	61.4	10.5	-
		60歳以上	74	13.5	1.4	52.7	25.7	6.8

※ は、属性中トップの項目

②賃金

〔図表 5-3-3 職場において男女格差を感じる事（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① さ男 れ性 ての い方 るが 優 遇	② さ女 れ性 ての い方 るが 優 遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	21.3	1.2	54.7	18.2	4.6
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	45	8.9	4.4	71.1	15.6	-
		30歳代	58	20.7	-	70.7	8.6	-
		40歳代	83	24.1	-	44.6	31.3	-
		50歳代	65	29.2	1.5	38.5	24.6	6.2
		60歳以上	54	18.5	-	38.9	16.7	25.9
	男性	18~29歳	34	8.8	2.9	70.6	17.6	-
		30歳代	45	15.6	4.4	73.3	6.7	-
		40歳代	67	19.4	1.5	59.7	14.9	4.5
		50歳代	57	29.8	-	56.1	14.0	-
		60歳以上	74	24.3	-	44.6	23.0	8.1

※ は、属性中トップの項目

③仕事の内容

〔図表 5-3-4 職場において男女格差を感じる事（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① さ男 れ性 ての い方 るが 優 遇	② さ女 れ性 ての い方 るが 優 遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	18.6	12.8	48.6	15.4	4.6
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	45	13.3	20.0	55.6	11.1	-
		30歳代	58	20.7	10.3	55.2	12.1	1.7
		40歳代	83	14.5	18.1	48.2	19.3	-
		50歳代	65	24.6	3.1	41.5	24.6	6.2
		60歳以上	54	11.1	1.9	48.1	11.1	27.8
	男性	18～29歳	34	8.8	8.8	70.6	11.8	-
		30歳代	45	13.3	24.4	53.3	8.9	-
		40歳代	67	17.9	14.9	49.3	14.9	3.0
		50歳代	57	35.1	17.5	35.1	12.3	-
		60歳以上	74	20.3	10.8	43.2	18.9	6.8

※ は、属性中トップの項目

④昇進・昇格

〔図表 5-3-5 職場において男女格差を感じる事（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① さ男 れ性 ての い方 るが 優 遇	② さ女 れ性 ての い方 るが 優 遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	30.1	2.2	42.4	20.6	4.7
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	45	26.7	4.4	57.8	11.1	-
		30歳代	58	39.7	-	46.6	13.8	-
		40歳代	83	28.9	3.6	39.8	27.7	-
		50歳代	65	35.4	-	30.8	26.2	7.7
		60歳以上	54	22.2	-	22.2	27.8	27.8
	男性	18～29歳	34	17.6	2.9	64.7	14.7	-
		30歳代	45	31.1	2.2	55.6	11.1	-
		40歳代	67	29.9	3.0	44.8	19.4	3.0
		50歳代	57	35.1	5.3	42.1	15.8	1.8
		60歳以上	74	27.0	1.4	36.5	28.4	6.8

※ は、属性中トップの項目

⑤管理職への登用

〔図表 5-3-6 職場において男女格差を感じる事(性・年代別)〕

(単位：%)

			サンプル数	① さ男 れ性 ての い方 るが 優 遇	② さ女 れ性 ての い方 るが 優 遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	36.8	2.2	34.1	22.5	4.4
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	45	31.1	6.7	40.0	22.2	-
		30歳代	58	36.2	-	50.0	13.8	-
		40歳代	83	38.6	3.6	26.5	31.3	-
		50歳代	65	41.5	1.5	21.5	29.2	6.2
		60歳以上	54	22.2	-	14.8	35.2	27.8
	男性	18~29歳	34	20.6	-	61.8	17.6	-
		30歳代	45	37.8	2.2	51.1	8.9	-
		40歳代	67	43.3	3.0	34.3	16.4	3.0
		50歳代	57	43.9	3.5	36.8	15.8	-
		60歳以上	74	39.2	1.4	27.0	25.7	6.8

※ は、属性中トップの項目

⑥能力評価(業績評価・人事考課など)

〔図表 5-3-7 職場において男女格差を感じる事(性・年代別)〕

(単位：%)

			サンプル数	① さ男 れ性 ての い方 るが 優 遇	② さ女 れ性 ての い方 るが 優 遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	19.8	2.4	51.7	21.6	4.6
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	45	8.9	2.2	68.9	20.0	-
		30歳代	58	24.1	1.7	56.9	17.2	-
		40歳代	83	24.1	2.4	47.0	26.5	-
		50歳代	65	29.2	-	40.0	24.6	6.2
		60歳以上	54	14.8	-	25.9	29.6	29.6
	男性	18~29歳	34	5.9	5.9	73.5	14.7	-
		30歳代	45	13.3	4.4	73.3	8.9	-
		40歳代	67	20.9	4.5	50.7	20.9	3.0
		50歳代	57	21.1	3.5	61.4	14.0	-
		60歳以上	74	21.6	1.4	41.9	28.4	6.8

※ は、属性中トップの項目

⑦研修の機会や内容

〔図表 5-3-8 職場において男女格差を感じる事（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① さ男 れ性 ての い方 るが 優遇	② さ女 れ性 ての い方 るが 優遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	12.2	2.0	59.0	22.1	4.7
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	45	6.7	6.7	73.3	13.3	-
		30歳代	58	12.1	-	69.0	19.0	-
		40歳代	83	12.0	1.2	57.8	28.9	-
		50歳代	65	18.5	-	47.7	27.7	6.2
		60歳以上	54	13.0	-	25.9	29.6	31.5
	男性	18~29歳	34	2.9	2.9	79.4	14.7	-
		30歳代	45	11.1	4.4	73.3	11.1	-
		40歳代	67	10.4	1.5	64.2	20.9	3.0
		50歳代	57	12.3	3.5	70.2	14.0	-
		60歳以上	74	14.9	2.7	45.9	29.7	6.8

※ は、属性中トップの項目

⑧家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備

〔図表 5-3-9 職場において男女格差を感じる事（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① さ男 れ性 ての い方 るが 優遇	② さ女 れ性 ての い方 るが 優遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	6.9	18.8	39.7	29.7	4.9
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	45	2.2	22.2	57.8	17.8	-
		30歳代	58	10.3	17.2	50.0	22.4	-
		40歳代	83	7.2	19.3	42.2	30.1	1.2
		50歳代	65	4.6	10.8	36.9	41.5	6.2
		60歳以上	54	9.3	5.6	24.1	31.5	29.6
	男性	18~29歳	34	5.9	29.4	52.9	11.8	-
		30歳代	45	6.7	40.0	22.2	31.1	-
		40歳代	67	1.5	19.4	40.3	35.8	3.0
		50歳代	57	10.5	21.1	42.1	24.6	1.8
		60歳以上	74	10.8	13.5	35.1	33.8	6.8

※ は、属性中トップの項目

⑨育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ

〔図表 5-3-10 職場において男女格差を感じる事（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① 男性 の 優 遇	② 女性 の 優 遇	③ 平 等 で あ る	④ わ か ら な い	⑤ 無 回 答
全 体			592	3.0	27.2	36.7	28.5	4.6
性 × 年 代 別	女性	18~29歳	45	-	22.2	48.9	26.7	2.2
		30歳代	58	3.4	27.6	44.8	24.1	-
		40歳代	83	2.4	25.3	42.2	30.1	-
		50歳代	65	4.6	16.9	32.3	40.0	6.2
		60歳以上	54	1.9	20.4	20.4	29.6	27.8
	男性	18~29歳	34	2.9	32.4	50.0	14.7	-
		30歳代	45	-	44.4	33.3	22.2	-
		40歳代	67	1.5	34.3	34.3	26.9	3.0
		50歳代	57	7.0	31.6	38.6	22.8	-
		60歳以上	74	5.4	23.0	29.7	35.1	6.8

※ は、属性中トップの項目

(5) 今後の就労意向

問12. 【64歳以下で現在、家事専業または、無職の方（学生を除く）にお聞きします】
あなたは今後働きたいとお考えですか。あてまるものの番号を1つだけ選んでください。

〔図表5-4 今後の就労意向〕

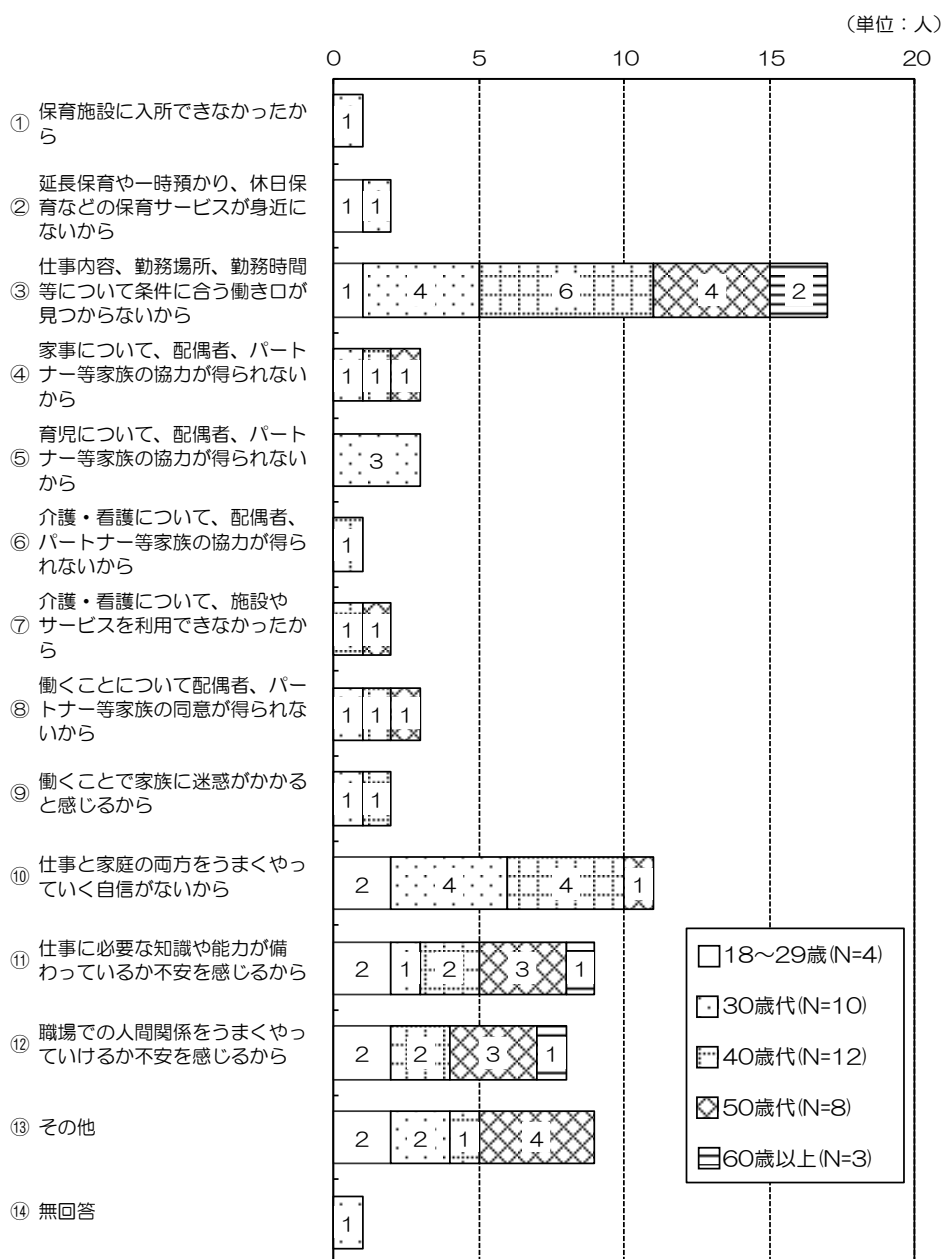


今後働きたいかどうかについては、「はい」が最も高く40.9%、「いいえ」が16.1%、「どちらとも言えない」が28.0%となっている。(図表5-4)

(6) 働けない理由

問12-1. 【64歳以下で現在、家事専業または、無職の方（学生を除く）にお聞きします】
 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか。
 あてはまるものの番号をすべて選んでください。（○はいくつでも）

〔図表 5-5 働けない理由（年代別）〕



※本データについてはサンプル数が少ないため参考値とする。

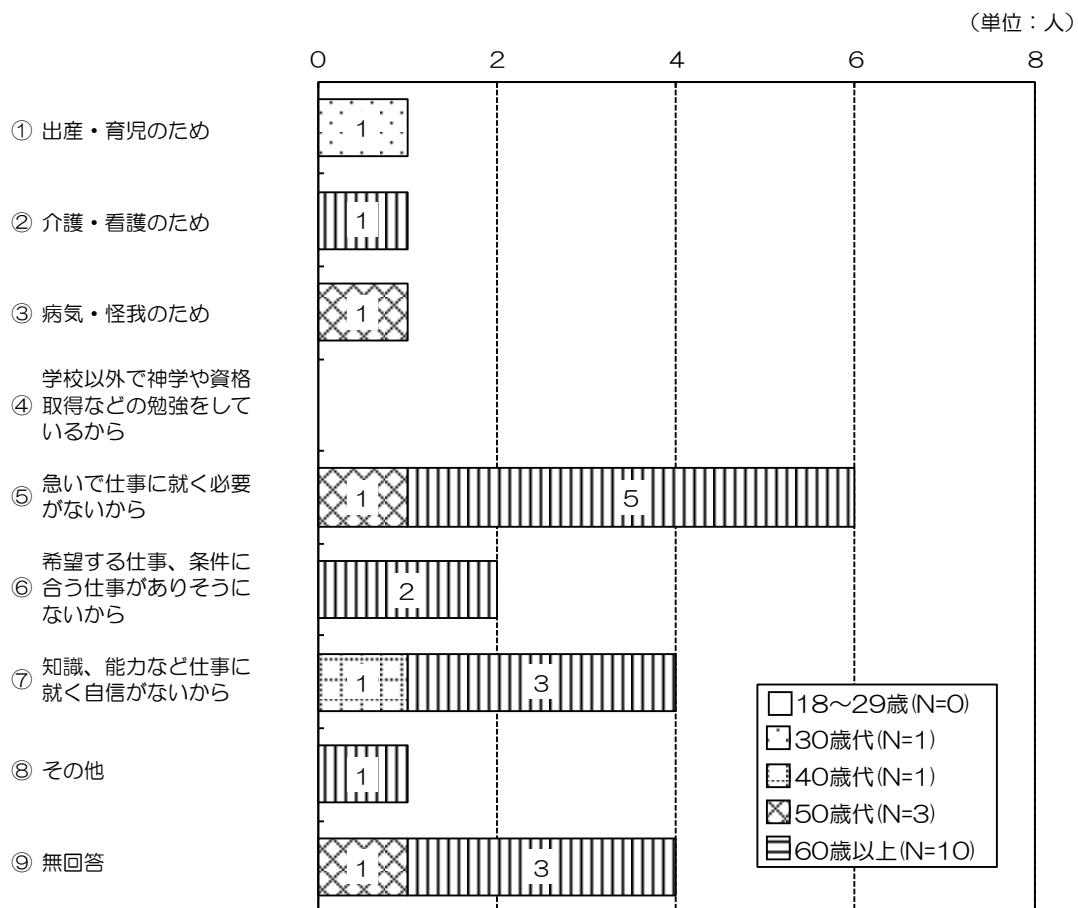
【現在働くことができない理由は「条件が合わない」が最も多い】

現在働けない理由を実数でみると、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」が最も多い。次いで、「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから」となっている。(図表 5-5)

(7) 働きたくない理由

問12-2. 【64歳以下で現在、家事専業または、無職の方（学生を除く）にお聞きします】
「いいえ」と回答された理由は何ですか。（〇はいくつでも）

〔図表 5-5-1 働きたくない理由（年代別）〕



※本データについてはサンプル数が少ないため参考値とする。

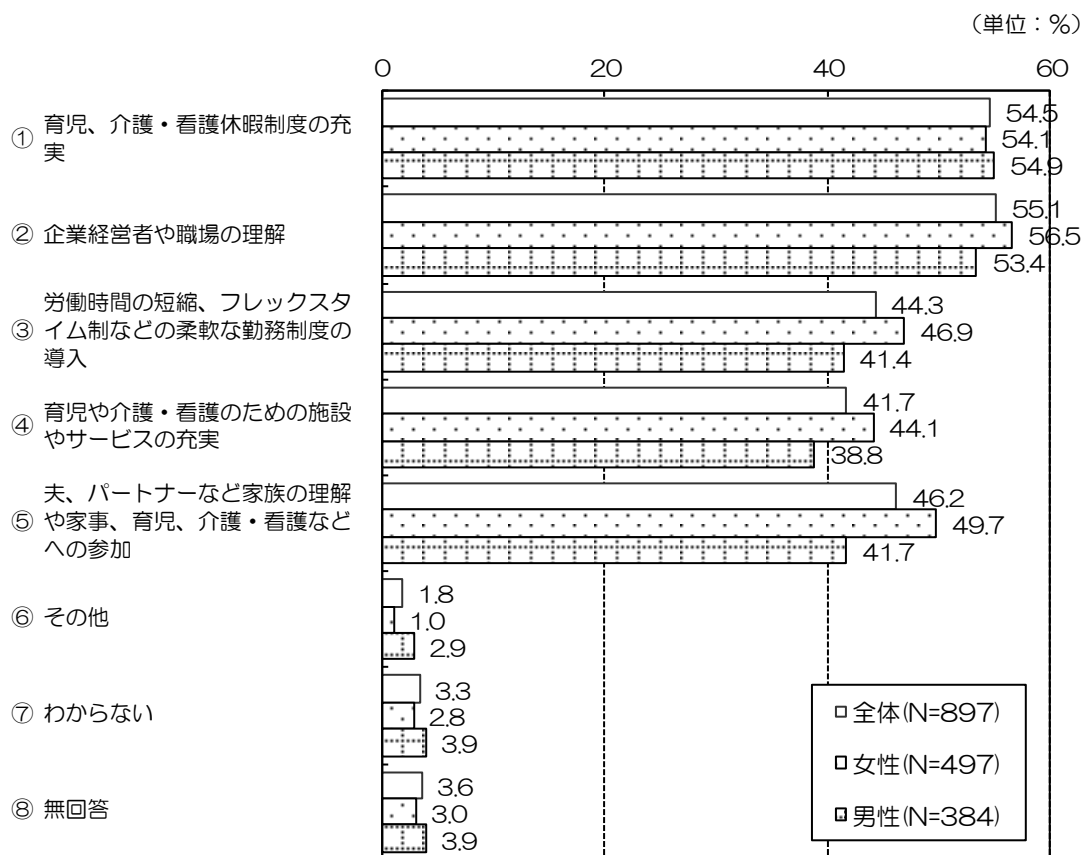
【働きたくない理由は「急いで仕事に就く必要がないから」が最も多い】

働きたくない理由を実数で見ると、「急いで仕事に就く必要がないから」が最も多い。次いで、「知識、能力など仕事に就く自信がないから」となっている。（図表 5-5-1）

(8) 女性が働き続けるために必要なこと

問13. 出産、育児、介護・看護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

〔図表 5-6 女性が働き続けるために必要なこと (性別)〕



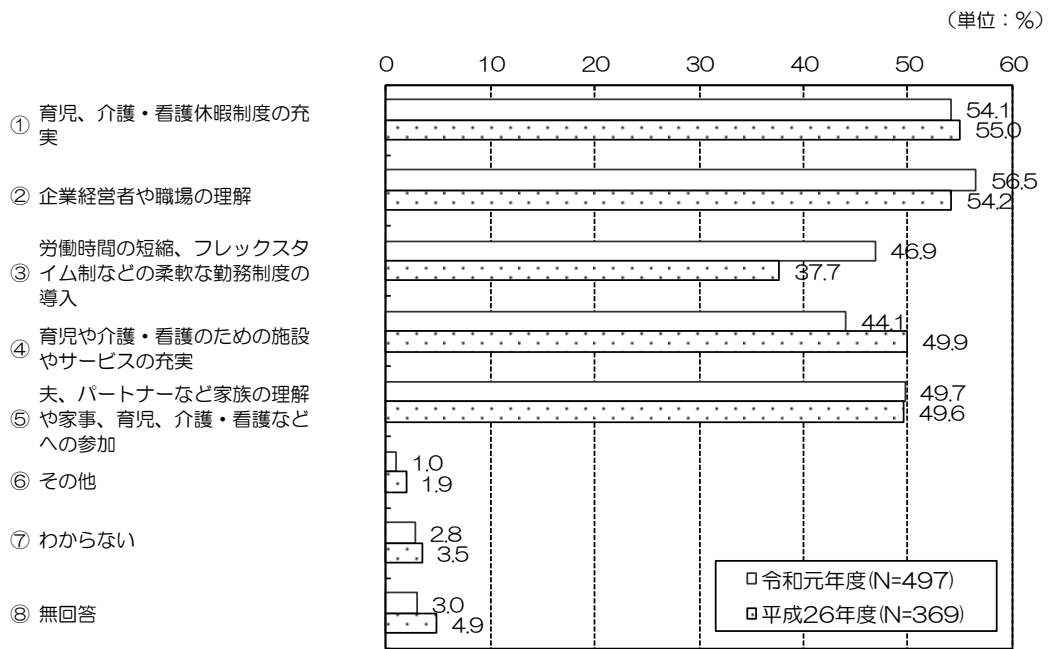
【女性が働き続けるために必要なことは、「育児、介護・看護休暇制度の充実」と「企業経営者や職場の理解」】

女性が働き続けるために必要なことは、「企業経営者や職場の理解」が55.1%、次いで「育児、介護・看護休暇制度の充実」が54.5%となっている。

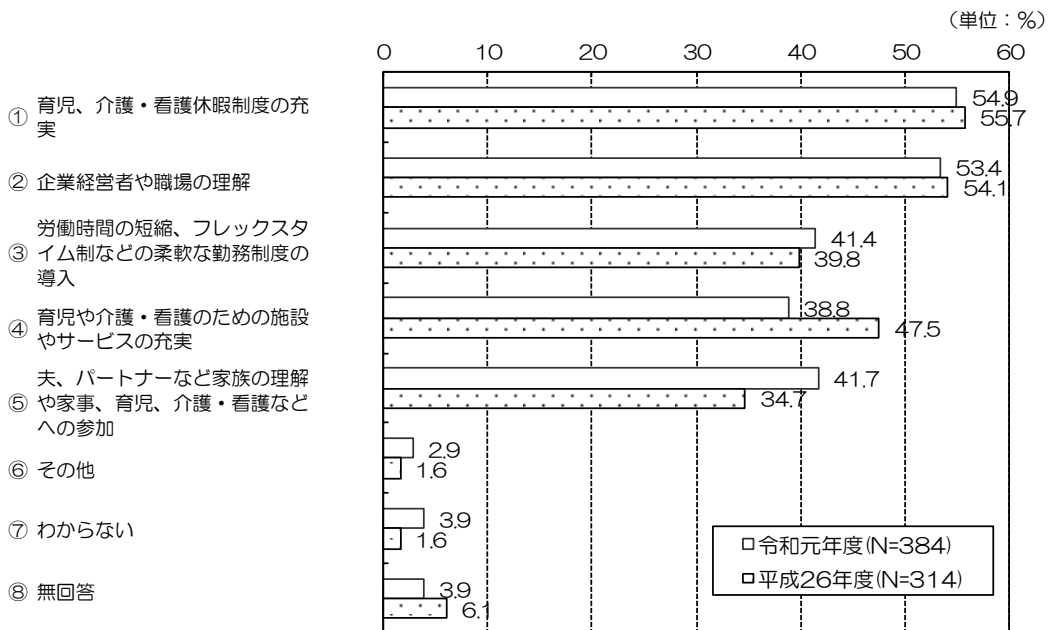
性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」については、女性49.7%、男性41.7%となっており、8.0ポイントの差がある。(図表5-6)

〔図表 5-6-1 女性が働き続けるために必要なこと（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

平成 26 年度と比較すると、女性は「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が 9.2 ポイント増加、男性は「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」が 8.7 ポイント減少している。(図表 5-2-1)

〔図表 5-6-2 女性が働き続けるために必要なこと（性・年代別、性・職業別）〕

(単位：%)

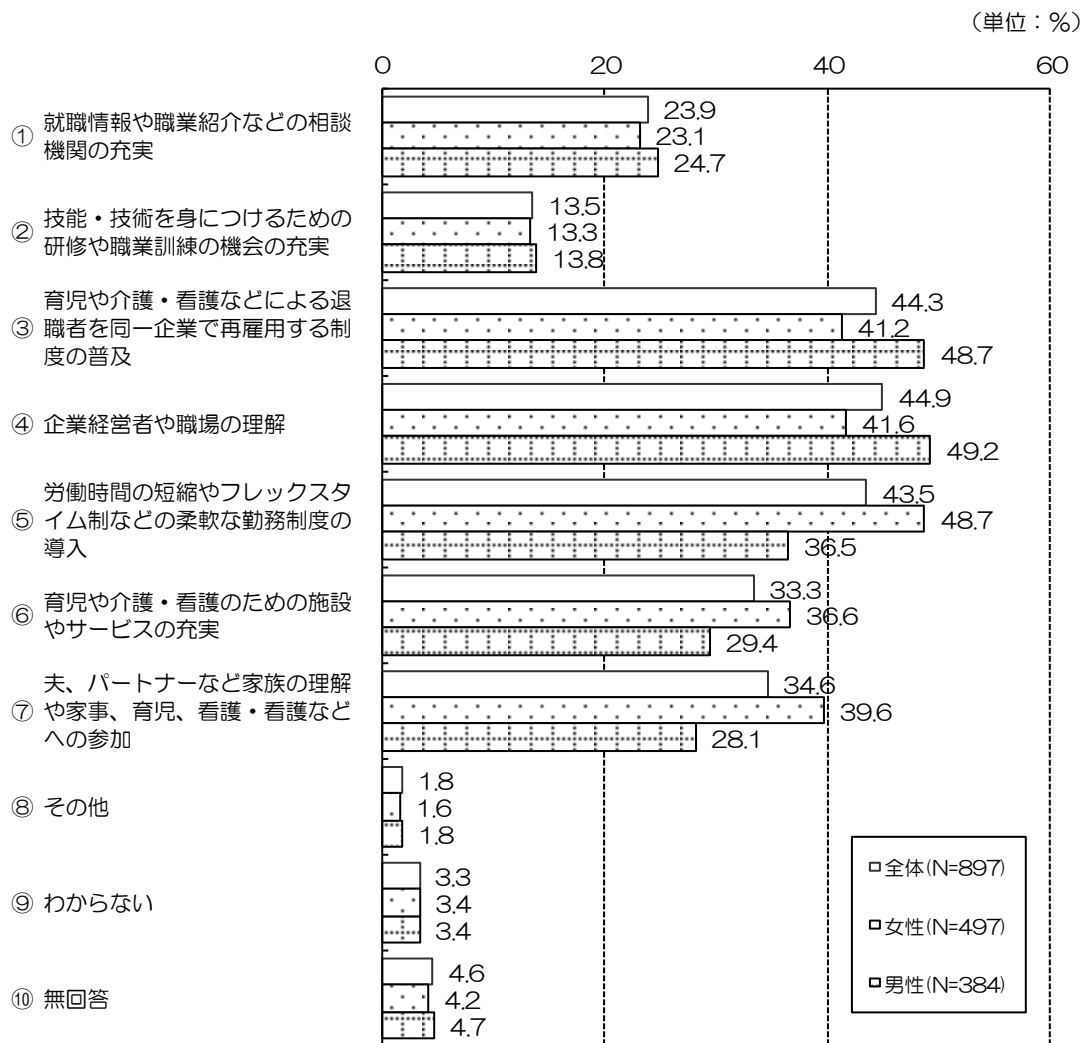
		サンプル数	① 育児、介護の充実	② 企業経営者や職場の理解	③ 労働時間短縮、柔軟な勤務制の導入	④ 育児や介護サービスの充実	⑤ 夫、パートナーなどへの参加	⑥ その他	⑦ わからない	⑧ 無回答	
全体		897	54.5	55.1	44.3	41.7	46.2	1.8	3.3	3.6	
性×年代別	女性	18～29歳	62	72.6	62.9	45.2	25.8	66.1	-	3.2	-
		30歳代	78	50.0	66.7	59.0	43.6	53.8	1.3	-	2.6
		40歳代	105	53.3	59.0	57.1	45.7	49.5	1.0	-	1.0
		50歳代	87	52.9	62.1	46.0	50.6	47.1	1.1	2.3	-
		60歳以上	165	50.3	44.8	35.8	46.7	43.0	1.2	6.1	7.3
	男性	18～29歳	48	56.3	64.6	39.6	33.3	52.1	2.1	4.2	-
		30歳代	49	49.0	59.2	59.2	36.7	40.8	6.1	4.1	-
		40歳代	74	55.4	54.1	51.4	39.2	39.2	2.7	2.7	4.1
		50歳代	62	58.1	51.6	40.3	41.9	40.3	4.8	-	3.2
		60歳以上	151	55.0	48.3	31.8	39.7	40.4	1.3	6.0	6.6
性×職業別	女性	正社員・正職員	140	55.0	67.9	48.6	48.6	52.1	1.4	0.7	0.7
		契約社員・派遣社員	120	65.0	59.2	45.0	44.2	53.3	-	1.7	0.8
		自営業主、家族従業員	45	44.4	64.4	37.8	37.8	53.3	-	4.4	8.9
		専業主婦（夫）	102	53.9	44.1	51.0	45.1	53.9	2.0	2.0	1.0
		学生	12	50.0	75.0	75.0	25.0	58.3	-	-	-
		無職	51	52.9	43.1	41.2	39.2	31.4	-	11.8	5.9
	男性	正社員・正職員	197	56.3	55.8	48.2	43.7	44.7	4.1	1.5	1.0
		契約社員・派遣社員	41	65.9	65.9	43.9	34.1	34.1	-	4.9	2.4
		自営業主、家族従業員	39	64.1	38.5	41.0	46.2	35.9	2.6	-	7.7
		専業主婦（夫）	2	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-
		学生	15	53.3	66.7	60.0	-	60.0	-	6.7	-
		無職	74	47.3	50.0	25.7	33.8	39.2	-	8.1	6.8

※ は、属性中トップの項目

(9) 女性が再就職しやすくなるために必要なこと

問14. 出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

〔図表5-7 女性が再就職しやすくなるために必要なこと(性別)〕

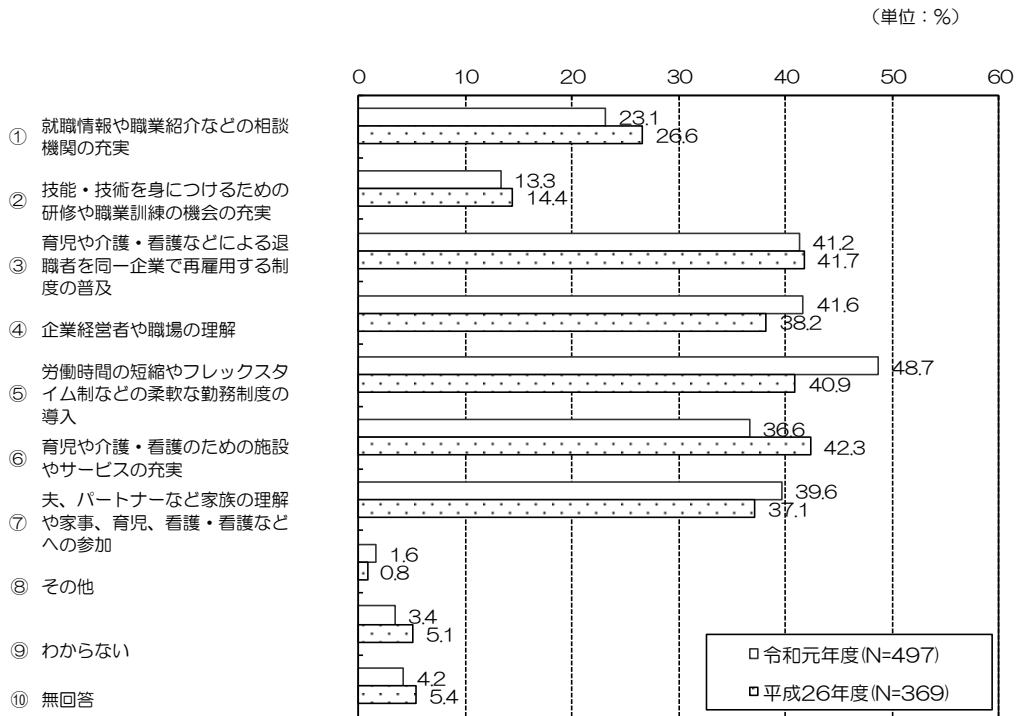


【「企業経営者や職場の理解」や「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」などが必要】

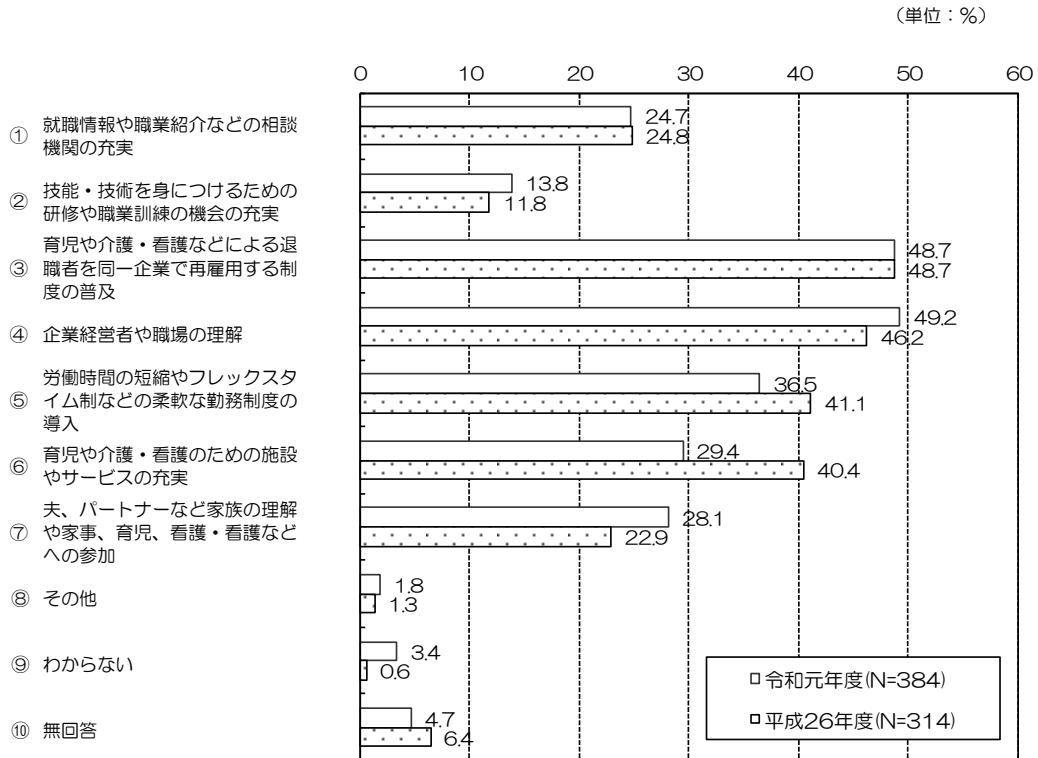
女性が再就職しやすくなるために必要なことは、「企業経営者や職場の理解」(44.9%)、「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(44.3%)、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(43.5%)が高くなっている。(図表5-7)

〔図表 5-7-1 女性が再就職しやすくなるために必要なこと（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

平成 26 年度との比較では女性は「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が 7.8 ポイント高くなっているが、男性は 4.6 ポイント減少している。「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」は男性で 11.0 ポイント、女性で 5.7 ポイント減少している。(図表 5-7-1)

〔図表 5-7-2 女性が再就職しやすくなるために必要なこと（性・年代別、性・職業別）〕

(単位：%)

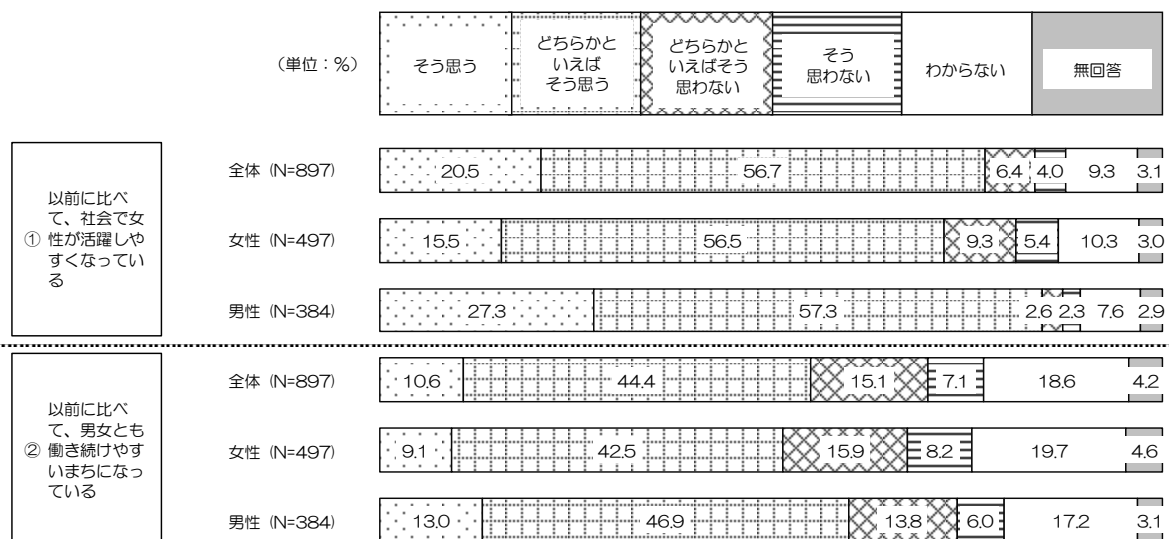
		サンプル数	① の就 相職 談情 機報 関や 職業 紹介 など	② 機た 会の の充 実 研修 や職 業を 身に つけ る	③ 再よ 雇児 用退 す者 の制 度同 の普 及	④ 企業 経営 者や 職場 の理 解	⑤ なク 動ス 務タ 制イ 度のム の制 導な 入の の柔 フレ ット	⑥ の育 施設 やサ ービ スの 充た め	⑦ の夫 、理 解や 家ト 事、 育児 への 参加 、介 護・ 看護 など	⑧ その他	⑨ わか らな い	⑩ 無回 答	
全 体		897	23.9	13.5	44.3	44.9	43.5	33.3	34.6	1.8	3.3	4.6	
性×年代別	女性	18～29歳	62	35.5	8.1	50.0	53.2	56.5	21.0	48.4	-	3.2	-
		30歳代	78	15.4	9.0	39.7	56.4	64.1	39.7	42.3	1.3	1.3	2.6
		40歳代	105	28.6	19.0	37.1	40.0	56.2	35.2	41.9	2.9	-	1.9
		50歳代	87	24.1	17.2	43.7	40.2	43.7	46.0	42.5	-	2.3	-
		60歳以上	165	18.2	11.5	40.0	32.1	36.4	37.0	32.1	2.4	7.3	10.3
	男性	18～29歳	48	35.4	12.5	64.6	50.0	31.3	22.9	27.1	-	2.1	-
		30歳代	49	22.4	18.4	44.9	55.1	44.9	32.7	22.4	4.1	2.0	-
		40歳代	74	31.1	14.9	43.2	48.6	40.5	31.1	29.7	2.7	1.4	4.1
		50歳代	62	21.0	11.3	46.8	61.3	30.6	35.5	29.0	1.6	-	3.2
		60歳以上	151	20.5	13.2	48.3	42.4	35.8	27.2	29.1	1.3	6.6	8.6
性×職業別	女性	正社員・正職員	140	23.6	8.6	49.3	52.9	53.6	41.4	43.6	0.7	0.7	0.7
		契約社員・派遣社員	120	33.3	15.8	35.8	37.5	53.3	37.5	44.2	1.7	2.5	0.8
		自営業主、家族従業員	45	17.8	13.3	40.0	42.2	44.4	33.3	46.7	2.2	6.7	8.9
		専業主婦（夫）	102	19.6	20.6	37.3	35.3	47.1	41.2	34.3	2.0	2.9	2.9
		学生	12	33.3	25.0	50.0	58.3	58.3	16.7	33.3	-	-	-
		無職	51	13.7	9.8	47.1	35.3	39.2	25.5	31.4	2.0	5.9	11.8
	男性	正社員・正職員	197	23.9	16.8	52.3	53.8	41.6	31.5	27.9	2.0	1.0	1.0
		契約社員・派遣社員	41	36.6	17.1	61.0	48.8	39.0	29.3	26.8	-	-	4.9
		自営業主、家族従業員	39	33.3	10.3	30.8	43.6	41.0	33.3	30.8	2.6	-	10.3
		専業主婦（夫）	2	-	-	50.0	100.0	-	50.0	100.0	-	-	-
		学生	15	33.3	6.7	46.7	60.0	26.7	6.7	33.3	-	6.7	-
		無職	74	17.6	9.5	43.2	45.9	25.7	27.0	29.7	2.7	9.5	6.8

※ は、属性中トップの項目

(10) 社会・職場における男女共同参画の進展

問15. あなたご自身の経験に照らして、次のことがらについて、あなたのお考えに最も近いと思われるものを選んでください。(〇はひとつずつ)

〔図表5-8 仕事・職場における男女共同参画の進展(性別)〕



【7割が「女性が活躍しやすくなっている」、

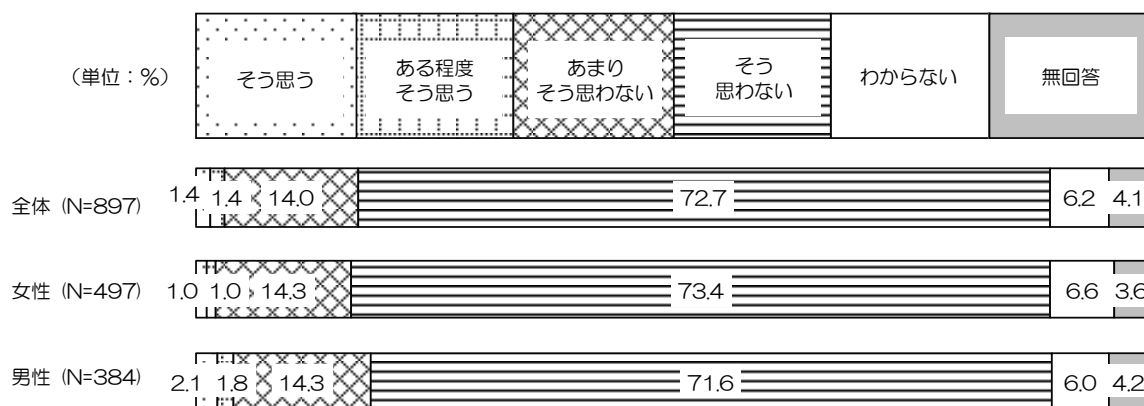
5割が「男女とも働き続けやすいまちになっている」】

「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」について『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は77.2%、「以前に比べて、男女とも働き続けやすいまちになっている」は『そう思う』が55.0%となっている。(図表5-8)

(11) 女性が理系進学を目指すことに対する考え

問16. 自分の娘や身近な女性が理系進学をめざすことには抵抗がありますか

〔図表5-9 女性が理系進学を目指すことに対する考え(性別)〕



【女性が理系進学を目指すことに対する考えで抵抗がない人が約9割】

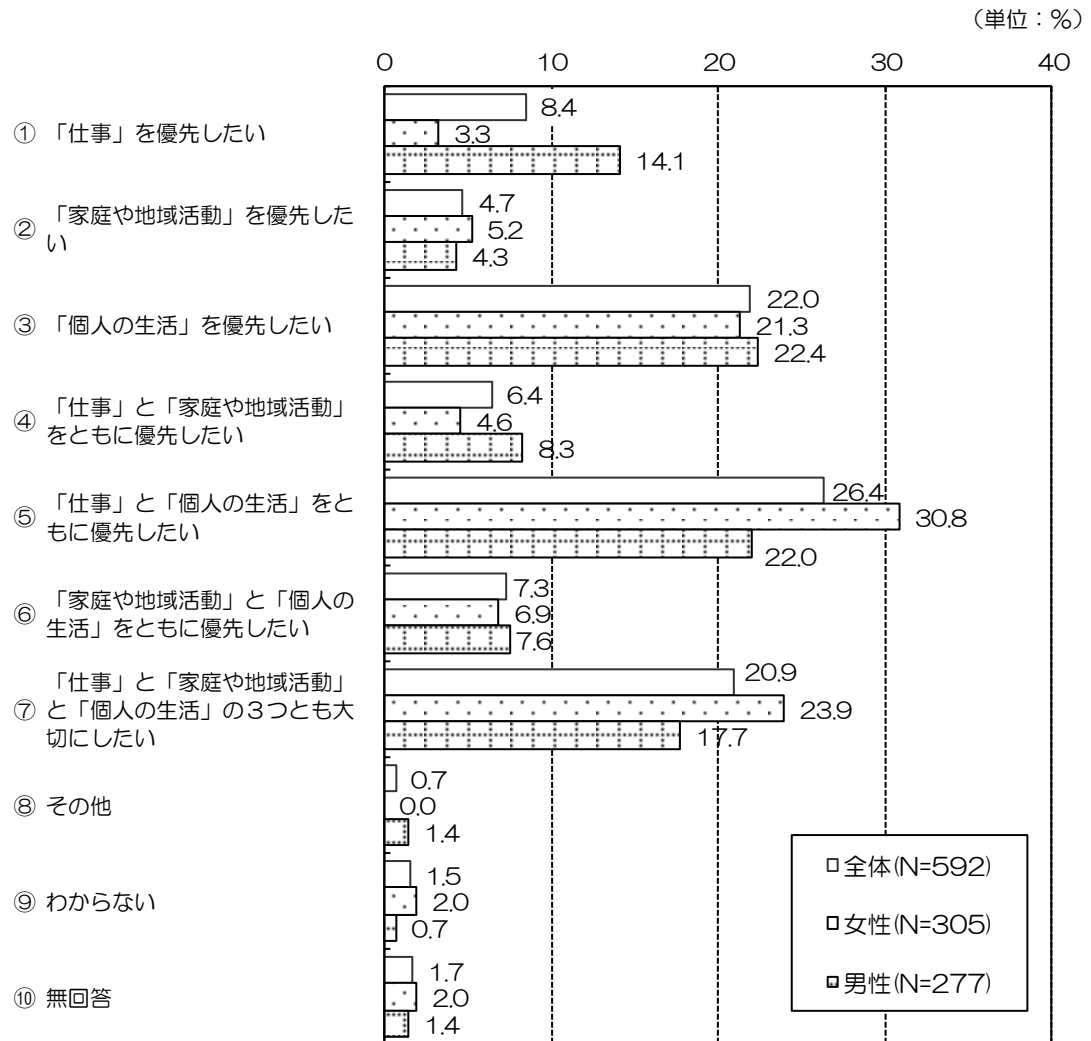
女性が理系進学を目指すことに抵抗があるかに対して「あまりそう思わない」で14.0%、「そう思わない」が72.7%と理系進学を目指すことに抵抗はない割合が高い。(図表5-9)

6 「仕事」「家庭や地域活動」「個人生活」のかかり方について

(1) 生活の中で優先すること 【1】 希望

問 17. あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。
あなたの希望に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。(〇はひとつ)

〔図表 6-1-1 生活の中で優先すること【1】希望（性別）〕



【女性は「仕事と個人の生活をともに優先したい」、

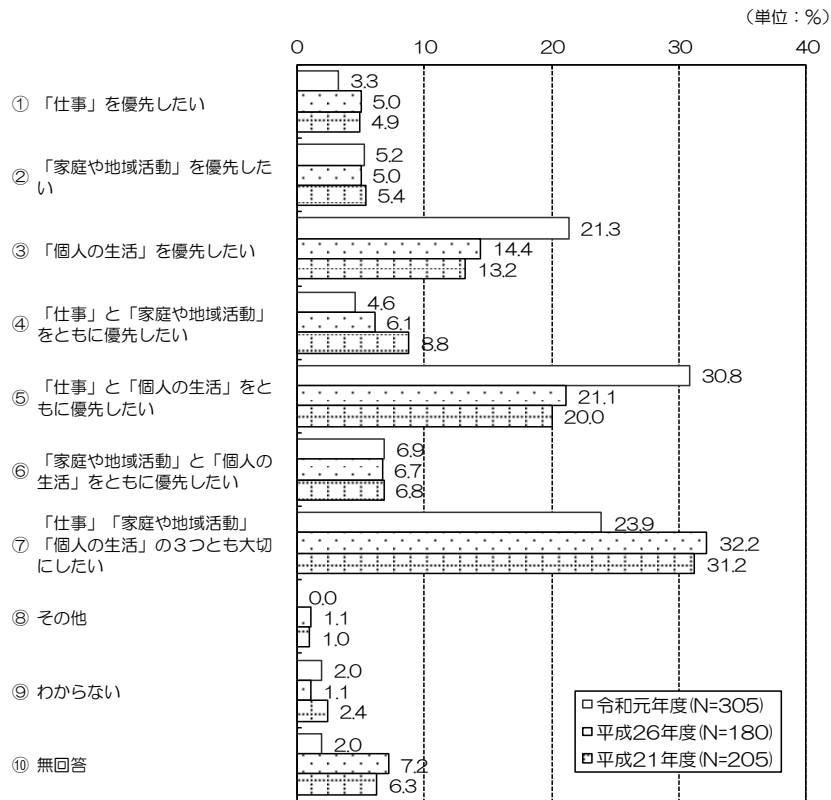
男性は「個人の生活を優先したい」が最も高い】

生活の中で優先したいことは、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいが26.4%、次いで、「個人の生活」を優先したいが22.0%、「仕事」「家庭や地域活動」「個人の生活」の3つとも大切にしたいが20.9%となっている。性別で見ると、「仕事」を優先したいは男性の方が女性より10.8ポイント高く、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいは、女性の方が男性より8.8ポイント高くなっている。(図表 6-1-1)

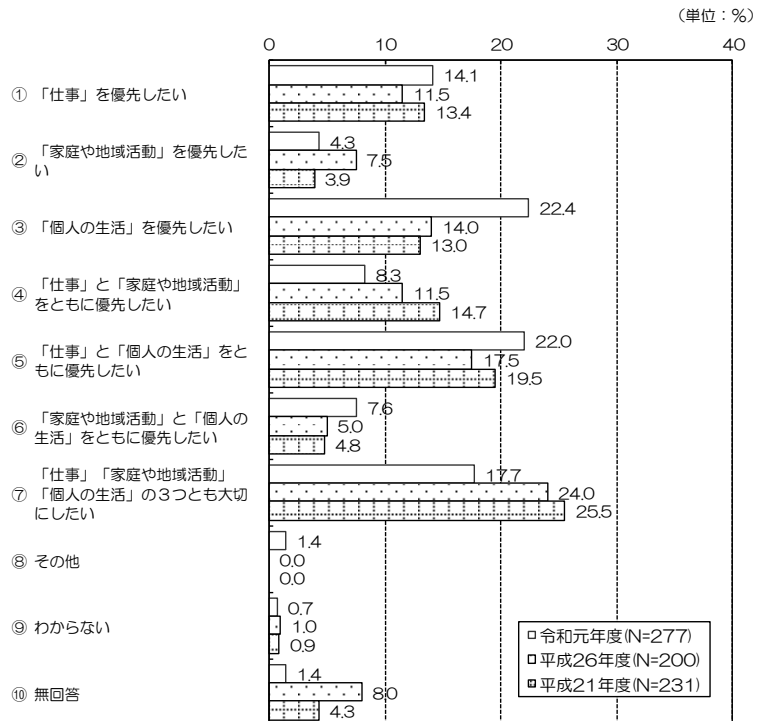
※「地域活動」とは自治会、PTA、民生委員、NPO やボランティアでの活動などを指します。

〔図表 6-1-1-1 生活の中で優先すること【1】希望（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比較をすると、男女ともに「個人の生活」を優先したいが増加している。(図表 6-1-1-1)

〔図表 6-1-1-2 生活の中で優先すること【1】希望（性・年代別）〕

(単位：%)

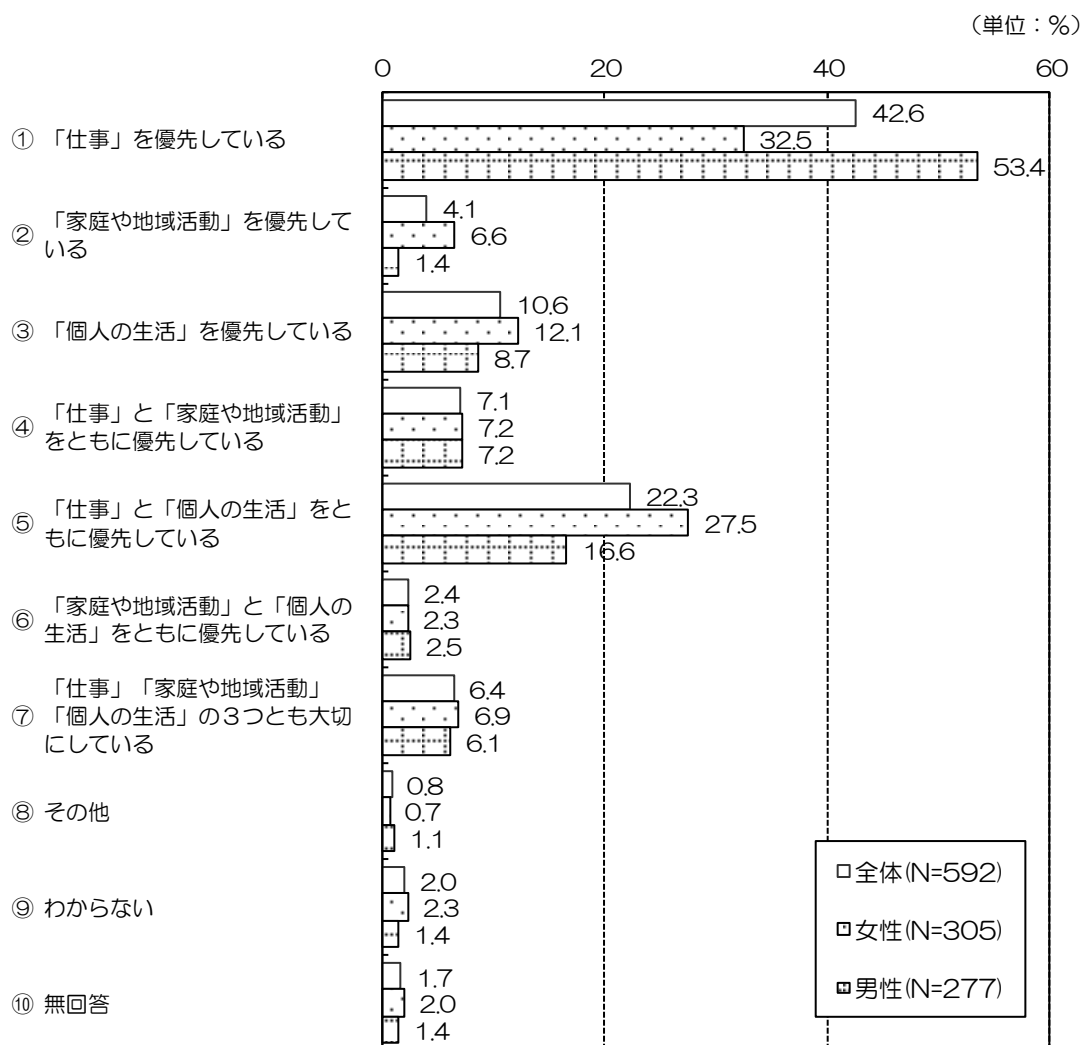
		サンプル数	① 「仕事」を優先したい	② 先「家庭や地域活動」を優先したい	③ 「個人の生活」を優先したい	④ 「活動」を「仕事」とともに優先したい	⑤ 「仕事」と「個人の生活」を優先したい	⑥ 「家庭や地域活動」と「個人の生活」を優先したい	⑦ 「仕事」と「個人の生活」の両方に大切にした	⑧ その他	⑨ わからない	⑩ 無回答	
全 体		592	8.4	4.7	22.0	6.4	26.4	7.3	20.9	0.7	1.5	1.7	
性×年代別	女性	18～29歳	45	2.2	6.7	28.9	2.2	22.2	13.3	17.8	-	4.4	2.2
		30歳代	58	1.7	8.6	22.4	8.6	25.9	3.4	29.3	-	-	-
		40歳代	83	3.6	7.2	18.1	3.6	36.1	7.2	21.7	-	2.4	-
		50歳代	65	3.1	3.1	26.2	3.1	40.0	1.5	21.5	-	1.5	-
		60歳以上	54	5.6	-	13.0	5.6	24.1	11.1	29.6	-	1.9	9.3
	男性	18～29歳	34	5.9	14.7	23.5	-	23.5	5.9	20.6	2.9	2.9	-
		30歳代	45	6.7	2.2	28.9	15.6	8.9	20.0	17.8	-	-	-
		40歳代	67	19.4	3.0	22.4	10.4	16.4	4.5	17.9	4.5	1.5	-
		50歳代	57	17.5	5.3	12.3	10.5	28.1	5.3	19.3	-	-	1.8
		60歳以上	74	14.9	1.4	25.7	4.1	29.7	5.4	14.9	-	-	4.1

※ は、属性中トップの項目

(1) 生活の中で優先すること 【2】 現実

問17. あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。
あなたの現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。（○はひとつ）

〔図表6-1-2 生活の中で優先すること【2】現実（性別）〕



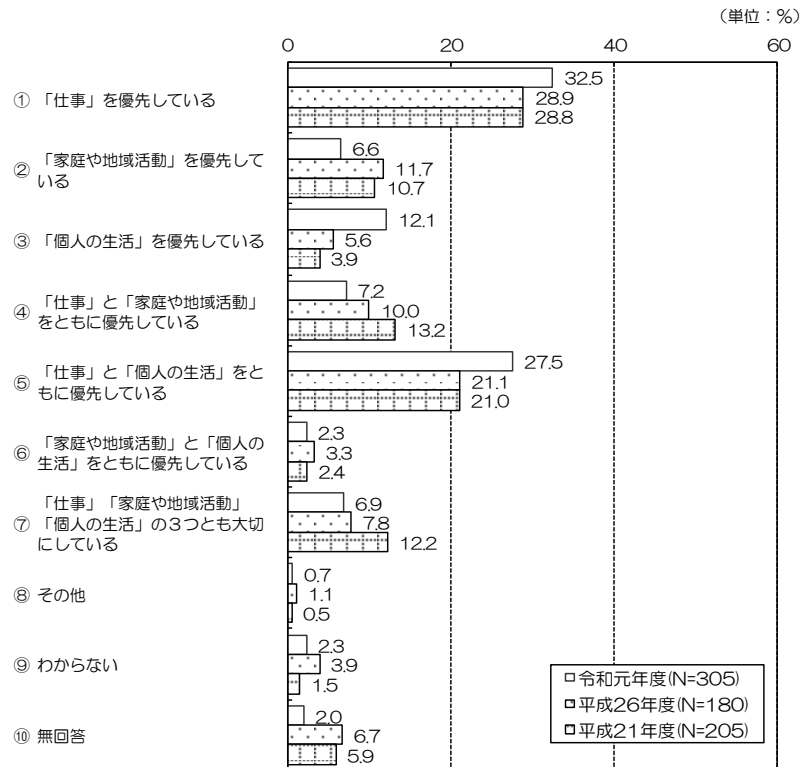
【男女とも仕事を優先】

現実に生活の中で優先していることについては、「仕事」を優先しているが男女とも最も高く42.6%、特に男性は53.4%と高くなっている。女性では、「仕事」を優先しているが32.5%、次いで「仕事」と「個人の生活」をともに優先しているが27.5%となっている。(図表6-1-2)

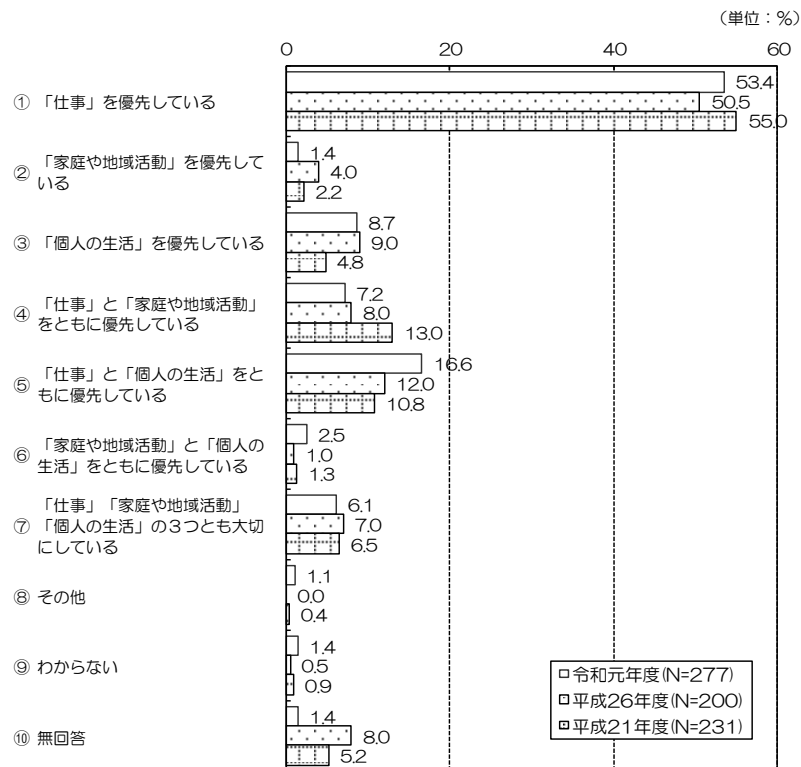
※「地域活動」とは自治会、PTA、民生委員、NPOやボランティアでの活動などを指します。

〔図表 6-1-2-1 生活の中で優先すること【2】現実（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比較すると、現実には男女とも〈「仕事」を優先している〉が最も多く、同じ傾向である。又、〈「仕事」と「個人の生活」をともに優先している〉が男女ともに増加している。(図表 6-1-2-1)

〔図表 6-1-2-3 生活の中で優先すること【2】現実（性・年代別）〕

(単位：%)

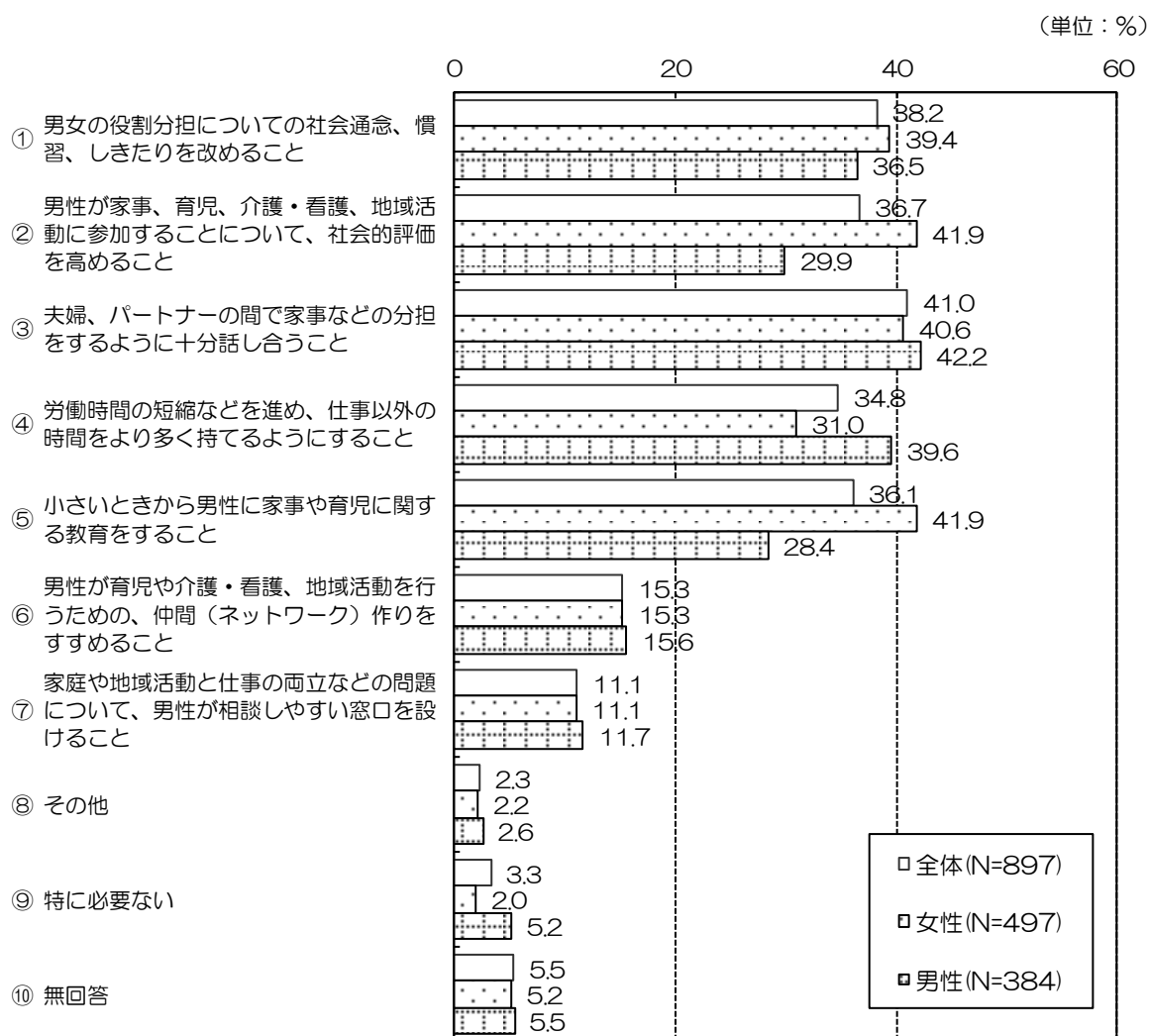
		サンプル数	① 「仕事」を優先している	② 先「家庭や地域活動」を優先している	③ 「個人の生活」を優先している	④ 「活動」とも「家庭や地域」を優先している	⑤ 「仕事」と「個人の生活」を優先している	⑥ 「家庭や地域活動」とも優先している	⑦ 「仕事」と「個人の生活」の両方に大切に行っている	⑧ その他	⑨ わからない	⑩ 無回答	
全 体		592	42.6	4.1	10.6	7.1	22.3	2.4	6.4	0.8	2.0	1.7	
性×年代別	女性	18～29歳	45	24.4	2.2	24.4	11.1	26.7	2.2	4.4	-	2.2	2.2
		30歳代	58	34.5	19.0	12.1	10.3	24.1	-	-	-	-	-
		40歳代	83	41.0	3.6	8.4	7.2	24.1	4.8	7.2	1.2	2.4	-
		50歳代	65	35.4	3.1	9.2	4.6	29.2	-	12.3	1.5	4.6	-
		60歳以上	54	20.4	5.6	11.1	3.7	35.2	3.7	9.3	-	1.9	9.3
	男性	18～29歳	34	41.2	5.9	5.9	5.9	35.3	-	5.9	-	-	-
		30歳代	45	48.9	2.2	11.1	4.4	17.8	6.7	6.7	-	2.2	-
		40歳代	67	65.7	-	1.5	10.4	7.5	1.5	9.0	4.5	-	-
		50歳代	57	57.9	1.8	3.5	12.3	14.0	1.8	3.5	-	3.5	1.8
		60歳以上	74	47.3	-	18.9	2.7	17.6	2.7	5.4	-	1.4	4.1

※ は、属性中トップの項目

(2) 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと

問18. 今後、男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

〔図表6-2 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと(性別)〕



【「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が最も高い】

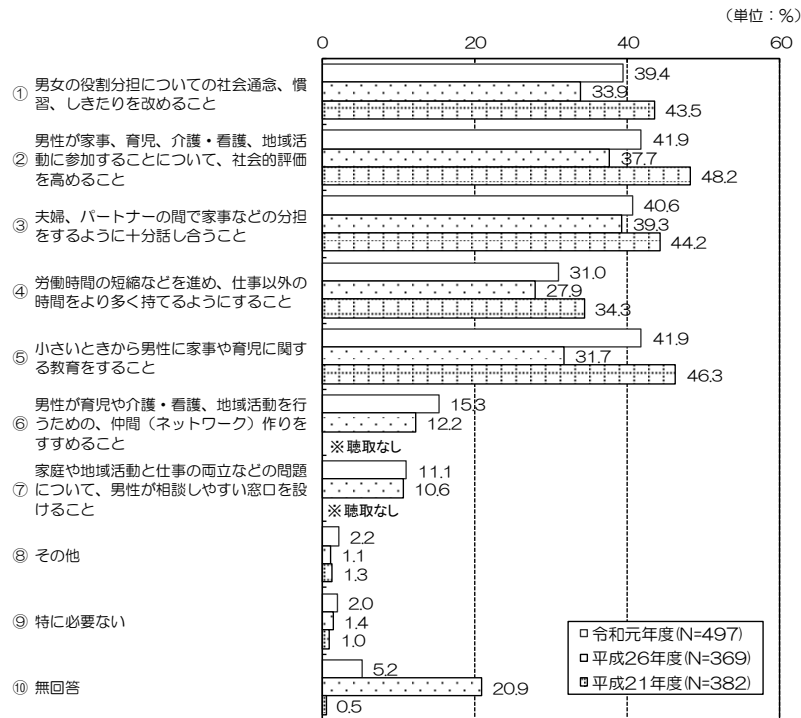
男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要だと思うことは、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が41.0%で最も高くなっている。次いで、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が38.2%、「男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が36.7%となっている。(図表6-2)

※「地域活動」とは自治会、PTA、民生委員、NPOやボランティアでの活動などを指します。

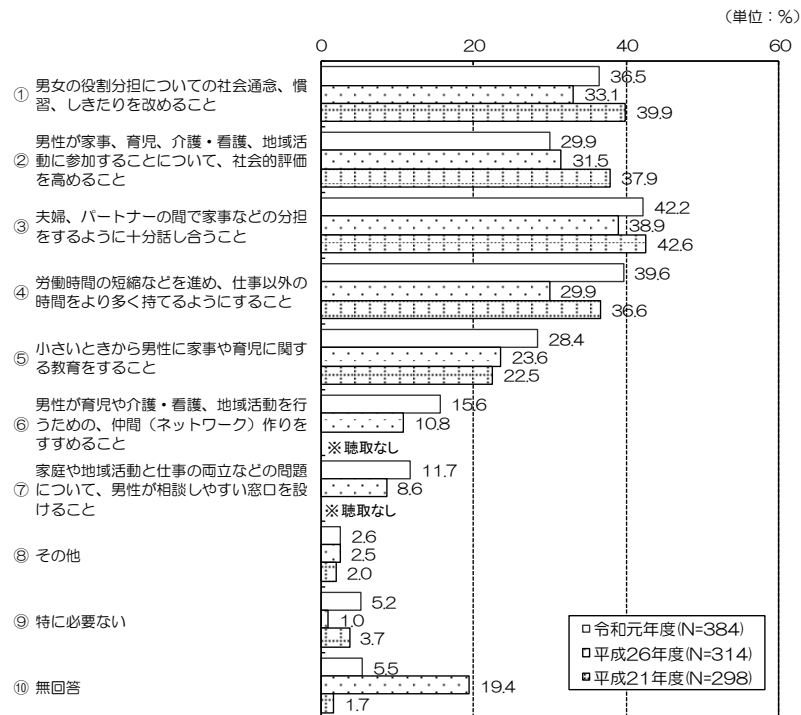
〔図表 6-2-1 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと

(過去の調査との比較)〕

< 女性 >



< 男性 >



【過去の調査との比較】

平成 26 年度と比較すると、男性で「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は 9.7 ポイント増加し、女性は「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」が 10.2 ポイント増加している。(図表 6-2-1)

〔図表 6-2-2 男性が家事、育児、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（性・年代別）〕

（単位：％）

		サンプル数	① 念、慣習、役割の割り振り、しきたりについて改めること	② 男女の社会的役割を高めること	③ 地域活動に参加すること	④ 男性が家事、子育て、介護、看護、看顧、子育て、パートナートナリに十分話し合うこと	⑤ 夫婦、パートナーの間で家事などの分担をすること	⑥ 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持つこと	⑦ 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること	⑧ ク）男性が子育てや介護・看護、地域活動を行うための、仲間（ネットワー）	⑨ 問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	⑩ 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい	⑪ その他	⑫ 特に必要ない	⑬ 無回答	
全 体		897	38.2	36.7	41.0	34.8	36.1	15.3	11.1	2.3	3.3	5.5				
性×年代別	女性	18～29歳	62	41.9	46.8	41.9	38.7	40.3	14.5	17.7	4.8	3.2	1.6			
		30歳代	78	42.3	47.4	39.7	55.1	43.6	12.8	6.4	-	1.3	-			
		40歳代	105	43.8	47.6	42.9	29.5	44.8	17.1	9.5	3.8	1.0	-			
		50歳代	87	42.5	44.8	36.8	27.6	46.0	17.2	8.0	1.1	1.1	5.7			
		60歳以上	165	32.7	32.1	41.2	19.4	37.6	14.5	13.3	1.8	3.0	12.1			
	男性	18～29歳	48	43.8	25.0	41.7	47.9	25.0	16.7	10.4	-	8.3	2.1			
		30歳代	49	44.9	51.0	26.5	61.2	24.5	8.2	4.1	6.1	2.0	4.1			
		40歳代	74	31.1	32.4	41.9	48.6	32.4	8.1	10.8	2.7	4.1	4.1			
		50歳代	62	48.4	29.0	33.9	35.5	35.5	17.7	11.3	1.6	1.6	3.2			
		60歳以上	151	29.1	23.8	51.0	27.2	25.8	20.5	15.2	2.6	7.3	8.6			

※ は、属性中トップの項目

(3) 地域活動参加状況

問19. 現在、あなたは地域活動に参加されていますか。(〇はひとつ)

〔図表 6-3 地域活動参加状況 (性別)〕

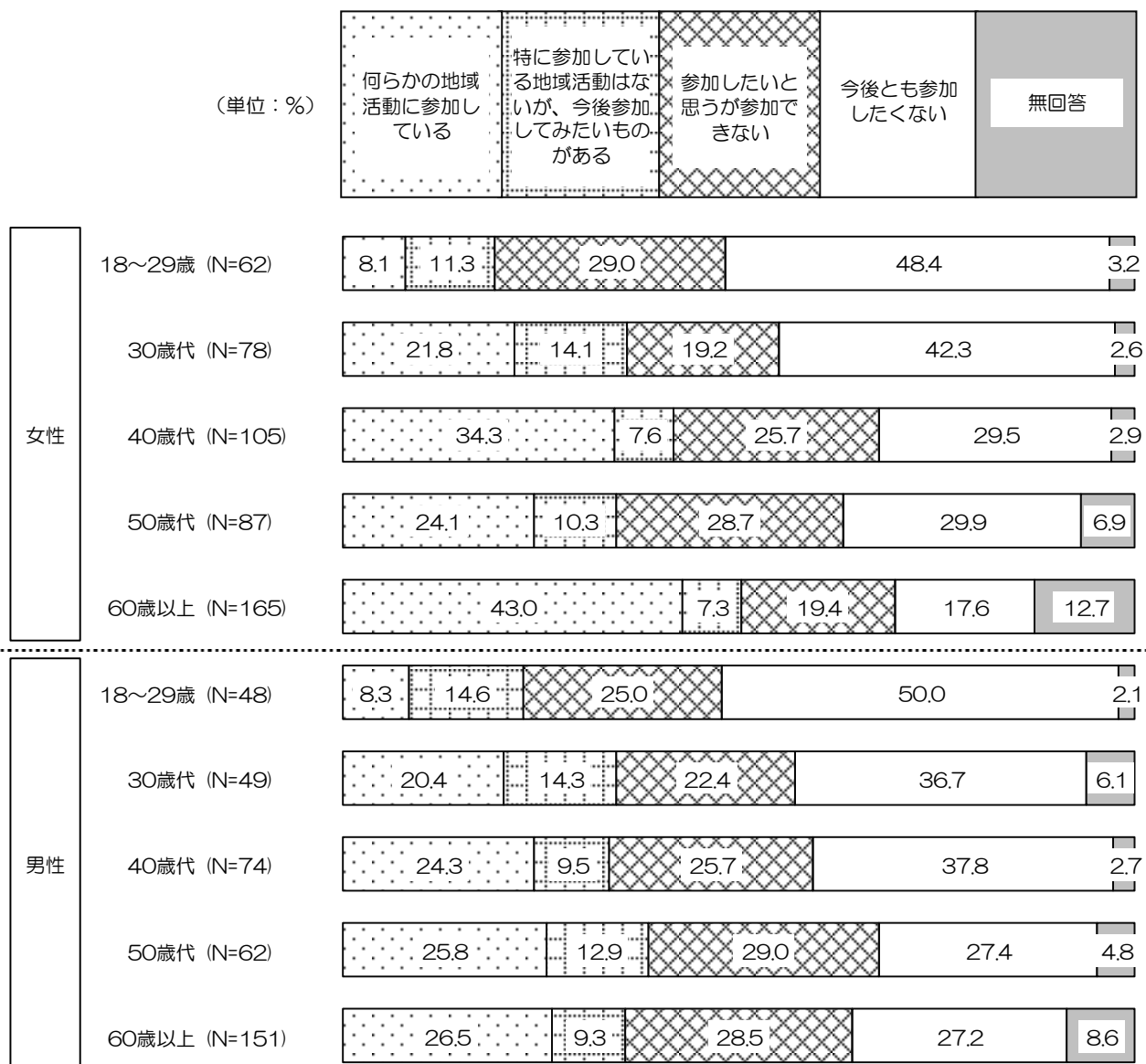


【地域活動に「参加している」は3割弱】

地域活動の参加状況は、「今後とも参加したくない」が31.7%、「何らかの地域活動に参加している」が26.8%、「参加したいと思うが参加できない」が24.7%、「特に参加していないが、今後参加してみたいものがある」が10.3%となっている。(図表6-3)

※「地域活動」とは自治会、PTA、民生委員、NPOやボランティアでの活動などを指します。

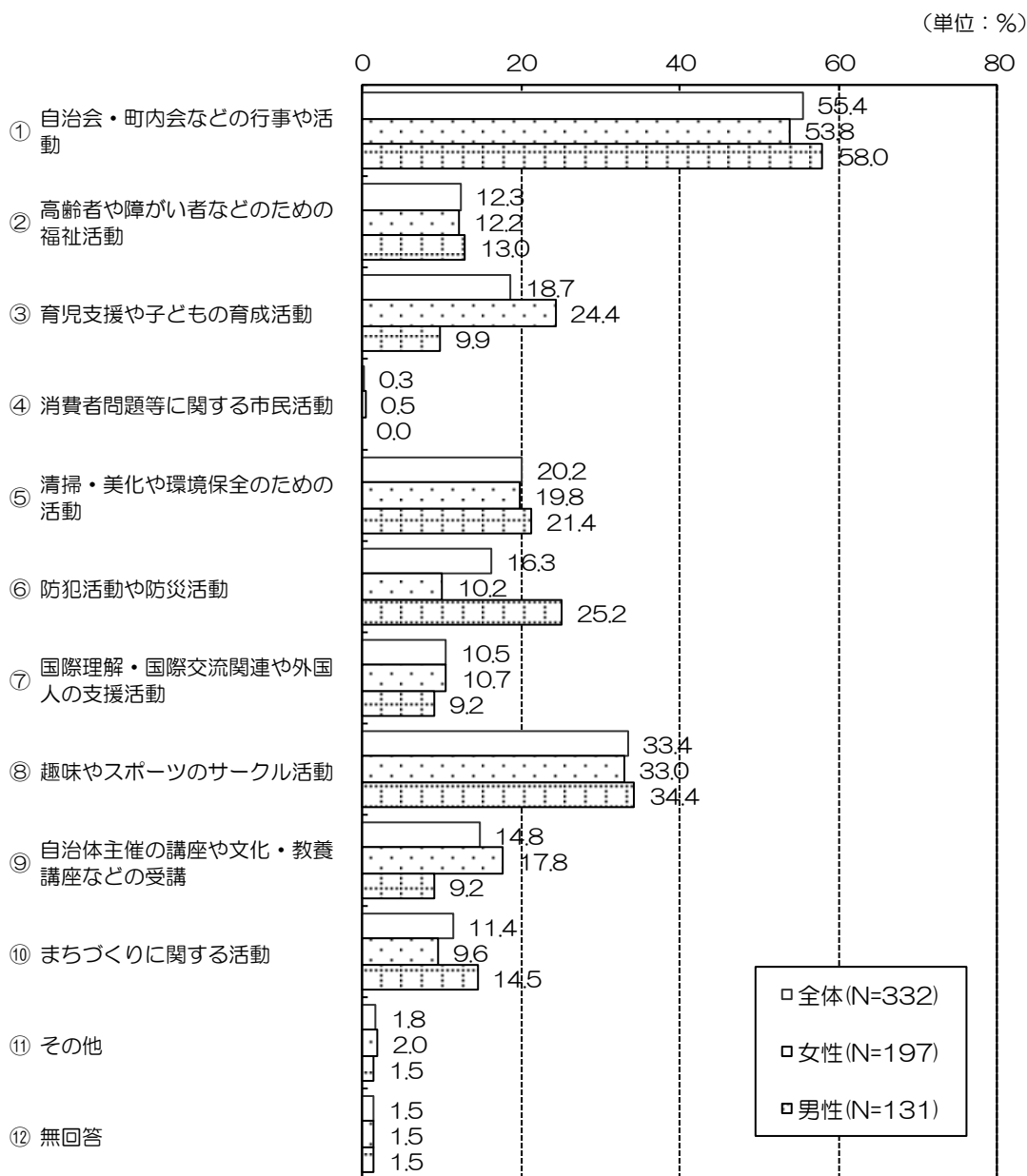
〔図表 6-3-1 地域活動参加状況（性・年代別）〕



(4) 参加している・参加したい地域活動

問19-1. 現在参加されている、または今後参加してみたいと思われる地域活動は何ですか。
(〇はいくつでも)

〔図表6-4 参加している・参加したい地域活動(性別)〕



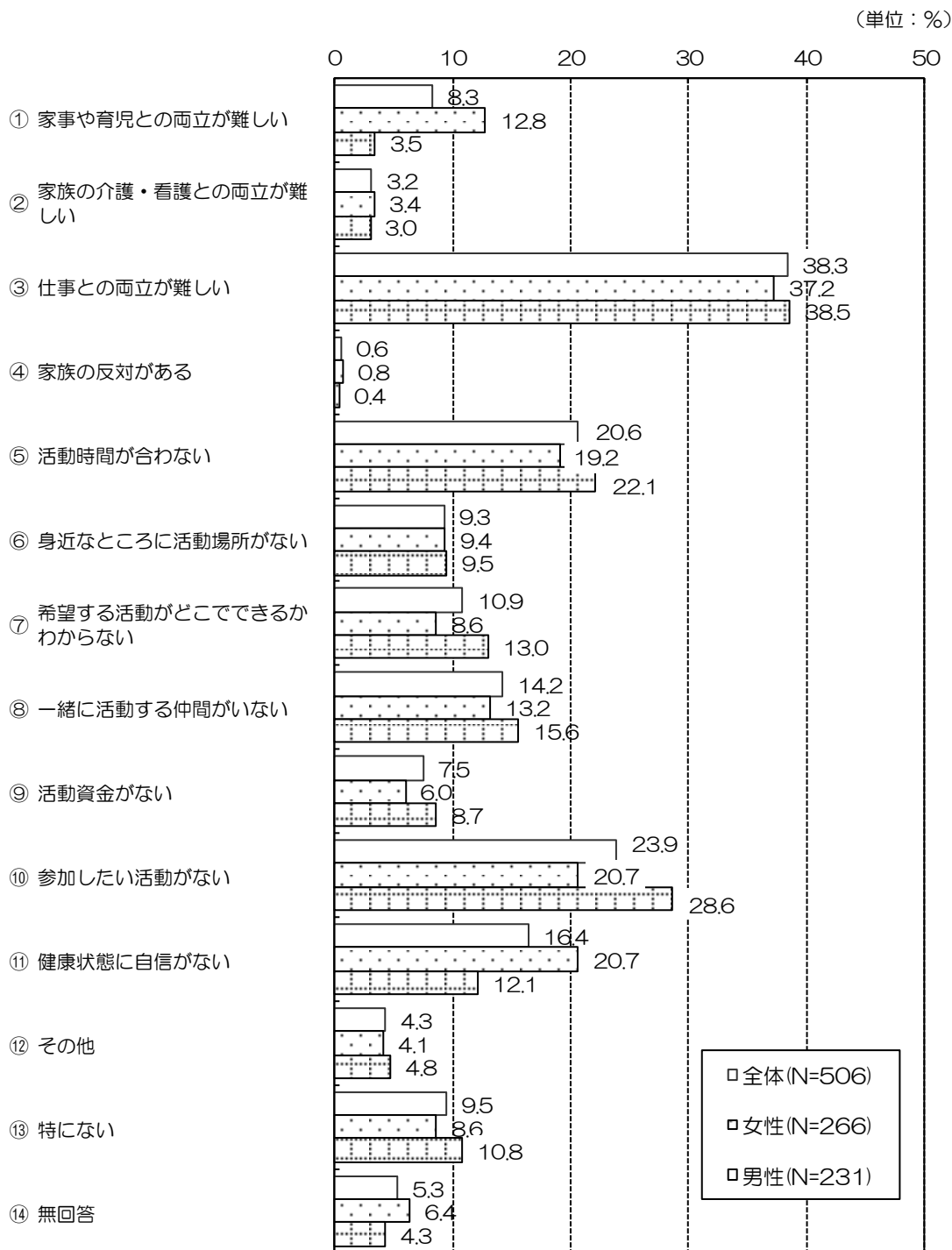
【参加したい地域活動は「自治会・町内会などの行事や活動」が最も高い】

参加している・参加したい地域活動は、「自治会・町内会などの行事や活動」が55.4%で最も高く、次いで、「趣味やスポーツのサークル活動」が33.4%となっている。また、性別で見ると「防犯活動や防災活動」は男性の方が15.0ポイント高く、「育児支援や子どもの育成活動」は女性が14.5ポイント高い。(図表6-4)

(5) 参加できない・参加したくない理由

問19-2. 地域活動に参加できない理由、参加したくない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

〔図表6-5 参加できない・参加したくない理由(性別)〕



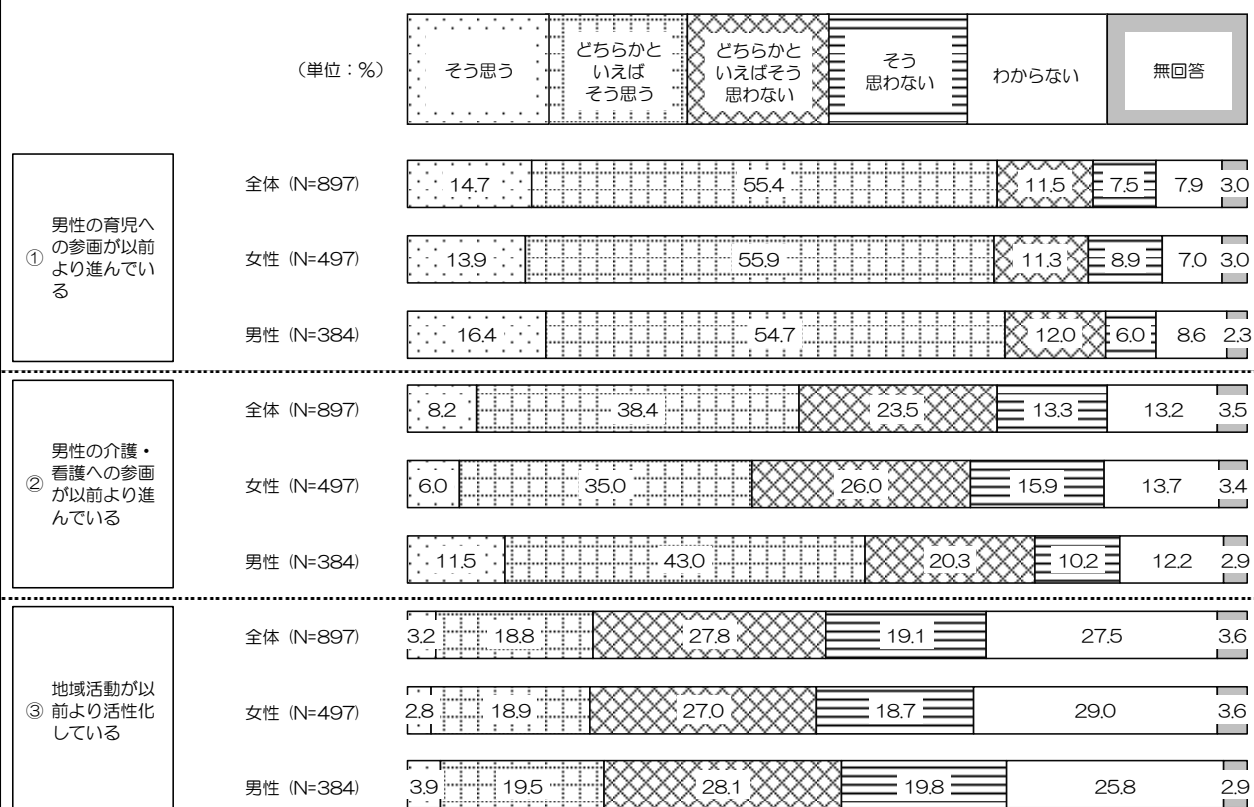
【参加できない理由は「仕事との両立が難しい」が最も高い】

参加できない・したくない理由は、「仕事との両立が難しい」が38.3%、「参加したい活動がない」が23.9%、「活動時間が合わない」が20.6%である。性別で見ると、「家事や育児との両立が難しい」は、女性が9.3ポイント高い。(図表6-5)

(6) 地域・家庭における男女共同参画の進展

問20. あなたご自身の経験に照らして、次にあげることがらについて、あなたのお考えに近いものを選んでください。(〇はひとつずつ)

〔図表 6-6 地域・家庭における男女共同参画の進展 (性別)〕



【「男性の育児への参画が進んでいる」は7割、「介護への参画」は4割強】

地域・家庭における男女共同参画の進展について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）の割合をみると、「男性の育児への参画が以前より進んでいる」が70.1%、「男性の介護への参画が以前より進んでいる」が46.6%、「地域活動が以前より活性化している」が22.0%となっている。（図表6-6）

※「地域活動」とは自治会、PTA、民生委員、NPO やボランティアでの活動などを指します。

(2) 配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口の認知度

問22. あなたは、配偶者・パートナーからの暴力（なぐる、ける、無視するなど身体的、精神的な暴力等）について、相談できる窓口があることを知っていますか。

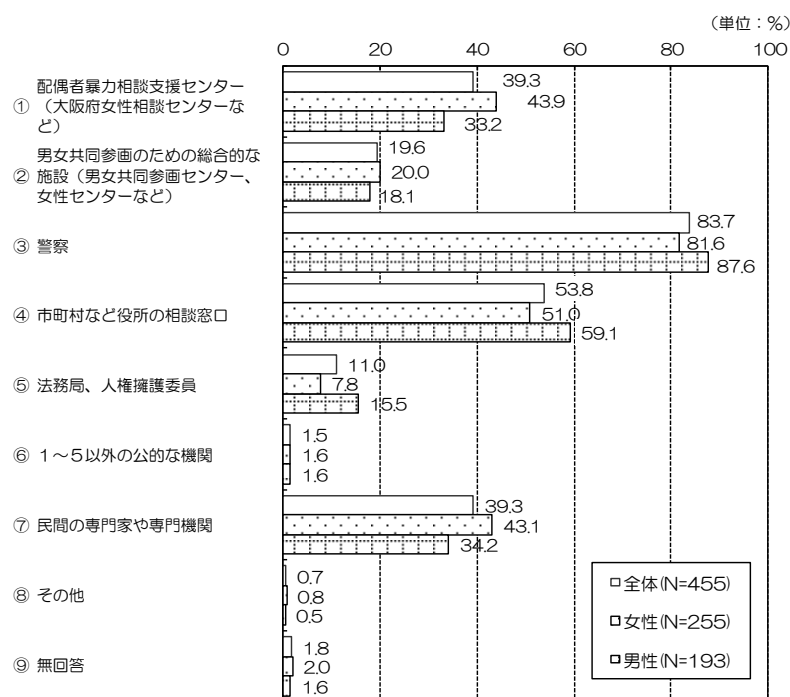
〔図表 7-2 配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口認知度（性別）〕



問22-1. 【相談窓口を「知っている」と回答した方にお聞きします】

あなたは、配偶者・パートナーからの暴力に関する相談窓口としてどのようなものを知っていますか。（〇はいくつでも）

〔図表 7-2-1 配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口の認知度（性別）〕



【DVの相談窓口としては「警察」が男女とも8割を超えて認知されている】

配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口を「知っている」割合は約半数の50.7%で、性別での差はほとんど見られない。相談窓口では「警察」が83.7%で最もよく認知されている。次いで、「市町村など役所の相談窓口」が53.8%、「配偶者暴力相談支援センター」「民間の専門家や専門機関」が39.3%となっている。（図表 7-2-1）

〔図表 7-2-3 配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口の認知度

（性・年代別、性・暴力経験別）〕

（単位：％）

		サンプル数	① （配偶者暴力相談支援センターなど） （大阪府女性相談センターなど）	② （男女共同参画の総合的な施設） （男女共同参画センターなど）	③ 警察	④ 市町村など役所の相談窓口	⑤ 法務局、人権擁護委員	⑥ 1～5以外の公的な機関	⑦ 民間の専門家や専門機関	⑧ その他	⑨ 無回答	
全 体		455	39.3	19.6	83.7	53.8	11.0	1.5	39.3	0.7	1.8	
性×年代別	女性	18～29歳	32	50.0	21.9	81.3	40.6	6.3	3.1	40.6	3.1	3.1
		30歳代	40	40.0	20.0	85.0	62.5	10.0	2.5	35.0	-	-
		40歳代	60	51.7	15.0	85.0	40.0	8.3	-	53.3	1.7	3.3
		50歳代	44	38.6	18.2	79.5	50.0	4.5	2.3	31.8	-	2.3
		60歳以上	79	40.5	24.1	78.5	58.2	8.9	1.3	46.8	-	1.3
	男性	18～29歳	23	39.1	34.8	91.3	52.2	8.7	4.3	26.1	-	4.3
		30歳代	24	33.3	12.5	87.5	54.2	4.2	-	33.3	4.2	-
		40歳代	33	33.3	30.3	93.9	78.8	12.1	-	48.5	-	-
		50歳代	37	27.0	10.8	89.2	48.6	16.2	2.7	40.5	-	2.7
		60歳以上	76	34.2	13.2	82.9	59.2	22.4	1.3	27.6	-	1.3
暴力経験別	女性	受けたことがある	81	44.4	19.8	87.7	51.9	9.9	3.7	44.4	1.2	-
		受けたことがない	174	43.7	20.1	78.7	50.6	6.9	0.6	42.5	0.6	1.1
	男性	受けたことがある	65	30.8	24.6	87.7	58.5	15.4	1.5	32.3	-	-
		受けたことがない	128	34.4	14.8	87.5	59.4	15.6	1.6	35.2	0.8	2.3

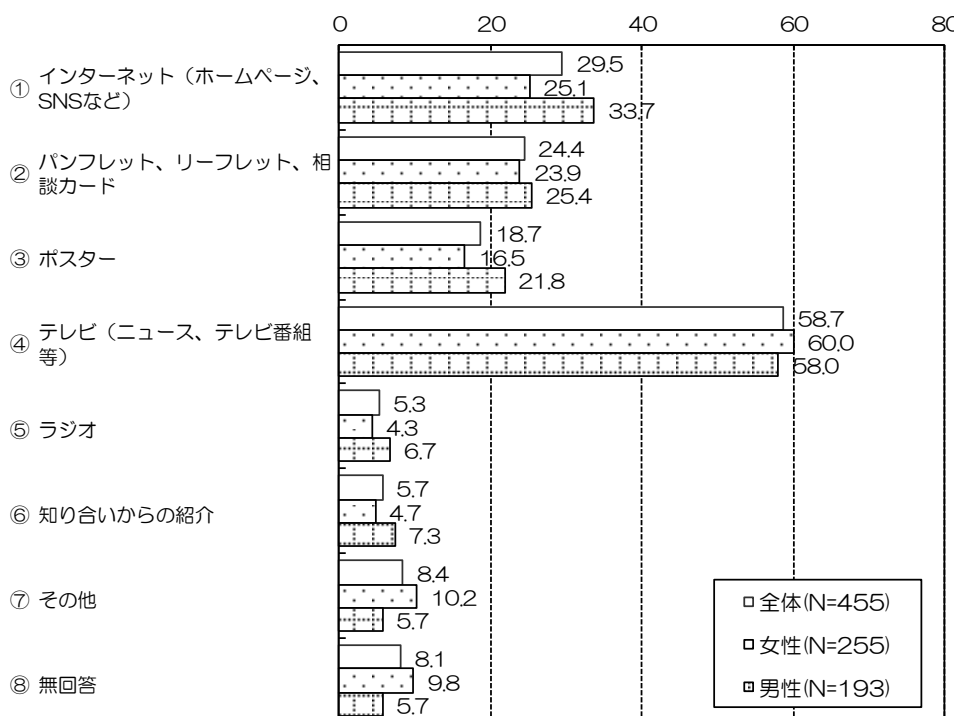
※ は、属性中トップの項目

(3) 配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口の認知手段

問22-2. 相談窓口をどのような手段で知りましたか。(〇はいくつでも)

〔図表 7-3 配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口の認知手段(性別)〕

(単位: %)



【相談窓口の認知手段は「テレビ」が5割強】

相談窓口の認知手段は、「テレビ(ニュース、テレビ番組等)」が58.7%で特に高い。次いで、「インターネット(ホームページ、SNSなど)」が29.5%、「パンフレット、リーフレット、相談カード」が24.4%である。(図表 7-3)

〔図表 7-3-1 配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口の認知手段(性・年代別)〕

(単位: %)

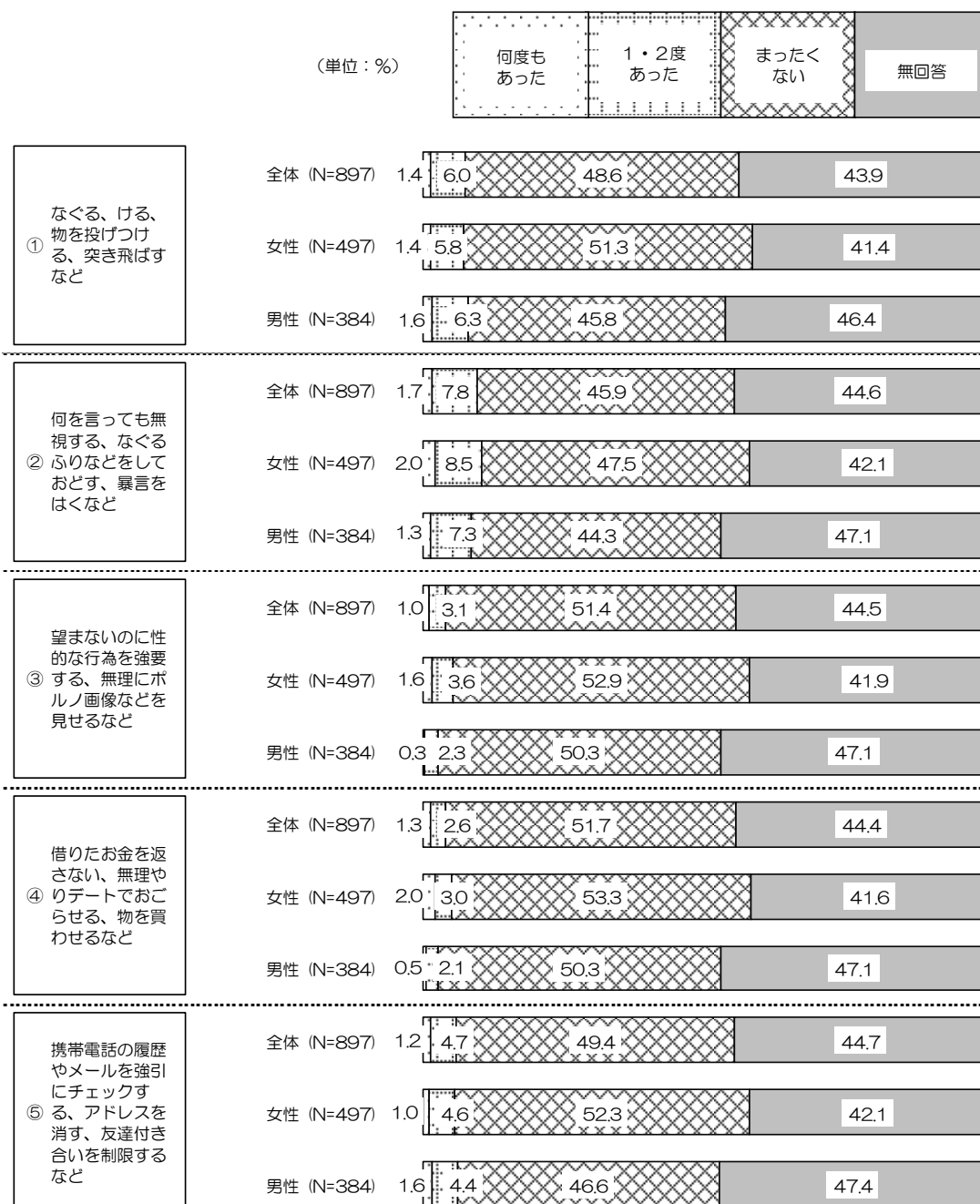
		サンプル数	① インターネット(SNSなど)	② パンフレット、リーフレット、相談カード	③ ポスター	④ テレビ(ニュース、テレビ番組等)	⑤ ラジオ	⑥ 知り合いからの紹介	⑦ その他	⑧ 無回答	
全 体		455	29.5	24.4	18.7	58.7	5.3	5.7	8.4	8.1	
性×年代別	女性	18~29歳	32	43.8	18.8	21.9	31.3	-	-	18.8	18.8
		30歳代	40	27.5	20.0	20.0	55.0	-	5.0	12.5	12.5
		40歳代	60	28.3	23.3	11.7	63.3	1.7	10.0	8.3	1.7
		50歳代	44	27.3	27.3	15.9	61.4	11.4	4.5	2.3	11.4
		60歳以上	79	12.7	26.6	16.5	70.9	6.3	2.5	11.4	10.1
	男性	18~29歳	23	47.8	34.8	26.1	47.8	-	13.0	13.0	4.3
		30歳代	24	45.8	25.0	16.7	41.7	-	4.2	-	12.5
		40歳代	33	45.5	24.2	27.3	51.5	12.1	9.1	6.1	3.0
		50歳代	37	35.1	24.3	18.9	59.5	8.1	5.4	5.4	8.1
		60歳以上	76	19.7	23.7	21.1	68.4	7.9	6.6	5.3	3.9

※ 濃いグレーは、属性中トップの項目

(4) 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験

問23. 10代、20代に、交際相手があなたに対して、次のようなことをしたことがありますか。
 (○はひとつずつ)

〔図表7-4 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験（性別）〕

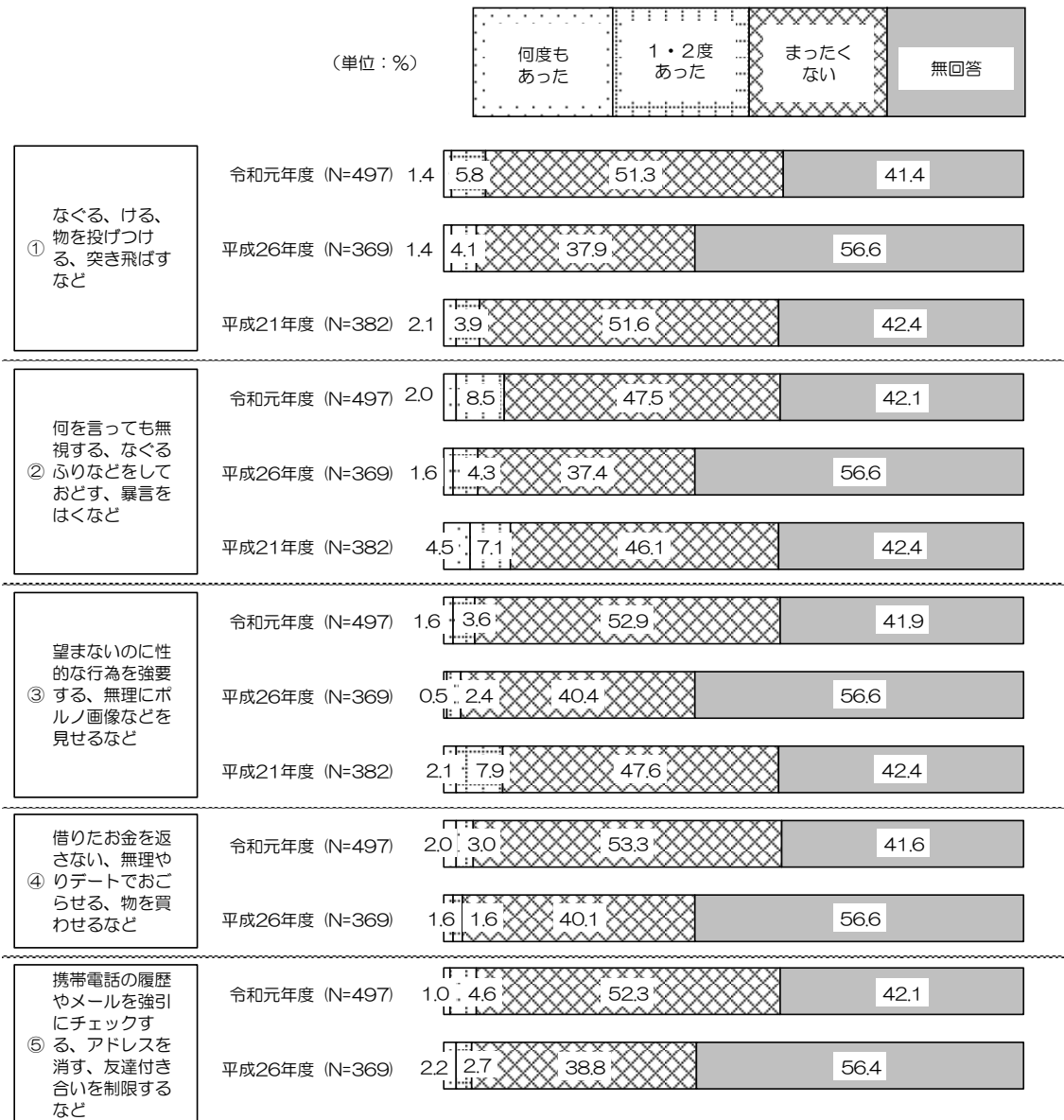


【デートDVを受けた経験はほとんどの項目で女性の方が高い】

交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験について「何度もあった」でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が1.7%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が1.4%となっている。『あった』（「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた割合）でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が9.5%で最も高い。（図表7-4）

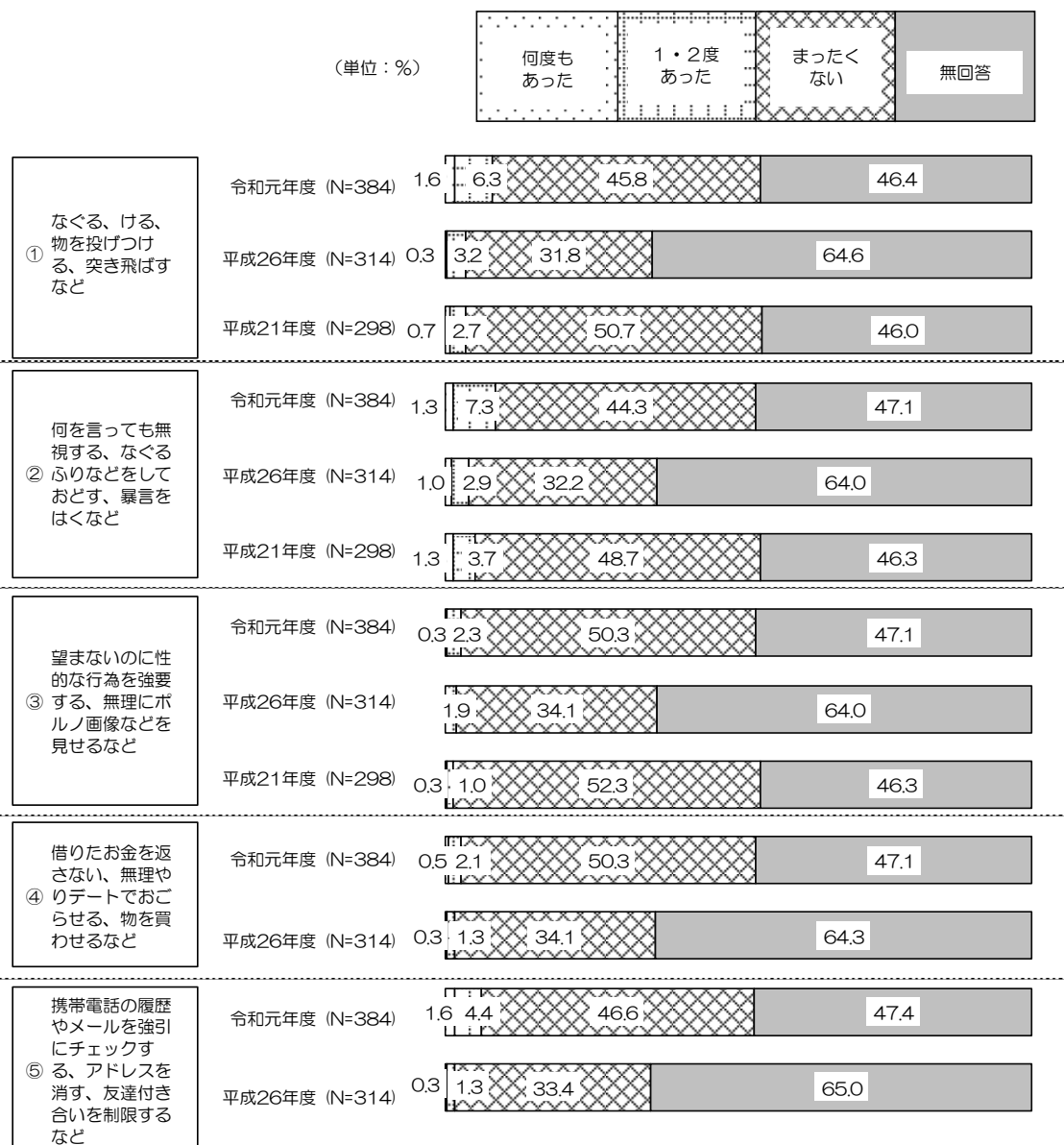
〔図表7-4-1 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験（過去の調査との比較）〕

<女性>



※平成21年度調査では、④「借りたお金を返さない、無理やりデートでおごらせる、物を買わせるなど」、⑤「携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達付き合いを制限するなど」は項目なし。

<男性>



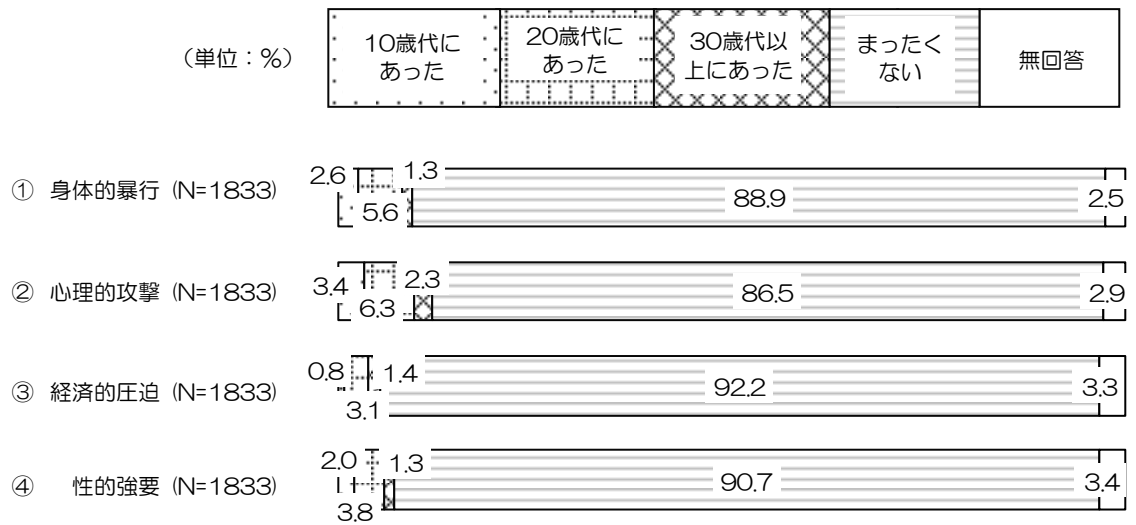
※平成21年度調査では、④「借りたお金を返さない、無理やりデートでおごらせる、物を買わせるなど」、⑤「携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達付き合いを制限するなど」は項目なし。

【過去の調査との比較】

平成26年度と比較すると、男女ともに『あった』は全ての項目で増加している。(図表7-4-1)

〔図表 7-4-2 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験（内閣府調査との比較）〕

<内閣府（平成 29 年度）調査結果>



【内閣府調査との比較】

内閣府（平成 29 年度）調査では、『あった』（「10 歳代にあった」と「20 歳代にあった」と「30 歳代以上にあった」を合わせた割合）は、「身体的暴行」で 9.5%、「心理的攻撃」が 12.0%、「経済的圧迫」が 5.3%、「性的強要」が 7.1%となっている。今回調査の「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」では『あった』は 7.4%で、内閣府調査の「身体的暴行」を受けた割合よりも低くなっている。（図表 7-4-2）

①なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど

〔図表 7-4-3 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① 何度もあった	② 1・2度あった	③ まったくない	④ 無回答	
全 体		897	1.4	6.0	48.6	43.9	
性×年代別	女性	18～29歳	62	4.8	4.8	72.6	17.7
		30歳代	78	1.3	16.7	55.1	26.9
		40歳代	105	-	3.8	61.0	35.2
		50歳代	87	1.1	3.4	56.3	39.1
		60歳以上	165	1.2	3.6	32.7	62.4
	男性	18～29歳	48	4.2	8.3	62.5	25.0
		30歳代	49	4.1	8.2	46.9	40.8
		40歳代	74	1.4	9.5	62.2	27.0
		50歳代	62	1.6	9.7	48.4	40.3
		60歳以上	151	-	2.0	31.1	66.9

※ は、属性中トップの項目

②何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど

〔図表 7-4-4 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① 何度もあった	② 1・2度あった	③ まったくない	④ 無回答	
全 体		897	1.7	7.8	45.9	44.6	
性×年代別	女性	18～29歳	62	6.5	6.5	69.4	17.7
		30歳代	78	3.8	19.2	48.7	28.2
		40歳代	105	1.0	8.6	55.2	35.2
		50歳代	87	-	9.2	51.7	39.1
		60歳以上	165	1.2	3.6	31.5	63.6
	男性	18～29歳	48	4.2	10.4	60.4	25.0
		30歳代	49	4.1	10.2	44.9	40.8
		40歳代	74	-	10.8	60.8	28.4
		50歳代	62	1.6	8.1	50.0	40.3
		60歳以上	151	-	3.3	28.5	68.2

※ は、属性中トップの項目

③望まないのに性的な行為を強要する、無理にポルノ画像などを見せるなど
 〔図表 7-4-5 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① 何 度 も あ っ た	② 1 ・ 2 度 あ っ た	③ ま っ た く な い	④ 無 回 答	
全 体		897	1.0	3.1	51.4	44.5	
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	62	3.2	3.2	75.8	17.7
		30歳代	78	2.6	9.0	61.5	26.9
		40歳代	105	1.0	4.8	59.0	35.2
		50歳代	87	-	2.3	58.6	39.1
		60歳以上	165	1.8	1.2	33.3	63.6
	男性	18～29歳	48	-	4.2	70.8	25.0
		30歳代	49	-	4.1	55.1	40.8
		40歳代	74	-	2.7	68.9	28.4
		50歳代	62	1.6	3.2	54.8	40.3
		60歳以上	151	-	0.7	31.1	68.2

※ は、属性中トップの項目

④借りたお金を返さない、無理やりデートでおごらせる、物を買わせるなど
 〔図表 7-4-6 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① 何 度 も あ っ た	② 1 ・ 2 度 あ っ た	③ ま っ た く な い	④ 無 回 答	
全 体		897	1.3	2.6	51.7	44.4	
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	62	3.2	1.6	77.4	17.7
		30歳代	78	2.6	7.7	62.8	26.9
		40歳代	105	-	3.8	61.9	34.3
		50歳代	87	2.3	2.3	56.3	39.1
		60歳以上	165	2.4	1.2	32.7	63.6
	男性	18～29歳	48	-	2.1	72.9	25.0
		30歳代	49	-	4.1	55.1	40.8
		40歳代	74	-	4.1	67.6	28.4
		50歳代	62	3.2	-	56.5	40.3
		60歳以上	151	-	1.3	30.5	68.2

※ は、属性中トップの項目

⑤携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達付き合いを制限するなど
 〔図表 7-4-7 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

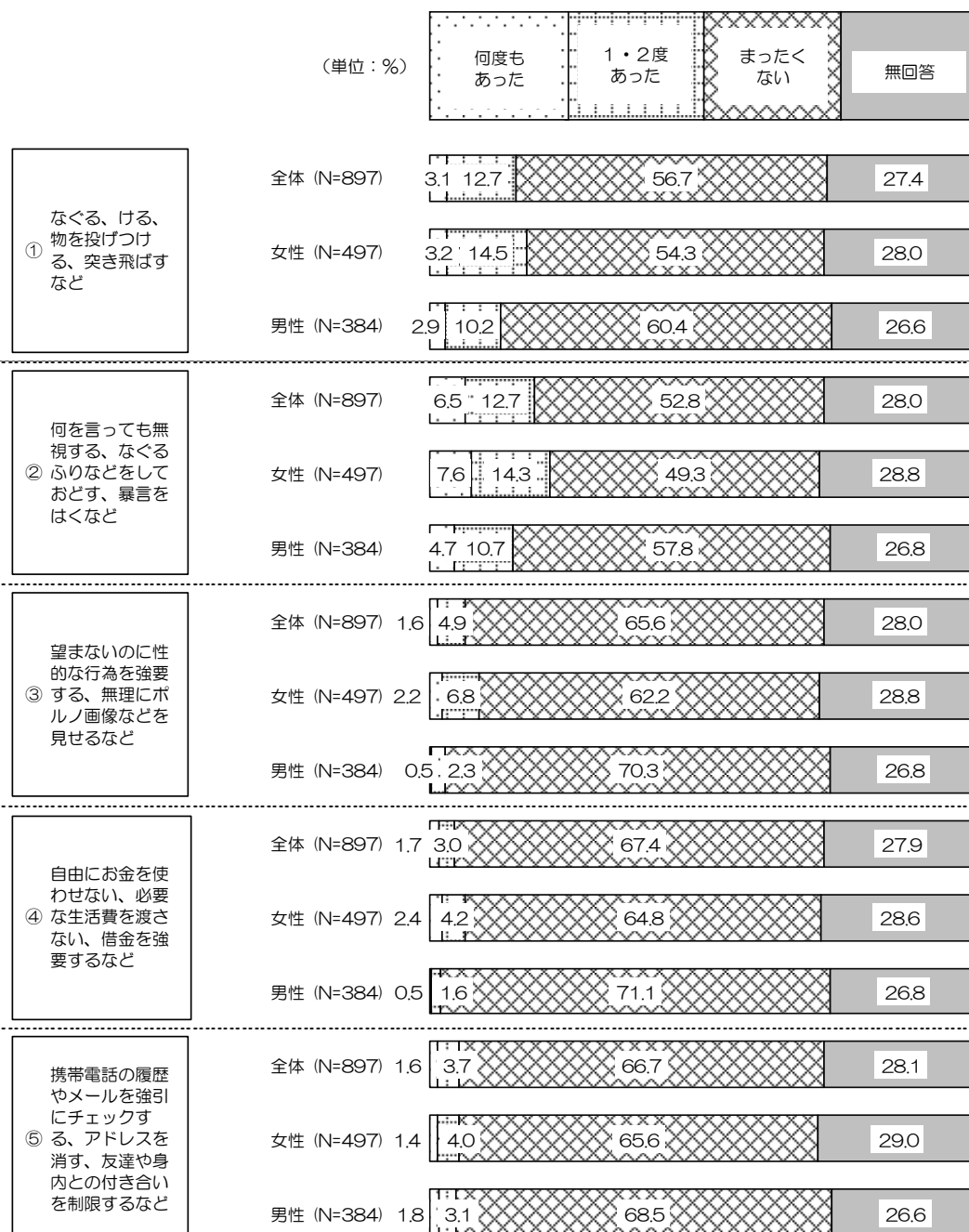
			サンプル数	① 何 度 も あ っ た	② 1 ・ 2 度 あ っ た	③ ま っ た く な い	④ 無 回 答
全 体			897	1.2	4.7	49.4	44.7
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	62	1.6	9.7	71.0	17.7
		30歳代	78	1.3	7.7	64.1	26.9
		40歳代	105	1.0	5.7	58.1	35.2
		50歳代	87	-	2.3	58.6	39.1
		60歳以上	165	1.2	1.8	32.7	64.2
	男性	18～29歳	48	4.2	10.4	60.4	25.0
		30歳代	49	4.1	8.2	46.9	40.8
		40歳代	74	1.4	4.1	64.9	29.7
		50歳代	62	1.6	4.8	53.2	40.3
		60歳以上	151	-	1.3	30.5	68.2

※ は、属性中トップの項目

(5) 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験

問24. これまでに配偶者・パートナーが、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。（○はひとつずつ）

〔図表7-5 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験（性別）〕

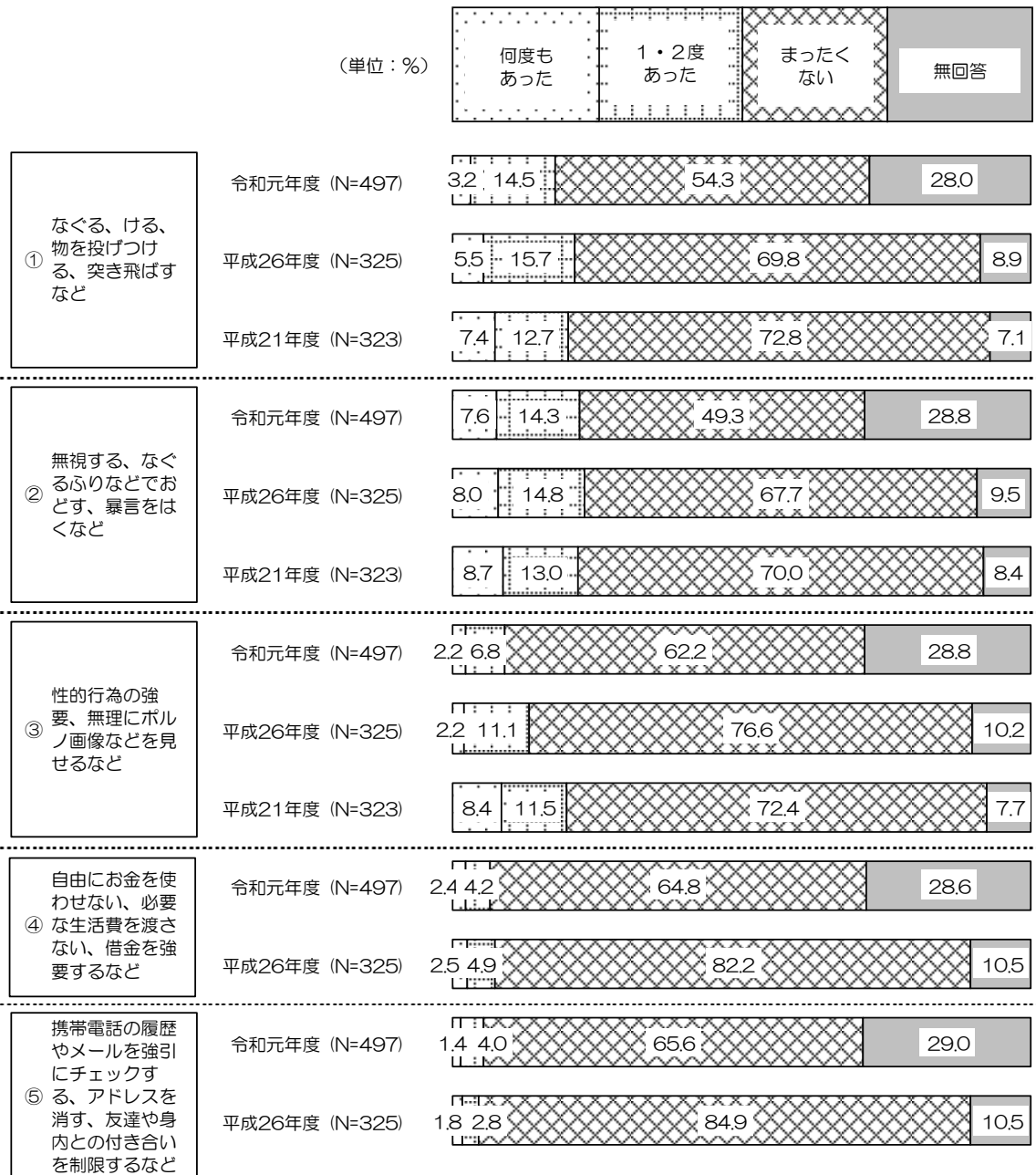


【DVの経験では精神的暴力を受けたことがある割合が高い】

配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験を「何度もあった」で見ると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が6.5%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が3.1%となっている。『あった』（「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた割合）で見ると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が19.2%で最も多い。（図表7-5）

〔図表 7-5-1 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験（過去の調査との比較）〕

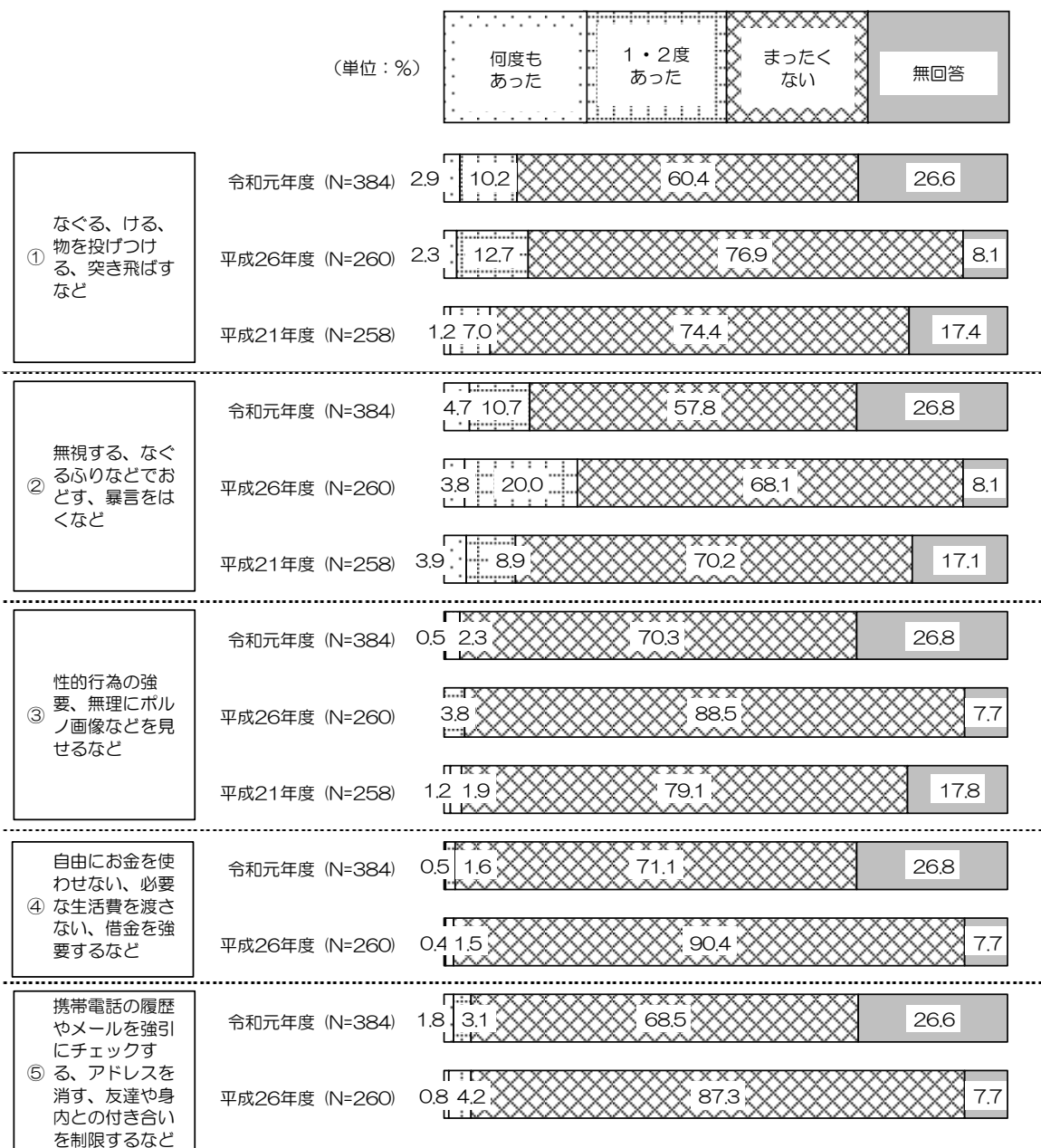
<女性>



※平成 21 年度調査では、④「自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど」

⑤「携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど」は項目なし

< 男性 >



※平成 21 年度調査では、④「自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど」

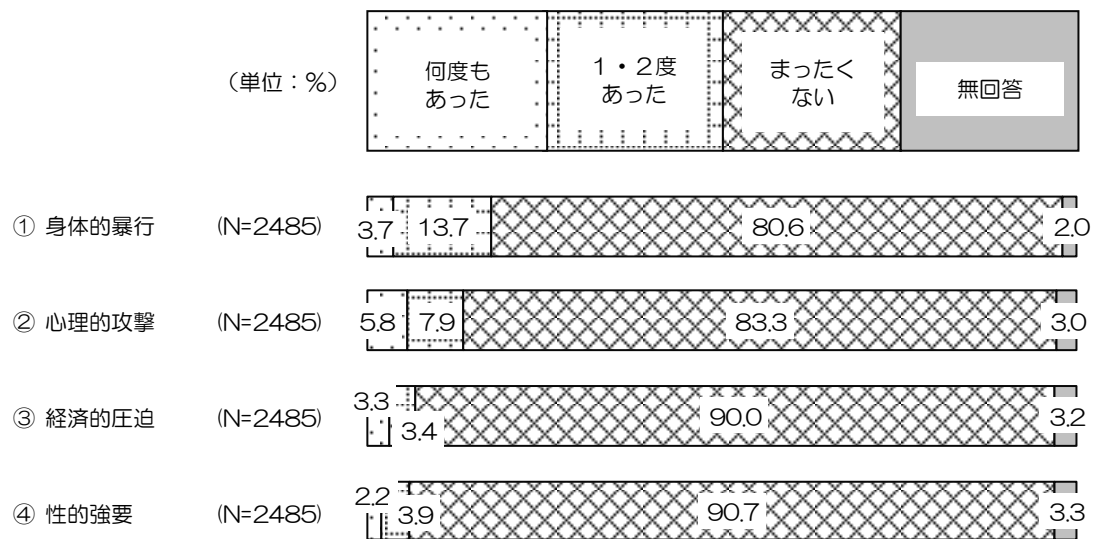
⑤「携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど」は項目なし

【過去の調査との比較】

平成 26 年度と比較すると、女性で『あった』は「性的行為の強要、無理にポルノ画像などを見せるなど」で 4.3 ポイント減少している。男性では『あった』は、「無視する、なぐるふりなどでおどす、暴言をはくなど」で 8.4 ポイント減少している。(図表 7-5-1)

〔図表 7-5-2 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験（内閣府調査との比較）〕

<内閣府（平成 29 年度）調査結果>



【内閣府調査との比較】

内閣府（平成 29 年度）調査によると、配偶者等からの暴力被害経験が、『あった』は、「身体的暴行」17.4%、「心理的攻撃」13.7%、「経済的圧迫」6.7%、「性的強要」6.1%となっている。

今回調査の「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」では『あった』は15.8%で、内閣府調査の「身体的暴行」よりも1.6ポイント低くなっている。(図表 7-5-2)

①なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど

〔図表 7-5-3 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① 何 度 も あ っ た	② 1 ・ 2 度 あ っ た	③ ま っ た く な い	④ 無 回 答	
全 体		897	3.1	12.7	56.7	27.4	
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	62	-	16	25.8	72.6
		30歳代	78	1.3	12.8	52.6	33.3
		40歳代	105	3.8	18.1	53.3	24.8
		50歳代	87	3.4	12.6	64.4	19.5
		60歳以上	165	4.8	18.8	61.2	15.2
	男性	18～29歳	48	2.1	-	25.0	72.9
		30歳代	49	8.2	6.1	51.0	34.7
		40歳代	74	4.1	10.8	62.2	23.0
		50歳代	62	3.2	16.1	67.7	12.9
		60歳以上	151	0.7	11.9	70.9	16.6

※ は、属性中トップの項目

②何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど

〔図表 7-5-4 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

		サンプル数	① 何 度 も あ っ た	② 1 ・ 2 度 あ っ た	③ ま っ た く な い	④ 無 回 答	
全 体		897	6.5	12.7	52.8	28.0	
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	62	1.6	-	24.2	74.2
		30歳代	78	9.0	11.5	46.2	33.3
		40歳代	105	10.5	12.4	52.4	24.8
		50歳代	87	5.7	21.8	52.9	19.5
		60歳以上	165	8.5	18.2	56.4	17.0
	男性	18～29歳	48	-	6.3	20.8	72.9
		30歳代	49	8.2	6.1	51.0	34.7
		40歳代	74	5.4	13.5	58.1	23.0
		50歳代	62	4.8	14.5	67.7	12.9
		60歳以上	151	4.6	10.6	67.5	17.2

※ は、属性中トップの項目

③望まないのに性的な行為を強要する、無理にポルノ画像などを見せるなど
〔図表 7-5-5 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① 何 度 も あ っ た	② 1 ・ 2 度 あ っ た	③ ま っ た く な い	④ 無 回 答
全 体			897	1.6	4.9	65.6	28.0
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	62	-	-	25.8	74.2
		30歳代	78	1.3	3.8	61.5	33.3
		40歳代	105	1.9	8.6	63.8	25.7
		50歳代	87	1.1	10.3	69.0	19.5
		60歳以上	165	4.2	7.9	71.5	16.4
	男性	18～29歳	48	-	-	27.1	72.9
		30歳代	49	-	6.1	59.2	34.7
		40歳代	74	-	2.7	74.3	23.0
		50歳代	62	1.6	3.2	82.3	12.9
		60歳以上	151	0.7	1.3	80.8	17.2

※ は、属性中トップの項目

④自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど
〔図表 7-5-6 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

			サンプル数	① 何 度 も あ っ た	② 1 ・ 2 度 あ っ た	③ ま っ た く な い	④ 無 回 答
全 体			897	1.7	3.0	67.4	27.9
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	62	-	-	25.8	74.2
		30歳代	78	1.3	6.4	59.0	33.3
		40歳代	105	1.9	2.9	70.5	24.8
		50歳代	87	3.4	4.6	72.4	19.5
		60歳以上	165	3.6	5.5	74.5	16.4
	男性	18～29歳	48	-	-	27.1	72.9
		30歳代	49	-	4.1	61.2	34.7
		40歳代	74	-	1.4	75.7	23.0
		50歳代	62	1.6	1.6	83.9	12.9
		60歳以上	151	0.7	1.3	80.8	17.2

※ は、属性中トップの項目

⑤携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど

〔図表 7-5-7 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験（性・年代別）〕

(単位：%)

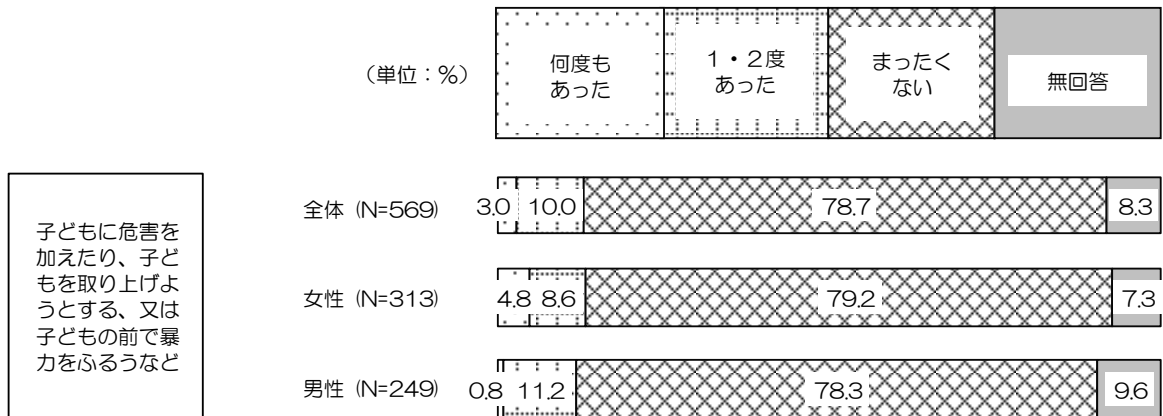
			サンプル数	① 何 度 も あ っ た	② 1 ・ 2 度 あ っ た	③ ま っ た く な い	④ 無 回 答
全 体			897	1.6	3.7	66.7	28.1
性 × 年 代 別	女性	18～29歳	62	-	-	25.8	74.2
		30歳代	78	3.8	6.4	56.4	33.3
		40歳代	105	1.0	3.8	70.5	24.8
		50歳代	87	1.1	3.4	75.9	19.5
		60歳以上	165	1.2	4.8	76.4	17.6
	男性	18～29歳	48	-	2.1	25.0	72.9
		30歳代	49	2.0	2.0	61.2	34.7
		40歳代	74	2.7	5.4	70.3	21.6
		50歳代	62	4.8	4.8	77.4	12.9
		60歳以上	151	0.7	2.0	80.1	17.2

※ は、属性中トップの項目

(6) 配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力(DV)を受けた経験

問24-1. 子どもがいる方に対して、これまでに配偶者・パートナーが、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか(○は1つ)

〔図表 7-5-8 配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力(DV)を受けた経験(性別)〕



【配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力(DV)を受けた経験は13%】

配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験は、「何どもあった」が3.0%、「1・2度あった」が10.0%となっており、性別で見ると女性のほうが「何どもあった」が4.8%と男性より4.0ポイント高い。

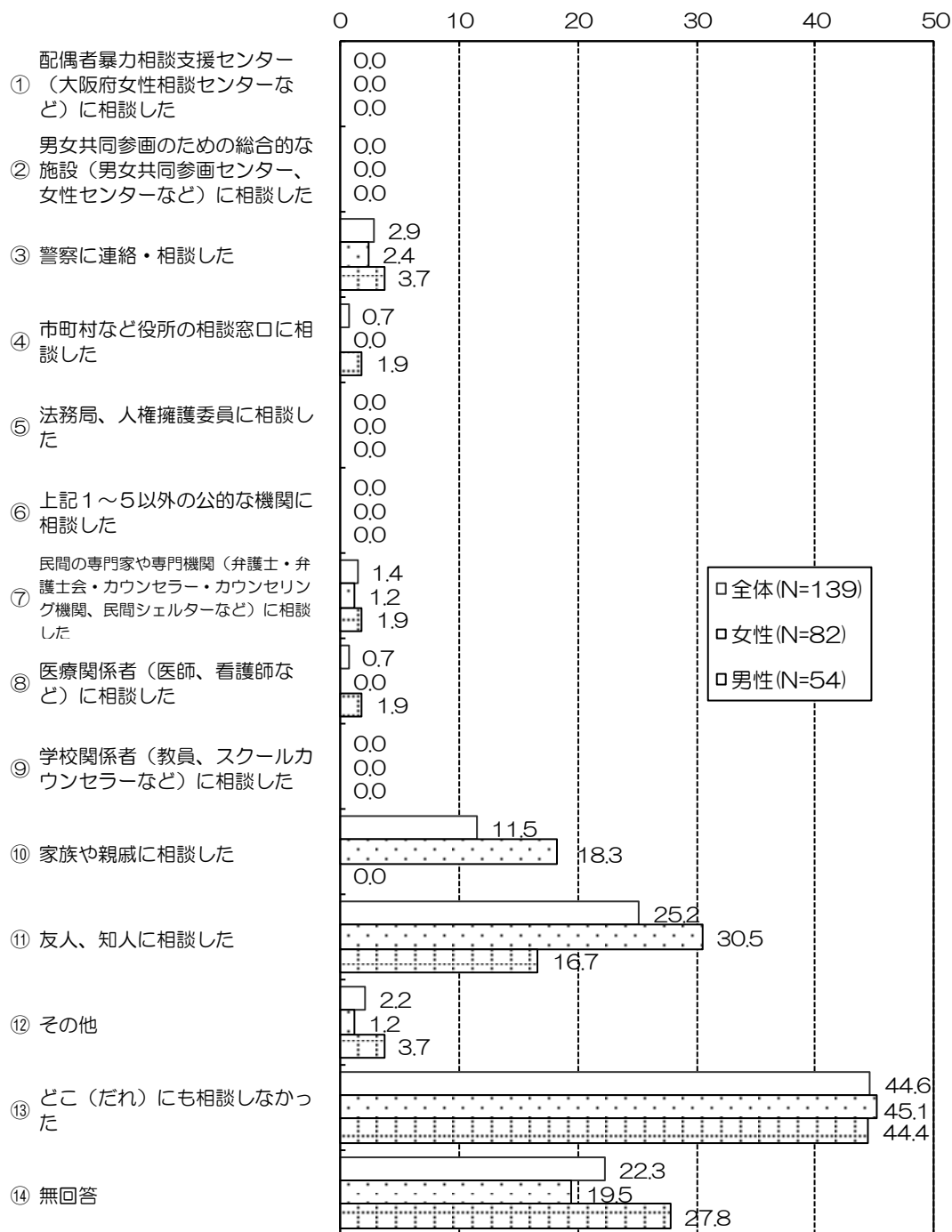
(7) ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害の相談先

問25. あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

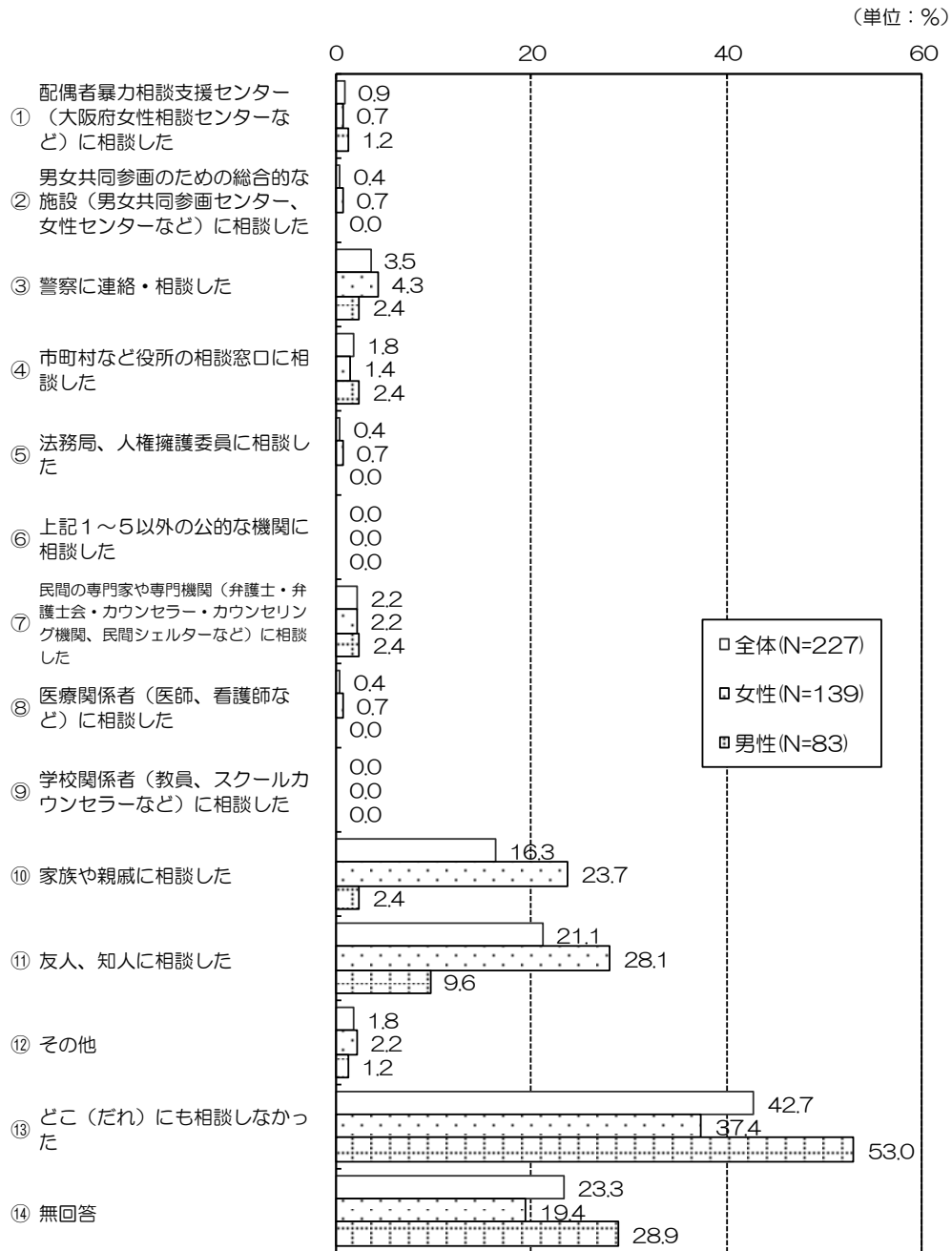
〔図表 7-6 ドメスティック・バイオレンス（DV）の相談先（性別）〕

< 交際相手からの暴力（デートDV） >

(単位：%)



<配偶者等からの暴力（DV）>



【デートDV、DVともに4割強が「どこ(だれ)にも相談しなかった」】

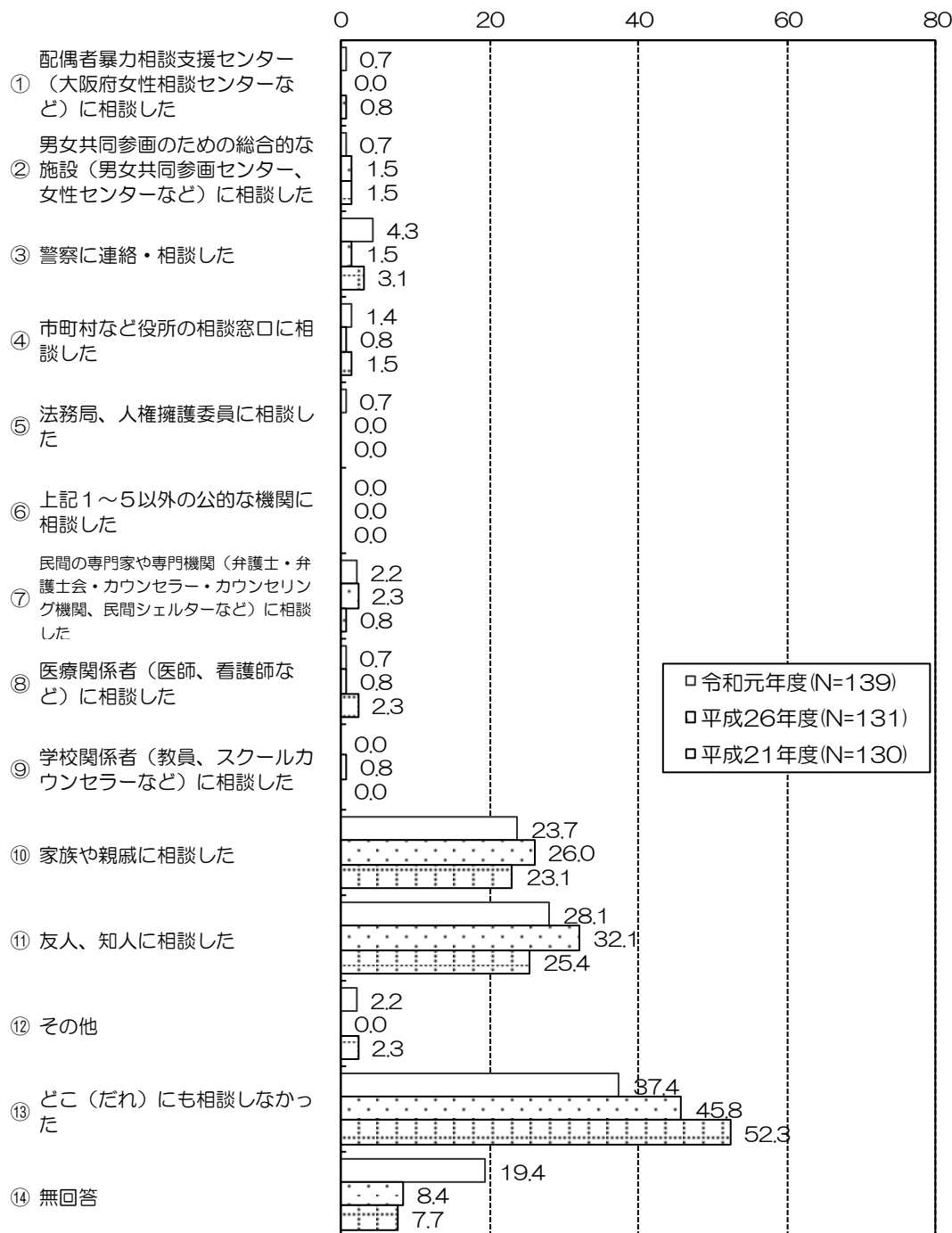
被害の相談先をみると、デートDV、DVとも4割強が「どこ(だれ)にも相談しなかった」としており、DV被害の場合、特に男性の割合が高くなっている。相談先は、デートDV被害の場合は「友人、知人」(25.2%)が最も高く、次いで、「家族や親戚」(11.5%)で、相談機関への相談割合は低い。

DV被害の場合も、主な相談先は「友人、知人」(21.1%)、「家族や親戚」(16.3%)となっている。相談機関では「警察」が3.5%となっている。(図表7-6)

〔図表 7-6-1 ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害の相談先（過去の調査との比較）〕

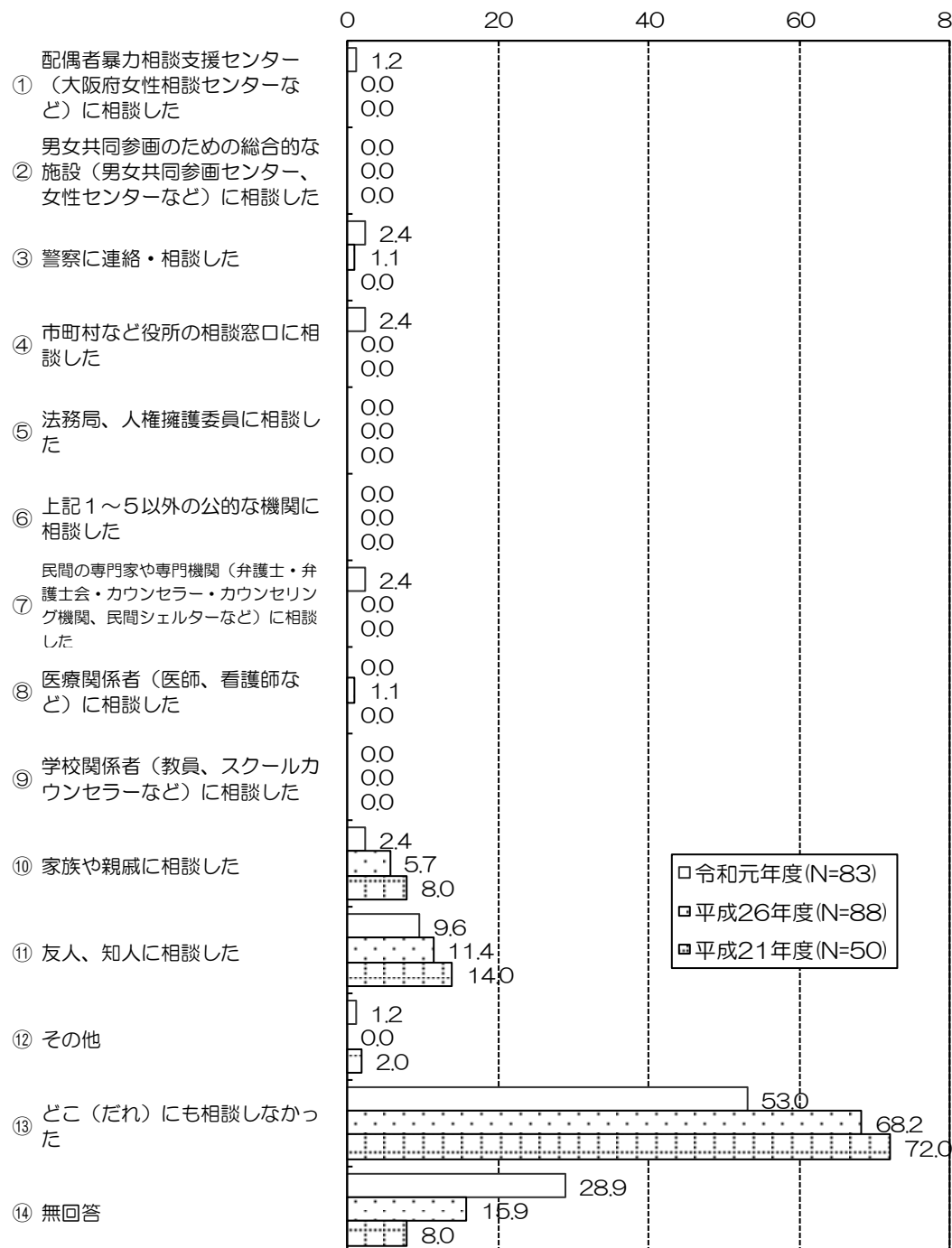
< 女性 >

(単位：%)



<男性>

(単位：%)



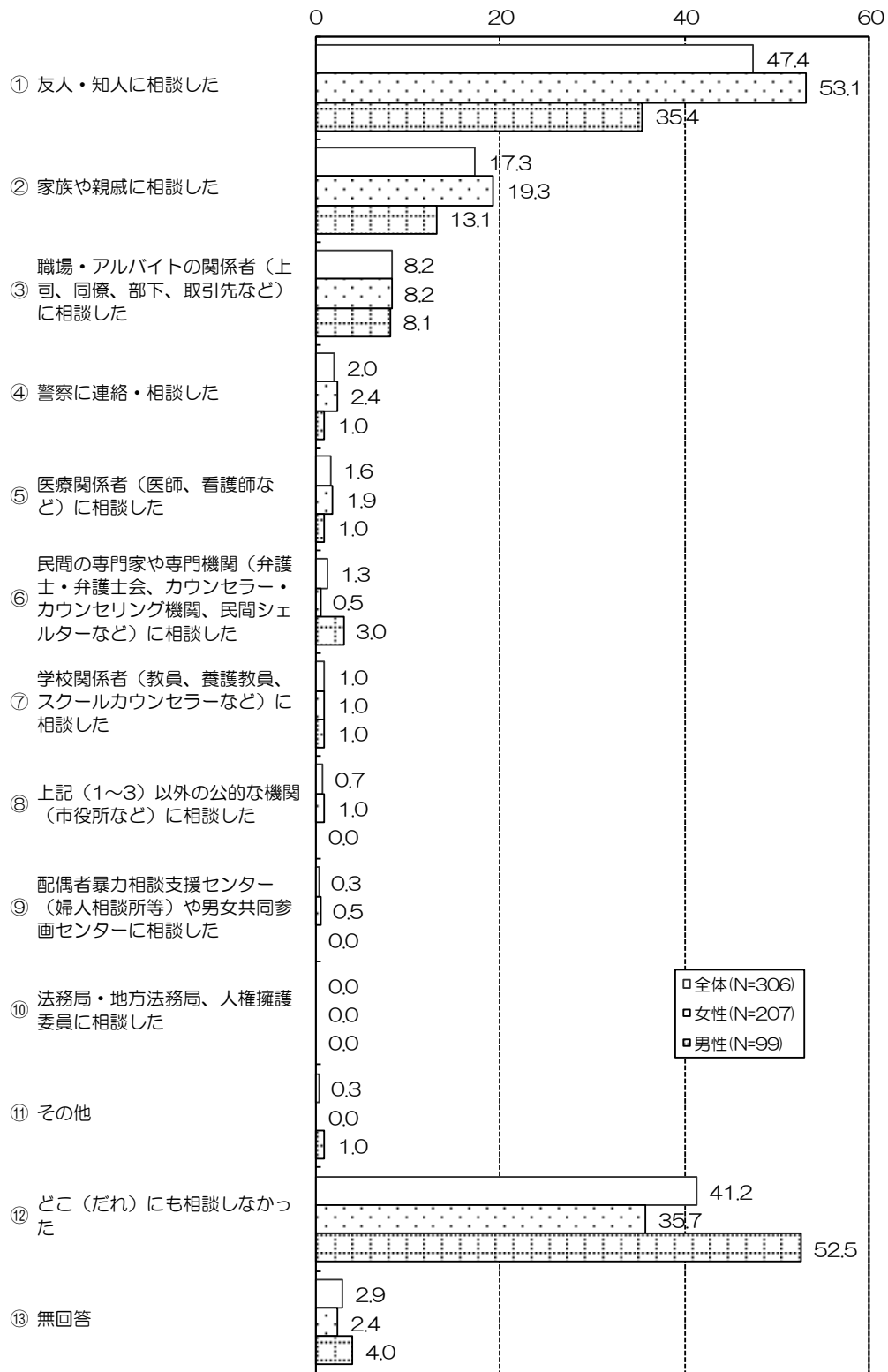
【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度と比較して、男女とも「どこ (だれ) にも相談しなかった」割合が減少している。(図表 7-6-1)

〔図表 7-6-2 ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害の相談先（内閣府調査との比較）〕

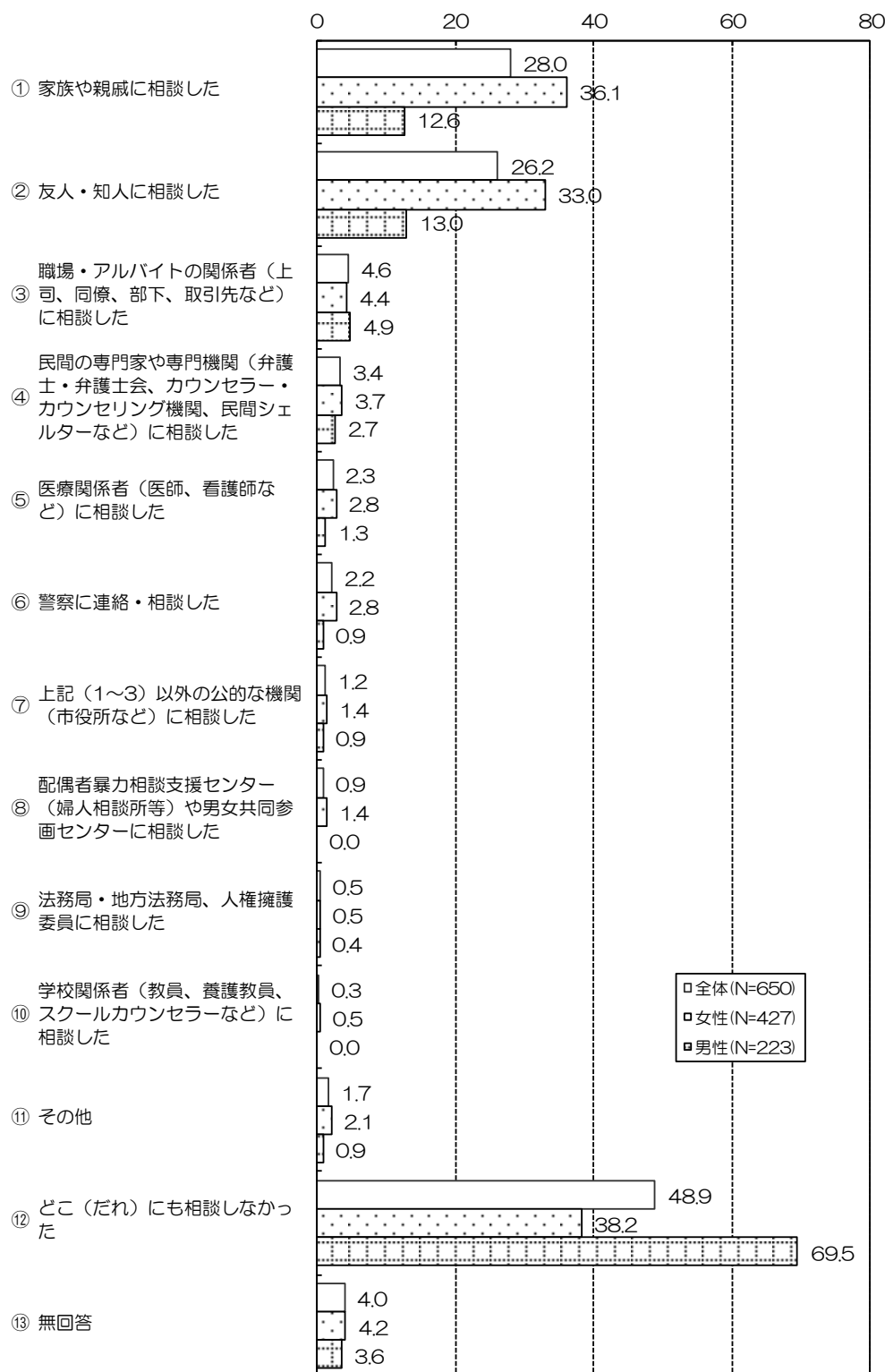
<内閣府（平成 29 年度）調査結果 交際相手からの暴力（デートDV）>

（単位：％）



<内閣府（平成29年度）調査結果 配偶者等からの暴力（DV）>

（単位：％）



【内閣府調査との比較】

内閣府（平成29年度）調査によると、デートDVでは「友人・知人に相談した」と「どこ（だれ）にも相談しなかった」が高くなっている。DVでは「どこ（だれ）にも相談しなかった」が高く、次いで「家族や親戚に相談した」、「友人・知人に相談した」となっている。

「どこ（だれ）にも相談しなかった」は特に男性で高く、デートDV、DVとも5割以上となっている。また、デートDV、DVとも相談機関への相談は少ない。（図表7-6-2）

〔図表 7-6-3 ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害の相談先（性・年代別）〕

※性・年代別の考察はサンプル数が少ないため参考値とする。

< 交際相手からの暴力（デートDV） >

(単位：%)

		サンプル数	① どに相談した 配偶者暴力相談センター （大阪府女性相談支援センター）	② 施設（男女共同参画のための総合的な 女性センターなど）に相談した	③ 警察に連絡・相談した	④ 市町村など役所の相談窓口 に相談した	⑤ 法務局、人権擁護委員に 相談した	⑥ 上記1～5以外の公的な 機関に相談した	⑦ 民間の専門家や専門機関（弁護士・ 弁護士会、カウンセリング機関、民 間シェルターなどに相談した	⑧ 医療関係者（医師、看護師な ど）に相談した	⑨ 学校関係者（教員、スクールカ ウンセラーなど）に相談した	⑩ 家族や親戚に相談した	⑪ 友人、知人に相談した	⑫ その他	⑬ どこ（だれ）にも相談しなかつ た	⑭ 無回答
全 体		139	-	-	2.9	0.7	-	-	1.4	0.7	-	11.5	25.2	2.2	44.6	22.3
性×年代別	女性	18～29歳	11	-	9.1	-	-	-	-	-	-	27.3	36.4	9.1	36.4	9.1
		30歳代	26	-	3.8	-	-	-	-	-	-	23.1	42.3	-	42.3	15.4
		40歳代	19	-	-	-	-	-	-	-	-	5.3	26.3	-	52.6	21.1
		50歳代	12	-	-	-	-	-	8.3	-	-	16.7	25.0	-	50.0	16.7
		60歳以上	14	-	-	-	-	-	-	-	-	21.4	14.3	-	42.9	35.7
	男性	18～29歳	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	8.3	33.3	8.3
		30歳代	10	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	10.0	-	60.0	20.0
		40歳代	13	-	7.7	-	-	-	-	7.7	-	-	-	7.7	61.5	23.1
50歳代		11	-	9.1	9.1	-	-	-	-	-	-	-	18.2	-	36.4	27.3
	60歳以上	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	75.0	

※ は、属性中トップの項目

< 配偶者等からの暴力（DV） >

(単位：%)

		サンプル数	① どに相談した 配偶者暴力相談センター （大阪府女性相談支援センター）	② 施設（男女共同参画のための総合的な 女性センターなど）に相談した	③ 警察に連絡・相談した	④ 市町村など役所の相談窓口 に相談した	⑤ 法務局、人権擁護委員に 相談した	⑥ 上記1～5以外の公的な 機関に相談した	⑦ 民間の専門家や専門機関（弁護士・ 弁護士会、カウンセリング機関、民 間シェルターなどに相談した	⑧ 医療関係者（医師、看護師な ど）に相談した	⑨ 学校関係者（教員、スクールカ ウンセラーなど）に相談した	⑩ 家族や親戚に相談した	⑪ 友人、知人に相談した	⑫ その他	⑬ どこ（だれ）にも相談しなかつ た	⑭ 無回答	
全 体		227	0.9	0.4	3.5	1.8	0.4	-	2.2	0.4	-	16.3	21.1	1.8	42.7	23.3	
性×年代別	女性	18～29歳	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	22	-	4.5	-	-	-	-	-	-	-	27.3	54.5	4.5	18.2	13.6
		40歳代	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.4	28.1	3.1	56.3	15.6
		50歳代	29	-	-	6.9	3.4	-	3.4	-	-	41.4	34.5	-	27.6	13.8	
		60歳以上	55	1.8	1.8	3.6	1.8	1.8	-	3.6	1.8	-	21.8	14.5	1.8	40.0	27.3
	男性	18～29歳	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	50.0	25.0
		30歳代	10	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	10.0	10.0	-	70.0	10.0
		40歳代	22	-	-	-	4.5	-	4.5	-	-	-	-	4.5	4.5	54.5	31.8
50歳代		18	5.6	-	11.1	5.6	-	-	-	-	-	-	11.1	-	44.4	22.2	
	60歳以上	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.4	10.3	-	51.7	37.9	

※ は、属性中トップの項目

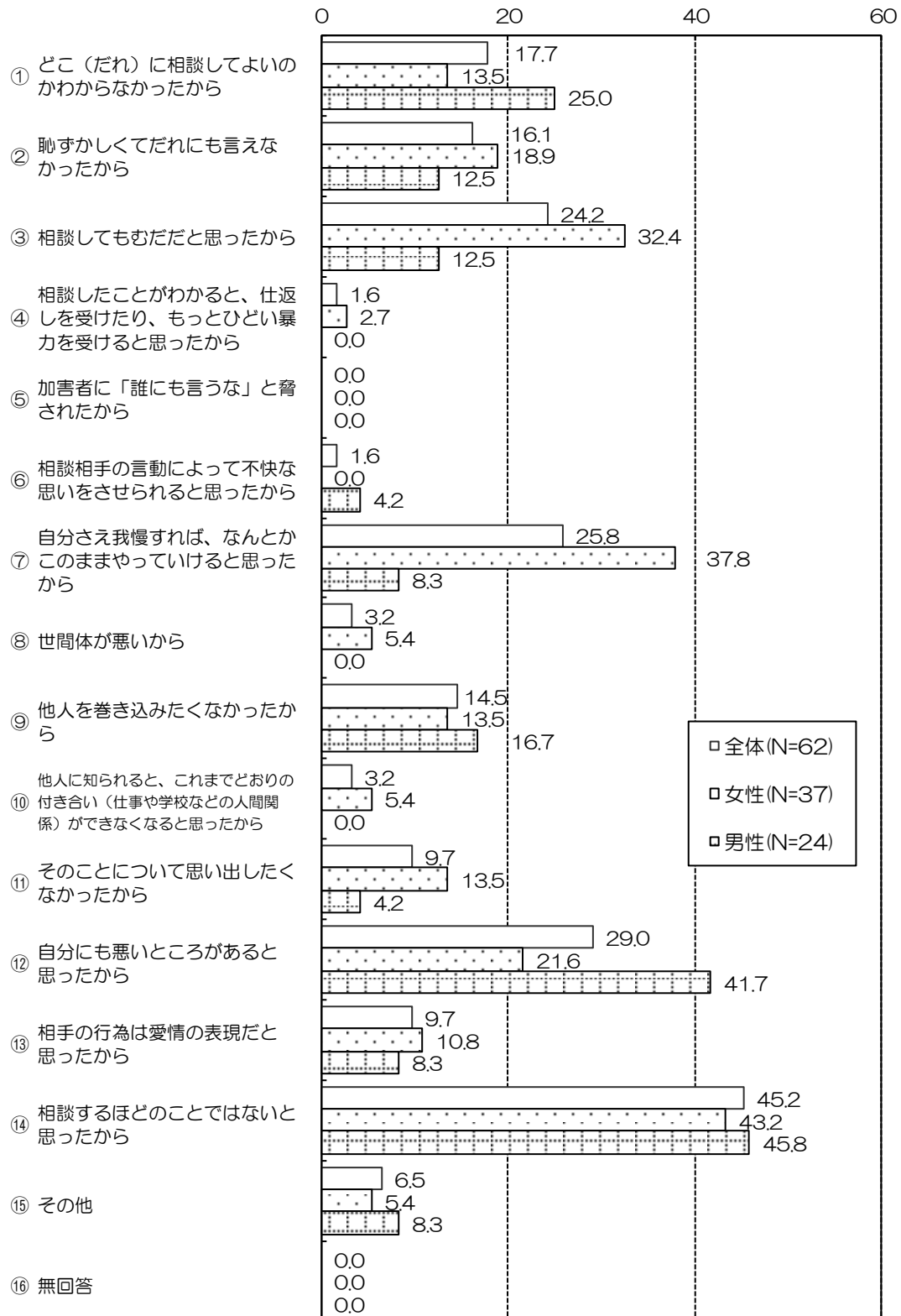
(8) ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害を相談しなかった理由

問26. あなたが、被害をどこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

〔図表7-7 ドメスティック・バイオレンス (DV) を相談しなかった理由 (性別)〕

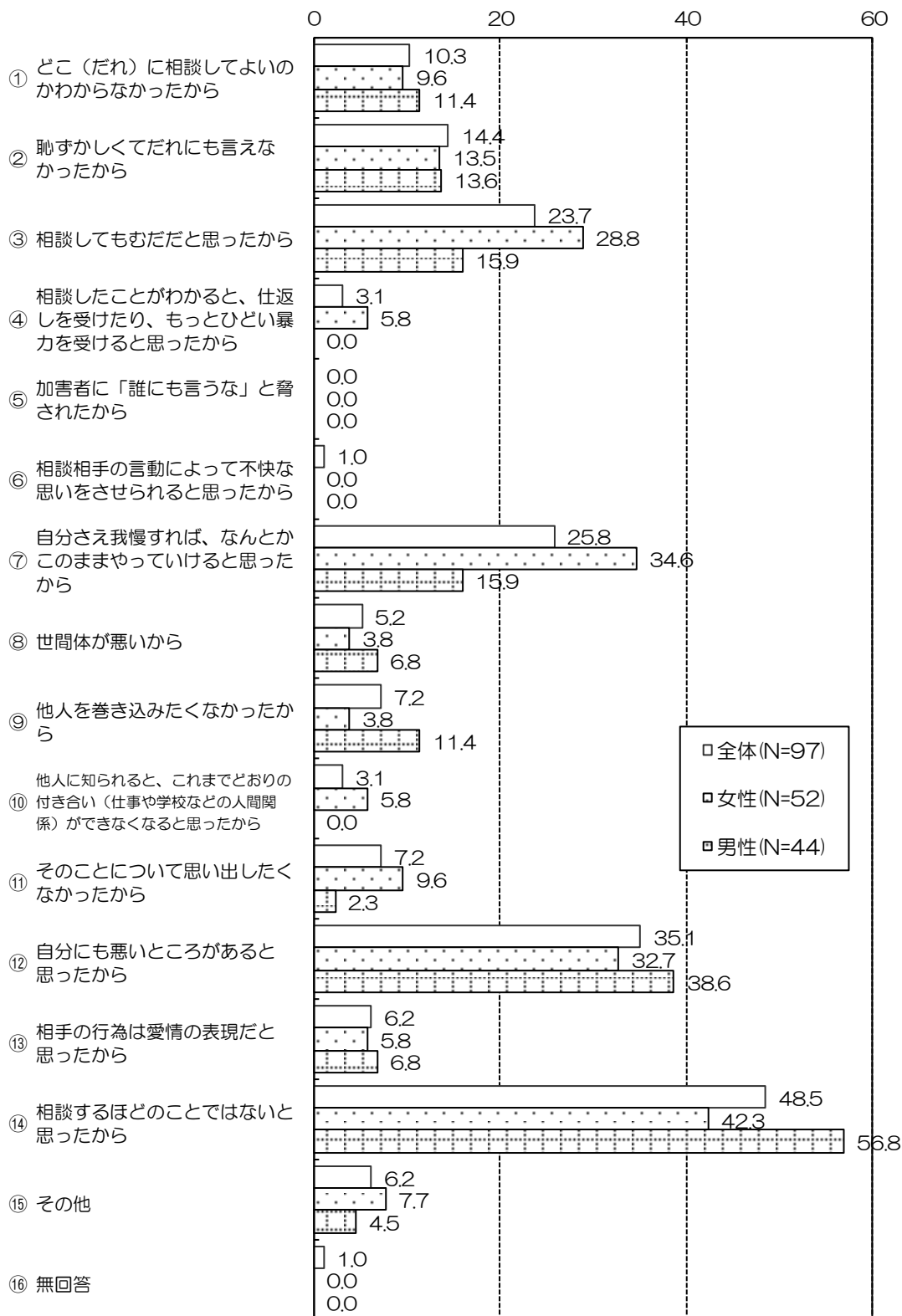
<交際相手からの暴力(デートDV)>

(単位: %)



<配偶者等からの暴力（DV）>

(単位：%)



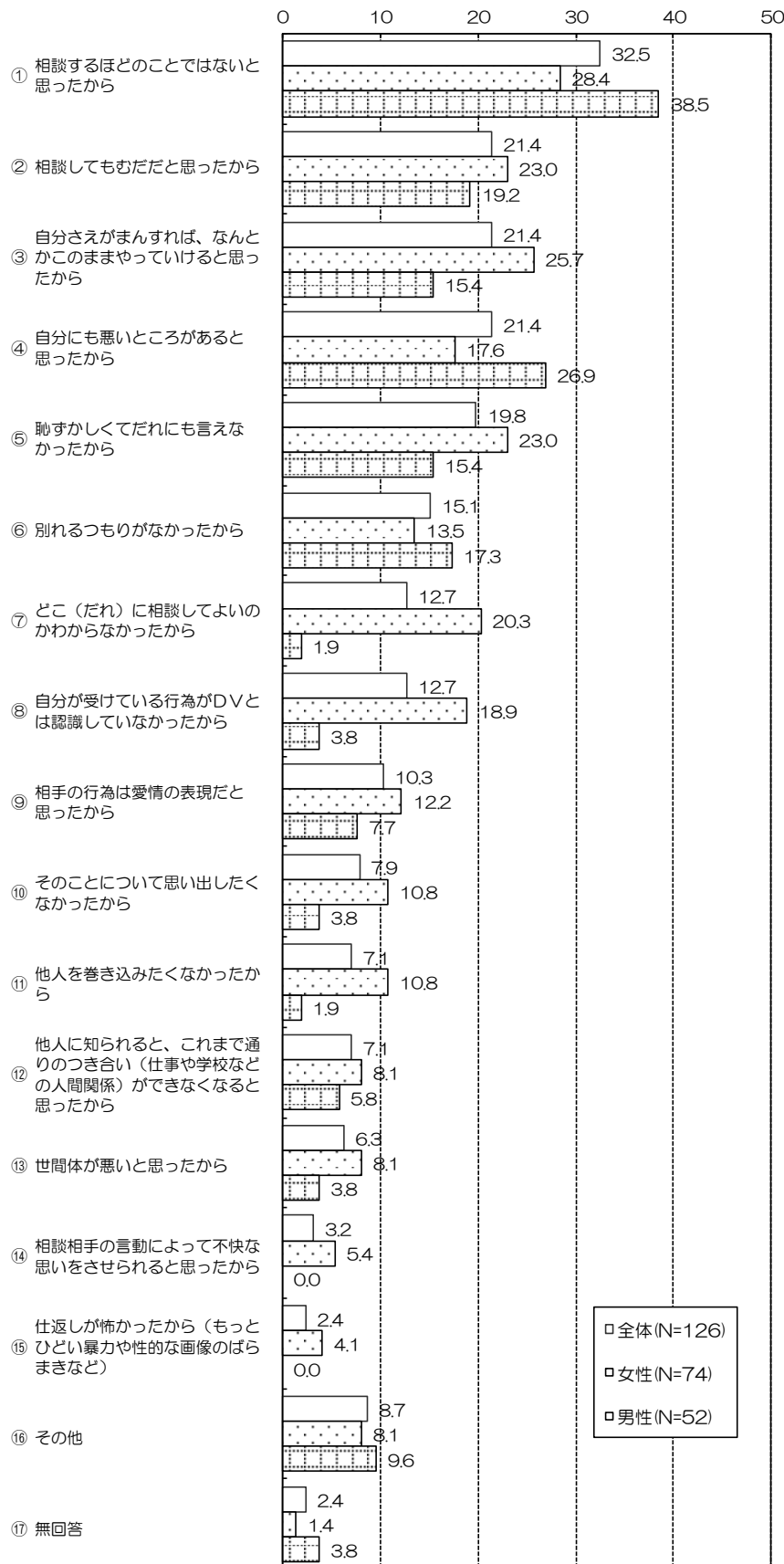
【半数近くが「相談するほどのことではない」と思っていた】

被害を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも最も高く、特に男性のDV被害者で56.8%となっている。次いで、デートDV、DVともに「自分にも悪いところがあると思ったから」が高くなっている。(図表7-7)

〔図表 7-7-1 ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害を相談しなかった理由
（内閣府調査との比較）〕

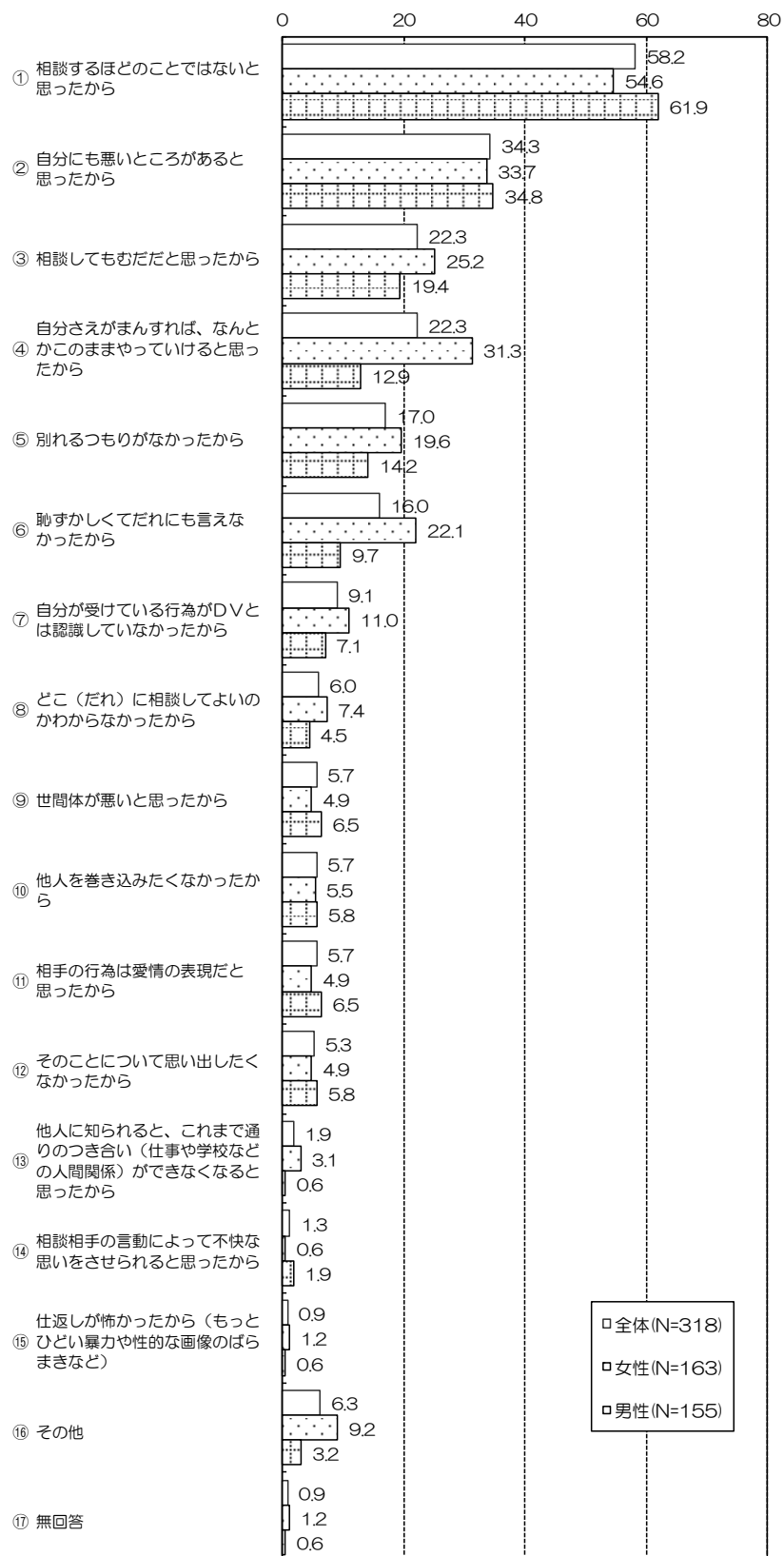
<内閣府（平成 29 年度）調査結果 交際相手からの暴力（デートDV）>

（単位：％）



<内閣府（平成29年度）調査結果 配偶者からの暴力（DV）>

（単位：％）



【内閣府調査との比較】

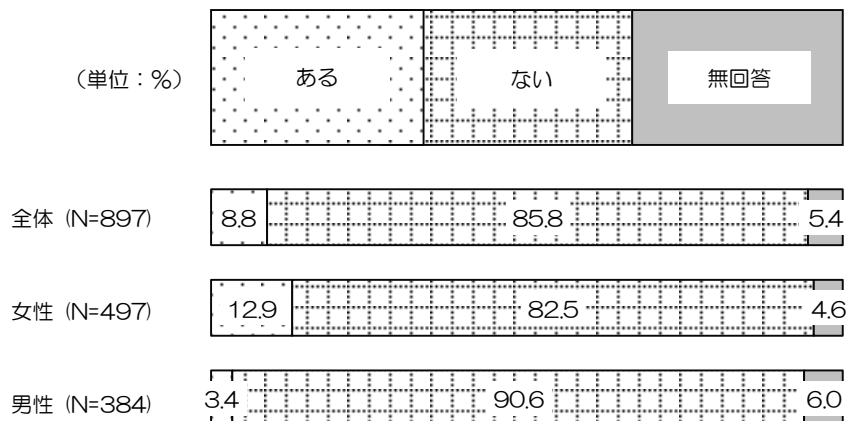
内閣府（平成29年度）調査をみると、デートDV、DVとも、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも最も高くなっており、特に男性はデートDVで38.5%、DVで61.9%と高く、今回調査と同じ傾向となっている。（図表7-7-1）

8 性暴力・性犯罪について

(1) 性暴力・性犯罪被害経験

問 27. あなたはこれまでに、望まないのに性的な行為をされたことがありますか。
(○はひとつ)

〔図表 8-1 性暴力・性犯罪被害経験〕

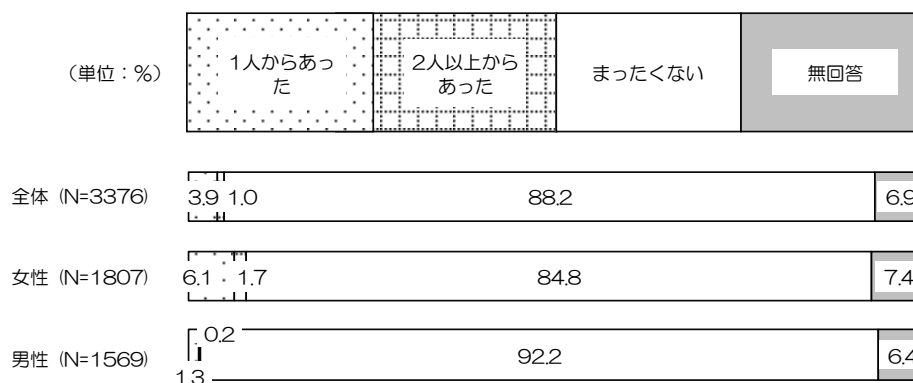


【女性の10%以上が「被害経験あり」】

性暴力・性犯罪被害経験が「ある」女性は12.9%、男性は3.4%である。(図表8-1)

〔図表 8-1-1 性暴力・性犯罪被害経験（内閣府調査との比較）〕

<内閣府（平成29年度）調査結果>



【内閣府調査との比較】

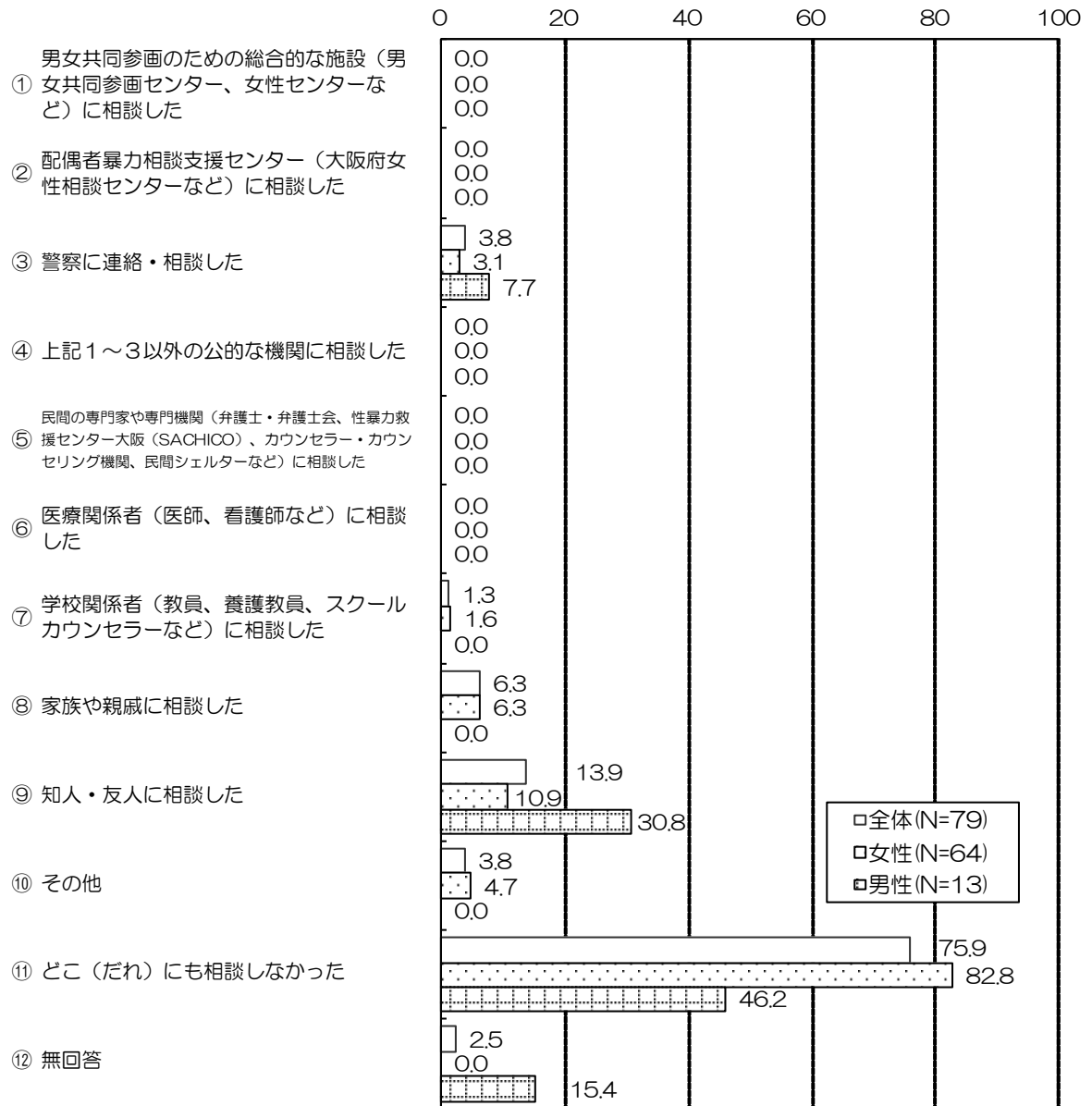
内閣府（平成29年度）調査では、「1人からあった」が3.9%、「2人以上からあった」が1.0%で、合計4.9%となっており、今回調査の方が3.9ポイント高い。(図表8-1-1)

(2) 性暴力・性犯罪被害の相談先

問27-1. あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(〇はいくつでも)

〔図表8-2 性暴力・性犯罪被害の相談先〕

(単位：%)



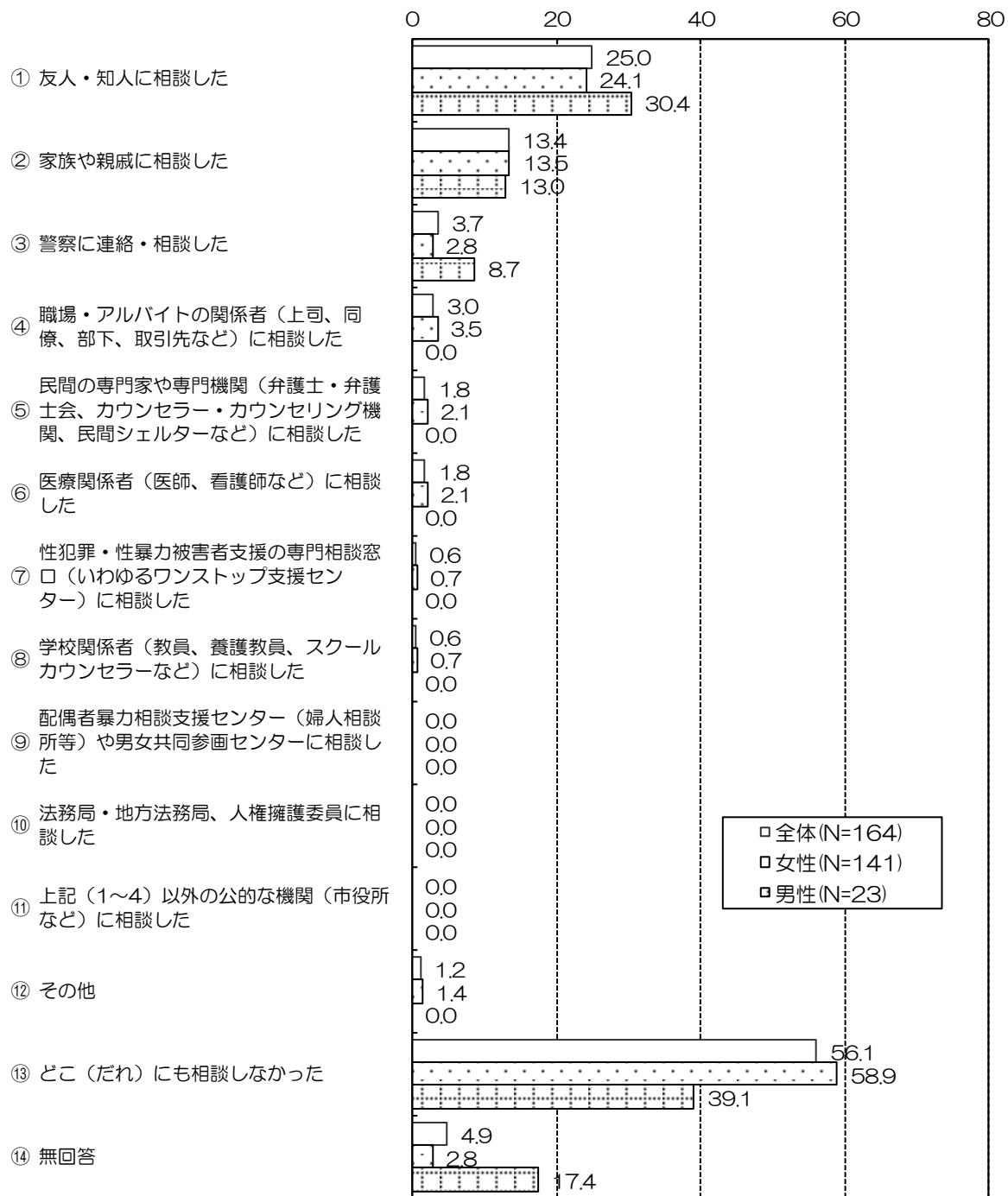
【「どこにも相談しなかった」が半数以上】

性暴力・性犯罪被害については「どこ（だれ）にも相談しなかった」が75.9%で最も高い。次いで「知人・友人に相談した」が13.9%、「家族や親戚に相談した」が6.3%となっている。（図表8-2）

〔図表 8-2-1 性暴力・性犯罪被害の相談先（内閣府調査との比較）〕

<内閣府（平成 29 年度）調査結果>

（単位：％）



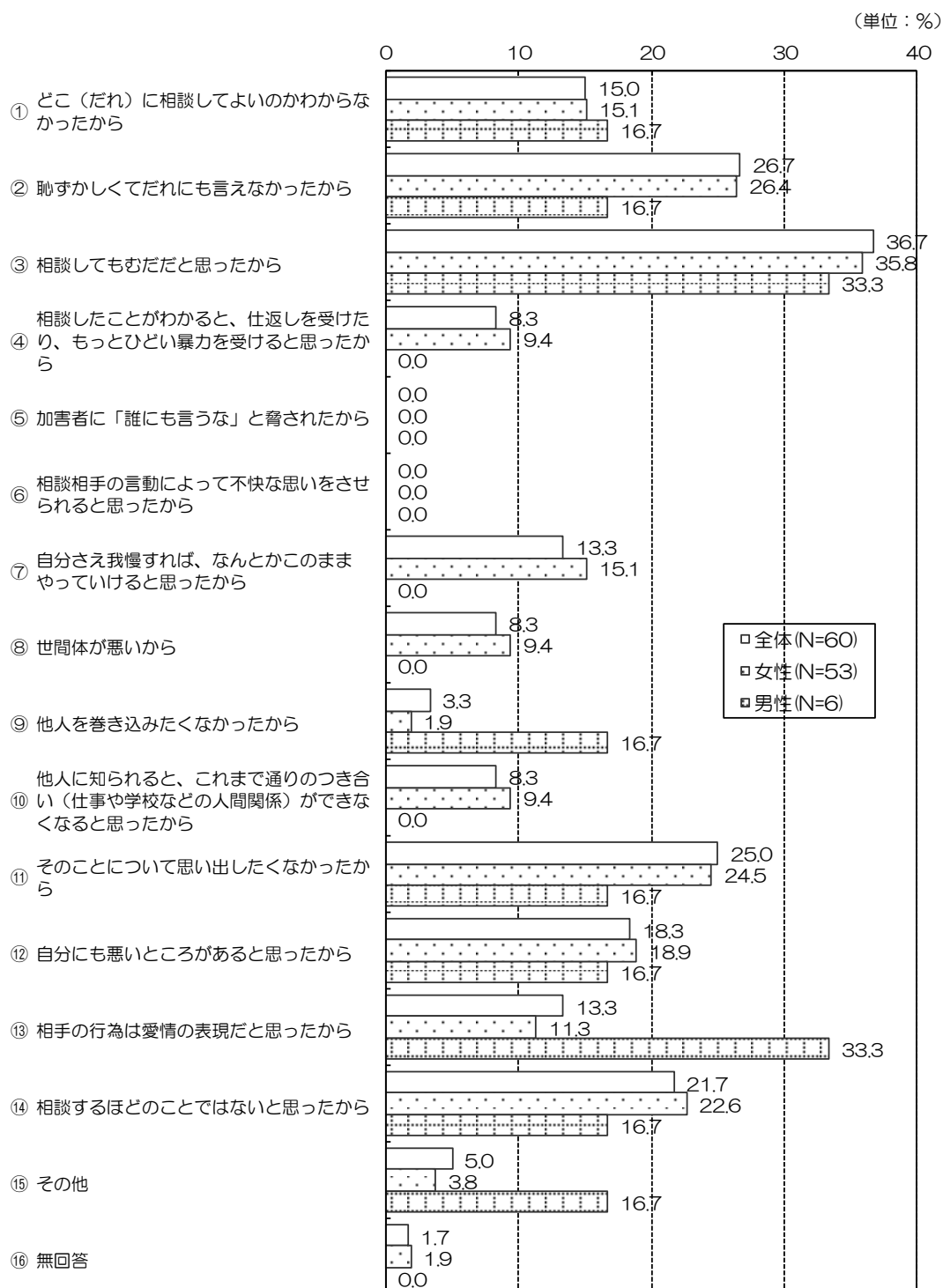
【内閣府調査との比較】

内閣府（平成 29 年度）調査では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は 56.1％で、今回調査の方が 19.8 ポイント高い。また、相談先として「友人・知人」「家族や親戚」の割合が高く、今回調査と同じ傾向にある。（図表 8-2-1）

(3) 性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由

問 27-2. あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

〔図表 8-3 性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由〕

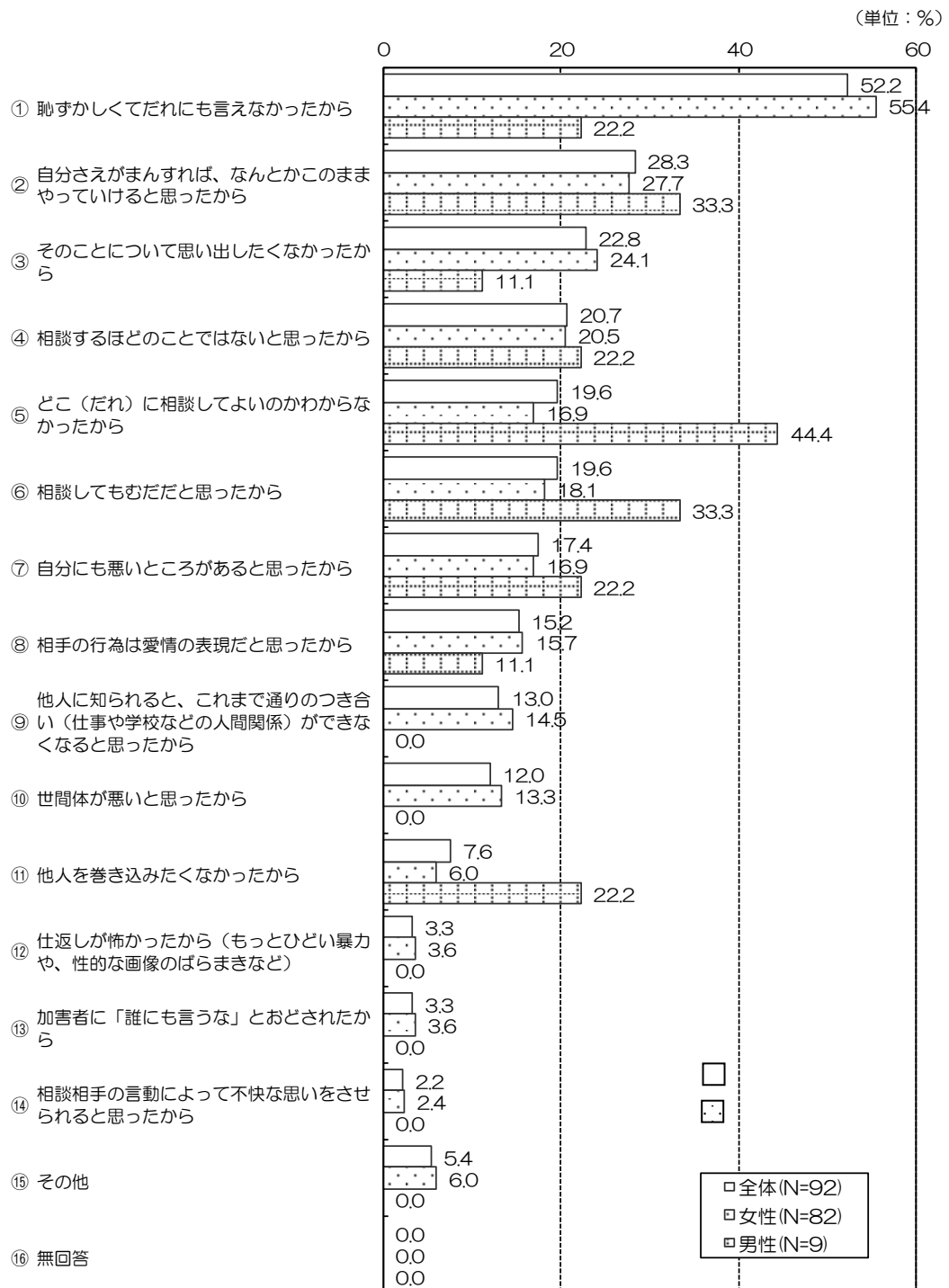


【相談しなかった理由は「相談してもむだだと思ったから」】

性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由は、「相談してもむだだと思ったから」が 36.7%で最も高く、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 26.7%となっている。（図表 8-3）

〔図表 8-3-1 性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由（内閣府調査との比較）〕

<内閣府（平成 29 年度）調査結果>



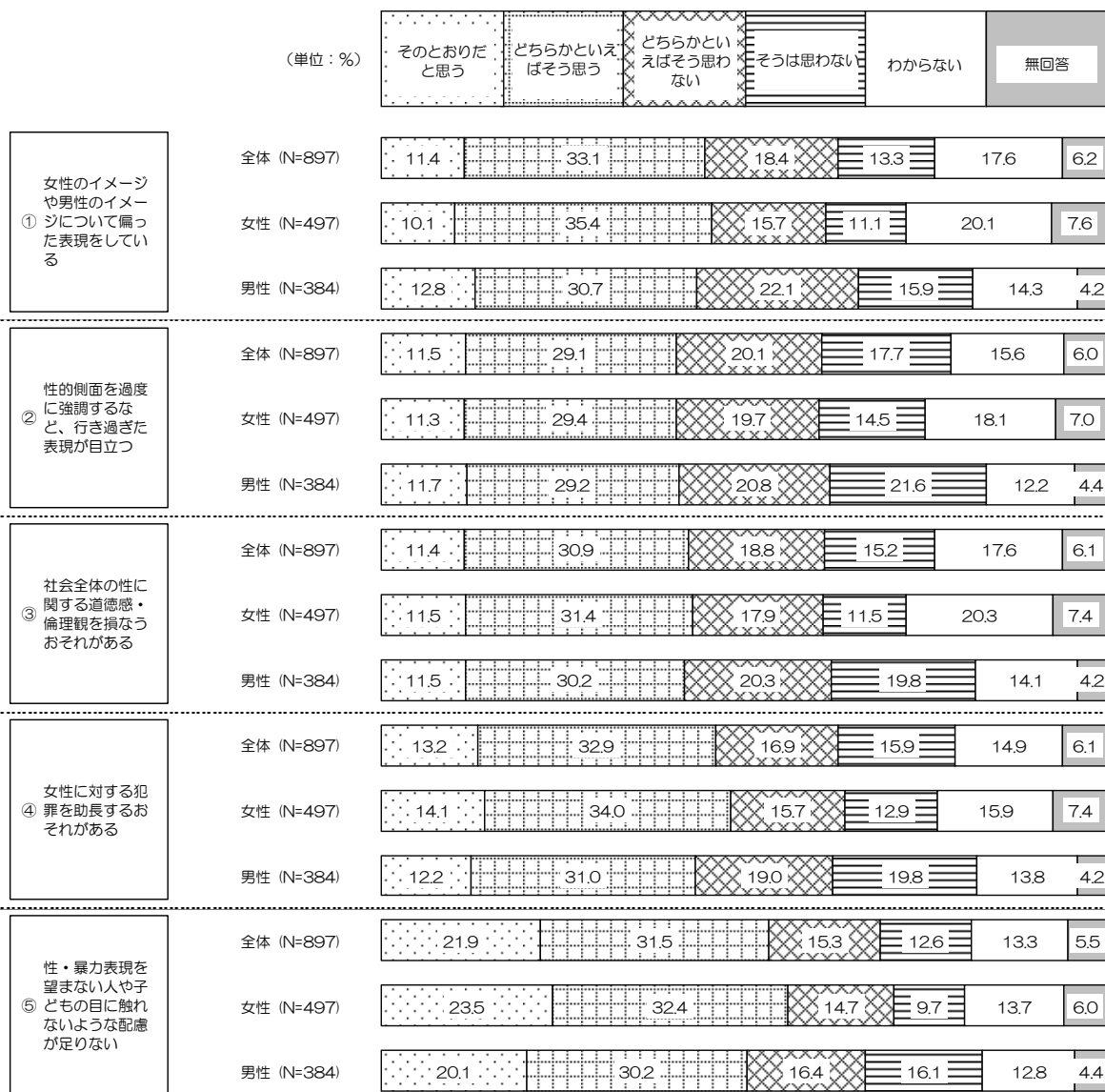
【内閣府調査との比較】

内閣府（平成 29 年度）調査では「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 52.2%と、今回調査の方が 25.5 ポイント低い。次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（28.3 ポイント）、「そのことについて思い出したくなかったから」（22.8 ポイント）となっている。（図表 8-3-1）

(4) メディアにおける性・暴力表現

問28. テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(〇はひとつずつ)

〔図表8-4 メディアにおける性・暴力表現(性別)〕



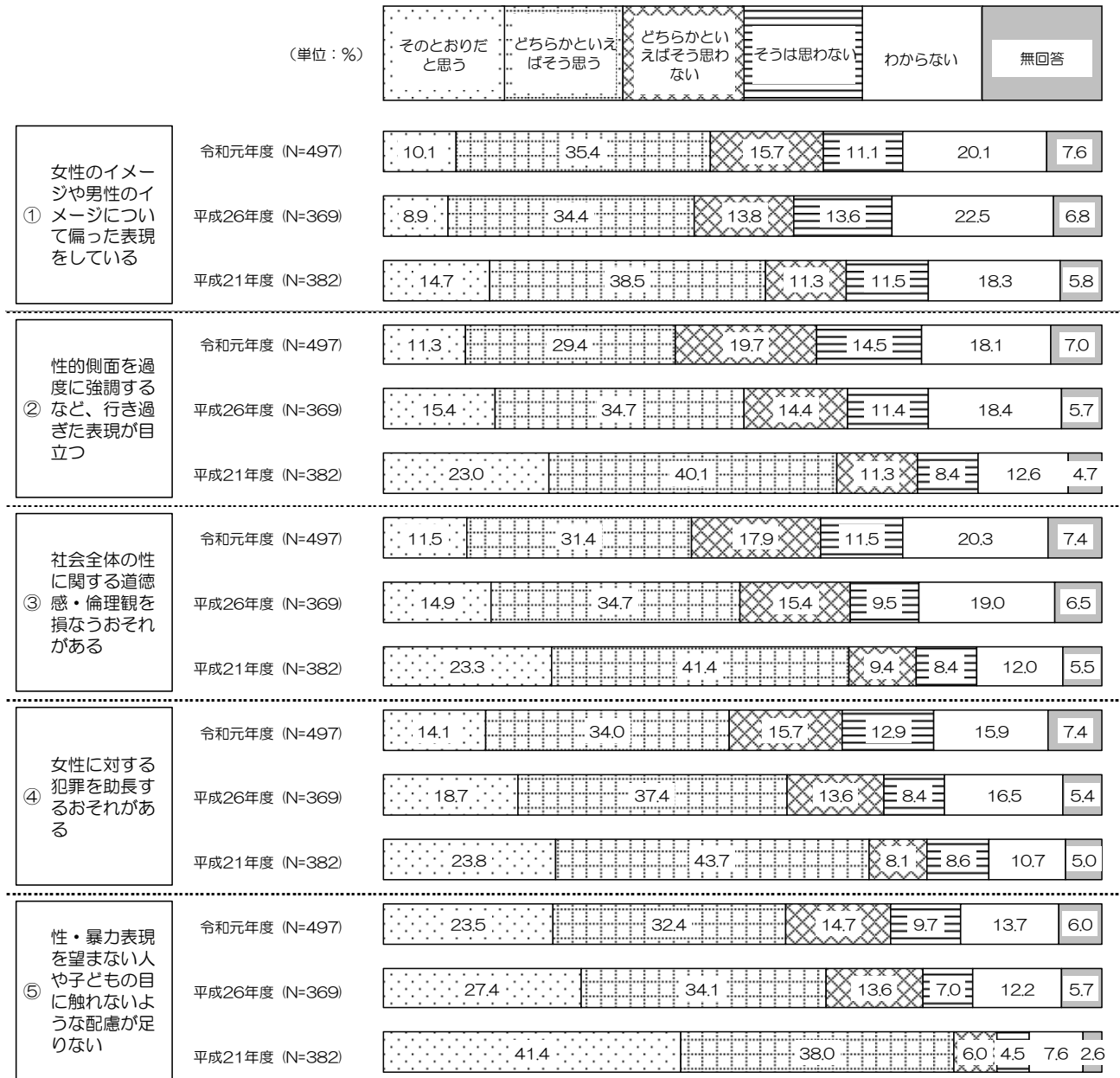
【「性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」

と思う人が5割以上】

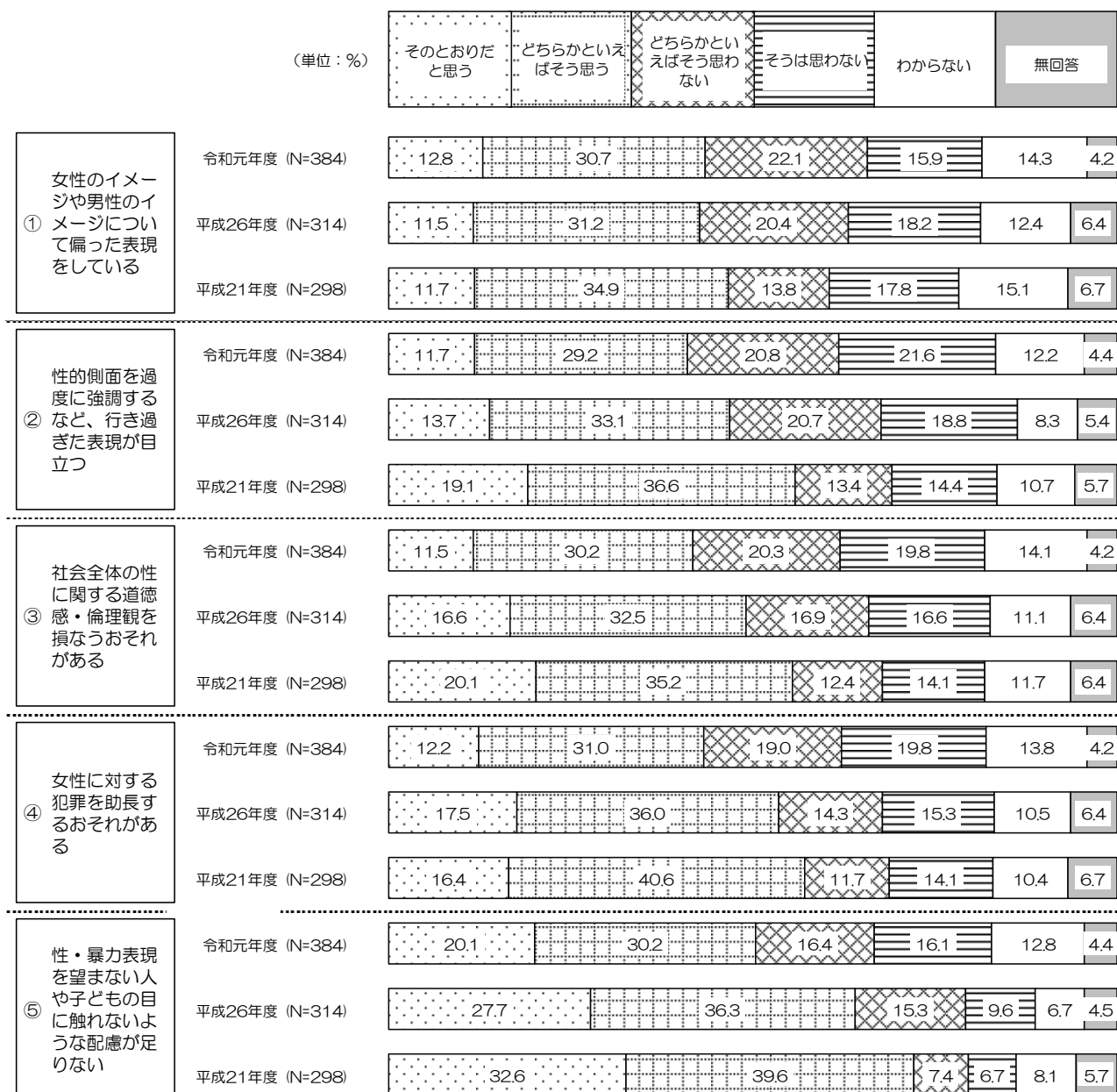
メディアにおける性・暴力表現について、『そう思う』（「そのとおりだと思う」と「どちらかとい
えばそう思う」を合わせた割合）が最も高いのは「性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れな
いような配慮が足りない」で53.4%となっている。（図表8-4）

〔図表 8-4-1 メディアにおける性・暴力表現（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



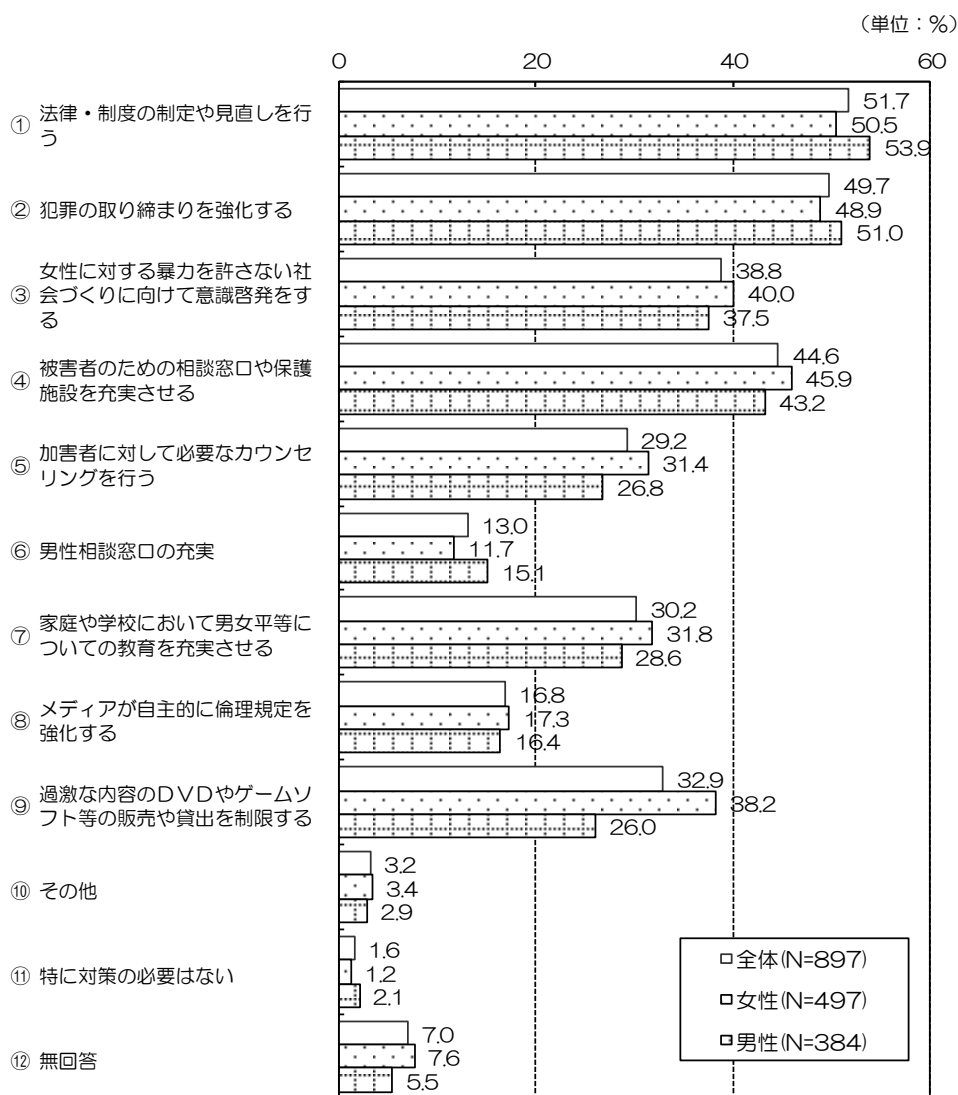
【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比較すると、ほぼ全ての項目で『そう思う』の割合が減少している。(図表 8-4-1)

(5) 配偶者等からの暴力をなくすためにもっと取組が必要なこと

問29. 配偶者等からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、性暴力・性犯罪などをなくすために、もっと取組を進める必要があるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

〔図表8-5 配偶者等からの暴力をなくすためにもっと取組が必要なこと(性別)〕



【「法律・制度の制定や見直しを行う」を挙げた人が5割以上】

配偶者等からの暴力をなくすために必要な取組は、「法律・制度の制定や見直しを行う」が51.7%で最も高く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」が49.7%、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が44.6%となっている。性別でみると、女性は「過激な内容のDVDやゲームソフト等の販売や貸出を制限する」が男性より12.2ポイント高くなっている。(図表8-5)

9 男女共同参画に関する用語の認知度

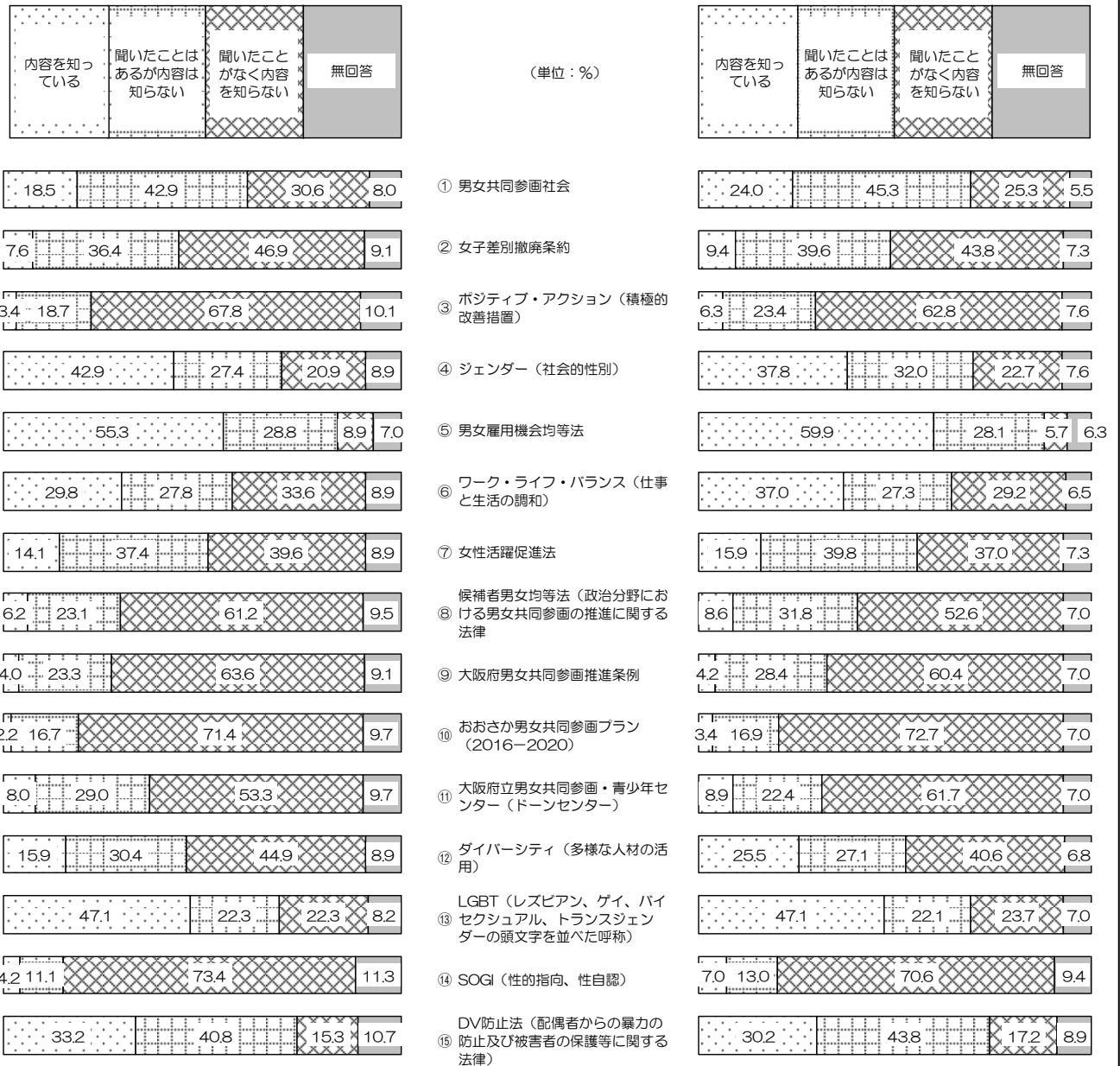
(1) 見聞きしたことがある言葉

問30. 次にあげる項目のうちで、あなたがお存じのものはありますか。あてはまるものを選んでください。(〇はひとつずつ)

〔図表9-1 見聞きしたことがある言葉(性別)〕

<女性>

<男性>



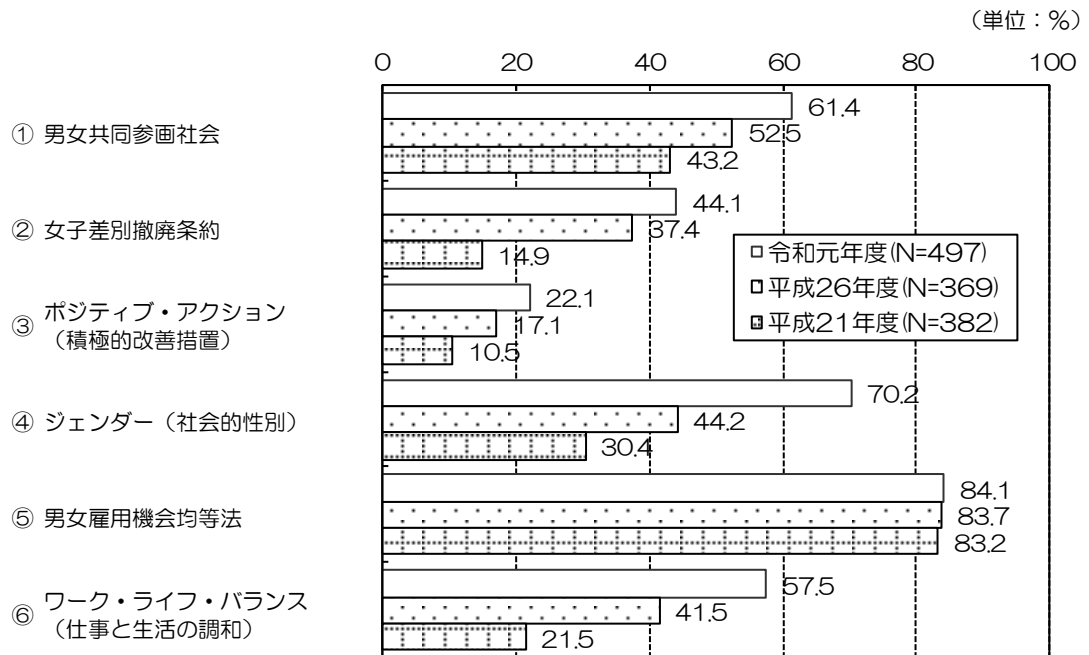
【男女ともに8割以上の人々が「男女雇用機会均等法」を聞いたことがある】

男女共同参画に関する言葉で見聞きしたことがあるものを『聞いたことがある』(「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合)でみると、「男女雇用機会均等法」が女性で84.1%、男性で88.0%と最も高く、次いで「DV防止法」で男女ともに74.0%となっている。

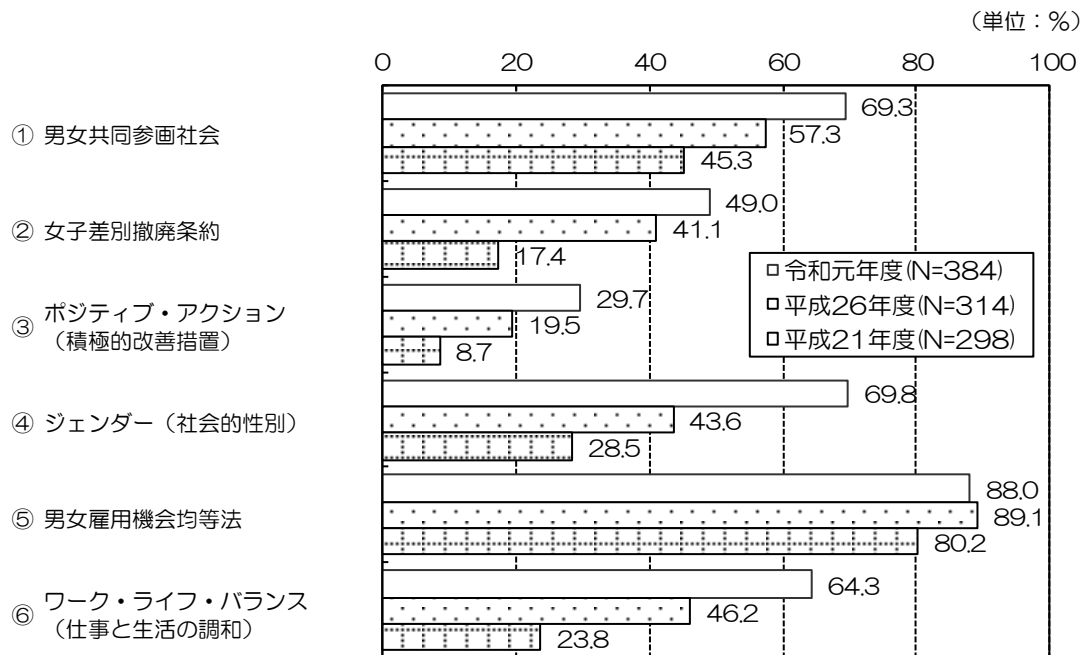
(図表9-1)

〔図表 9-1-1 見聞きしたことがある言葉（過去の調査との比較）〕

< 女性 >



< 男性 >



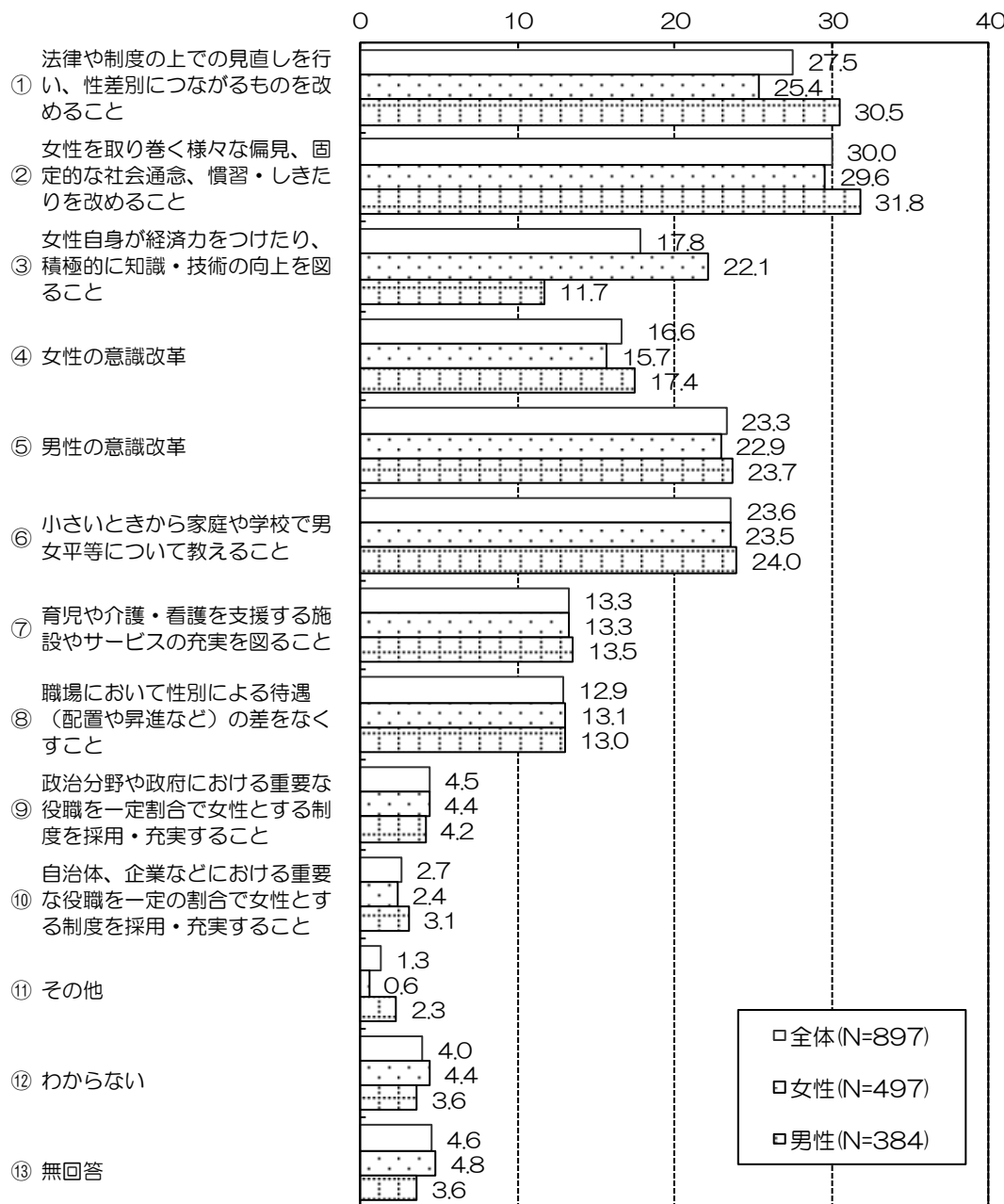
※令和元年、平成26年度は「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた数値、
平成21年度は「見聞きしたことがある言葉」

(2) 男女平等の実現にとって最も重要なこと

問3 1. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われるものは何ですか。(〇は2つまで)

〔図表9-2 男女平等の実現にとって最も重要なこと(性別)〕

(単位：%)



【男女平等の実現には「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念等を改めること」が必要】

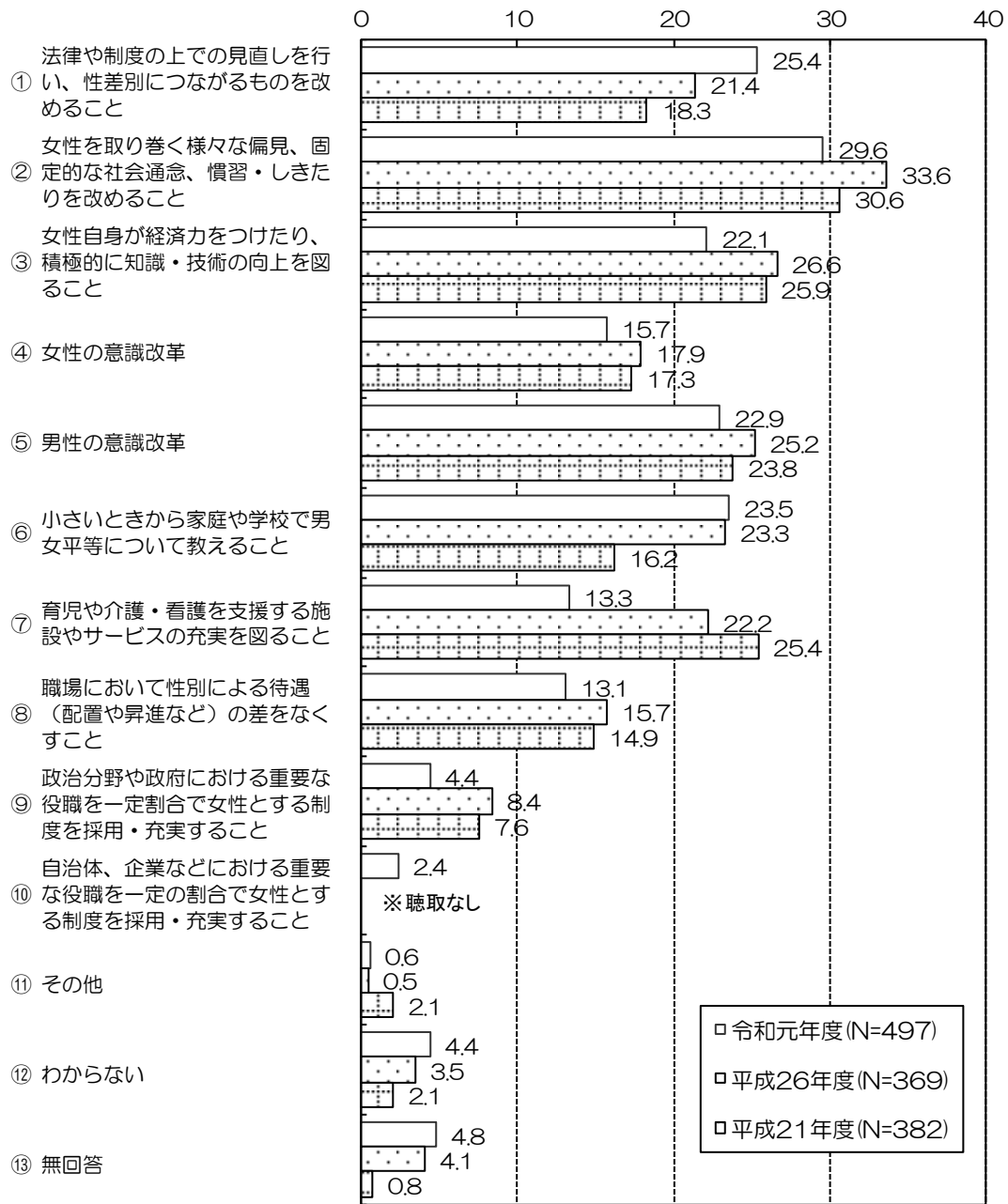
男女平等の実現にとって最も重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が30.0%、次いで「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が27.5%となっている。また、「女性自身が経済力をつけたり積極的に知識・技術の向上を図ること」は女性22.1%、男性11.7%で女性の方が10.4ポイント高くなっている。

(図表9-2)

〔図表 9-2-1 男女平等の実現にとって最も重要なこと（過去の調査との比較）〕

< 女性 >

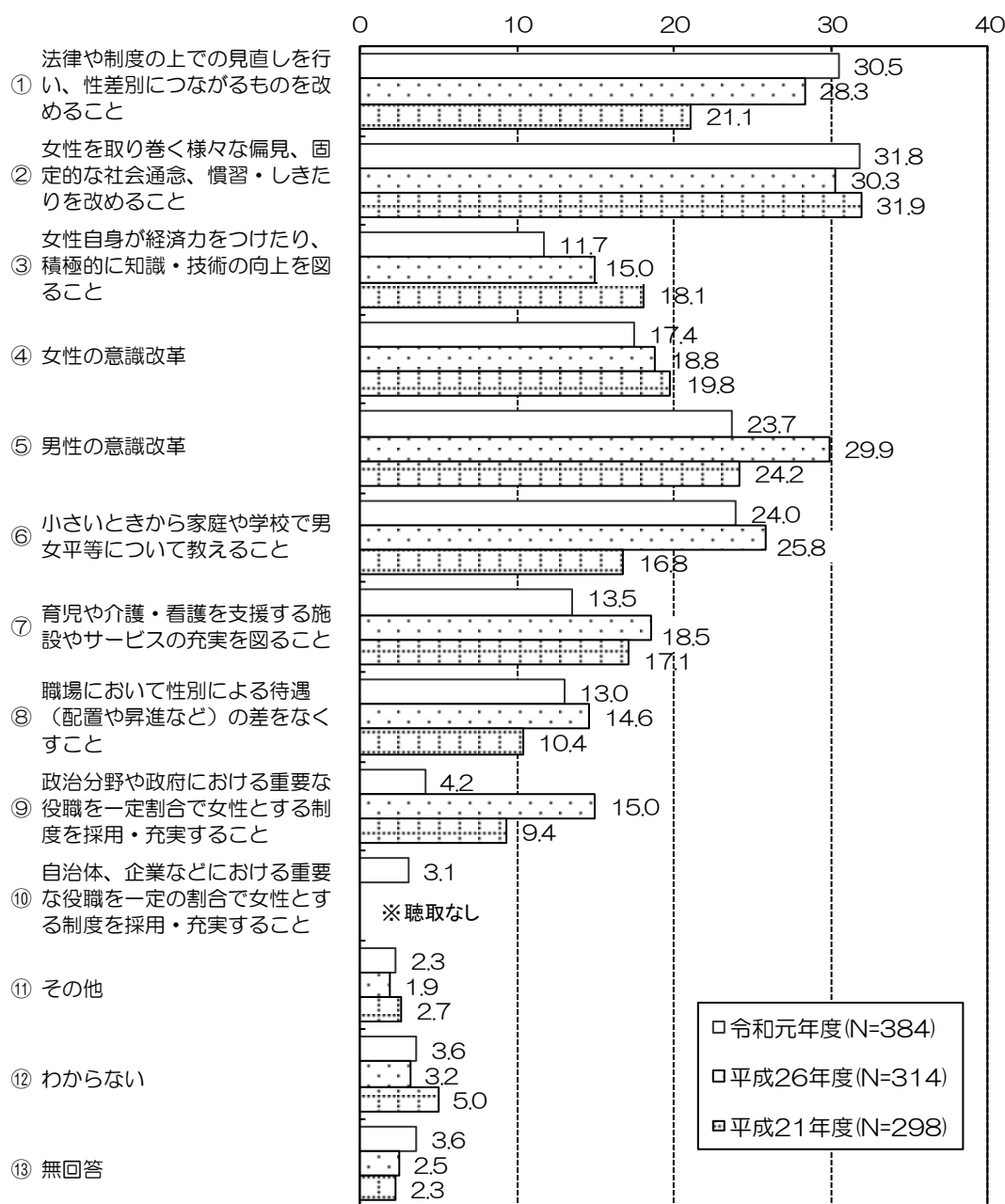
(単位：%)



※令和元年度より、「⑨政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用登用する制度を採用・充実すること」を⑨、⑩に細分化

< 男性 >

(単位：%)



※令和元年度より、「⑨政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用登用する制度を採用・充実すること」を⑨、⑩に細分化

【過去の調査との比較】

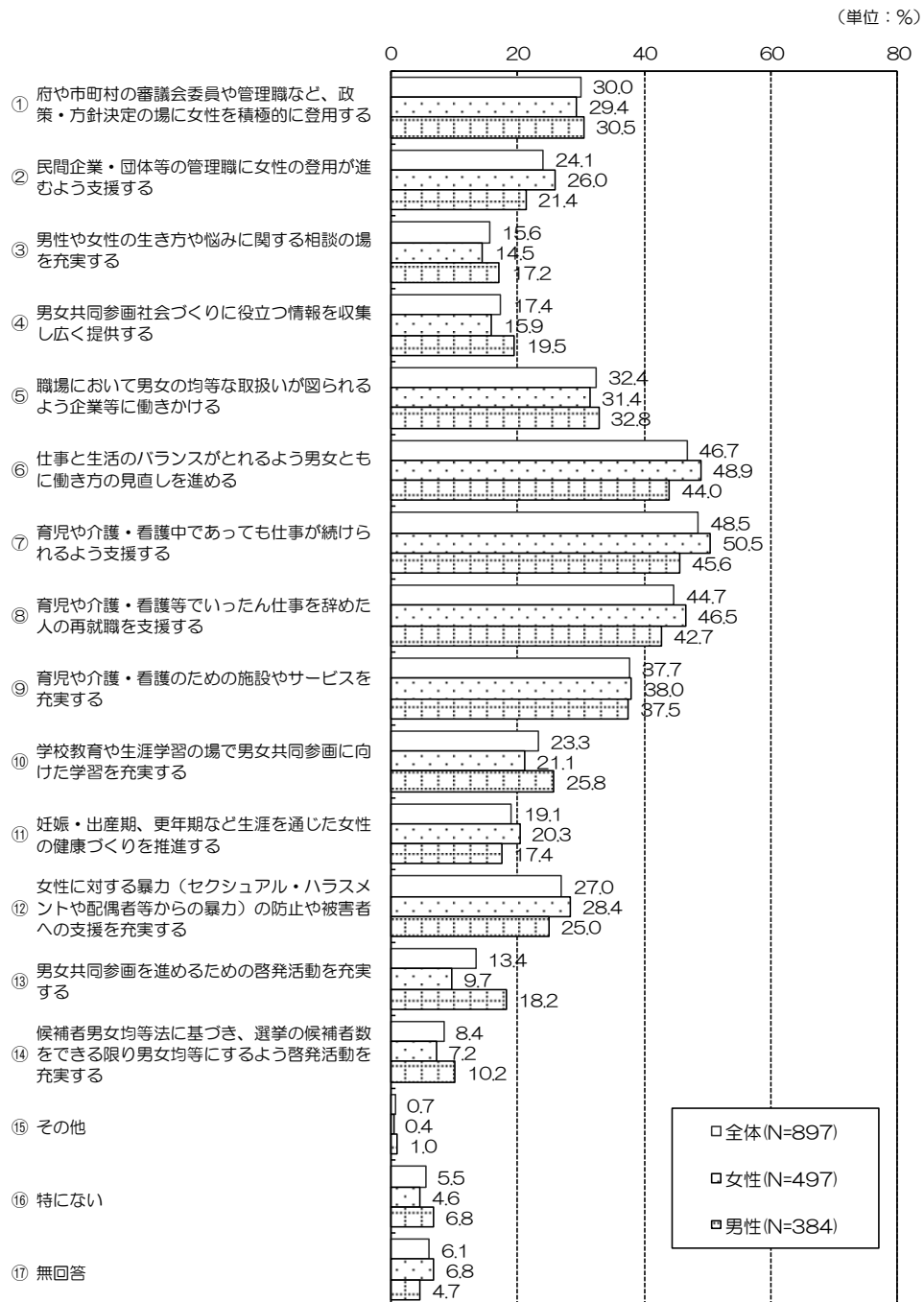
平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比較すると、男女とも「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が引き続き高くなっている。女性では「育児や介護・看護を支援する施設やサービスの充実を図ること」が減少しており、男性では「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること」、「女性の意識改革」が減少している。(図表 9-2-1)

10 男女共同参画社会の推進に向けて

(1) 男女共同参画社会を推進するために府や市町村がすべきこと

問32. あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、府や市町村は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

〔図表 10-1 男女共同参画社会の推進に向けて(性別)〕



【育児や介護・看護等で退職した人の再就職支援や働き続けられる支援が必要】

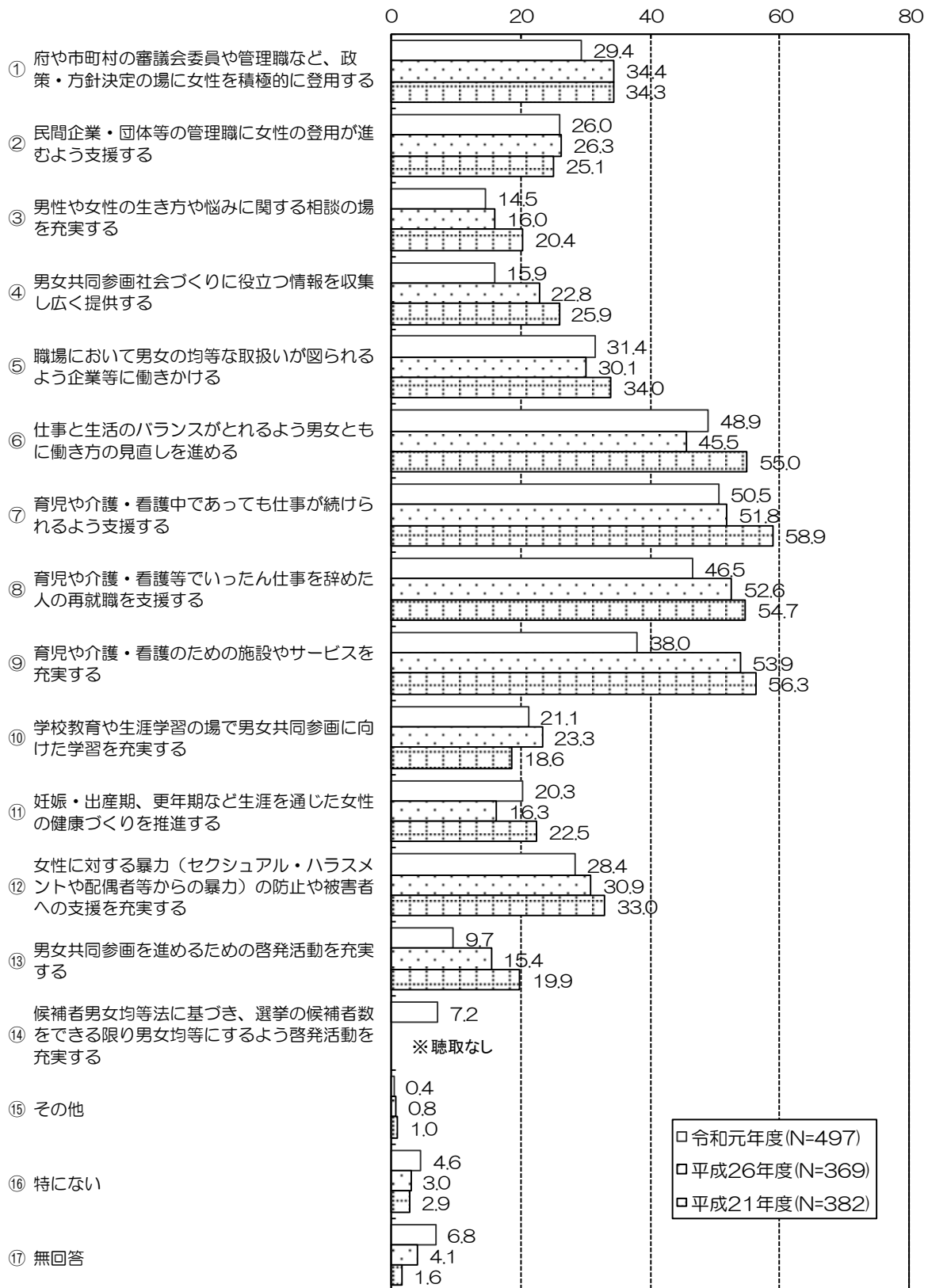
男女共同参画社会の推進に向けて、府や市町村が力を入れていくべきことは、「育児や介護・看護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が48.5%、次いで「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が46.7%となっている。性別でみると、「男女共同参画を進めるための啓発活動を充実する」が女性9.7%、男性18.2%で男性の方が8.5ポイント高くなっている。

(図表10-1)

〔図表 10-1-1 男女共同参画社会の推進に向けて（過去の調査との比較）〕

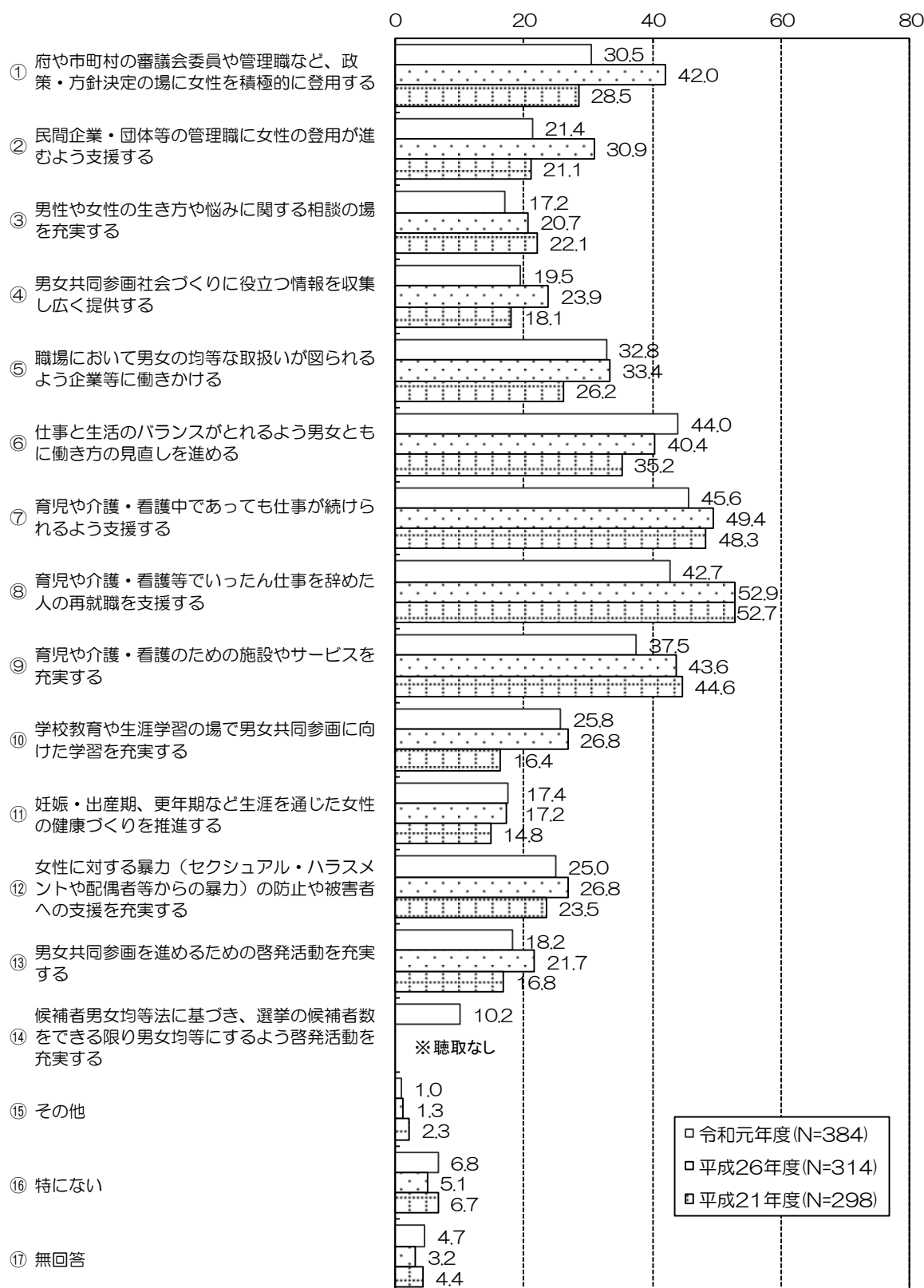
<女性>

(単位：%)



< 男性 >

(単位：%)



【過去の調査との比較】

平成 26 年度と比較すると、女性では「育児や介護・看護のための施設やサービスを充実する」が 15.9 ポイント減少している。男性では「府や市町村の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」が 11.5 ポイント、「民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する」が 9.5 ポイント減少している。(図表 10-1-1)

V. 自由意見のまとめ

○自由意見

男女共同参画社会を実現するための意見、要望について自由記述として寄せられたご意見は、以下のとおりとなった。

■男女平等をめぐる意識について

- ・男と女は身体的な差があり、同等になれない。男性に向く役割、女性に向く役割というものがある (9件)
- ・男女の違いを理解した上で相互の人格を尊重し認め合い、協力しあうこと (3件)
- ・情報発信を含め行政の役割が重要 (13件)
- ・女性が優遇されている場合もある (2件)
- ・その他男女平等をめぐる意識 (26件)

■教育・生活について

- ・家庭教育・学校教育が大切 (9件)
- ・男性への教育が必要 (2件)
- ・その他教育・生活における男女共同参画への意見 (2件)

■就労について

- ・高齢者雇用についての意見 (2件)
- ・女性が働きやすい環境作り (3件)
- ・子育て世代に優しい社会・環境作り (8件)
- ・テレワークの推進 (1件)
- ・その他就労における男女共同参画への意見 (1件)

■社会活動について

- ・地域活動についての意見 (1件)
- ・男女共同参画についての意見 (7件)

■暴力について

- ・男性への暴力についての意見 (3件)
- ・暴力についての意見 (2件)

■その他

- ・アンケート・調査についての意見 (26件)
- ・その他意見 (17件)